



日本補綴歯科学会 第126回 学術大会

The 126th Annual Meeting of the Japan Prosthodontic Society

HOME

大会長挨拶

プログラム・日程表

演題募集・演題登録

発表者の方へ

参加登録・学術大会・懇親会・託児施設

ハンズオンセミナー申込

専門医筆記試験

会場アクセス

宿泊予約

市民フォーラム

Program in English

「補綴歯科がめざすもの、求められるもの」

2017年 **6/30** 金 ~ **7/2** 日

会場 **パシフィコ横浜**

大会長 **大久保 力廣** (鶴見大学歯学部
有床義歯補綴学講座 教授)



実行委員長 **小川 匠** 準備委員長 **西山 雄一郎**

News and Topics

- 2017.07.03 学術大会はお陰様で盛会に終了いたしました。
※ [大会長からの御礼](#)
- 2017.06.9 [参加登録・学術大会・懇親会・託児施設](#) ページにて、託児施設の予約方法を公開しました。締切は6月23日(金)となります。
- 2017.05.12 [事前参加登録とハンズオン](#)の申込期間が延長されました

学会事務局

鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座
〒230-8501
神奈川県横浜市鶴見区鶴見2-1-3
TEL : 045(580)8415

準備事務局

株式会社 日本旅行 ECP営業部
TEL : 03(5402)6401 / FAX : 03(3437)3944
E-mail : jps_126@nta.co.jp



日本補綴歯科学会 第126回 学術大会

The 126th Annual Meeting of the Japan Prosthodontic Society

HOME

大会長挨拶

プログラム・日程表

演題募集・演題登録

発表者の方へ

参加登録・学術大会・懇親会・託児施設

ハンズオンセミナー申込

専門医筆記試験

会場アクセス

宿泊予約

市民フォーラム

Program in English

「補綴歯科がめざすもの、求められるもの」

2017年 6/30 金 ~ 7/2 日

会場 パシフィコ横浜

大会長 大久保 力廣 (鶴見大学歯学部
有床義歯補綴学講座 教授)



実行委員長 小川 匠 準備委員長 西山 雄一郎

News and Topics

- 2017.07.03 学術大会はお陰様で盛会に終了いたしました。
※ [大会長からの御礼](#)
- 2017.06.9 [参加登録・学術大会・懇親会・託児施設](#) ページにて、託児施設の予約方法を公開しました。締切は6月23日(金)となります。
- 2017.05.12 [事前参加登録とハンズオン](#)の申込期間が延長されました

学会事務局

鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座
〒230-8501
神奈川県横浜市鶴見区鶴見2-1-3
TEL : 045(580)8415

準備事務局

株式会社 日本旅行 ECP営業部
TEL : 03(5402)6401 / FAX : 03(3437)3944
E-mail : jps_126@nta.co.jp

[HOME](#)
[大会長挨拶](#)
[プログラム・日程表](#)
[演題募集・演題登録](#)
[発表者の方へ](#)
[参加登録・学術大会・懇親会・託児施設](#)
[ハンズオンセミナー申込](#)
[専門医筆記試験](#)
[会場アクセス](#)
[宿泊予約](#)
[市民フォーラム](#)
[Program in English](#)

大会長挨拶



大会長 大久保力廣

鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座

松村理事長はじめ理事の先生方そして本学会の諸先生方のご高配を賜り、公益社団法人日本補綴歯科学会第126回学術大会・総会を鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座で担当させていただくことになりました。このような貴重な機会を与えていただきましたことに深く感謝の意を表しますとともに、大会長として謹んでご挨拶を申し上げます。

本学術大会では学会会員、共催学会、後援団体、協賛企業等のご協力のもと、次代の研究と歯科医療を切り拓く興味深い企画を盛り込むよう検討してまいりました。

今期、私は大会長を仰せつかるとともに学術委員長を拝命しており、本学術大会では、①参加者増加のための魅力ある企画とプロモーションの実施、②保険収載された医療新技術の解説、③補綴臨床をグレードアップするための歯科技工士との連携、④海外学術交流協定会と国際セッションの開催といった学術委員会の活動方針を実現するよう努めました。企画立案に対して念頭におきましたことは、「補綴治療において最も大切なものは何か、最新のものは何か、そしてその独自性とは何か」を会員の皆様と再認識したいということでした。学術委員の先生方の献身的なご協力のおかげで今回の企画が勢揃いしましたが、補綴臨床全般を網羅するだけでなく、イノベティブな研究の最前線に加え、若手からレジェンドまで幅広い年齢層の講師陣、海外からの講師はすべて女性といったユニークな構成となりました。また、歯科技工士主体の臨床リレーセッションと歯科衛生士セッションを実施することにより、コ・デンタルスタッフとともに歩む補綴治療のあるべき姿をご確認いただけるかと思えます。さらには4つのハンズオンセミナーを開催いたします。受講者数に制限がありますが、最新の補綴技術を修得していただければ幸いです。

私ども鶴見大学にとりましては細井紀雄先生が大会長を務められた第93回大会以来の学術大会担当となります。22年前と同じく、パシフィコ横浜を学会会場とさせていただきますが、メインホールが例年に比較してやや小さいことが難点です。メインホールで開催する企画はすべてサテライト会場を用意いたしますので、ご利用いただければ幸いです。

また懇親会は大会会場に隣接するインターコンチネンタルホテル横浜にて開催します。どうぞ奮ってご参加いただき、意見交換、情報収集していただければ有り難く存じます。

横浜は、1868（明治元）年にアメリカ人のイーストレキが日本人を門徒として、当時の最新歯科医療を伝授した、まさに日本の近代歯科医学の発祥の地であります。その横浜で、当時の歯科医学の発展に貢献された人々の努力と功績を讃えながら、補綴の真髄と最新情報を共有することは大きな意義があるものと考えます。

本学術大会が盛会裏に終わりますよう、大会校一同、精一杯準備していく所存です。たくさんの方々のご参加をお待ち申し上げます。

[PAGE TOP](#)



日本補綴歯科学会 第126回 学術大会

The 126th Annual Meeting of the Japan Prosthodontic Society

HOME

大会長挨拶

プログラム・日程表

演題募集・演題登録

発表者の方へ

参加登録・学術大会・懇親会・託児施設

ハンズオンセミナー申込

専門医筆記試験

会場アクセス

宿泊予約

市民フォーラム

Program in English

プログラム・日程表

※ 日程表

※ 会場案内

※ 課題口演

※ 一般口演

※ ポスター・専門医ケースプレゼンテーション

抄録データ

※ プログラム&企画演題抄録集

※ 課題口演抄録集

※ 一般口演抄録集

※ ポスター発表抄録集

※ 専門医ケースプレゼンテーション

理事長講演

「歯科の基盤を支え、創る補綴の矜持」

7月1日 (土) 10:10~10:40 (30分)

座長： 松村 英雄 (日本大)

講師： 市川 哲雄 (徳島大)

メインシンポジウム

「未来に向けた補綴歯科のアイデンティティー」

7月1日 (土) 10:50~12:20 (90分)

【企画趣旨】補綴歯科は、食生活やQOLの向上を通じて健康に多大な貢献をし、歯科臨床の中心であると信じてきた。一方、口腔インプラント学会、老年歯科医学会では、多くの日本補綴歯科学会会員が活躍している。今、歯科補綴学の独自性と専門性、存在意義を再考し、再定義する時期に来ているのかもしれない。

そこで、歯科補綴学のみならず、口腔インプラント学、老年歯科医学において指導的な立場におられる先生方に、敢えて「補綴のアイデンティティー」についてお話しいただきたいと考えている。加えて、心身の健康からみた補綴歯科の意義について、まとめてみたい。

座長： 市川 哲雄 (徳島大)

松村 英雄 (日本大)

シンポジスト： 池邊 一典 (大阪大)
櫻井 薫 (東歯大)
古谷野 潔 (九州大)

特別講演

「横浜名物 シウマイ物語」

7月1日 (土) 13:20~14:20 (60分)

【企画趣旨】「横浜名物シウマイ」は、地元のソウルフードとして多くの横浜市民から愛されている。本特別講演では、横浜商工会議所副会頭の野並直文氏をお招きし、かつて横浜駅に名物と呼ばれる食品がなかった時代に、普通の駅の売店からスタートし、点心のひとつである焼売に着眼し改良を重ねて販売を始め、幾多の苦難を乗り越えながら、いまや全国に知られる駅弁や横浜土産に成長させた会社の経営方針や理念とともに、横浜の歴史や食文化についてもご紹介いただく予定である。

座長： 大久保力廣 (鶴見大)
講師： 野並 直文 (横浜商工会議所副会頭, 崎陽軒 取締役社長)

海外特別講演

「Implant Therapy in the Geriatric Patient」 (同時通訳あり)

7月1日 (土) 14:30~15:30 (60分)

座長： 小野 高裕 (新潟大)
講師： Frauke Müller (University of Genève, Geneva)

国際シンポジウム

「Trends on Current Prosthetic Treatment. - Reports from Europe and Indonesia -補綴治療のトレンドを知る。ーヨーロッパそしてインドネシアからの報告ー」 (同時通訳あり)

7月1日 (土) 10:50~12:20 (90分)

座長： 矢谷 博文 (大阪大)
隅田 由香 (医歯大)
シンポジスト： Hana Hubálková (Charles University in Prague, Prague)
Laura S. Himawan (University of Indonesia, Jakarta, Indonesia)

シンポジウム1

「CAD/CAMデンチャーはどこまで進んだのか」

7月1日 (土) 14:30~15:30 (60分)

【企画趣旨】CAD/CAM冠やジルコニアブリッジをはじめとして、クラウンブリッジをCAD/CAM技術で製作することは、今や当然の時代となっている。そして次のターゲットとして、有床義歯をCAD/CAM技術で製作することが掲げられている。CAD/CAMデンチャーの製作においては、広範囲の粘膜を印象すること、咬合採得や人工歯の排列位置の決定、義歯床と人工歯などの異種材料が混在していることなど、多くの問題が山積している。

そこで本シンポジウムでは、これらの問題を解決するための技術と工夫を解説し、最新のCAD/CAMデンチャーの研究開発と臨床応用について紹介する。

座長： 疋田 一洋 (北医療大)
永尾 寛 (徳島大)
シンポジスト： 水口 俊介 (医歯大)
新保 秀仁 (鶴見大)

シンポジウム2

「軟質材料を用いた義歯のリラインによる臨床効果」

7月2日（日） 09:00～10:00（60分）

【企画趣旨】軟質材料による義歯のリラインは従来から存在する技術であるが、2016年4月より軟質材料による有床義歯内面適合法として保険収載されたこともあり、注目が集まっている。本シンポジウムでは、軟質材料を用いた義歯のリラインに関するエビデンスを整理し、製作や調整の臨床上のポイントや注意点について講演をいただく予定である。

座長： 河相 安彦（日大松戸）
上田 貴之（東歯大）
シンポジスト： 村田比呂司（長崎大）
上田 貴之（東歯大）

シンポジウム3

「歯科補綴領域の再生医療実現における課題と未来」

7月2日（日） 10:10～11:10（60分）

【企画趣旨】歯科補綴領域が対応している顎欠損や歯の欠損等の根本的再生は再生医療技術により飛躍的に治療効果の発展が期待される領域であり、本学会でも再生医療関連の基礎研究は活発に行われている。しかし研究を臨床に応用するまでの様々な障壁により、補綴領域での再生系の研究成果が臨床に直接的に貢献しているものは見当たらない。本邦では平成26年に法整備が進められ、医療機関から細胞培養加工施設へ培養外注が可能になったり、再生医療等製品の新たな承認制度が導入されたりして再生医療の臨床応用が加速している。そこで本セッションでは歯周領域で細胞治療の臨床研究を進めている先生と、新たな再生医療等製品の承認に向けて産業界で治験を進めている細胞培養加工業者側からのお話をいただき、補綴領域で再生医療の研究を臨床へ展開するためにはどういった視点が必要なのかを皆様と共に議論したい。

座長： 西村 正宏（鹿児島大）
秋葉 陽介（新潟大）
シンポジスト： 村上 伸也（大阪大）
原井 基博（富士ソフト(株) 常務執行役員）

シンポジウム4

「北米型vs スカンジナビア型 –日本の補綴専門医はどちらを向いているのか?–」

7月2日（日） 13:20～14:50（90分）

【企画趣旨】国民皆保険制度の下、日本の補綴歯科専門医には治療に対する独自の概念があり、これは「審美歯科やインプラント再生治療を駆使してスーパーケースを追求する北米型の補綴治療」と「臨床疫学に基づき費用対効果を追求するスカンジナビア型の補綴治療」のバランスの上に成り立っているように思われる。近年、学会や大学が主導しようとするdigital dentistry・再生医療等の先端技術は前者に偏りがちであるが、後者にも補綴歯科の専門医であるからこそ有利に進めることが可能な治療技術は少なくないはずである。本シンポジウムでは、それぞれの型の治療概念および予知性を症例から整理し、文献的考察を加えることで、双方に共通して求められる補綴的専門性および症例選択の基準を導きたい。

座長： 江草 宏（東北大）
中居 伸行（関西支部）
シンポジスト： 松井 徳雄（東京都）
弘岡 秀明（東京都）
菅野 太郎（東北大）

臨床スキルアップセミナー

「補綴歯科治療を進めるうえで知っておくべき咬合異常 –歯だけにとらわれない診かた考え方–」

7月1日（土） 13:20～14:20（60分）

【企画趣旨】補綴歯科治療を進めていくうえで知っておくべき咬合異常が存在する。治療方針を誤らないよう

にするためには、目の前の咬合異常の原因を明らかにすることが重要である。しかしながら、日常臨床においては、原因の特定に苦慮する咬合異常に遭遇することは少なくない。そのような咬合異常には、後天性の開咬などの顎関節の変化に起因する二次的な咬合異常、筋の過緊張やジストニアなど、筋の障害による咬合異常、心身医学的な要因などによる咬合違和感などがあり、歯や歯列のことだけを視野に入れているとその対応において支障が生じる場合もある。

そこで、本セミナーでは、顎関節、神経・筋、心理社会的因子など、幅広い観点からの咬合異常の診かたと対応法について理解を深め、臨床に役立てていただけるよう解説したい。

座 長： 松香 芳三（徳島大）
武部 純（愛院大）
講 師： 山口 泰彦（北海道大）
松香 芳三（徳島大）

臨床リレーセッション1（専門医研修単位認定セミナー）

「咬合支持に起因する難症例への補綴学的アプローチ：Eichnerの分類に応じた補綴介入」

7月1日（土） 15:40～17:40（120分）

【企画趣旨】咬合は、われわれ補綴臨床医が補綴治療を行う上で常に考慮すべき因子であり、その重要性は十分に認識されている。また、日常臨床において、「咬合支持」に起因する難症例に遭遇し、その対応に苦慮している臨床医も少なくないと推察される。そこで本セッションでは、上下顎の咬合支持に起因する難症例に関してEichnerの分類に基づいて整理し、1）著明な低位咬合により十分な臼歯部の咬合支持が得られない症例（Eichner A, B群）、2）臼歯部咬合支持喪失後の下顎前歯によるアンテリアハイパーファンクション症例（Eichner B4, C1群）、3）シングルデンチャーおよび高度顎堤吸収症例（Eichner C2, C3群）を対象に、各症例に対する補綴治療のポイントおよび具体的なアプローチの方法を提示し、さらに、このような難症例への移行を防ぐための方策について理解を深めたい。本セッションが、皆様の今後の臨床の一助となれば幸いである。

座 長： 大川 周治（明海大）
築山 能大（九州大）
講 師： 兒玉 直紀（岡山大）
荻野洋一郎（九州大）
松田 謙一（大阪大）

臨床リレーセッション2

「温故知新 先人達に学ぶ —補綴で最も大切なものは何か—」

7月2日（日） 09:00～10:40（100分）

【企画趣旨】補綴治療は時代の流れとともに大きく変遷している。この10年間でもインプラントや再生医療、デジタルテクノロジーの発展は、補綴治療の選択肢や術式に画期的な変化をもたらしている。

しかしながら、いつの時代にあっても補綴の基本は不変のはずである。先人たちが幾多の失敗や成功を礎に苦勞を重ね、積み上げてこられた「補綴治療の基盤と原則」を改めて見直し、再認識することは、さらに補綴を進化させるためにも大きな意義があると考えられる。そこで、講師に有床義歯と冠橋義歯分野の先人（レジェンド）をお迎えし、補綴の真髄を学ばせていただく予定である。新しい機器や材料に流され、「補綴の基本」を忘れがちな今こそ、本セッションで「何が補綴で最も大切なのか」を再考してみたい。特に、補綴の迷路で悩む若い先生方の参加を希望する。

座 長： 大久保力廣（鶴見大）
窪木 拓男（岡山大）
講 師： 田中 久敏（中国・四国支部）
山下 敦（東関東支部）

臨床リレーセッション3

「CAD/CAM冠 —術者目線の支台歯形成—」

7月2日（日） 10:50～12:20（90分）

【企画趣旨】CAD/CAMテクノロジーによる補綴装置の製作は、現在の補綴治療には欠かせないものとなっている。CAD/CAM冠の支台歯形成では、スキャニングや機械加工のための理想的な支台歯形態は紹介されてい

るが、最終型に至る形成の道筋は術者によって異なるのではと考えられる。そこで本セッションでは、経験豊かな2人の先生から術者視点のカメラを応用したCAD/CAM冠の支台歯形成のステップについて解説していただく。このセミナーを通じて今後のCAD/CAM冠臨床の参考となることを期待している。

座長： 五味 治徳（日歯大）
 中村 隆志（大阪大）
 講師： 西川 義昌（鹿児島県）
 六人部慶彦（関西支部）

臨床リレーセッション4

「歯科技工士から補綴臨床医への提言 —臨床と技工の匠に学ぶ—」

7月2日（日） 13:20～14:50（90分）

【企画趣旨】高品質、高精度な補綴装置を患者に提供するためには、補綴臨床医と歯科技工士とが患者情報を共有し、同じ方向・目的をもって業務を遂行しなければならない。日本の歯科技工術は世界に類を見ないほど優秀であるが、これは教育制度や法的整備が確立され、歯科技工士の経験に基づく「匠の技」が認知されているからである。安定的供給や製作効率などにおいてCAD/CAM等のテクノロジーの優位性を活かしながらも、歯科技工士の高度な「匠の技」をコラボレーションすることによって高品質、高精度な補綴装置が提供され、世界に発信できる産業に発展する可能性を秘めている。

本セッションでは、歯科医師が見失いがちな点を歯科技工の観点から提言する。また、歯科医師—歯科技工士の良好なコミュニケーション例として、歯科医師と歯科技工士の匠が紡ぎだす精緻で華麗な補綴臨床を供覧し、補綴歯科のめざすべき関係性についてディスカッションしたい。

座長： 末瀬 一彦（大歯大）
 佐藤 洋平（鶴見大）
 講師： 樋口 鎮央（関西支部）
 伊原 啓祐（鶴見大）
 木林 博之（関西支部）
 森田 誠（京都府）

専門医研修会

「デジタル技術を用いた歯冠修復の現状と未来」

7月2日（日） 15:00～17:40（160分）

【企画趣旨】現在、審美性に優れたセラミックならびにレジン系材料の歯冠修復装置は、広く臨床に用いられている。また、CAD/CAM技術の導入によりジルコニアやハイブリッドレジンによる全部被覆冠の応用も実現し、様々な問題も挙げられている。そこでCAD/CAMを応用した補綴処置の注意事項などの基礎から最新の情報を交えた、歯冠修復処置の現状と未来を覗いてみたい。

本企画では、デジタル技術を応用した歯冠修復の現状を総論として、歯冠補綴における形成や印象などインプラント補綴時の注意事項、下顎運動情報を用いたバーチャル咬合器などについて解説する。

座長： 鱒見 進一（九歯大）
 小川 匠（鶴見大）
 講師： 佐藤 博信（福歯大）
 近藤 尚知（岩手医大）
 小川 匠（鶴見大）

委員会セミナー（JPR編集委員会）

「Journal of Prosthodontic Research —現状と今後の展開—」

6月30日（金） 18:00～19:00（60分）

【企画趣旨】2014年秋にJPRのWeb of Science掲載の吉報もたらされ2年が経過した。2015年春に初めて1.547という高いImpact Factor(IF)がアナウンスされ、2016年はさらに1.693となり、国際誌として高い評価を受けるようになった。それに伴い、投稿数も飛躍的に増加し、2015年には350本、2016年は650本を超え、IFもさらに上昇することが予測されている。

JPSの全面的な支援を基盤として、JPR編集委員会では査読を中心とした編集作業に加えて、システムの改善、企画論文の策定、国際交流、広報活動など多岐にわたる活動を展開し、補綴関連国際誌のトップジャーナルを目指している。一方ではReject rateの高さや編集委員・査読者の負担過多など、早急に対応すべき問題も

抱えている。

本セミナーでは最新のJPR編集状況について情報を学会員と共有し、JPRの果たすべき役割、今後の展開について考察したい。

座 長： 馬場 一美 (昭和大)
 講 師： 馬場 一美 (昭和大)
 細川 隆司 (九歯大)
 江草 宏 (東北大)

委員会セミナー（研究企画推進委員会）

「公益社団法人日本補綴歯科学会 & 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター共同研究
 —高齢者の歯科口腔・嚥下機能がQOL及び健康寿命に及ぼす影響— 研究成果公開シン
 ポジウム」

7月2日（日） 11:20～12:20（60分）

【企画趣旨】公益社団法人日本補綴歯科学会では、歯科補綴学がどのように国民の健康長寿に寄与しうるかに
 関するエビデンス創出のため、大規模コホート研究や多施設臨床疫学研究を積極的に企画推進しています。平
 成27年度から（地独）東京都健康長寿医療センターとの共同研究「高齢期の歯科口腔・嚥下機能がQOL及び健
 康寿命に及ぼす影響」がスタートし、本学会が群馬県草津町における調査（「にっこり検診」）に参加するこ
 とや、歯科口腔・嚥下機能等と健康寿命や寿命との関連を調べるため、縦断研究コホートの過去データの提供
 を受け、解析を進めることで合意が得られています。今回、（地独）東京都健康長寿医療センターからデー
 タの提供を受け、公募によって採択された研究企画ならびに研究企画推進委員会から提案した研究企画の解析結
 果を報告するとともに、共同研究のさらなる発展に寄与すべく、研究成果公開シンポジウムを企画いたしまし
 た。

座 長： 矢谷 博文 (大阪大)
 玉置 勝司 (神歯大)
 講 師： 小山 絵理 (岡山大) 公募採択課題
 前川 賢治 (岡山大) 研究企画推進委員会提案課題

歯科衛生士セッション

「補綴のプロフェッショナルケアをアップデートする」

7月2日（日） 10:50～12:20（90分）

【企画趣旨】補綴歯科治療の予後を担うとも言える、補綴治療後のケアを担うのは歯科衛生士である。同様
 に、歯科医院でも、訪問診療でも、補綴のトラブルやニーズの窓口となるのは歯科衛生士である。そのため、
 歯科医師に限らず歯科衛生士も、口腔内に装着された補綴装置と口腔の機能を正しく理解することが重要であ
 る。しかし、補綴歯科の範疇は、歯科材料から摂食嚥下まで幅広く、歯科衛生士が補綴歯科に関する最新の
 知識と技術を、包括的に学べる機会は少ないのが現状ではないだろうか。特に、この十年間で、新たな歯科材
 料の開発、治療方法の進化、訪問診療の増加など、補綴歯科とそれを取り巻く環境は急激に変化しており、歯
 科衛生士に必要な最新の歯科補綴学の知識と技術も変化している。

そこで本セッションでは、包括的に患者の食べる楽しみを支える補綴歯科学会だから実現できる、今、歯科
 衛生士に必要な補綴のケアに関するアップデートを提供する。

座 長： 古屋 純一 (医歯大)
 永尾 寛 (徳島大)
 講 師： 小林 明子 (東京都)
 二川 浩樹 (広島大)
 寺本 浩平 (東京都)

ハンズオンセミナー1

「軟質材料を用いた義歯のリライン」

2017年7月1日（土） 10:40-11:40（60分）

2017年7月1日（土） 13:10-14:10（60分）

【企画趣旨】軟質材料による有床義歯内面適合法が2016年4月に保険収載された。この機会に軟質材料を用い
 た義歯のリラインに興味を持った方も多と思われる。このハンズオンセミナーは、これから軟質材料を用い

た義歯のリラインにチャレンジしてみよう、という方を対象にしたテーブルクリニック形式で行う予定である。やりたいけどよくわからない、やってみただけどうまくいかない、といった方の疑問にお答えしたい。

講師： 上田 貴之（東歯大）
和田 健（東歯大）

ハンズオンセミナー2

「口腔内スキャナーの実践」

7月2日（日） 10:30～11:30（60分）

7月2日（日） 13:30～14:30（60分）

【企画趣旨】あらゆる歯科臨床現場でのデジタルデンティストリーに関連する技術や製品が普及拡大を続けており、その中でも口腔内スキャナーは次世代印象法として注目されている。これまでも口腔内スキャナーは一部のCAD/CAMシステムでは使用されてきたが、最近は複数の企業によって様々な製品が開発され、スキャナーの大きさ、計測精度やスピード、カラー情報の取得など、性能に著しい向上、改良が行われ、患者や術者にとってさらに使用しやすく、確実、有益な機器となっている。

そこで今回は、4種類の口腔内スキャナーを実際にご使用いただき、それぞれの口腔内スキャナーの特徴や使用方法を理解し、最新の技術を体感していただく。

講師： 疋田 一洋（北医療大）

ハンズオンセミナー3

「ファイバーポストコアをマスターする」

7月2日（日） 10:30～11:30（60分）

7月2日（日） 13:30～14:30（60分）

【企画趣旨】支台築造は歯質欠損を補い、歯冠補綴装置を装着するための適正な支台歯形態へ回復させることが目的であり、その臨床的意義は高い。レジン支台築造は、象牙質への接着の信頼性が向上してその選択頻度が高くなった。さらにファイバーポストコアは、主に歯根破折への対策、ならびに審美性の向上やメタルフリーを目的として臨床応用される。

2016年1月から「ジーシー ファイバーポスト」が公的保険に収載され、それまで自費治療でのみ使用されていたファイバーポストが保険治療として国民に広く使用することが可能となった。その後、複数の製品が特定保険医療材料として認可され、選択肢が増えた。本ハンズオンセミナーでファイバーポストコアの複数ある接着界面を理解して、実際の臨床テクニックを実習し、ファイバーポストコアの有効性を確認していただきたい。

講師： 坪田 有史（東京支部）

ハンズオンセミナー4

「有床義歯咀嚼機能検査」

7月2日（日） 10:30～11:30（60分）

7月2日（日） 13:30～14:30（60分）

【企画趣旨】平成28年4月に保険導入された有床義歯咀嚼機能検査は、下顎運動検査と咀嚼能力検査からなりますが、臨床の場での活用を目的とし、特別な知識や習得を必要とせずにとなたでも簡便かつ短時間（下顎運動検査：10分以内、咀嚼能力検査：5分以内）で行うことができるように開発されたものです。

本検査を用いることにより、損なわれた咀嚼機能の回復と維持を客観的に評価することができ、歯科治療とその効果について、患者の理解を促進し、適切な指導・管理を行うことが可能となります。本セミナーでは、これらの検査法について解説させていただきます。

講師： 志賀 博（日歯大）

イブニングセッション

「臨床イノベーションのための挑戦」

■ イブニングセッション1

接着歯学を活用した支台築造法の現状と未来 -ガイドライン作成とイノベーション創出を目指して-
コーディネーター：峯 篤史 (大阪大)

■ イブニングセッション2

iPS細胞研究は歯科補綴学にどのように生かされるのか？
コーディネーター：黄地 健仁 (慶應義塾大学)

■ イブニングセッション3

ここにインプラントが欲しい！ -有床義歯へのインプラントの活用-
コーディネーター：金澤 学 (医歯大)

■ イブニングセッション4

Back to the basic -ゴシックアーチは本当に必要なのか？-
コーディネーター：兒玉 直紀 (岡山大)

■ イブニングセッション5

インプラント治療における光学印象の活用 -現状と今後の可能性-
コーディネーター：田中 晋平 (昭和大)

■ イブニングセッション6

インプラント治療と無歯顎患者の補綴治療
コーディネーター：永田 浩司 (医歯大)

[^ PAGE TOP](#)



▶ HOME

▶ 大会長挨拶

▶ プログラム・日程表

▶ 演題募集・演題登録

▶ 発表者の方へ

▶ 参加登録・学術大会・懇親会・託児施設

▶ ハンズオンセミナー申込

▶ 専門医筆記試験

▶ 会場アクセス

▶ 宿泊予約

▶ 市民フォーラム

▶ Program in English

演題募集・演題登録

演題登録を締め切りました

※ 演題登録

演題登録締め切り

平成29年4月20日(金) 23:59

平成29年1月27日(金) 23:59 ※演題受付を延長いたしました。

締切日間はサーバーの混雑が予想されますので、余裕をもって登録していただきますよう、お願いいたします。

なお、締切日以降の抄録の修正はできませんのでご注意ください。

演題登録に関する注意事項

- 演者は、日本補綴歯科学会会員に限ります。
演者以外の共同発表者は、日本補綴歯科学会会員、あるいは所定の手続きを済ませた臨時会員に限らせていただきます。
- 年会費が未納の方は、演者あるいは臨時会員以外の共同発表者としての登録はできません。事前に年会費の支払いを済ませてからご登録ください。
年会費の支払状況の確認やお支払いなどは[学会ホームページ](#)の会員専用ページから行えます。
共同発表者の方にもご確認いただきますよう、よろしく申し上げます。
- 演題登録時に全ての発表者の会員番号を入力してください。
会員番号は、会員カードに記載しております。
事前に共同発表者の方から会員番号を確認していただき、ご登録をお願いいたします。
- 学会事務局および学術大会事務局では、個人情報保護の観点から、他の会員の会員番号に関する問合せには一切お答えしておりません。
ご自身の会員番号は、会員カードにてご確認ください。
会員カードの紛失などにより、ご自身の会員番号が不明な方は、日本補綴歯科学会の会員ページ (<https://v3.apollon.nta.co.jp/jps/>) 内のログイン画面にある「パスワードを忘れた方」から、メールアドレスを入力、送信ボタンをクリックしていただくと、パスワードがメールにて送付されます。
ログイン後、「会員情報」をクリックしていただくと会員番号の閲覧が可能になります。
- 共同発表者が非会員の場合は、事前参加登録ページより臨時会員登録とお支払をお済ませください。その後、発行される臨時会員番号(e***)を会員番号欄に入力して下さい。なお、本会の振興の為、この機会の入会をお勧めしていただくと幸いです。
- **プログラム委員会では登録された抄録の校正および修正依頼は一切行いません。**登録者の責任で、校正を済ませたうえで登録していただきますよう、お願いいたします。特に、抄録本文は図表を入れて用紙の2/3以上を満たし、かつタイトルや抄録の字数制限を超過しないよう、ご注意ください。規定外の抄録は、不採用(リジェクト)となりますので十分にご注意ください。なお、プログラム委員会では体裁の修正を行うことがありますので、予めご了承ください。
- 演題登録締め切り後、演題の取り下げのないよう十分に内容を吟味した上で、ご登録をお願いいたします。
万一取り下げを希望される場合、平成29年2月26日(日)までにご連絡いただければプログラム・抄録集からの演題消去が可能ですが、それ以降になりますとプログラム・抄録集からの完全な消去は困難となり、取り消し線や取り下げの明記、あるいはホームページや大会会場掲示板での掲示がなされることを予めご了承ください。
- 抄録の内容をHP上にアップすることへの諾否および利益相反の有無、疫学研究倫理審査委員会承認、臨床研究倫理審査委員会承認、動物実験倫理審査委員会承認、組み換えDNA実験安全委員会承認等に関する登録も行っております。チェックボックスにチェックして登録してください。

イブニングセッションの概要および応募要領

開催日時

平成29年 7月1日 (土) 18:00-18:50

セッションテーマ

■ 研究

Biology / TMD / ブラキシズム / 睡眠時無呼吸症候群 / 脳機能 / 再生医療 / 咀嚼能率検査法 / 生体材料 / インプラント / CAD/CAM / 咬合と全身 / 臨床疫学 / 教育 / 摂食嚥下機能 / 接着歯学 / その他

■ 臨床

全部床義歯 (印象・咬合採得・人工歯排列) / 部分床義歯 (設計・印象採得) / クラウンブリッジ (支台歯形成・印象) / 咬合調整 / 接着の臨床応用 / インプラント / 咬合感覚異常症 / 審美歯科 / 顎顔面補綴 / 義歯リライン・リベース / 摂食嚥下障害への対応 / その他

実施要領

応募された企画から、4題-6題 (予定) のイブニングセッションを学術委員会が選定します。選定された企画のコーディネーターはセッションの最初に10分程度のフォーカスプレゼンテーション (現状と問題提起) をしていただき、その後の討論の座長を務めていただきます。また、コーディネーターもしくは学術委員会により推薦組織された参加者数名による各5分程度の発表も行います。参加者の共同企画によって結果が広く会員の研究計画や臨床向上に資するような討論を期待します。参加者が胸襟を開き、自由かつ活発に討論することができるように、少人数でも実施します。各分野のエキスパート1名がオブザーバー・ファシリテーターとして参加する予定ですが、基本的に議論には参加せず、必要に応じてアドバイスする程度にとどめます。

応募資格

公益社団法人日本補綴歯科学会若手会員
(年齢については特に具体的な制限は設けません)

応募方法

応募用紙 (様式1: 学術大会HPよりダウンロードできます) に必要事項をご記入の上、平成29年1月20日 (月) までに、下記宛に応募してください。
学術委員会幹事 佐藤洋平 (sato-yohei@tsurumi-u.ac.jp)

選考方法

基本的には各セッションテーマに関する研究実績や応募用紙に記載された内容を基に学術委員会で決定します。ただし、実績がなくても将来性がある研究や治療を実施しているなど、必ずしも実績のみに基づかない選考結果となる可能性もあります。なお、採択者は通常のシンポジウムにおけるシンポジストと同等の実績とみなしていただいて結構です。

※ 応募用紙

※ PAGE TOP

第 126 回学術大会参加の皆様へ

1. 受付は 6 月 30 日（金）17:00～19:00, 7 月 1 日（土）8:10～19:00, 7 月 2 日（日）8:00～15:00 に行います。
2. 事前参加登録がお済みの方は、学術大会参加章（ネームカード）とプログラム・抄録集を事前に送付致しますので、当日はお忘れなくご持参下さい。
3. 大会期間中に参加登録される方は、総合受付にて当日会費をお支払いの上、学術大会参加章とプログラム抄録集をお受け取り下さい。参加章にはご氏名・ご所属をご記入下さい。

第 126 回学術大会参加費（当日会費）

正会員，賛助会員	15,000 円
準会員（一般）	7,500 円
準会員（学部学生）	2,000 円
非会員（一般）	20,000 円
非会員（学部学生）	3,000 円

4. 学術大会参加章（ネームカード）にはご氏名・ご所属を記入の上、身に付けてご入場ください。参加章下部は領収書になっています。
5. 本学会専門医の申請あるいは更新を希望する場合は、会員証のバーコードを読取機に通してください。

第 126 回学術大会専門医研修単位登録（学術大会参加単位）

受付時間

7 月 1 日（土）8:30～17:30

7 月 2 日（日）8:30～17:00

6. 専門医研修会参加単位登録
7 月 1 日（土）に開催される臨床リレーセッション 1（専門医研修単位認定セミナー）、または 7 月 2 日（日）に開催される専門医研修会終了後に会場出口にて、会員証のバーコードを読取機に通してください。尚、いずれかに参加すれば単位認定されます。
7. 学会会場におけるビデオ・写真撮影等は、発表者の著作権保護のため禁止させていただきます。尚、特別な事由がある場合は大会長に申し込んでください。
8. 同時通訳レシーバー
国際シンポジウムと海外特別講演では同時通訳を行います。同時通訳レシーバーは 7 月 1 日（土）10:00 より 2F 受付にて貸し出しを行います。貸し出しには会員カードが必要となります。該当プログラム終了後は、すみやかにご返却ください。尚、紛失・破損の場合は実費を申し受けます。
9. 懇親会
本学術大会では 6 月 30 日（金）19:00 からヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル 3 階ボールルームにて懇親会を開催いたします。是非ご参加いただきますようお願いいたします。当日受付も行いますので、会場受付にてお申し込みください。（当日会費 15,000 円）懇親会はどなたでも参加可能です。会員以外の方も是非ご参加ください。

10. 託児施設

7月1日(土) 8:00～18:00, 7月2日(日) 8:00～19:00に, 会場に託児施設をご用意いたします. 下記の内容をご確認いただき事前予約をお願いいたします. 定員になり次第締め切らせていただきますので, お早目にお申込みください.

申込先名: 株式会社アルファコーポレーション

連絡方法: (E-mail: yoyaku@alpha-co.com TEL: 03-5797-7121)

以下の項目をメール又はお電話にてお伝え下さい.

1. 保護者氏名 (よみがな), 連絡先 (携帯電話番号含む)
2. 託児希望日及び時間
3. お子様の名前 (よみがな), 年齢, 性別
4. 託児上の注意点 (アレルギーなど)

申込期限: 2017年6月23日(金) 17:30

11. 日歯生涯研修について

本学術大会に参加した場合は, 特別研修として10単位が取得できます. 尚, 特別研修の単位登録には受講研修登録用ICカードが必要ですので, ご自身の日歯ICカードを必ずご持参ください. また, 当分の間, 特別研修の取得単位は一般の研修単位(教材研修・受講研修・能動的研修)には加算されず, 修了基準の対象からは除外されます.

12. 日本補綴歯科学会会員の皆様へ

バーコード付き会員証で学会参加登録, 専門医研修会出席登録が可能ですので, 会員証を必ずご持参ください.

(会員証は同時通訳レシーバー貸し出しの際にも必要となります)

発表される先生方へ

課題口演・一般口演発表

1. 発表時間

- (1) 課題口演 発表 10 分, 質疑応答 10 分
- (2) 一般口演 発表 8 分, 質疑応答 2 分

2. 発表方法

(1) 口演発表について

- ① 発表時間は上記を参照してください。質疑に関しては座長の指示に従ってください。
- ② 口演中は演台上の講演タイマーの緑色ランプが点灯します。
1 分前に黄色ランプ, 終了時に赤色ランプが点灯しますので, 時間を厳守してください。
- ③ 次演者は, 所定の場所 (次演者席) にてお待ちください。

(2) プレゼンテーションについて

- ① PC を使用する発表は全て PC による発表 (単写) とします。
発表時は, 演台上のマウスとキーボードにてスライドを操作してください。
- ② スクリーン投影にあたっては, PC の解像度を XGA (1,024 × 768) に統一します。
ページ設定は「画面にあわせる (4:3)」または「標準 (4:3)」としてください。
「16:9」のワイドサイズでスライドを作成されますと, スライドの上下に黒い縁が表示されます。
特に, PowerPoint 2013 以降をお使いの場合, 下記にご留意ください。
初期設定では, 「スライドサイズが 16:9」, 「発表者ツールが有効」になっています。
▶スライドのサイズを「標準 (4:3)」に変更してからデータを作成して下さい。
▶“スライドショー”の項目で“発表者ツールを使用する”のチェックを外して下さい。

(3) ノート, 次のスライド, 発表経過時間などを確認できる“発表者ツール”は, セッション進行の遅滞を招く恐れがあるため, 使用できません。

会場にプリンターはございません。あらかじめ原稿をご用意ください。

(4) Windows にて発表データを作成された場合は, USB フラッシュメモリにてご提出ください。

(5) 今回ご用意しておりますコンピュータの OS と PowerPoint は以下のとおりです。

OS: Windows 7 Professional

アプリケーション: PowerPoint 2016/2013/2010/2007

(6) Macintosh をご使用の場合は, ご自身の PC をご持参ください。

(7) 発表予定時刻の 1 時間前までに, PC 受付にて発表データの試写を行ってください。

(8) スライドの 1 枚目は, 発表タイトルと発表者氏名を明記した表紙ページとしてください。

3. データでお持込の方へ

- (1) Microsoft PowerPoint 2016/2013/2010/2007 で作成し、次の標準フォントをご使用ください。
[日本語] メイリオ, MS ゴシック, MS P ゴシック, MS 明朝, MS P 明朝
[英語] Arial, Arial Black, Century, Century Gothic, Times New Roman
- (2) アニメーションおよびビデオファイルは使用可能ですが、Windows の初期設定で動作可能なことが条件です。
- (3) 音声の出力には対応しておりません。
- (4) 発表後のデータは、事務局で責任を持って消去いたします。

4. PC をご持参いただく方へ

- (1) 使用機種、OS、アプリケーションに制限はありませんが、Surface, iPad その他タブレット端末については、動作の保証はできかねます。
- (2) ミニ D-Sub15 ピンによるモニター出力が必要です。
Macintosh や一部の薄型ノートパソコンでは、別途外部出力コネクタが必要な場合がございますので、必ず各自でご用意ください。
- (3) ビデオファイルの使用も可能ですが、PC 受付にて必ず動作確認を行ってください。
- (4) スクリーンセーバーならびに省電力設定、パスワードはあらかじめ解除しておいてください。
- (5) 電源アダプターを忘れずにお持ちください。
- (6) 故障などのトラブルに備え、バックアップデータをお持ちください。
- (7) PC 受付での試写後、発表時間の 20 分前までに、会場左前方の PC オペレーター席に PC をお持ちください。発表終了後は、この席にて PC をお返しいたします。

5. 利益相反 (COI) について

利益相反の状態について補綴歯科学会のホームページを参照いただき発表スライドに開示してください。

6. 質疑応答について

- (1) 質問者は座長の指示に従い、所定のマイクで所属、氏名を明らかにして要領よく簡潔に質疑を行ってください。
- (2) 質問される方は、予め質問用マイクの付近にお越し下さい。
円滑な進行にご協力をお願いします。

ポスター発表

1. 発表日時

平成 29 年 7 月 1 日（土） 9：00～18：00

平成 29 年 7 月 2 日（日） 9：00～17：40

2. 会場

第 5 会場（5F 501・502）

3. 発表方法

（1）展示について

1 日、2 日の 2 日連続して展示していただきます。

貼り替えはありません。

① 展示用に、横 90cm × 縦 210cm の展示板を用意します。

② 右図の網掛けの範囲内に展示してください。

③ 大会事務局で展示板に演題番号を用意します。

表題、氏名、所属は発表者自身が用意してください。

また、ポスターの右上隅に発表者の写真（L 版）を掲示してください。

④ ポスターの展示板への貼り付けは PUSH ピンを使用し、両面テープなどの粘着テープは使用しないでください。PUSH ピンは会場に用意します。

（2）ポスター中に COI 該当の有無を開示してください。

（3）ポスター討論（質疑応答）について

① 質疑応答は、以下の時間に行います。

平成 29 年 7 月 1 日（土） 12：20～13：10（演題番号末尾が奇数の演題）

平成 29 年 7 月 2 日（日） 12：20～13：10（演題番号末尾が偶数の演題）

② 発表者は、上記の時間中ポスターの横に待機し、質疑応答を行ってください。

また、この時間内は会場内に用意しておりますリボンを胸に付けてください。不在時はリボンをポスターに留めておいてください。

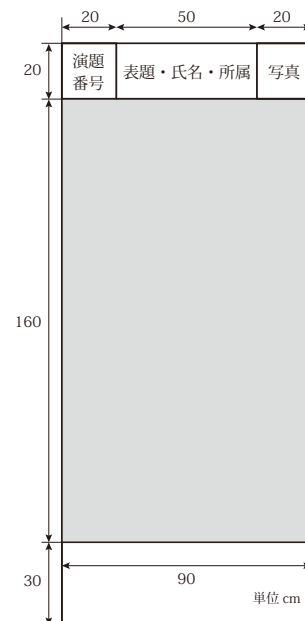
4. ポスターの掲示・撤去

以下の期間中に行ってください。

（1）掲示 平成 29 年 7 月 1 日（土） 8：00～9：00

（2）撤去 平成 29 年 7 月 2 日（日） 17：40～18：10

（18：10 以降は事務局で処分いたします）



専門医ケースプレゼンテーション

1. 発表日時

平成 29 年 7 月 1 日 (土)
9:00 ~ 18:00 (展示)
平成 29 年 7 月 2 日 (日)
9:00 ~ 10:00 (展示)
10:00 ~ 12:00 (審査)
12:00 ~ 17:40 (展示)

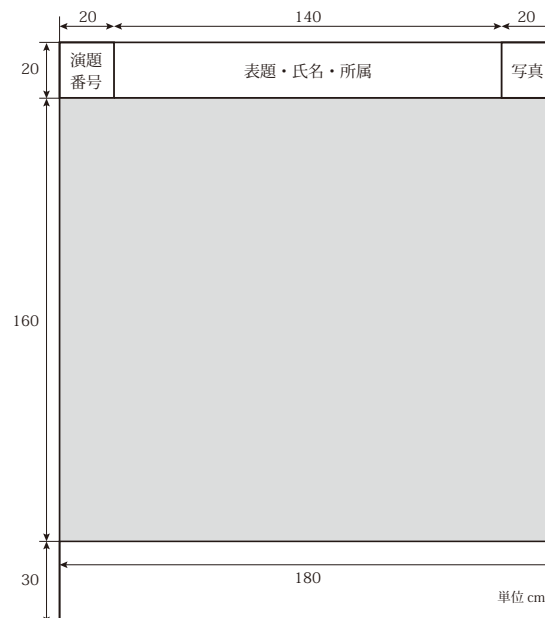
2. 会場

第 6 会場
5F 511・512

3. 発表方法

(1) 展示について

- ① 専門医ケースプレゼンテーションの受付を、平成 29 年 7 月 1 日 (土) 9:00 ~ 9:30 に行います。
 - ② 展示用に、横 180cm × 縦 210cm の展示板を用意します。
 - ③ 右図の網掛けの範囲内に展示してください。
 - ④ 大会事務局で展示板に演題番号を用意します。
表題、氏名、所属は発表者自身が用意してください。
また、ポスターの右上隅に発表者の写真 (L 版) を掲示してください。
 - ⑤ ポスターの展示板への貼り付けはプッシュピンを使用し、両面テープなどの粘着テープは使用しないでください。プッシュピンは会場に用意します。
- (2) ポスター中に COI 該当の有無を開示してください。
- (3) 審査について
- ① 審査委員の指示に従い、10 分程度で説明を行ってください。
 - ② 説明終了後、申請者は審査委員の質疑を受けてください。



4. ポスターの掲示・撤去

以下の期間中に行ってください。

- (1) 掲示 平成 29 年 7 月 1 日 (土) 8:00 ~ 9:00
- (2) 撤去 平成 29 年 7 月 2 日 (日) 17:40 ~ 18:10
(18:10 以降は事務局で処分いたします)



日本補綴歯科学会 第126回 学術大会

The 126th Annual Meeting of the Japan Prosthodontic Society

HOME

大会長挨拶

プログラム・日程表

演題募集・演題登録

発表者の方へ

参加登録・学術大会・
懇親会・託児施設

ハンズオンセミナー申込

専門医筆記試験

会場アクセス

宿泊予約

市民フォーラム

Program in English

参加登録・学術大会・懇親会・託児施設

参加登録および前納会費

参加登録方法

事前参加登録をしていただきますと、前納会費での参加が可能です。

事前参加登録締切：平成29年5月19日(金) (締切が1週間延長されました)

※ 事前参加登録

受付期間は終了致しました。

オンラインでの参加登録が困難な場合

電子メールまたはFAXにて、お名前、電話番号、メールアドレスまたはFAX番号をお知らせください。折り返して案内を送付させていただきます。

連絡先：株式会社日本旅行 ECP営業部

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-18-19 虎ノ門マリビル11階

FAX 03-3437-3944

E-mail mcs_inq05@nta.co.jp

営業時間 平日 9:30~17:30 (土・日・祝日は休業)

学術大会参加費

正会員	前納会費 10,000円	(当日会費 15,000円)
賛助会員	前納会費 10,000円	(当日会費 15,000円)
準会員 (一般)	前納会費 5,000円	(当日会費 7,500円)
準会員 (学部学生)	前納会費 1,000円	(当日会費 2,000円)
非会員 (一般)	前納会費 15,000円	(当日会費 20,000円)
非会員 (学部学生)	前納会費 2,000円	(当日会費 3,000円)

取り消し (返金) 手数料

平成29年5月12日まで 10%

平成29年5月13日以降 100%

託児施設

7月1日 (土) 8:00~20:00, 7月2日 (日) 8:00~19:00に、会場に託児施設をご用意いたします。事前予約が必要となりますので、下記の何れかの方法にてお申込み手続きをお願い致します。

WEB予約

https://cscs.alpha-co.com/event_yoyaku_kihon_form.jsp?E=825381*aM8CX

※お申込みの確認メールとともに 「託児申込書」をお送りします。

※「託児申込書」はご記入の上、当日託児室までお持ちください。

■ お電話での予約

TEL : 03-5797-7121 (平日 9:30~17:30)

お電話で以下の項目をお伝え下さい。

1. 保護者氏名 (よみがな) ・連絡先 (携帯電話番号含む) ・所属 ・会員番号
2. 託児希望日時
3. お子様の名前 (よみがな) ・年齢 ・性別
4. 託児上の注意点 (アレルギーなど)

申込期限 : 6月23日 (金)

※定員になり次第、締め切らせていただきますのでお早目にお申込みください。

懇親会のお知らせ

〈日時〉 平成29年6月30日 (金) 19:00~21:00 (予定)

〈場所〉 ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル

〈申し込み方法〉 **学術大会参加登録と同時にオンラインにてお申し込みください。**

〈懇親会参加費〉 前納会費 12,000円 (当日会費 15,000円)

事前申し込み締切 : 平成29年5月19日(金) (締切が1週間延長されました)

[▶ PAGE TOP](#)



日本補綴歯科学会 第126回 学術大会

The 126th Annual Meeting of the Japan Prosthodontic Society

▶ HOME

▶ 大会長挨拶

▶ プログラム・日程表

▶ 演題募集・演題登録

▶ 発表者の方へ

▶ 参加登録・学術大会・懇親会・託児施設

▶ **ハンズオンセミナー申込**

▶ 専門医筆記試験

▶ 会場アクセス

▶ 宿泊予約

▶ 市民フォーラム

▶ Program in English

ハンズオンセミナー申込

公益社団法人日本補綴歯科学会第126回学術大会では、下記日程にてハンズオンセミナーを開催いたします。参加希望者は本ページ下部の登録ボタンよりご登録ください。

応募者多数の場合は抽選を行い決定させていただきますことをご了承ください。

なお、抽選結果は6月16日（金）までにお知らせいたします。

※参加費は無料です。学術大会参加費は別途必要となります。

※ハンズオンセミナーの応募にあたっては学術大会への**事前参加登録をお済ませいただいていることを必須**とさせていただきます。

※できるだけ多くの方にご参加をいただくため、回次、開催日時に関わらず**応募はお1人様1セッションまで**とさせていただきます。

ハンズオンセミナー参加募集についてのお問い合わせは下記までお願いいたします。

準備事務局

株式会社 日本旅行 ECP営業部

TEL : 03(5402)6401 / FAX : 03(3437)3944

E-mail : jps_126@nta.co.jp

参加申込み期間

2017年4月1日（土）～5月19日（金）（締切が1週間延長されました）

開催概要

ハンズオンセミナー1

1-1 2017年7月1日（土） 10:40-11:40

1-2 2017年7月1日（土） 13:10-14:10

■ 軟質材料を用いた義歯のリライン

募集人数：各回24名

【企画趣旨】

軟質材料による有床義歯内面適合法が2016年4月に保険収載された。この機会に軟質材料を用いた義歯のリラインに興味を持った方も多と思われる。このハンズオンセミナーは、これから軟質材料を用いた義歯のリラインにチャレンジしてみよう、という方を対象にしたテーブルクリニック形式で行う予定である。やりたいけどよくわからない、やってみただけどうまいかない、といった方の疑問にお答えしたい。

講師：上田 貴之（東歯大）

和田 健（東歯大）

ハンズオンセミナー2

2-1 2017年7月2日（日） 10:30-11:30

2-2 2017年7月2日（日） 13:30-14:30

■ 口腔内スキャナーの実践

募集人数：各回20名

【企画趣旨】

あらゆる歯科臨床現場でのデジタルデンティストリーに関連する技術や製品が普及拡大を続けており、その中でも口腔内スキャナーは次世代印象法として注目されている。これまでも口腔内スキャナーは一部

のCAD/CAM システムでは使用されてきたが、最近は複数の企業によって様々な製品が開発され、スキャナーの大きさ、計測精度やスピード、カラー情報の取得など、性能に著しい向上、改良が行われ、患者や術者にとってさらに使用しやすく、確実、有益な機器となっている。そこで今回は、4種類の口腔内スキャナーを実際にご使用いただき、それぞれの口腔内スキャナーの特徴や使用方法を理解し、最新の技術を体感していただく。

講師：疋田 一洋（北医療大）

ハンズオンセミナー3

3-1 2017年7月2日（日）10:30-11:30

3-2 2017年7月2日（日）13:30-14:30

■ ファイバーポストコアをマスターする

募集人数：各回20名

【企画趣旨】

支台築造は歯質欠損を補い、歯冠補綴装置を装着するための適正な支台歯形態へ回復させることが目的であり、その臨床的意義は高い。レジン支台築造は、象牙質への接着の信頼性が向上してその選択頻度が高くなった。さらにファイバーポストコアは、主に歯根破折への対策、ならびに審美性の向上やメタルフリーを目的として臨床応用される。

2016年1月から「ジーシー ファイバーポスト」が公的保険に収載され、それまで自費治療でのみ使用されていたファイバーポストが保険治療として国民に広く使用することが可能となった。その後、複数の製品が特定保険医療材料として認可され、選択肢が増えた。本ハンズオンセミナーでファイバーポストコアの複数ある接着界面を理解して、実際の臨床テクニックを実習し、ファイバーポストコアの有効性を確認していただきたい。

講師：坪田 有史（東京支部）

ハンズオンセミナー4

4-1 2017年7月2日（日）10:30-11:30

4-2 2017年7月2日（日）13:30-14:30

■ 有床義歯咀嚼機能検査

募集人数：各回20名

【企画趣旨】

平成28年4月に保険導入された有床義歯咀嚼機能検査は、下顎運動検査と咀嚼能力検査からなりますが、臨床の場での活用を目的とし、特別な知識や習得を必要とせずにとなたでも簡便かつ短時間（下顎運動検査：10分以内、咀嚼能力検査：5分以内）で行うことができるように開発されたものです。

本検査を用いることにより、損なわれた咀嚼機能の回復と維持を客観的に評価することができ、歯科治療とその効果について、患者の理解を促進し、適切な指導・管理を行うことが可能となります。本セミナーでは、これらの検査法について解説させていただきます。

講師：志賀 博（日歯大）

対象者

事前参加登録を済ませた方で、指導者によるトレーニングを強く希望する本会学会員を対象としております。

※ お申込みページへ

受付期間は終了致しました。

⇨ PAGE TOP



▶ HOME

▶ 大会長挨拶

▶ プログラム・日程表

▶ 演題募集・演題登録

▶ 発表者の方へ

▶ 参加登録・学術大会・懇親会・託児施設

▶ ハンズオンセミナー申込

▶ **専門医筆記試験**

▶ 会場アクセス

▶ 宿泊予約

▶ 市民フォーラム

▶ Program in English

専門医筆記試験

平成29年6月30日（金） 15：00～15：50

場所： [日石横浜ホール](#)（クリックするとアクセス情報が表示されます。）

横浜市中区桜木町一丁目1番地8「日石横浜ビル」

日時： 平成29年6月30日（金） 15：00～15：50

※申込方法など詳細は下のお知らせのリンクにある「(公社)日本補綴歯科学会 平成29年度専門医多肢選択式筆記試験実施のお知らせ」および「[補綴歯科学会ホームページ専門医制度について](#)」をご参照下さい。
専門医多肢選択式筆記試験のお知らせと様式29（pdf版、Word版）はこちらからでもダウンロードできます。

※ お知らせ

※ 様式29（PDF版）

※ 様式29（word版）

▶ PAGE TOP



▶ HOME

▶ 大会長挨拶

▶ プログラム・日程表

▶ 演題募集・演題登録

▶ 発表者の方へ

▶ 参加登録・学術大会・懇親会・託児施設

▶ ハンズオンセミナー申込

▶ 専門医筆記試験

▶ 会場アクセス

▶ 宿泊予約

▶ 市民フォーラム

▶ Program in English

市民フォーラム

「健康長寿の秘訣！－噛み合わせ・咀嚼・栄養の大切さ－」

【企画趣旨】津賀先生には適切な咬合・歯列の重要性，口腔機能管理の重要性，歯を喪失した際に起こる顎口腔系の症状と喪失の予防から，早期に改善・回復させることの意義と咬合・咀嚼・補綴歯科治療の重要性を，菊谷先生からはそれらの重要性を踏まえて，生理的老化にともなう口腔機能低下（運動障害性咀嚼障害）により起こる咀嚼障害と栄養状態の維持，健康長寿の実現に向けたお話しと健康長寿の秘訣をご参加いただく市民の方にわかりやすく話していただく予定である。

座長： 松山 美和（徳島大）

武部 純（愛院大）

講師： 津賀 一弘（広島大）

菊谷 武（日歯大）

▶ PAGE TOP



日本補綴歯科学会 第126回 学術大会

The 126th Annual Meeting of the Japan Prosthodontic Society

▶ HOME

▶ 大会長挨拶

▶ プログラム・日程表

▶ 演題募集・演題登録

▶ 発表者の方へ

▶ 参加登録・学術大会・懇親会・託児施設

▶ ハンズオンセミナー申込

▶ 専門医筆記試験

▶ 会場アクセス

▶ 宿泊予約

▶ 市民フォーラム

▶ Program in English

Program in English

Main Theme

What prosthodontists are expected by other specialties?
What prosthodontists should be aiming for?

Dates

June 30 (Fri), July 1 (Sat), 2 (Sun), 2017

Place

PACIFICO Yokohama

1-1-1 Minato Mirai, Nishi-ku, Yokohama 220-0012, Japan
TEL:045-221-2155 (+81-45-221-2155)

InterContinental Yokohama Grand

1-1-1 Minato Mirai, Nishi-ku, Yokohama 220 8522, Japan
TEL:045-223-2222 (+81-45-223-2222)

Registration

Registration Fee

Member, Company member	Pre-registration ¥10,000-	On-site registration ¥15,000-
Supporting member	Pre-registration ¥10,000-	On-site registration ¥15,000-
Temporary member (Regular)	Pre-registration ¥5,000-	On-site registration ¥7,500-
Temporary member (Undergraduate student)	Pr-eregistration ¥1,000-	On-site registration ¥2,000-
Non-member (Regular)	Pre-registration ¥15,000-	On-site registration ¥20,000-
Non-member (Undergraduate student)	Pre-registration ¥2,000-	On-site registration ¥3,000-

Pre-registration

Membership number is necessary for member registration.

Pre-registration period

Until May 12 (Fri), 2017, 17:00 (JST)

Cancel Fee

Before May 12, 10% of Registration fee
After May 13, 100% of Registration fee

Reception

Date

June 30 (Fri), 2017, 19:00-21:00 (Schedule)

Place

InterContinental Yokohama Grand
Intercontinental Ballroom, 1 Chome-1-1 Minatomirai, Nishi Ward, Yokohama, Kanagawa Prefecture 200-8522, Japan
TEL: +81-45-223-2222

Reception fee

Pre-registration for reception \12,000- On-site registration for reception \15,000-

■ Contact

For more information please contact the following address.

NIPPON TRAVEL AGENCY CO., LTD. Convention Section. MCS Center

Toranomon Marine Building 11F
3-18-19 Toranomon Minato-ku Tokyo 105-0001 JAPAN
TEL: 03-5402-6412 (+81-3-5402-6412), FAX: 03-3437-3944 (+81-3-3437-3944)
email: mcs_inq05@nta.co.jp
Business hours: 9:30-17:30 on weekday

Program

President's Lecture

10:10-10:40 Saturday, 1 July

■ Prosthodontics drives dentistry with pride and responsibility

- **Chairperson :** Hideo Matsumura (Nihon University)
- **Speakers :** Tetsuo Ichikawa (Tokushima University)

Special Lecture

10:50-12:20 Saturday, 1 July

■ Story of SHIUMAI -Locality famous food in Yokohama-

- **Chairperson :** Chikahiro Ohkubo (Tsurumi University)
- **Speakers :** Naobumi Nonami
(The Yokohama Chamber of Commerce and Industry Vice Chairmen, KIYOKEN Co., Ltd. President)

International Special Lecture

13:20-14:20 Saturday, 1 July

■ Implant therapy in the geriatric patients

- **Chairperson :** Takahiro Ono (Niigata University)
- **Speakers :** Frauke Müller (University of Genève, Feneva)

Main Symposium

14:30-15:30 Saturday, 1 July

■ Identity of prosthodontic practice toward the future

- **Chairperson :** Hideo Matsumura (Nihon University)
Tetsuo Ichikawa (Tokushima University)
- **Speakers :** Kiyoshi Koyano (Kyushu University)
Kaoru Sakurai (Tokyo Dental College)
Kazunori Ikebe (Osaka University)

International Symposium

10:50-12:20 Saturday, 1 July

■ Trends on current prosthetic treatment. -Europe and Indonesia-

- **Chairperson :** Hirofumi Yatani (Osaka University)
Yuka Sumita (Tokyo Medical and Dental University)
- **Speakers :** Hana Hubáľková (Charles University in Prague, Prague)
Laura S. Himawan (University of Indonesia, Jakarta, Indonesia)

Symposium 1

14:30-15:30 Saturday, 1 July

■ Development and clinical application of CAD/CAM denture system

- **Chairperson :** Kazuhiro Hikita (Health Sciences University of Hokkaido School of Dentistry)
Kan Nagao (Tokushima University Graduate School)
- **Speakers :** Shunsuke Minakuchi (Tokyo Medical and Dental University)
Hidemasa Shimpo (Tsurumi University)

Symposium 2

09:00-10:00 Sunday, 2 July

■ Clinical effect of resilient lining denture prostheses

- **Chairperson :** Yasuhiko Kawai (Nihon University)
Takayuki Ueda (Tokyo Dental College)
- **Speakers :** Hiroshi Murata (Graduate School of Nagasaki University)
Takayuki Ueda (Tokyo Dental College)

Symposium 3

10:10-11:10 Sunday, 2 July

■ Challenges and future for tissue engineering in prosthodontics

- **Chairperson :** Masahiro Nishimura (Kagoshima University)
Yosuke Akiba (Niigata University)
- **Speakers :** Shinya Murakami (Osaka University Graduate School of Dentistry)
Motohiro Harai
(FUJI SOFT INCORPORATED Executive Operating Officer Regenerative
Medicine Research & Business Div.)

Symposium 4

13:20-14:50 Sunday, 2 July

■ The US approach vs. the Scandinavian approach in prosthodontic treatments

- **Chairperson :** Hiroshi Egusa (Tohoku University)
Nobuyuki Nakai (Kansai Branch)
- **Speakers :** Hideaki Hirooka (Tokyo)
Tokuo Matsui (Tokyo)
Taro Kanno (Tohoku University)

Clinical Skill-up Seminar

13:20-14:20 Saturday, 1 July

■ Occlusal abnormality for prosthodontic treatment -Diagnosis and concept not only with teeth-

- **Chairperson :** Yoshizo Matsuka (Tokushima University)
Jun Takebe (Aichi Gakuin University)
- **Speakers :** Yoshizo Matsuka (Tokushima University)
Taihiko Yamaguchi (Hokkaido University)

Clinical Lecture Series 1

15:40-17:40 Saturday, 1 July

■ **Prosthodontic management for intractable cases related to the loss of appropriate occlusal support: Prosthodontic interventions according to the Eichner classification**

- **Chairperson :** Shuji Ohkawa (Meikai University)
Yoshihiro Tsukiyama (Kyushu University)
- **Speakers :** Naoki Kodama (Okayama University)
Yoichiro Ogino (Kyushu University)
Ken-ichi Matsuda (Osaka University)

Clinical Lecture Series 2

09:00-10:40 Sunday, 2 July

■ **Learning from the experiences of our predecessors ?What is the most important one in the Prosthodontic treatment?-**

- **Chairperson :** Chikahiro Ohkubo (Tsurumi University)
Takuo Kuboki (Okayama University)
- **Speakers :** Atsushi Yamashita (Chugoku & Shikoku branch)
Hisatoshi Tanaka (Higashi-kanto branch)

Clinical Lecture Series 3

10:50-12:20 Sunday, 2 July

■ **Tooth Preparation for the CAD/CAM Crown from a Clinician's Viewpoint**

- **Chairperson :** Harunori Gomi (The Nippon Dental University)
Takashi Nakamura (Osaka University)
- **Speakers :** Yoshiaki Nishikawa (Kagoshima)
Yoshihiko Mutoke (Kansai Branch)

Clinical Lecture Series 4

13:20-14:50 Sunday, 2 July

■ **Proposal to prosthodontist as a dental technician ?Learn from clinical and technical 'TAKUMI'?**

- **Chairperson :** Kazuhiko Suese (Osaka Dental University)
Yohei Sato (Tsurumi University)
- **Speakers :** Shizuo Higuchi (Kansai Branch)
Keisuke Ihara (Tsurumi University)
Hiroyuki Kibayashi (Kansai Branch)
Makoto Morita (Kyoto)

Prosthodontic Specialist Seminar

15:00-17:40 Sunday, 2 July

■ **The present situation and future of crown restoration with digital technology**

- **Chairperson :** Shin-ichi Masumi (Kyushu Dental University)
Takumi Ogawa (Tsurumi University)
- **Speakers :** Hironobu Sato (Hukuoka Dental University)
Hisatomo Kondo (Iwate Medical University)
Takumi Ogawa (Tsurumi University)

Committee Seminar 1 (Research planning and promotion committee)

18:00-19:00 Friday, 30 June

■ **Current status and future prospective of JPR**

- **Chairperson :** Kazuyoshi Baba (Showa University)
- **Speakers :** Kazuyoshi Baba (Showa University)
Ryuji Hosokawa (Kyushu Dental University)

Committee Seminar 2

11:20-12:20 Sunday, 2 July

- **Joint research between the Japan Prosthodontic Society and the Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital And Institute of Gerontology -the influence of oral and swallowing functions of aged persons on the QOL and healthy life expectancy**

- **Chairperson :** Hirofumi Yatani (Osaka University)
Katsushi Tamaki (Kanagawa Dental University)
- **Speakers :** Eri Koyama (Okayama University)
Kenji Maekawa (Okayama University)

Dental Hygienist session

10:50-12:20 Sunday, 2 July

- **Updating professional care of prostheses for dental hygienists**

- **Chairperson :** Junichi Furuya (Tokyo Medical and Dental University)
Kan Nagao (Tokushima University)
- **Speakers :** Akiko Kobayashi (Tokyo)
Hiroki NIKAWA (Hiroshima University)
Kohei Teramoto (Tokyo)

Hands-on seminar1

10:40-11:40 Saturday, 1 July

13:10-14:10 Saturday, 1 July

- **Table Clinic of Lining of Removable Dentures with Soft Lining Materials**

- **Instructor :** Takayuki Ueda (Tokyo Dental College)
Takeshi Wada (Tokyo Dental College)

Hands-on seminar2

10:30-11:30 Sunday, 2 July

13:30-14:30 Sunday, 2 July

- **Practice of intraoral scanner**

- **Instructor :** Kazuhiro Hikita (Hokkaido School of Dentistry)

Hands-on seminar3

10:30-11:30 Sunday, 2 July

13:30-14:30 Sunday, 2 July

- **To acquire knowledge and master on endodontically treated teeth restored with composite core materials and fiber posts.**

- **Instructor :** Yuji Tsubota (Tokyo Branch)

Hands-on seminar4

10:30-11:30 Sunday, 2 July

13:30-14:30 Sunday, 2 July

- **Examining masticatory function of removable denture**

- **Instructor :** Hiroshi Shiga (The Nippon Dental University)

Evening session 1

18:00-18:50 Saturday, 1 July

■

■ The core build-up utilizing the Adhesive Dentistry

- **coordinator** : Atsushi Mine (Osaka University)
- **Presenter** : Akikazu Sinya (The Nippon Dental University.)
Keita Sasaki (Tsurumi University)

Evening session 2

18:00-18:50 Saturday, 1 July

■ How can iPS cell technologies change prosthodontics for next stage?

- **coordinator** : Takehito Ouchi (Keio University)
- **Presenter** : Kunimichi Niibe (Tohoku University)
Hiroko Okawa (Tohoku University)
Yurie Hoashi (Showa University)

Evening session 3

18:00-18:50 Saturday, 1 July

■ We need implant here! -Application of implants for removable dentures-

- **coordinator** : Manabu Kanazawa (Tokyo Medical and Dental University)
- **Presenter** : Yohei Sato (Tsurumi University)
Sawako Yokoyama (Showa University)

Evening session 4

18:00-18:50 Saturday, 1 July

■ Back to the basic ?Is Gothic Arch really necessary?-

- **coordinator** : Naoki Kodama (Okayama University Hospital)
- **Presenter** : Yuichi Matsumaru (Nihon University)
Ikiru Atsuta (Kyushu University)

Evening session 5

18:00-18:50 Saturday, 1 July

■ Optical Impression in Implant Treatment: Current Status and Future Possibilities

- **coordinator** : Shinpei Tanaka (Showa University)
- **Presenter** : Shota Fukazawa (School of Dentistry Iwate Medical University)
Rihei Watanabe (Tohoku Hokkaido Branch)
Masayuki Takaba (Showa University)

Evening session 6

18:00-18:50 Saturday, 1 July

■ Contemporary prosthetic strategy for edentulous patients using dental implants

- **coordinator** : Kohji Nagata
(Tokyo Medical and Dental University.TCBC Laboratory, University of Turku.)
- **Presenter** : Daisuke Sato (Showa University)
Katsuichiro Maruo (Kanagawa Dental University)
Masaru Hiruta (Tokyo Branch)

⇨ PAGE TOP

(公社) 日本補綴歯科学会第 126 回学術大会を 6 月 30 日～7 月 2 日にパシフィコ横浜にて開催させていただきました。会員の皆様のご支援、ご協力により、多数の演題のご応募をいただき、また約 2,800 名の皆様にご来場いただき、盛会裏に終了することができました。ご厚情を賜りました会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

また、松村前理事長、市川理事長はじめ、関係の諸先生方のご高配により、本学術大会の主管校としてご指名いただきましたことにも改めて感謝申し上げます。

学術委員会委員の先生方による魅力ある企画のご準備とともに、多数の優れた研究発表のご応募をいただきました。全ての講演や発表に対してご好評を賜り、主管校としても安堵しているところでございます。

会員の皆様方にできるだけご満足いただけますよう主管校一同で鋭意準備をしまいましたが、大会期間中には何かとご不便、ご迷惑をおかけしたと存じます。スタッフ一同の努力に免じてお許しいただければ有り難く存じます。

来年の第 127 回学術大会は、岡山大学の皆木省吾教授を大会長として岡山コンベンションセンターで開催される予定です。末筆ながら、第 127 回学術大会のご盛会と、本会の益々の発展とともに、会員の皆様方のご健勝を心からご祈念申し上げます。

公益社団法人 日本補綴歯科学会第 126 回学術大会

大会長 大久保力廣 (鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座)

実行委員長 小川 匠 (鶴見大学歯学部クラウンブリッジ補綴学講座)

準備委員長 西山雄一郎 (鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座)

大久保力廣

メインテーマ「補綴歯科がめざすもの、求められるもの」

- 日石横浜ビル
6月30日（金）
 - ・ 専門医筆記試験：日石横浜ホール

- ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル
6月30日（金）
 - ・ 会務連絡会：1F パール
 - ・ 臨時理事会：1F パール
 - ・ 委員長会：1F パール
 - ・ 臨時理事会：1F パール
 - ・ 支部長会：1F パール
 - ・ 定時総会：1F シルク
 - ・ 日本歯科医学会会長懇談会：1F シルク
 - ・ 委員会セミナー1：1F シルク
 - ・ 懇親会：3F ボールルーム

- パシフィコ横浜
7月1日（土）、7月2日（日）
 - ・ 第1会場：1F メインホール
 - ・ 第2会場：3F 301+302
 - ・ 第3会場：3F 303+304
 - ・ 第4会場：5F 503
 - ・ 第5会場：5F 501+502
 - ・ 第6会場：5F 511+512
 - ・ 第7会場：4F 414+415
 - ・ 第8会場：4F 411+412
 - ・ 第9会場：4F 413
 - ・ 第10会場：4F 416+417

- クイーンズスクエア
7月1日（土）
 - ・ 市民フォーラム：クイーンズサークル

公益社団法人日本補綴歯科学会 第126回学術大会 日程表

6月30日(金)

	会場：日石横浜ビル	会場：ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル		
	専門医筆記試験 日石横浜ホール	会務連絡会 理事会 1F パール	総会 日本歯科医学会会長懇談会 委員会セミナー (JPR編集委員会) 1F シルク	懇親会 3F ボールルーム
8:00				
9:00				
10:00		会務連絡会		
11:00		臨時理事会		
12:00		委員長会		
13:00			総会受付	
14:00			定時総会	
15:00	専門医筆記試験受付			
15:00	専門医筆記試験 15:00～15:50			
16:00		臨時理事会		
17:00		支部長会		
18:00			日本歯科医学会 会長懇談会 委員会セミナー 1 (JPR 編集委員会) JPR の果たす役割－現状と今後の展開－ 座長：馬場一美 (昭和大) 講師：馬場一美 (昭和大) 細川隆司 (九歯大) 江草 宏 (東北大)	
19:00				懇親会受付
20:00				懇親会
21:00				

公益社団法人日本補綴歯科学会 第126回学術大会 日程表

7月1日(土)

会場：パシフィコ横浜

会場：パシフィコ横浜										会場：クイーンズスクエア
第1会場	第2会場	第3会場	第4会場 サテライト会場	第5会場 ポスター会場	第6会場	第7会場 ハンズオン1	第8会場	第9会場	企業展示	市民フォーラム
1Fメインホール	3F 301+302	3F 303+304	5F 503	5F 501+502	5F 511+512	4F 414+415	4F 411+412	4F 413	5F 501+502	クイーンズサークル
8:00				ポスター 提示		専門医ケースプレ ゼンテーション ポスター 提示			企業展示 準備	
9:00	開会式									
	課題口演 臨床効果の評価 演題：課題1~3 座長：南 弘之 (鳥取大)	課題口演 口腔機能と全身疾 患との関連 演題：課題4~6 座長：木本克彦 (神大)	課題口演 バイオロジー 演題：課題7~9 座長：横山教郎 (北海道大)							
10:00				ポスター 展示						
	理事長講演 歯科の価値を支え、 創る補綴の矜持 座長：松村英雄 (日本大) 講師：市川哲雄 (徳大)	第1会場 サテライト	第1会場 サテライト							
11:00	メインシンポジウム 未来に向けた補 綴歯科のアイデン ティティー 座長：松村英雄 (日本大) 市川哲雄 (徳大) シンポジスト： 池邊一典 (大阪大) 櫻井 薫 (東大) 古谷野潔 (九州大)	国際シンポジウム 補綴治療のトレン ドを知る。ニヨ ロッパを以てイン ドネシアからの報 告」(同時通訳 あり) 座長： 矢谷博文 (大阪大) 岡田由香 (医大)	一般口演 バイオマテリアル1 演題：01-1~3 座長：藤原 周 (朝日大) 一般口演 バイオマテリアル2 演題：01-4~6 座長：黒岩昭弘 (松大)			ハンズオンセミ ナー1-1 軟質材料を用いた 義歯のリライン 講師： 上田典之 (東大) 和田 健 (東大)				
12:00										
				ポスター 討論 奇数演題						
13:00										
					第1会場 サテライト	専門医ケースプレ ゼンテーション ポスター 展示			企業展示	
14:00	特別講演 横浜名物 シウマイ 物語 座長：大久保力廣 (鶴見大) 講師：野並直文 (横浜商工会議所、崎陽軒)	臨床スキルアップ セミナー 補綴歯科治療を進めるた び知っておくべき咬合異常 座長：松香芳三 (徳大) 武部 純 (慶院大) 講師：山口泰彦 (北海道大) 松香芳三 (徳大)	一般口演 有床義歯1 演題：01-10~12 座長：岡崎定司 (大東大) 一般口演 有床義歯2 演題：01-13~15 座長：若林明彦 (医大)			ハンズオンセミ ナー1-2 軟質材料を用いた 義歯のリライン 講師： 上田典之 (東大) 和田 健 (東大)				
15:00	海外特別講演 高齢患者のイン プラント治療(同時 通訳あり) 座長：小野高裕 (新潟大) 講師：Frauke Müller (University of Geneva)	シンポジウム1 CAD/CAM デンチャーは どこまで進んだのか 座長：足田一洋 (北産大) 永尾 寛 (徳大)	一般口演 クラウンブリッジ1 演題：01-16~18 座長：三浦宏之 (医大) 一般口演 クラウンブリッジ2 演題：01-19~21 座長：田中昌博 (大東大)							
16:00	臨床リレー セッション1 (専門医研修単位 認定セミナー) 咬合支持に起因す る難症例への補綴 学的アプローチ： Eichnerの分類に 応じた補綴介入 座長：大川周治 (明海大) 泉山龍大 (九州大) 講師：兒玉直紀 (岡山大) 荻野洋一郎 (九州大) 松田謙一 (大阪大)	臨床リレー セッション1 第1会場 サテライト	一般口演 インプラント1 演題：01-22~24 座長：越智守生 (北産大) 一般口演 インプラント2 演題：01-25~27 座長：山内六男 (朝日大) 一般口演 口腔機能1 演題：01-28~30 座長：山下秀一郎 (東大) 一般口演 口腔機能2 演題：01-31~33 座長：菊池雅彦 (東北大)							市民フォーラム 健康長寿の秘訣！ 一噛み合わせ・咀嚼・ 栄養の大切さ 座長：武部 純 (慶院大) 松山美和 (徳大) 講師：津賀一弘 (広島大) 菊谷 武 (日大)
17:00										
18:00	イブニング セッション1 接着歯学を活用した支台装 着法の現状と未来へガ イドラソール作成とイノ ベーション創出をめざして コーディネーター： 峯 篤史 (大阪大)	イブニング セッション2 iPS細胞研究は歯科 補綴学にどのように 生かされるのか？ コーディネーター： 黄地健仁 (慶應義塾大)	イブニング セッション3 ここにインプラントが欲 しい！ -有床義歯への インプラントの活用- コーディネーター： 金澤 亨 (医大)			イブニング セッション4 Back to the basic -ゴシックアーチは本 当に必要なのか？- コーディネーター： 兒玉直紀 (岡山大)	イブニング セッション5 インプラント治療にお ける光学印象の活用 -現状と今後の可能性- コーディネーター： 田中晋平 (昭和)	イブニング セッション6 インプラント治療 と無歯顎患者の補 綴治療 コーディネーター： 永田浩司 (医大)		
19:00										

公益社団法人日本補綴歯科学会 第126回学術大会 日程表

7月2日(日)

会場：パシフィコ横浜

	第1会場	第2会場	第3会場	第4会場 サテライト会場	第5会場 ポスター会場	第6会場	第7会場 ハンズオン2	第8会場 ハンズオン3	第9会場 ハンズオン4	第10会場 セッション室	企業展示
	1Fメインホール	3F 301+302	3F 303+304	5F 503	5F 501+502	5F 511+512	4F 414+415	4F 411+412	4F 413	4F 416+417	5F 501+502
8:00					ポスター 提示	ポスター 提示					
9:00	臨床リレーセッション2 温故知新 先人達に学ぶ 一補綴で最も大切なものは何か 座長：大久保力廣 (鶴見大) 講師：山本 祐男 (岡山大)	シンポジウム2 軟質材料を用いた義歯のリラインによる臨床効果 座長：河相安彦 (日大松戸) 上田真之 (東歯大)	一般口演 症例 演題：02-1~3 座長：佐藤裕二 (昭和)		第1会場 サテライト	一般口演 クラウンブリッジ3 演題：02-4~6 座長：山崎敬雄 (奥羽)	専門医ケースプレゼンテーション ポスター 展示				
10:00	臨床リレーセッション3 CAD/CAM 冠 術者目線の支台歯形成 座長：五味治徳 (日歯大) 中村隆志 (大阪大) 講師：西川 義昌 (鹿児島) 六人部慶彦 (関西支)	シンポジウム3 歯科補綴領域の再生医療実現における課題と未来 座長：西村正宏 (鹿児島) 秋葉博 (新潟大)	一般口演 クラウンブリッジ4 演題：02-7~9 座長：佐藤 亨 (東歯大)			ポスター 展示	専門医ケースプレゼンテーション ポスター 審査	ハンズオンセミナー2-1 口腔内スキャナーの実践 講師：足田一洋 (北医療大)	ハンズオンセミナー3-1 ファイバーポストコアをマスターする 講師：坪田有史 (東京支)	ハンズオンセミナー4-1 有床義歯咀嚼機能検査 講師：志賀 博 (日歯大)	歯科衛生士セッション 補綴のプロフェッショナルケアをアップデートする 座長：古屋純一 (歯大) 永尾 寛 (徳島大) 講師：小林明子 (東京) 二川浩樹 (広島大) 寺本浩平 (東京)
11:00		委員会セミナー2 (研究企画推進委員会) 高齢者の歯科口腔・嚥下機能がQOL及び健康寿命に及ぼす影響 座長：矢倉博文 (大阪大) 玉置明司 (神歯大) 講師：小山純理 (岡山大) 前川寛治 (岡山大)	一般口演 有床義歯3 演題：02-10~12 座長：飯木省吾 (岡山大)			ポスター 提示					
12:00			一般口演 有床義歯4 演題：02-13~15 座長：小正 裕 (大阪大)			ポスター 討論 偶数演題					
13:00		ランチョンセミナー3 GC's CAD/CAM solution 最新情報 座長：渡辺大太郎 (前澤大) 上野貴之 (前澤大)	ランチョンセミナー4 紅斑性カンジダ症への口腔乾燥と義歯のかかり 講師：中川洋一 (鶴見大)								
14:00	臨床リレーセッション4 歯科技工士から補綴臨床医への提言 臨床と技工の匠に学ぶ 座長：末満一彦 (大歯大) 佐藤洋平 (鶴見大) 講師：樋口鏡央 (徳島支) 伊原啓祐 (鶴見大) 木林博之 (徳島支) 森田 誠 (京都府)	シンポジウム4 「米型型 vs. スカンジナビア型」- 日本の補綴歯科専門医はどちらを向いているのか？ 座長：江草 宏 (東北大) 中居伸行 (関西支) シンポジウム: 弘岡秀明 (東京都) 松井穂穂 (東京都) 野野太朗 (東北大)	一般口演 トランスレショナルリサーチ 臨床イノベーション 演題：02-19~21 座長：朝野元雄 (朝野大)	一般口演 ニューデザイン1 演題：02-22~24 座長：伊藤 裕 (東大)			専門医ケースプレゼンテーション ポスター 展示	ハンズオンセミナー2-2 口腔内スキャナーの実践 講師：足田一洋 (北医療大)	ハンズオンセミナー3-2 ファイバーポストコアをマスターする 講師：坪田有史 (東京支)	ハンズオンセミナー4-2 有床義歯咀嚼機能検査 講師：志賀 博 (日歯大)	
15:00			一般口演 バイオロジー1 演題：02-28~30 座長：関根秀志 (奥羽)								
16:00	専門医研修会 デジタル技術を用いた歯冠修復の現状と未来 座長：梶見進一 (九歯大) 小川 匠 (鶴見大) 講師：佐藤博徳 (福歯大) 近藤尚知 (若手大) 小川 匠 (鶴見大)	専門医研修会 第1会場 サテライト	一般口演 バイオロジー2 演題：02-31~33 座長：澤瀨 隆 (長崎)								
17:00			一般口演 口腔機能3 演題：02-34~36 座長：越野 寿 (北医療大)								
			一般口演 口腔機能4 演題：02-37~39 座長：服部佳功 (東北大)								
			一般口演 口腔機能と全身疾患 演題：02-40~42 座長：藤澤政紀 (明海大)								
18:00	閉会式 表彰式				ポスター 撤去						

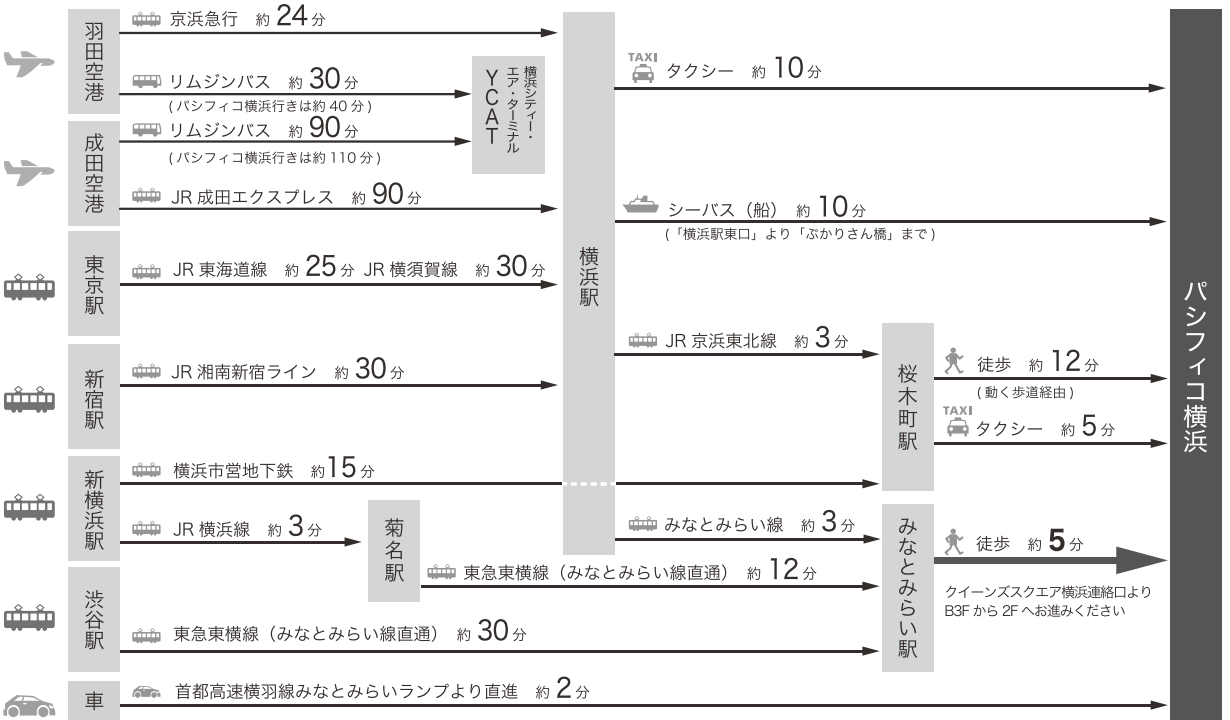
パシフィコ横浜 交通のご案内

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい 1-1-1 TEL: 045-221-2155

世界中から、国内各地から良好なアクセス！

都心から **30分**
 みなとみらい駅から
 徒歩 **5分**
クイーンズスクエア横浜連絡口より、
 B3Fから2Fへお進みください

東京国際空港（羽田）から約 **30分**
 成田国際空港から約 **100分**
 新横浜から約 **20分**
 首都高速横羽線みなとみらいランプより約 **2分**



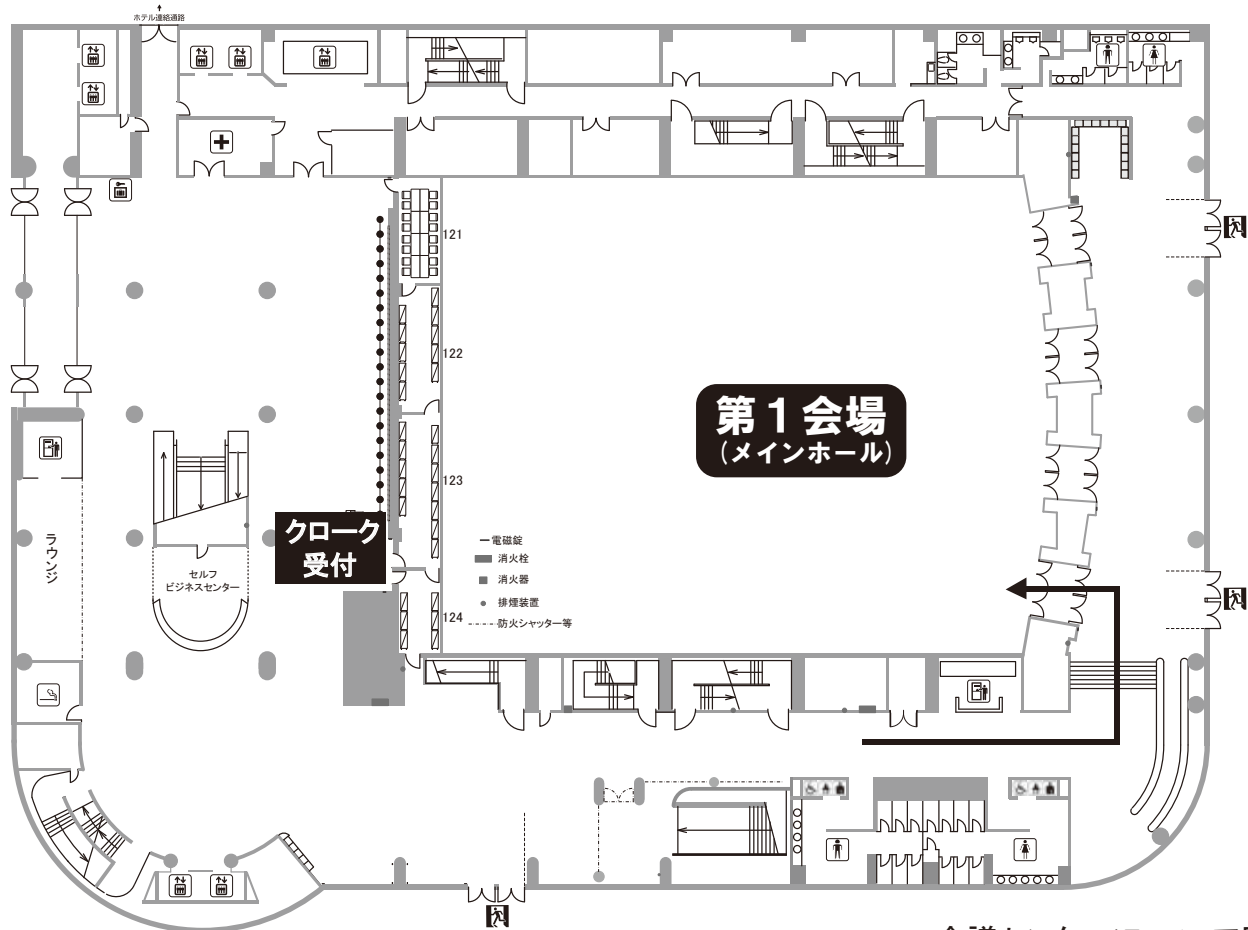
- ① みなとみらい公共駐車場 ¥270 / 30分 7:00 ~ 24:00 (出庫は 24 時間可)
- ② 臨港パーク駐車場 ¥250 / 30分 8:00 ~ 21:00
- ③ バス・大型駐車場 ¥500 / 30分 0:00 ~ 24:00 (入出庫は 7:00 ~ 22:00 予約制)

※ご利用施設により、実際の所要時間は異なります。ご来場の際は余裕を持ってお越しください。
 ※乗換時間は含まれておりません。 ※乗車ターミナル及び道路状況によって所要時間は異なります。

2017.1.1 版

パシフィコ
横浜

第1～10会場



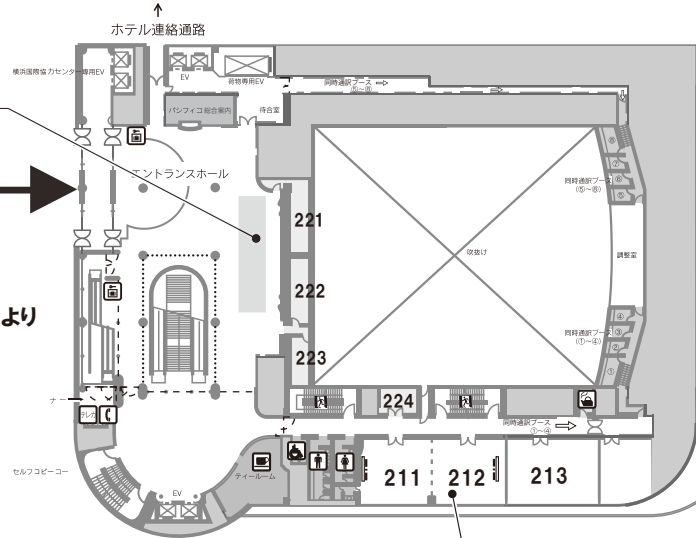
第1会場 (メインホール)

2F

当日登録受付
PC受付

*クローカーは1Fに
ございます。

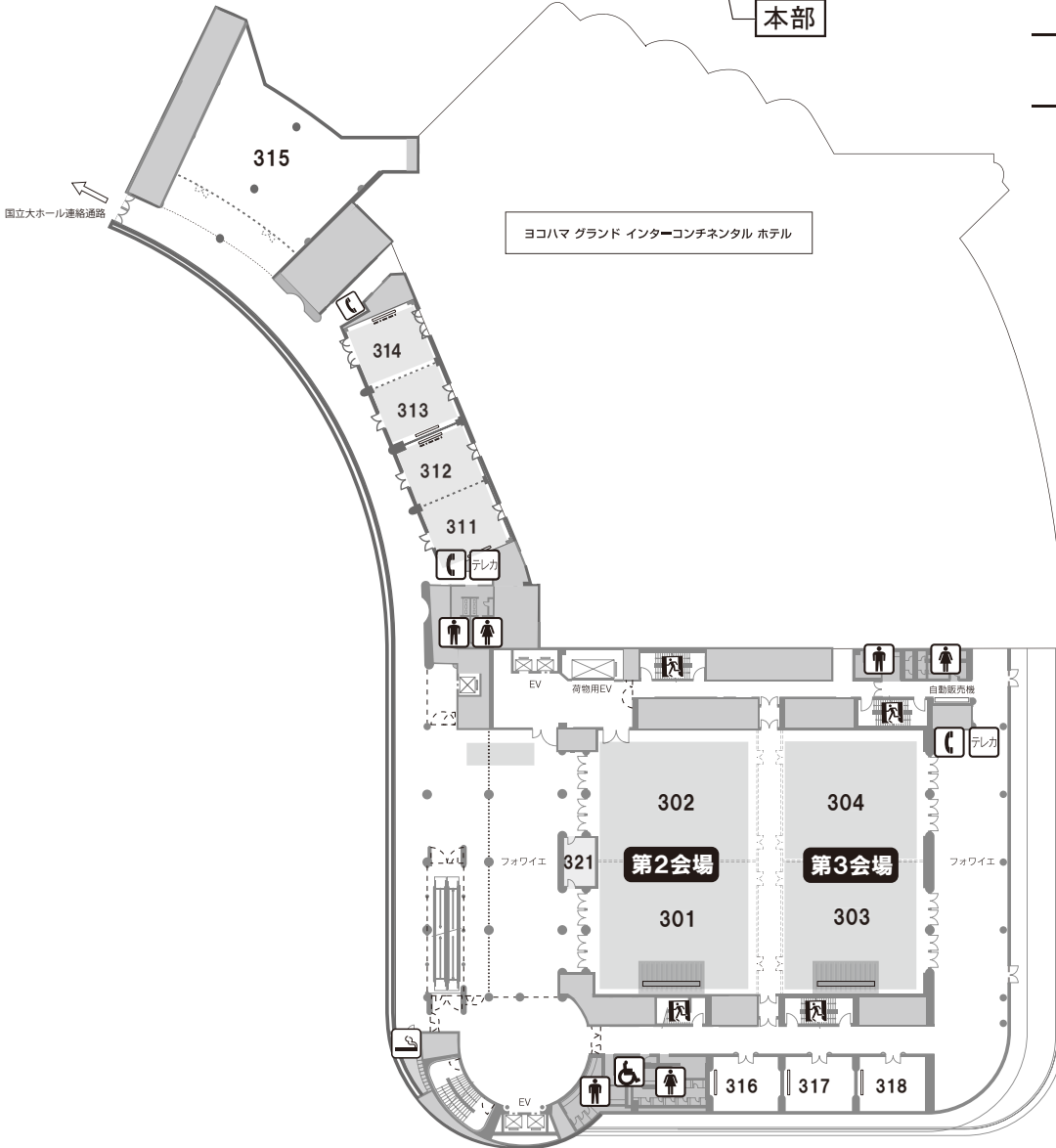
桜木町方面より



10m

本部

3F



ヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテル

第2会場 (301・302)

第3会場 (303・304)

10m

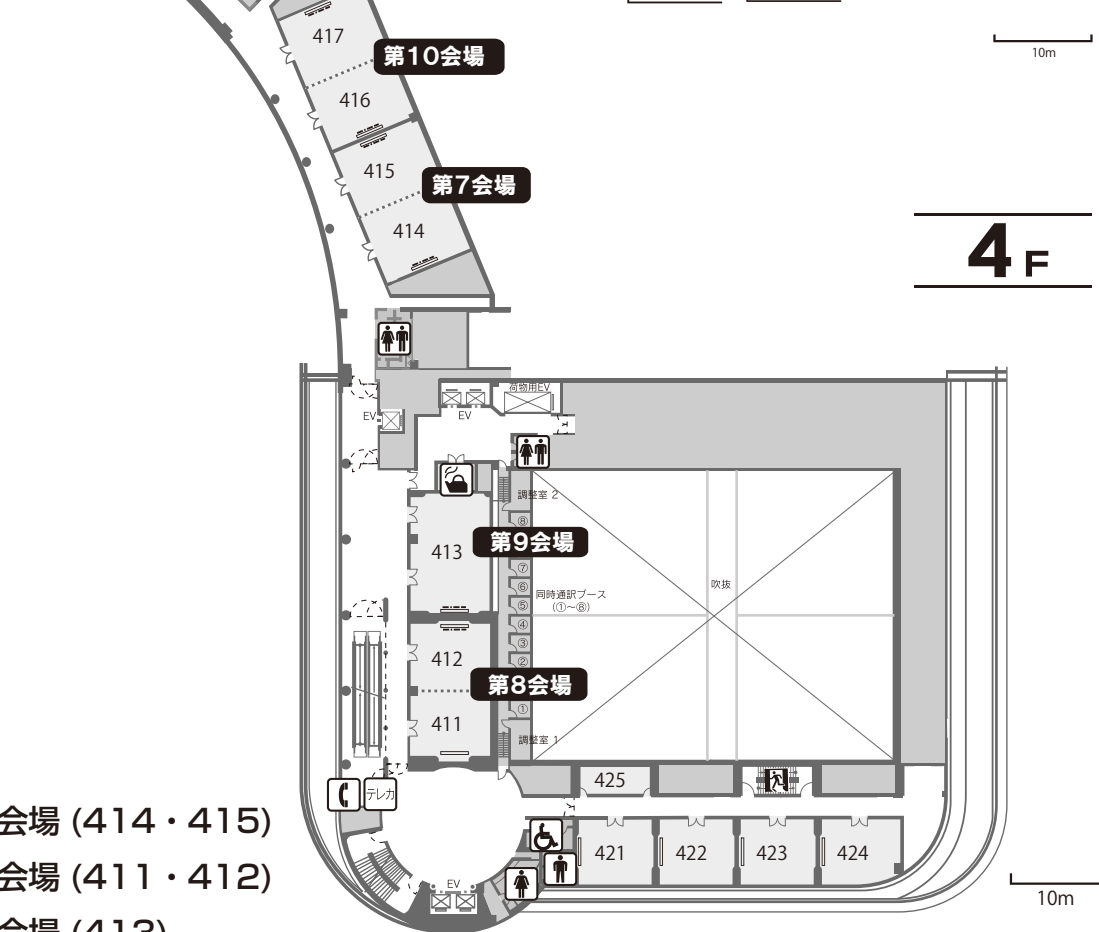
- 第 4 会場 (503)
- 第 5 会場 (501・502)
- 第 6 会場 (511・512)

5F



- 第 7 会場 (414・415)
- 第 8 会場 (411・412)
- 第 9 会場 (413)
- 第 10 会場 (416・417)

4F



7月1日(土) [第1会場]

■ 9:00 ~ 10:00 課題口演 臨床効果の評価

座長 南 弘之 (鹿児島大)

- 課題1 全部床義歯新製と簡便な栄養指導が無歯顎高齢者の栄養素摂取と咀嚼能力に与える影響
○鈴木啓之¹⁾, 金澤 学¹⁾, 天海徳子¹⁾, 駒ヶ嶺友梨子¹⁾, 岩城麻衣子²⁾, 城 彩実¹⁾, 水口俊介¹⁾
(¹⁾ 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科高齢者歯科学分野, ²⁾ 東京医科歯科大学歯学部
附属病院歯科総合診療部)
- 課題2 患者立脚型指標を用いたインプラント治療効果の予測
○武川佳世, 樋口大輔, 松本貴志, 原 真央子, 横山紗和子, 馬場一美 (昭和大学歯学部歯
科補綴学講座)
- 課題3 小臼歯 CAD/CAM 冠の適応症に関する後ろ向きコホート研究
○三浦賞子, 笠原 紳, 山内しのぶ, 勝田悠介, 原田章生, 江草 宏 (東北大学大学院歯学研
究科分子・再生歯科補綴学分野)

日歯生涯研修事業用研修コード: 3199

7月1日(土) [第2会場]

■ 9:00 ~ 10:00 課題口演 口腔機能と全身疾患との関連

座長 木本克彦 (神歯大)

- 課題4 地域一般住民における咬合支持, 義歯装着と認知機能低下との関連: 大迫研究
○齋藤 翔¹⁾, 村上任尚^{1,2)}, 大井 孝^{1,3)}, 遠藤耕生¹⁾, 平塚貴子¹⁾, 服部佳功¹⁾, 大久保孝義⁴⁾
(¹⁾ 東北大学大学院歯学研究科加齢歯科学分野, ²⁾ 東北医科薬科大学医学部衛生学・公衆衛生
学教室, ³⁾ 石巻赤十字病院, ⁴⁾ 帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座)
- 課題5 義歯装着者における口腔機能の改善が脳活動ならびに認知機能に及ぼす影響
○中里文香, 小林琢也, 久保田将史, 折祖研太, 安藝紗織, 近藤尚知 (岩手医科大学歯学部補綴・
インプラント学講座)
- 課題6 上顎欠損患者におけるスクリーニングのための嚥下音を用いた嚥下機能評価
○上柳安友子, 隅田由香, 谷口 尚 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科顎顔面補綴
学分野)

日歯生涯研修事業用研修コード: 2499

7月1日(土) [第3会場]

■ 9:00 ~ 10:00 課題口演 バイオロジー

座長 横山敦郎 (北海道大)

- 課題7 咬合荷重下におけるインプラント周囲骨代謝への骨細胞の関与
○富田陽子, 森山泰子, 鮎川保則, 張 浩森, 今井実喜生, 古谷野 潔 (九州大学大学院歯学
研究院口腔機能修復学講座インプラント・義歯補綴学分野)
- 課題8 宿主年齢と骨髄由来間葉系幹細胞の機能
○國友雅義¹⁾, 秋山謙太郎¹⁾, 古味佳子¹⁾, 大野充昭²⁾, 前川賢治¹⁾, 窪木拓男¹⁾ (¹⁾岡山大学
大学院医歯薬学総合研究科インプラント再生補綴学分野, ²⁾岡山大学大学院医歯薬学総合研究
科分子医化学分野)
- 課題9 $\alpha 7$ ニコチン性アセチルコリン受容体を標的とした骨再生技術の開発
○盛林昭仁¹⁾, 萱島浩輝¹⁾, 江草 宏^{1,2)}, 矢谷博文¹⁾ (¹⁾大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機
能再建学講座クラウンブリッジ補綴学分野, ²⁾東北大学大学院歯学研究科分子・再生歯科補綴学
分野)

日歯生涯研修事業用研修コード: 3199

■ 10:50 ~ 11:20 一般口演 バイオマテリアル1

座長 藤原 周 (朝日大)

- O1-1 磁性ナノ粒子を用いた歯胚細胞シートの作製およびエナメル質再生への応用
○古藤 航, 篠原義憲, 北村和幸, 和智貴紀, 牧平清超, 古谷野 潔 (九州大学大学院歯学研
究院口腔機能修復学講座クラウンブリッジ補綴学分野)
- O1-2 粉末タイプ義歯安定剤の組成, 粉液比および接合間距離が接合力に及ぼす影響
○岡崎ひとみ, 吉田和弘, 村田比呂司 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科歯科補綴学分野)
- O1-3 歯根膜組織の線維結合型コラーゲン発現の減少がメカニカルストレス感受性に及ぼす影響
○都築 尊¹⁾, 後藤加寿子²⁾, 堤 貴司¹⁾, 新郷由紀子¹⁾, 中 四良¹⁾, 高橋 裕¹⁾ (¹⁾福岡歯科
大学咬合修復学講座有床義歯学分野, ²⁾福岡医療短期大学歯科衛生学科)

日歯生涯研修事業用研修コード: 3103

■ 11:20 ~ 11:50 一般口演 バイオマテリアル2

座長 黒岩昭弘 (松歯大)

- O1-4 超分子ポリロタキサンを用いた短鎖脂肪酸の多点提示による慢性炎症治療薬の開発
○松井秀人^{1,2)}, 柴口 塊^{1,2)}, 田村篤志²⁾, 松村光明¹⁾, 三浦宏之¹⁾, 由井伸彦²⁾ (¹⁾東京医科
歯科大学大学院医歯学総合研究科摂食機能保存学分野, ²⁾東京医科歯科大学学生体材料工学研
究所有機生体材料学分野)
- O1-5 ジルコニア上のアパタイト薄膜形成に及ぼす分子プレカーサー法の加熱処理条件の影響
○廣田正嗣, 早川 徹 (鶴見大学歯学部歯科理工学講座)
- O1-6 埋入部位が吸収性骨補填材の骨形成および吸収性に及ぼす影響
○野崎浩佑¹⁾, 藤田和久²⁾, 三浦宏之²⁾, 永井亜希子¹⁾ (¹⁾東京医科歯科大学学生体材料工学研
究所生体材料機能医学分野, ²⁾東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科摂食機能保存学
分野)

日歯生涯研修事業用研修コード: 3103

7月1日(土) [第3会場]

■ 9:00 ~ 10:00 課題口演 バイオロジー

座長 横山敦郎 (北海道大)

- 課題7 咬合荷重下におけるインプラント周囲骨代謝への骨細胞の関与
○富田陽子, 森山泰子, 鮎川保則, 張 浩森, 今井実喜生, 古谷野 潔 (九州大学大学院歯学
研究院口腔機能修復学講座インプラント・義歯補綴学分野)
- 課題8 宿主年齢と骨髄由来間葉系幹細胞の機能
○國友雅義¹⁾, 秋山謙太郎¹⁾, 古味佳子¹⁾, 大野充昭²⁾, 前川賢治¹⁾, 窪木拓男¹⁾ (¹⁾岡山大学
大学院医歯薬学総合研究科インプラント再生補綴学分野, ²⁾岡山大学大学院医歯薬学総合研究
科分子医化学分野)
- 課題9 $\alpha 7$ ニコチン性アセチルコリン受容体を標的とした骨再生技術の開発
○盛林昭仁¹⁾, 萱島浩輝¹⁾, 江草 宏^{1,2)}, 矢谷博文¹⁾ (¹⁾大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機
能再建学講座クラウンブリッジ補綴学分野, ²⁾東北大学大学院歯学研究科分子・再生歯科補綴学
分野)

日歯生涯研修事業用研修コード: 3199

■ 10:50 ~ 11:20 一般口演 バイオマテリアル1

座長 藤原 周 (朝日大)

- O1-1 磁性ナノ粒子を用いた歯胚細胞シートの作製およびエナメル質再生への応用
○古藤 航, 篠原義憲, 北村和幸, 和智貴紀, 牧平清超, 古谷野 潔 (九州大学大学院歯学研
究院口腔機能修復学講座クラウンブリッジ補綴学分野)
- O1-2 粉末タイプ義歯安定剤の組成, 粉液比および接合間距離が接合力に及ぼす影響
○岡崎ひとみ, 吉田和弘, 村田比呂司 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科歯科補綴学分野)
- O1-3 歯根膜組織の線維結合型コラーゲン発現の減少がメカニカルストレス感受性に及ぼす影響
○都築 尊¹⁾, 後藤加寿子²⁾, 堤 貴司¹⁾, 新郷由紀子¹⁾, 中 四良¹⁾, 高橋 裕¹⁾ (¹⁾福岡歯科
大学咬合修復学講座有床義歯学分野, ²⁾福岡医療短期大学歯科衛生学科)

日歯生涯研修事業用研修コード: 3103

■ 11:20 ~ 11:50 一般口演 バイオマテリアル2

座長 黒岩昭弘 (松歯大)

- O1-4 超分子ポリロタキサンを用いた短鎖脂肪酸の多点提示による慢性炎症治療薬の開発
○松井秀人^{1,2)}, 柴口 塊^{1,2)}, 田村篤志²⁾, 松村光明¹⁾, 三浦宏之¹⁾, 由井伸彦²⁾ (¹⁾東京医科
歯科大学大学院医歯学総合研究科摂食機能保存学分野, ²⁾東京医科歯科大学学生体材料工学研
究所有機生体材料学分野)
- O1-5 ジルコニア上のアパタイト薄膜形成に及ぼす分子プレカーサー法の加熱処理条件の影響
○廣田正嗣, 早川 徹 (鶴見大学歯学部歯科理工学講座)
- O1-6 埋入部位が吸収性骨補填材の骨形成および吸収性に及ぼす影響
○野崎浩佑¹⁾, 藤田和久²⁾, 三浦宏之²⁾, 永井亜希子¹⁾ (¹⁾東京医科歯科大学学生体材料工学研
究所生体材料機能医学分野, ²⁾東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科摂食機能保存学
分野)

日歯生涯研修事業用研修コード: 3103

■ 11 : 50 ~ 12 : 20 一般口演 バイオマテリアル 3

座長 山下潤朗 (福歯大)

- O1-7 ブタコラーゲンマトリックスを用いた軟組織増大処置後の組織学的分析
○笹川敦大¹⁾, 勝田康弘²⁾, 篠原隆介¹⁾, 小澤 誠³⁾, 上田一彦⁴⁾, 廣安一彦⁴⁾, 佐藤 聡⁵⁾, 辻村麻衣子⁶⁾, 渡邊文彦^{1,2)} (1) 日本歯科大学大学院新潟生命歯学研究科機能性咬合治療学, 2) 日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴学第2講座, 3) 東海支部, 4) 日本歯科大学新潟病院口腔インプラント科, 5) 日本歯科大学新潟生命歯学部歯周病学講座, 6) 日本歯科大学新潟生命歯学部解剖学第2講座)
- O1-8 III型コラーゲンコートハイドロキシアパタイトによる歯根膜幹細胞挙動の制御
○藤田和久^{1,2)}, 野崎浩佑¹⁾, 三浦宏之²⁾, 永井亜希子¹⁾ (1) 東京医科歯科大学学生体材料工学研究所生体材料機能医学分野, 2) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科摂食機能保存学分野)
- O1-9 酸化タングステンコーティングを施した義歯床用レジンの光触媒効果
○家持 剛¹⁾, 秋葉徳寿¹⁾, 吉寄太郎¹⁾, 守澤正幸¹⁾, 内田達郎¹⁾, 水口俊介¹⁾, 島田誠之²⁾ (1) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科高齢者歯科学分野, 2) ジャパンナノコート)

日歯生涯研修事業用研修コード : 3103

■ 13 : 20 ~ 13 : 50 一般口演 有床義歯 1

座長 岡崎定司 (大歯大)

- O1-10 口腔内スキャナを用いた下顎部分歯列欠損模型における光学印象の繰り返し精度比較
○葉山博工, 笛木賢治, 和達重郎, 若林則幸 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科部分床義歯補綴学分野)
- O1-11 植物精油による義歯床用レジンに付着したバイオフィルム除去効果と表面性状への影響
○小関優作¹⁾, 田中利佳²⁾, 前田伸子³⁾, 村田比呂司¹⁾ (1) 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科歯科補綴学分野, 2) 長崎大学病院, 3) 鶴見大学歯学部口腔微生物学講座)
- O1-12 義歯安定剤使用時の口腔微生物による生体為害性の評価
○村上智彦, 野村太郎, 米澤 悠, 原 総一郎, 近藤尚知 (岩手医科大学歯学部補綴・インプラント学講座)

日歯生涯研修事業用研修コード : 2608

■ 13 : 50 ~ 14 : 20 一般口演 有床義歯 2

座長 若林則幸 (医歯大)

- O1-13 可撤性部分床義歯装着患者における神経症傾向と口腔関連 QOL の関連
○石田桂大¹⁾, 野川敏史²⁾, 高山芳幸¹⁾, 中北芳伸³⁾, 齋藤正恭¹⁾, 横山敦郎¹⁾ (1) 北海道大学大学院歯学研究科口腔機能学講座口腔機能補綴学教室, 2) 北海道大学病院臨床研究開発センター, 3) 東北・北海道支部)
- O1-14 マシニングセンターによるチタン製可撤性義歯フレーム加工短縮化の試み
○三溝恒幸¹⁾, 北澤富美¹⁾, 倉澤郁文^{2,3)}, 羽鳥弘毅^{2,4)}, 黒岩昭弘^{2,3)}, 中本哲自^{2,4)} (1) 松本歯科大学病院歯科技工士室, 2) 松本歯科大学歯学部歯科補綴学講座, 3) 松本歯科大学大学院歯学独立研究科顎口腔機能制御学講座, 4) 松本歯科大学大学院歯学独立研究科健康増進口腔科学講座)
- O1-15 積層造形による有床義歯製作法の臨床応用に関する開発研究 第1報 一体型義歯の試作
○前畑 香¹⁾, 玉置勝司¹⁾, 生田龍平¹⁾, 片岡加奈子¹⁾, 藤原 基¹⁾, 糠澤真壱¹⁾, 平野綾夏²⁾, 杉山久幸²⁾, 井上絵理香³⁾, 清宮一秀³⁾, 金井大志⁴⁾ (1) 神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔機能修復学講座顎咬合機能回復補綴医学分野, 2) 丸紅情報システムズ株式会社, 3) 神奈川歯科大学附属病院技工科, 4) 原製作所)

日歯生涯研修事業用研修コード : 2608

■ 14 : 20 ~ 14 : 50 一般口演 クラウンブリッジ 1

座長 三浦宏之 (医歯大)

- O1-16 VICONシステムを用いた歯牙切削動作解析
○佐藤拓実¹⁾, 中村 太¹⁾, 林 豊彦²⁾, 佐藤直子³⁾, 昆 はるか³⁾, 小野高裕³⁾, 奥村暢旦⁴⁾, 藤井規孝^{1,4)} (1)新潟大学大学院医歯学総合研究科歯学教育研究開発学分野, (2)新潟大学大学院自然科学研究科電気情報工学専攻, (3)新潟大学大学院医歯学総合研究科包括歯科補綴学分野, (4)新潟大学医歯学総合病院歯科総合診療部)
- O1-17 試作したトレーによる全顎咬合印象法での歯列模型の咬合接触の再現性
○杉立尚城, 神田龍平, 安井由香, 山本真由, 田中順子, 田中昌博 (大阪歯科大学有歯補綴咬合学講座)
- O1-18 クラウン内部をセメントが流動する動態の観察
○中村健太郎¹⁾, 今井雅一²⁾, 永井秀明³⁾, 山本司将¹⁾, 佐伯光規³⁾, 竹島健太郎¹⁾, 富田真一³⁾, 方森和樹³⁾, 松前 団³⁾ (1)東海支部, (2)東関東支部, (3)関西支部)

日歯生涯研修事業用研修コード : 2607

■ 15 : 00 ~ 15 : 30 一般口演 クラウンブリッジ 2

座長 田中昌博 (大歯大)

- O1-19 新規加圧成形用二ケイ酸リチウムガラスセラミックスの機械的性質の検討
○松村茉由子, 駒田 亘, 菅野桐子, 林 建一郎, 進 千春, 大竹志保, 三浦宏之 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科摂食機能保存学分野)
- O1-20 ニッケルで刺激した角化細胞と樹状細胞におけるプレキシシン-セマフォリンの動態解析
○南 憲一, 渡邊 恵, 市川哲雄 (徳島大学大学院医歯薬学研究部口腔顎顔面補綴学分野)
- O1-21 歯科金属アレルギーに対する治療関連データを用いたアレルギー症状発症原因因子の検討
○高岡由梨那, 宮 福子, 長澤麻沙子, 秋葉奈美, 秋葉陽介, 魚島勝美 (新潟大学大学院医歯学総合研究科生体歯科補綴学分野)

日歯生涯研修事業用研修コード : 2607

■ 15 : 30 ~ 16 : 00 一般口演 インプラント 1

座長 越智守生 (北医療大)

- O1-22 化学合成法と加熱処理を施したナノ構造析出純チタン金属表面の生体適合性
○藤尾美穂, 小正 聡, 西崎 宏, 関野 徹, 岡崎定司 (大阪歯科大学)
- O1-23 ロケーターを用いた下顎インプラントオーバーデンチャーにおける顎堤の負担圧の検証
○佐藤宏明, 小林琢也, 高藤恭子, 三浦真悟, 横田 潤, 小山田勇太郎, 齊藤裕美子, 近藤尚知 (岩手医科大学歯学部補綴・インプラント学講座)
- O1-24 口腔関連 QoL を指標とした可撤性インプラント補綴治療の介入効果の検証
○楠本友里子, 横山紗和子, 安部友佳, 武川佳世, 原 真央子, 松本貴志, 樋口大輔, 馬場一美 (昭和大学歯学部歯科補綴学講座)

日歯生涯研修事業用研修コード : 2609

■ 16 : 00 ~ 16 : 30 一般口演 インプラント 2

座長 山内六男 (朝日大)

- O1-25 インプラント作業用模型の三次元データ取得における口腔内スキャナーの再現性の検証
○三好敬太, 横山紗和子, 田中晋平, 高場雅之, 西山弘崇, 上村江美, 馬場一美 (昭和大学歯学部歯科補綴学講座)
- O1-26 印象材の硬度が作業用模型におけるインプラントアナログの再現性に及ぼす影響
○作間健彦¹⁾, 山森徹雄^{1,2)}, 佐藤光一²⁾, 野中康平²⁾, 池田敏和^{1,2)}, 金子良平^{1,2)}, 高島浩二²⁾, 佐藤克彦³⁾, 本間 濟³⁾ (¹⁾ 奥羽大学大学院歯学研究科口腔機能回復学専攻, ²⁾ 奥羽大学歯学部歯科補綴学講座, ³⁾ 東北・北海道支部)
- O1-27 コラーゲン架橋構造がラットのオッセオインテグレーションに与える影響について
○スリマンムバラク, 長澤麻沙子, 水寫一尊, アルオマリーファラ, 魚島勝美 (新潟大学大学院医学総合研究科生体歯科補綴学分野)

日歯生涯研修事業用研修コード : 2609

■ 16 : 40 ~ 17 : 10 一般口演 口腔機能 1

座長 山下秀一郎 (東歯大)

- O1-28 成人健常有歯顎者における咬合面および頬側面方向からの臼歯部歯根膜触・圧覚閾値
○神田龍平, 向井憲夫, 吉川佑輔, 藤木 傑, 佐藤正樹, 田中順子, 田中昌博 (大阪歯科大学有歯補綴咬合学講座)
- O1-29 高齢者の最大咬合力と日常の食生活における咀嚼筋活動推定量との関連
○福武元良, 池邊一典, 松田謙一, 小川泰治, 榎木香織, 猪俣千里, 武下 肇, 三原佑介, 八田昂大, 前田芳信 (大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野)
- O1-30 咀嚼能力検査における咀嚼回数と咀嚼時間の影響
○富田真一¹⁾, 中村健太郎²⁾, 山本司将²⁾, 有井貫氏¹⁾, 太田志麻³⁾, 高田 剛¹⁾, 油谷征彦¹⁾, 溝井優生¹⁾, 田端和高¹⁾, 前原美保¹⁾, 光本宏司¹⁾, 三原一澄¹⁾, 渡部克宣¹⁾ (¹⁾ 関西支部, ²⁾ 東海支部, ³⁾ 中国・四国支部)

日歯生涯研修事業用研修コード : 2899

■ 17 : 10 ~ 17 : 40 一般口演 口腔機能 2

座長 菊池雅彦 (東北大)

- O1-31 座位姿勢の変化が咀嚼機能に及ぼす影響
○知野圭佑¹⁾, 坂口 究¹⁾, 丸山智章²⁾, 横山敦郎¹⁾ (¹⁾ 北海道大学大学院歯学研究科口腔機能学講座口腔機能補綴学教室, ²⁾ 茨城工業高等専門学校電気電子システム工学科)
- O1-32 主機能部位と咀嚼機能の関係 第一大臼歯と第二大臼歯との比較
○中村健太郎¹⁾, 山本司将¹⁾, 坂井義春²⁾, 西岡 徹³⁾, 高浜真一⁴⁾, 富澤 倫⁴⁾, 船木 弘⁴⁾, 倉田 豊⁵⁾, 成田裕紀⁵⁾, 大坂栄樹⁶⁾, 岡本直樹⁶⁾, 木下 滋⁶⁾ (¹⁾ 東海支部, ²⁾ 中国・四国支部, ³⁾ 関西支部, ⁴⁾ 東京支部, ⁵⁾ 東関東支部, ⁶⁾ 九州支部)
- O1-33 主機能部位が存在する位置と咬合接触面積と咬合力の関係
○山本司将¹⁾, 中村健太郎¹⁾, 浅井宏行²⁾, 梅田洋一郎³⁾, 大前雄亮¹⁾, 鈴木章彦¹⁾, 高嶋俊裕¹⁾, 寺尾陽一¹⁾, 富山和憲¹⁾, 林 裕久¹⁾, 松尾健生¹⁾, 森 圭右¹⁾ (¹⁾ 東海支部, ²⁾ 関西支部, ³⁾ 中国・四国支部)

日歯生涯研修事業用研修コード : 2899

7月2日(日) [第3会場]

■ 9:10 ~ 9:40 一般口演 症例

座長 佐藤裕二 (昭和大)

- O2-1 上顎インプラントオーバーデンチャー 磁性アタッチメントの一症例と文献学的考察
○岸本満雄 (九州支部)
- O2-2 機能負荷によるチタン製アバットメントの変形
○奈田憲二, 関根秀志, 宗像佑弥, 伊藤 悠 (奥羽大学歯学部歯科補綴学講座口腔インプラント学)
- O2-3 睡眠時ブラキシズムによる症状に対してスプリントおよびボツリヌス療法を行った1症例
○島田 淳, 島田百子 (東京支部)

日歯生涯研修事業用研修コード: 2699

■ 9:40 ~ 10:10 一般口演 クラウンブリッジ 3

座長 山森徹雄 (奥羽大)

- O2-4 高透光性マルチレイヤーモリシッククラウンのマスキング効果
○岡村光信¹⁾, 河野稔広²⁾, 清水博史³⁾, 鱒見進一²⁾, 伴 清治⁴⁾ (¹⁾九州支部, ²⁾九州歯科大学顎口腔欠損再構築学分野, ³⁾九州歯科大学学生体材料学分野, ⁴⁾愛知学院大学歯学部歯科理工学講座)
- O2-5 全顎咬合印象用トレーを用いた印象採得時における咽頭の三次元的様相
○田中順子¹⁾, 杉立尚城¹⁾, 池内慶介¹⁾, 松尾信至¹⁾, 覺道昌樹¹⁾, 秋山広徳²⁾, 蒲生祥子²⁾, 田中昌博¹⁾ (¹⁾大阪歯科大学有歯補綴咬合学講座, ²⁾大阪歯科大学歯科放射線学講座)
- O2-6 咬合印象を用いた咬合関係の再現性について 全顎咬合印象採得用バイトフォークの考案
○梅原一浩^{1,2)}, 四ツ谷 護²⁾, 佐藤 亨²⁾, 野本俊太郎²⁾, 黒田祥太²⁾, 宮田右京^{1,2)}, 高宮紳一郎^{2,3)}, 角倉 紳^{1,2)} (¹⁾東北・北海道支部, ²⁾東京歯科大学クラウンブリッジ補綴学講座, ³⁾東京支部)

日歯生涯研修事業用研修コード: 2607

■ 10:10 ~ 10:40 一般口演 クラウンブリッジ 4

座長 佐藤 亨 (東歯大)

- O2-7 歯冠部象牙質と接着性レジンセメントの接着強さに表面処理方法が与える影響
○山村高也, 大河貴久, 吉江 啓, 伊東優樹, 宮園将也, 藤井孝政, 鳥井克典, 田中昌博 (大阪歯科大学有歯補綴咬合学講座)
- O2-8 新たな咬合印象法と通常印象法により作製した補綴装置の咬合調整比較
○荘村泰治¹⁾, 山下正晃¹⁾, 西山貴浩¹⁾, 若林一道²⁾, 楠本直樹³⁾, 中村隆志²⁾, 樋口鎮央¹⁾ (¹⁾和田精密歯研(株), ²⁾大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座クラウンブリッジ補綴学分野, ³⁾楠本歯科医院)
- O2-9 ブリッジにおけるポンティック底部は口腔粘膜と接着するのか?
○熱田 生¹⁾, 鮎川保則¹⁾, 森本太一郎²⁾, 古橋明大¹⁾, 成松生枝¹⁾, 近藤綾介¹⁾, 古谷野 潔¹⁾ (¹⁾九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座インプラント・義歯補綴学分野, ²⁾森本歯科医院)

日歯生涯研修事業用研修コード: 2607

■ 10 : 50 ~ 11 : 20 一般口演 有床義歯 3

座長 皆木省吾 (岡山大)

- O2-10 加熱重合および積層造形で製作した義歯の人工歯排列位置の比較
○岡野日奈¹⁾, 田坂彰規^{1,4)}, 小泉ちあき²⁾, 竜 正大²⁾, 小高研人^{3,4)}, 松永 智^{3,4)}, 阿部伸一³⁾, 櫻井 薫²⁾, 山下秀一郎¹⁾ (1) 東京歯科大学パーシャルデンチャー補綴学講座, (2) 東京歯科大学老年歯科補綴学講座, (3) 東京歯科大学解剖学講座, (4) 東京歯科大学口腔科学研究センター)
- O2-11 遊離端欠損部顎堤粘膜に対する光学印象の精度検証 第2報 補綴臨床経験の差による比較
○上窪祐基¹⁾, 田坂彰規^{1,4)}, 西根万純¹⁾, 高梨琢也²⁾, 本間慎也²⁾, 松永 智^{3,4)}, 阿部伸一³⁾, 山下秀一郎¹⁾ (1) 東京歯科大学パーシャルデンチャー補綴学講座, (2) 東京歯科大学口腔インプラント学講座, (3) 東京歯科大学解剖学講座, (4) 東京歯科大学口腔科学研究センター)
- O2-12 鋳造および金属粉末レーザー積層造形法で製作したクラスプの形状再現性の精度検証
○加藤芳実, 田坂彰規, 加藤光雄, 山下秀一郎 (東京歯科大学パーシャルデンチャー補綴学講座)

日歯生涯研修事業用研修コード : 2608

■ 11 : 20 ~ 11 : 50 一般口演 有床義歯 4

座長 小正 裕 (大歯大)

- O2-13 陶歯を用いたリングライズドオクルージョンの再現性とその作業効率
○増田夢子¹⁾, 鈴木哲也¹⁾, 大木明子²⁾, 羽田多麻木¹⁾, 土田優美¹⁾, 安江 透³⁾, 上條真吾²⁾, 池田正臣¹⁾, 高橋英和³⁾ (1) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔機能再建工学分野, (2) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔基礎工学分野, (3) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔機材開発工学分野)
- O2-14 心臓ペースメーカーと歯科治療
○石井 拓, 大久保貴久, 大谷賢二, 永井栄一, 大山哲生, 中林晋也, 石上友彦 (日本大学歯学部歯科補綴学第II講座)
- O2-15 積層造形体の疲労強度に与えるサポート構造の影響
○加嶋祐佳¹⁾, 高市敦士¹⁾, 高橋英和²⁾, 若林則幸¹⁾ (1) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科部分床義歯補綴学分野, (2) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔機材開発工学分野)

日歯生涯研修事業用研修コード : 2608

■ 11 : 50 ~ 12 : 20 一般口演 有床義歯 5

座長 小出 馨 (日歯大新潟)

- O2-16 義歯安定剤使用者のための新しい義歯洗浄剤の開発
○原田佳枝¹⁾, 三村純代²⁾, 洪 光³⁾, 安部倉 仁⁴⁾, 二川浩樹²⁾, 西村正宏¹⁾ (1) 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科口腔顎顔面補綴学分野, (2) 広島大学大学院医歯薬保健学研究院口腔生物工学分野, (3) 東北大学大学院歯学研究科歯学イノベーションリエゾンセンター, (4) 広島大学大学院医歯薬保健学研究院先端歯科補綴学分野)
- O2-17 レーザー積層造形法にて製作した大連結子の寸法精度
○若杉俊通¹⁾, 熊野弘一¹⁾, 白石浩一¹⁾, 神原 亮¹⁾, 松川良平¹⁾, 樋口鎮央²⁾, 武部 純¹⁾ (1) 愛知学院大学歯学部有床義歯学講座, (2) 和田精密歯研株式会社)
- O2-18 10種類の食品で義歯装着者の食品摂取状況を評価する咀嚼スコア10の有用性の検討
○川田大助, 佐藤裕二, 北川 昇, 桑澤実希, 中津百江 (昭和大学歯学部高齢者歯科学講座)

日歯生涯研修事業用研修コード : 2608

■ 13 : 20 ~ 13 : 50 一般口演 トランスレーショナルリサーチ, 臨床イノベーション

座長 都尾元宣 (朝日大)

- O2-19 低温劣化を抑制した高透光性ジルコニアの開発
○中野芳郎, 中村隆志, 岡村真弥, 塩見幸子, 天羽康介, 宇佐美博文, 若林一道, 矢谷博文 (大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座クラウンブリッジ補綴学分野)
- O2-20 光学印象の精度と誤差の変化率に関する研究
○深澤翔太, 大平千之, 金村清孝, 田邊憲昌, 小熊ひろみ, 工藤 努, 近藤尚知 (岩手医科大学歯学部補綴・インプラント学講座)
- O2-21 パウダージェットデポジション法を用いた TiO₂ 配合 HA 膜生成に関する基礎的研究
○泉田一賢¹⁾, 赤塚 亮¹⁾, 富江瑛彦²⁾, 久慈千栄子²⁾, 厨川常元^{2,3)}, 佐々木啓一¹⁾ (¹⁾ 東北大学大学院歯学研究科口腔システム補綴学分野, ²⁾ 東北大学大学院工学研究科機能システム学講座ナノ精度加工学分野, ³⁾ 東北大学大学院医工学研究科生体機械システム医工学講座生体機能創成学分野)

日歯生涯研修事業用研修コード : 3199

■ 13 : 50 ~ 14 : 20 一般口演 ニューロサイエンス 1

座長 伊藤 裕 (愛院大)

- O2-22 外側翼突筋のジストニアに対するボツリヌス毒素注射用 CAD/CAM 装置
○吉田和也 (独立行政法人国立病院機構京都医療センター歯科口腔外科)
- O2-23 下顎第一大臼歯の咀嚼運動矢状面機能運動路と咬合平面の傾斜の関与
○池田一洋, 吉田浩一, 山下秀一郎 (東京歯科大学パーシャルデンチャー補綴学講座)
- O2-24 咀嚼運動時の情動変化が脳血流量に及ぼす影響
○櫻本亜弓¹⁾, 長谷川陽子¹⁾, 阪上 稔²⁾, 堀井宣秀¹⁾, 小野高裕³⁾, 岸本裕充¹⁾ (¹⁾ 兵庫医科大学歯科口腔外科学講座, ²⁾ 関西支部, ³⁾ 新潟大学大学院医歯学研究科包括歯科補綴学分野)

日歯生涯研修事業用研修コード : 2899

■ 14 : 20 ~ 14 : 50 一般口演 ニューロサイエンス 2

座長 倉澤郁文 (松歯大)

- O2-25 口腔の形状弁別認知にかかわる前頭皮質ワーキングメモリーの許容
○長谷川淑子, 神谷和伸, 成田紀之 (日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座)
- O2-26 顎ジストニア治療における経頭蓋磁気刺激の効果
○大久保昌和, 神谷和伸, 成田紀之 (日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座)
- O2-27 睡眠時無呼吸症候群男性患者における肥満率に対する食行動と食事内容との関係
○猪子芳美^{1,2)}, 清水公夫²⁾, 近藤さつき³⁾, 岡田一哉⁴⁾, 井田 泉⁵⁾ (¹⁾ 日本歯科大学新潟病院睡眠歯科センター, ²⁾ 日本歯科大学新潟病院総合診療科, ³⁾ 日本歯科大学新潟病院栄養科, ⁴⁾ 東北・北海道支部, ⁵⁾ 関越支部)

日歯生涯研修事業用研修コード : 2899

■ 15 : 00 ~ 15 : 30 一般口演 バイオロジー 1

座長 関根秀志 (奥羽大)

- O2-28 血管新生阻害薬が歯槽骨創傷治癒に与える影響
○高江洲 雄^{1,2)}, 佐藤博信¹⁾, 山下潤朗²⁾ (¹⁾福岡歯科大学咬合修復学講座冠橋義歯学分野,
²⁾福岡歯科大学咬合修復学講座先端包括歯科)
- O2-29 機械的刺激が増生骨の維持に与える影響
○宮崎揚子¹⁾, 柳 束¹⁾, 佐藤絢子¹⁾, 城戸寛史¹⁾, 山下潤朗²⁾ (¹⁾福岡歯科大学咬合修復学講座口腔インプラント学分野,
²⁾福岡歯科大学咬合修復学講座先端包括歯科)
- O2-30 潰瘍性口内炎疼痛にエンドセリン-1 が関与する
○野代知孝^{1,2)}, 人見涼露²⁾, 正木千尋¹⁾, 小野堅太郎²⁾, 細川隆司¹⁾ (¹⁾九州歯科大学口腔再建リハビリテーション学分野,
²⁾九州歯科大学生理学学分野)

日歯生涯研修事業用研修コード : 3199

■ 15 : 30 ~ 16 : 00 一般口演 バイオロジー 2

座長 澤瀬 隆 (長崎大)

- O2-31 MDF 法を用いた新規純チタンの開発とインプラント材料としての応用
○荒井佑輔¹⁾, 星 憲幸¹⁾, 熊坂知就¹⁾, 早川 徹²⁾, 大久保力廣³⁾, 三浦博己⁴⁾, 木本克彦¹⁾
(¹⁾神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔機能修復学講座咀嚼機能制御補綴学分野,
²⁾鶴見大学歯学部歯科理工学講座,
³⁾鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座,
⁴⁾豊橋技術科学大学大学院工学研究科)
- O2-32 強心配糖体による口腔悪性腫瘍再発抑制効果の検討
○齋藤五月, 大林美穂, 館野 敦, 月村直樹, 秋田大輔, 豊間 均, 三橋 裕, 石上友彦 (日本大学歯学部歯科補綴学第II講座)
- O2-33 骨髄細胞, 骨芽細胞様細胞における TNF- α 短期刺激による細胞学的・組織学的検討
○照屋大貴^{1,2)}, 井上美穂¹⁾, 成谷美緒¹⁾, Resmi Raju¹⁾, 宮城 (上枝) 麻友¹⁾, 大島正充¹⁾, 松香芳三¹⁾ (¹⁾徳島大学大学院医歯薬学研究部顎機能咬合再建学分野,
²⁾徳島大学歯学部)

日歯生涯研修事業用研修コード : 3199

■ 16 : 00 ~ 16 : 30 一般口演 口腔機能 3

座長 越野 寿 (北医療大)

- O2-34 メタボロームを用いた唾液の網羅的解析 —咬合咀嚼刺激による変化—
○大熊信行¹⁾, 斉田牧子¹⁾, 杉本昌弘²⁾, 川西範繁¹⁾, 星 憲幸¹⁾, 木本克彦¹⁾ (¹⁾神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔機能修復学講座咀嚼機能制御補綴学分野,
²⁾慶應義塾大学先端生命科学研究所)
- O2-35 補綴治療が唾液性状に与える影響の基礎的研究
○川西範繁¹⁾, 星 憲幸¹⁾, 斉田牧子¹⁾, 一色ゆかり¹⁾, 大熊信行¹⁾, 杉本昌弘²⁾, 木本克彦¹⁾
(¹⁾神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔機能修復学講座咀嚼機能制御補綴学分野,
²⁾慶應義塾大学先端生命科学研究所)
- O2-36 総義歯補綴治療前後における咀嚼運動経路と咀嚼運動リズム
○倉持淳子, 志賀 博, 中島邦久, 稲富健祐, 寺辺やよひ, 武田悦孝, 佐藤晃夫, 岡村健弘, 三輪雅彦, 石原裕之, 小松義典 (日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第1講座)

日歯生涯研修事業用研修コード : 2899

■ 16 : 40 ~ 17 : 10 一般口演 口腔機能 4

座長 服部佳功 (東北大)

- O2-37 筋機能発現における好中球の産生するIL-1 β の糖代謝調節機構
○土谷昌広¹⁾, チャヤニチャウイワシナコン²⁾, 佐々木啓一²⁾, 渡部芳彦³⁾, 渡邊 誠⁴⁾ (¹⁾東北福祉大学保健看護学科, ²⁾東北大学大学院歯学研究科口腔システム補綴学分野, ³⁾東北福祉大学総合マネジメント学部, ⁴⁾東北福祉大学総合福祉学部)
- O2-38 丹波圏域在住高齢者における歯数・咬合と転倒リスクとの関連性
○長谷川陽子¹⁾, 堀井宣秀¹⁾, 櫻本亜弓¹⁾, 永井宏達²⁾, 新村 健³⁾, 岸本裕充¹⁾ (¹⁾兵庫医科大学歯科口腔外科学講座, ²⁾兵庫医療大学リハビリテーション学部理学療法学科, ³⁾兵庫医科大学総合診療科)
- O2-39 オーラルフレイル関連兆候と食行動との関係 噛むことの重要性
○後藤崇晴, 岸本卓大, 檜原 司, 松田 岳, 渡邊 恵, 永尾 寛, 市川哲雄 (徳島大学大学院医歯薬学研究部口腔顎顔面補綴学分野)

日歯生涯研修事業用研修コード : 2899

■ 17 : 10 ~ 17 : 40 一般口演 口腔機能と全身疾患

座長 藤澤政紀 (明海大)

- O2-40 嗅覚刺激が睡眠時ブラキシズムに及ぼす影響
○大川 穰, 鳴海史子, 上田脩司, 曾根峰世, 濱坂弘毅, 松井藍有美, 染川正多, 岡本和彦, 大川周治 (明海大学歯学部機能保存回復学講座歯科補綴分野)
- O2-41 睡眠時ブラキシズムにおけるリズム性および非リズム性咀嚼筋活動の相反性初夜効果
○原木真吾¹⁾, 辻坂亮子¹⁾, 瑞森崇弘¹⁾, 石垣尚一¹⁾, 矢谷博文¹⁾, 加藤隆史²⁾ (¹⁾大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座クラウンブリッジ補綴学教室, ²⁾大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座口腔生理学教室)
- O2-42 神奈川歯科大学附属病院における咬合違和感症候群患者に関する調査
○玉置勝司¹⁾, 島田 淳¹⁾, 一色ゆかり²⁾, 澁谷智明¹⁾, 仲井太心¹⁾, 和気裕之¹⁾, 宮地英雄³⁾ (¹⁾神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔機能修復学講座顎咬合機能回復補綴医学分野, ²⁾神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔機能修復学講座咀嚼機能制御補綴学分野, ³⁾北里大学医学部精神科学)

日歯生涯研修事業用研修コード : 2499

7月1日(土), 7月2日(日)

[第5会場]

■ポスター討論 : 12 : 20 ~ 13 : 10

演題番号末尾が奇数の演題 7月1日(土), 偶数の演題 7月2日(日)

■ポスター発表 インプラント

- P-1 垂直的骨量の不足した症例におけるインプラント体の選択に関する力学的検討
○荒木 悠, 中野 環, 小野真司, 森脇大善, 矢谷博文 (大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座クラウンブリッジ補綴学分野)
- P-2 サプリメント療法および光機能化はインプラント体周囲周囲骨の骨形成を促進させるか?
○佐藤博紀¹⁾, 渡辺丈紘²⁾, 高橋卓裕²⁾, 中田浩史²⁾, 谷本安浩³⁾, 砂治大介¹⁾, 佐藤佳奈美¹⁾, 鈴木亜沙子¹⁾, 齋藤由貴²⁾, 宮内良樹²⁾, 望月 剛²⁾, 北川剛至⁴⁾, 村上 洋⁴⁾, 木本 統²⁾, 河相安彦²⁾ (¹⁾ 日本大学松戸歯学部大学院松戸歯学研究科有床義歯補綴学専攻, ²⁾ 日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座, ³⁾ 日本大学松戸歯学部歯科生体材料学講座, ⁴⁾ 日本大学松戸歯学部口腔インプラント学講座)
- P-3 レドックスインジェクタブルゲルの骨芽様細胞に対する抗酸化作用
○小澤僚太郎¹⁾, 齊田牧子¹⁾, 坂上 奨²⁾, 丸尾勝一郎¹⁾, 長崎幸夫²⁾, 木本克彦¹⁾ (¹⁾ 神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔機能修復学講座咀嚼機能制御補綴学分野, ²⁾ 筑波大学数理物質系)
- P-4 下顎インプラントオーバーデンチャーにおける骨レベルが曲げひずみに与える影響
○ファムグエンクオン, 高橋利士, 権田知也, 富田章子, 西村優一, 前田芳信 (大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野)
- P-5 純チタン金属表面におけるアルカリ処理の濃度変化が遺伝子発現に与える影響
○吉岡紀代子, 小正 聡, 田口洋一郎, 楠本哲次, 吉村計宣, 仲田重樹, 西崎 宏, 岡崎定司 (大阪歯科大学)
- P-6 タンパク質コーティングした TNS 析出純チタン金属が細胞の初期接着能に与える影響
○Luyuan Chen, 小正 聡, 楠本哲次, 寺田知里, 西崎真理子, HongHao Zhang, 西崎 宏, 岡崎定司 (大阪歯科大学)
- P-7 ナノ構造析出純チタン金属へのタンパク質コーティングが硬組織分化誘導能に与える影響
○寺田知里, 小正 聡, 楠本哲次, 西崎真理子, 蘇 英敏, Honghao Zhang, Luyuan Chen, 西崎 宏, 岡崎定司 (大阪歯科大学)
- P-8 ポリエーテルケトン (PEKK) と前装用レジンの接着に対するプライマーの効果
○崎原通乃, 平 曜輔, 尾立哲郎, 澤瀬 隆 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科口腔インプラント学分野)
- P-9 インプラント周囲組織における生物学的幅径および軟組織封鎖性の検討
○成松生枝, 鮎川保則, 熱田 生, 大城和可奈, 安波礼之, 古橋明大, 古谷野 潔 (九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座インプラント・義歯補綴学分野)
- P-10 CAD/CAM 冠用マルチレイヤーブロックの色調再現性の検討 - 一支台歯色の影響 -
○末瀬一彦 (大阪歯科大学歯科審美学室)
- P-11 生体ベース非線形骨改造アルゴリズムに基づくインプラント周囲の経年的骨密度変化解析
○依田信裕, 小針啓司, 松舘芳樹, 川田哲男, 佐々木啓一 (東北大学大学院歯学研究科口腔システム補綴学分野)
- P-12 炭酸アパタイト製人工骨の評価 インプラント周囲での有用性について
○増田 聖, 重光勇介, 山中克之, 熊谷知弘 (株式会社ジーシー研究所)

- P-13 口腔由来乳酸菌が歯肉上皮細胞におけるタイトジャンクションに与える影響
○遠藤希実佳¹⁾, 首藤崇裕^{2,3)}, 三村純代²⁾, 田地 豪²⁾, 木原琢也²⁾, 河原和子²⁾, 二川浩樹²⁾
(¹⁾ 広島大学歯学部口腔健康科学科口腔工学専攻, (²⁾ 広島大学大学院医歯薬保健学研究院統合健康科学部門口腔生物工学分野, (³⁾ 大阪歯科大学医療保健学部口腔工学科)

■ポスター発表 クラウンブリッジ

- P-14 唾液汚染除去法が補助的保持形態を内面に付与した冠の接着強さにおよぼす影響
○新妻環紀¹⁾, 新谷明一^{1,2)}, 清水沙久良¹⁾, 黒田聡一¹⁾, 松田哲治³⁾, 五味治徳¹⁾ (¹⁾ 日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第2講座, (²⁾ トウルク大学, (³⁾ 東京支部)
- P-15 歯科材料から溶出した成分の抗菌性
○松浦理太郎¹⁾, 溝渕真吾¹⁾, 加藤喬大¹⁾, 山添正稔¹⁾, 山本哲也²⁾ (¹⁾ 山本貴金属地金株式会社, (²⁾ 高知大学医学部歯科口腔外科学講座)
- P-16 接着操作法が根管内の気泡混入と接着力に及ぼす影響
○山崎裕太, 荒井良明, 河村篤志, 高嶋真樹子, 永井康介 (新潟大学医歯学総合病院顎関節治療部)
- P-17 前装方法と材料の違いがインプラント支持ジルコニアクラウンの破壊強度に及ぼす影響
○高田宏起¹⁾, 本田順一¹⁾, 神尾伸吾¹⁾, 小峰 太^{1,2)}, 金子行夫¹⁾, 鳥塚周孝¹⁾, 吉成勝海¹⁾, 成島琴世³⁾, 松村英雄^{1,2)} (¹⁾ 日本大学歯学部歯科補綴学第III講座, (²⁾ 日本大学歯学部総合歯学研究高度先端医療研究部門, (³⁾ 関越支部)
- P-18 欠損補綴治療における治療1年後の口腔関連 QOL とレスポンスシフト予備的検討
○逢坂 卓¹⁾, 大野 彩²⁾, 中川晋輔¹⁾, 三野卓哉¹⁾, 黒崎陽子¹⁾, 小山絵理¹⁾, 沼本 賢¹⁾, 天野友貴¹⁾, 徳本佳奈¹⁾, 前川賢治¹⁾, 窪木拓男¹⁾ (¹⁾ 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科インプラント再生補綴学分野, (²⁾ 岡山大学新医療研究開発センター)
- P-19 レジンブロックとレジンセメントとの接着強さにプライミング処理の違いが与える影響
○吉江 啓, 大河貴久, 伊東優樹, 福本貴宏, 山村高也, 池内慶介, 藤井孝政, 田中昌博 (大阪歯科大学有歯補綴咬合学講座)
- P-20 新規デュアルキュアレジンセメントの修復物内部における硬化の経時的変化
○松村光祐¹⁾, 塩向大作¹⁾, 村原貞昭¹⁾, 嶺崎良人²⁾, 鈴木司郎³⁾, 南 弘之¹⁾ (¹⁾ 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科咬合機能補綴学分野, (²⁾ 鹿児島大学病院冠・ブリッジ科, (³⁾ アラバマ大学バーミングハム校歯学部バイオマテリアル学分野)
- P-21 グラデーション構造のハイブリッドレジンブロックの評価
○溝渕真吾, 加藤喬大, 松浦理太郎, 山添正稔 (山本貴金属地金株式会社)
- P-22 CAD/CAM 冠用ハイブリッドレジンブロックの歯ブラシ摩耗後の表面特性
○吉田圭一¹⁾, 澤瀬 隆²⁾ (¹⁾ 長崎大学病院保存・補綴歯科冠補綴治療室, (²⁾ 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科口腔インプラント学分野)
- P-23 多目的プライマーが各種歯科用金属に対するレジンセメントの接着強さにおよぼす効果
○上之段麻美¹⁾, 村原貞昭²⁾, 鈴木司郎³⁾, 嶺崎良人¹⁾, 南 弘之²⁾ (¹⁾ 鹿児島大学病院冠・ブリッジ科, (²⁾ 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科咬合機能補綴学分野, (³⁾ アラバマ大学バーミングハム校歯学部バイオマテリアル学分野)
- P-24 東京医科歯科大学歯学部附属病院歯科アレルギー外来における来院患者の動向
○岡本寛之, 松村光明, 北崎祐之, 能木場公彦, 馬場史郎, 福本いづみ, 柴口 塊, 松村茉由子, 吉田恵一, 三浦宏之 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科摂食機能保存学分野)
- P-25 セラスマート 270 の 2 軸及び 3 点曲げ試験における機械的強度差
○伊藤小町, 上野貴之, 熊谷知弘 (株式会社ジーシー研究所)
- P-26 リチウムシリケートガラスセラミックスの摩耗特性評価
○三宅貴大, 熊谷知弘 (株式会社ジーシー研究所)

- P-27 CAD/CAM システムを用いて製作したハイブリッドレジンクラウンの機械的強度
○岡田良太¹⁾, 朝倉正紀²⁾, 安藤彰浩¹⁾, 熊野弘一¹⁾, 河合達志²⁾, 伴 清治²⁾, 武部 純¹⁾
(¹⁾ 愛知学院大学歯学部有床義歯学講座, ²⁾ 愛知学院大学歯学部歯科理工学講座)
- P-28 CAD/CAM 冠臨床における「ジーセム ONE」の接着性能
○南澤博人, 熊谷知弘 (株式会社ジーシー研究所)
- P-29 アクリルレジンと金合金の接着界面における微量有機硫黄化合物の分析
○平場晴斗¹⁾, 小泉寛恭^{2,3)}, 野川博史^{2,3)}, 中山大介²⁾, 佐伯 修²⁾, 赤澤伸隆¹⁾, 古地美佳⁴⁾, 塩野英昭²⁾, 棧 淑行^{2,3)}, 松村英雄^{2,3)} (¹⁾ 日本大学大学院歯学研究科応用口腔科学分野, ²⁾ 日本大学歯学部歯科補綴学第Ⅲ講座, ³⁾ 日本大学歯学部総合歯学研究科高度先端研究部門, ⁴⁾ 日本大学歯学部総合歯科学分野)
- P-30 機能的咬合印象法により製作したクラウンの咬合接触評価
○清水 賢¹⁾, 佐藤洋平¹⁾, 松本敏光²⁾, 大久保力廣¹⁾ (¹⁾ 鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座, ²⁾ 鶴見大学歯学部歯科技工研修科)
- P-31 光透視による支台歯マージン形状の検出の試み (第3報)
○上田康夫¹⁾, 加藤祐次²⁾, 山口泰彦¹⁾, 清水孝一³⁾ (¹⁾ 北海道大学大学院歯学研究科口腔機能学講座冠橋義歯補綴学教室, ²⁾ 北海道大学大学院情報科学研究科, ³⁾ 早稲田大学大学院情報生産システム研究科)
- P-32 東京医科歯科大学歯学部附属病院における各種補綴装置の製作状況に関する統計的調査
○進 千春, 岡田大蔵, 浅野良奈, 力徳史朗, 白崎彩佳, 瀧田美奈, 柴口 塊, 吉田恵一, 三浦宏之 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科摂食機能保存学分野)
- P-33 セメント厚さを制御した接着装置によるジルコニアとコア用レジンのせん断接着強さ評価
○本村一朗¹⁾, 中村英雄²⁾, 田中繁一³⁾ (¹⁾ 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科高齢者歯科学分野, ²⁾ 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科先端材料評価学分野, ³⁾ 静岡大学大学院工学領域機械工学系列)
- P-34 冠内面に付与した補助的保持形態のマイクロ CT による再現性評価
○清水沙久良¹⁾, 新谷明一^{1,2)}, 新妻瑛紀¹⁾, 黒田聡一¹⁾, 五味治徳¹⁾ (¹⁾ 日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第2講座, ²⁾ トゥルク大学)
- P-35 CAD/CAM 用レジンブロックの接着強さにおけるサンドブラスト後の経過時間の影響
○浅野良奈, 大竹志保, 稲垣祐久, 藤田理雅, 大森 哲, 三浦宏之 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科摂食機能保存学分野)
- P-36 S-PRG 配合前装冠用レジンへの Candida albicans の付着性
○森 昭徳¹⁾, 澤田季子¹⁾, 河合良亮¹⁾, 牛丸忠大¹⁾, 脇 知邦¹⁾, 本多 歩¹⁾, 野々垣龍吾¹⁾, 宇野光乗¹⁾, 岡 俊男¹⁾, 倉知正和²⁾, 石神 元¹⁾ (¹⁾ 朝日大学歯学部口腔機能修復学講座歯科補綴学分野, ²⁾ 朝日大学歯学部歯科医学教育推進センター)
- P-37 本学附属病院におけるセラミック修復の推移
○東 冬一郎¹⁾, 星 憲幸¹⁾, 熊坂知就¹⁾, 荒井佑輔¹⁾, 川西範繁¹⁾, 大橋 桂²⁾, 二瓶智太郎²⁾, 木本克彦¹⁾ (¹⁾ 神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔機能修復学講座咀嚼機能制御補綴学分野, ²⁾ 神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔科学講座臨床・バイオマテリアル分野)
- P-38 新規 CAD/CAM 用レジンブロックの特性について
○二瓶智太郎¹⁾, 大橋 桂¹⁾, 大野晃教²⁾, 小徳瑞紀²⁾, 山口紘章¹⁾, 星 憲幸²⁾, 木本克彦²⁾ (¹⁾ 神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔科学講座臨床・バイオマテリアル分野, ²⁾ 神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔機能修復学講座咀嚼機能制御補綴学分野)
- P-39 環境光が光学印象の真度と精度に与える影響
○荒木田俊夫¹⁾, 金澤 学¹⁾, 岩城麻衣子²⁾, 鈴木哲也³⁾, 安藤一夫¹⁾, 小林章二⁴⁾, 水口俊介¹⁾ (¹⁾ 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科高齢者歯科学分野, ²⁾ 東京医科歯科大学総合診療科, ³⁾ 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔機能再建工学分野, ⁴⁾ 東京支部)
- P-40 新規 PEEK 材に対するレジンセメントの引張接着強さ
○力徳史朗, 大竹志保, 吉田恵一, 三浦宏之 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科摂食機能保存学分野)

- P-41 新規加圧成型用二ケイ酸リチウムガラスセラミックスを用いて製作したクラウンの適合度
○菅野桐子, 松村菜由子, 林 建一郎, 進 千春, 駒田 亘, 稲垣祐久, 植田洋二, 藤田理雅, 岡田大蔵, 三浦宏之 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科摂食機能保存学分野)
- P-42 新規加圧成形用セラミックスに対する接着性レジンセメントの引張接着強さ
○林 建一郎, 大竹志保, 大森 哲, 根本怜奈, 浅野良奈, 力徳史朗, 三浦宏之 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科摂食機能保存学分野)
- P-43 各種市販前処理材の接着強さに関する研究 (第4報)
○大野晃教¹⁾, 小徳瑞紀¹⁾, 小林弘明¹⁾, 山口紘章²⁾, 大橋 桂²⁾, 二瓶智太郎²⁾, 木本克彦¹⁾
(¹⁾ 神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔機能修復学講座咀嚼機能制御補綴学分野, ²⁾ 神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔科学講座クリニカル・バイオマテリアル分野)
- P-44 10-MDP プライマー処理前の洗浄がジルコニアの接着に及ぼす影響
○吉原久美子¹⁾, 長岡紀幸²⁾, 丸尾幸憲³⁾, 吉田靖弘⁴⁾ (¹⁾ 岡山大学病院新医療研究開発センター, ²⁾ 岡山大学歯学部先端領域研究センター, ³⁾ 岡山大学病院咬合・義歯補綴科, ⁴⁾ 北海道大学大学院歯学研究科口腔健康科学講座生体材料工学教室)
- P-45 歯質用プライマー併用可能型セルフアドヒーシブレジンセメントのせん断接着強さ
○黒田聡一¹⁾, 新谷明一^{1,2)}, 新妻瑛紀¹⁾, 清水沙久良¹⁾, 小城研二³⁾, 五味治徳¹⁾ (¹⁾ 日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第2講座, ²⁾ トウルク大学, ³⁾ 東京支部)
- P-46 冠内面に付与した補助的保持形態が接着強さにおよぼす影響 GIと唾液除去の効果
○新谷明一^{1,2)}, 新妻瑛紀¹⁾, 清水沙久良¹⁾, 山田眞理³⁾, 黒田聡一¹⁾, 五味治徳¹⁾ (¹⁾ 日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第2講座, ²⁾ トウルク大学, ³⁾ 西関東支部)
- P-47 CAD/CAM システムを用いて製作したハイブリッドレジン冠の適合精度の評価
○浅野 隆, 阿部圭甫, 川良美佐雄, 鈴木浩司, 吉村万由子, 生田真衣, 佐野素子, 杉原大介, 吉崎 聡, 岡田恵理子, 黒木俊一, 小見山 道 (日本大学松戸歯学部顎口腔機能治療学講座)

■ポスター発表 ニューロサイエンス

- P-48 咀嚼における視覚情報のかかわり—予備的研究
○神谷和伸, 成田紀之 (日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座)
- P-49 日中のバイオフィードバック訓練が夜間睡眠時のグライディングに及ぼす影響
○斉藤小夏¹⁾, 佐藤雅介¹⁾, 大塚英稔¹⁾, 園川隼人²⁾, 野原倫久²⁾, 猪野照夫¹⁾, 岩瀬直樹¹⁾, 勅使河原大輔¹⁾, 吉田有里¹⁾, 藤田崇史¹⁾, 橋戸広大¹⁾, 寺田信幸²⁾, 藤澤政紀¹⁾ (¹⁾ 明海大学歯学部機能保存回復学講座歯科補綴学分野, ²⁾ 東洋大学大学院理工学研究科)
- P-50 唾液中エクソソーム由来 miRNA を用いた受動喫煙者の肺がんリスク調査の試み
○井戸垣 潤¹⁾, 上村優介¹⁾, 渋谷友美¹⁾, 橋本典也²⁾, 高橋一也¹⁾, 今井弘一²⁾, 小正 裕¹⁾
(¹⁾ 大阪歯科大学高齢者歯科学講座, ²⁾ 大阪歯科大学歯科理工学講座)
- P-51 閉口ジストニア患者の咀嚼時顎頸筋活動協調にかかわる感覚トリックの効果
○石井智浩, 神谷和伸, 成田紀之 (日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座)
- P-52 義歯の装着は咀嚼時の顎頸筋活動の同調性を向上する
○小出恭代, 神谷和伸, 成田紀之 (日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座)
- P-53 義歯のリハビリテーション効果に関する研究 第6報 ERP 成分の認知心理学的解釈の試み
○青木伸一郎^{1,2)}, 大沢聖子^{1,2)}, 長野裕行³⁾ (¹⁾ 日本大学松戸歯学部歯科総合診療学講座, ²⁾ 日本大学松戸歯学部口腔科学研究所, ³⁾ 東関東支部)
- P-54 メカニカルストレスにおける幹細胞関連ケモカイン SDF-1 と CXCR4 の発現相関
○後藤加寿子¹⁾, 都築 尊²⁾, 堤 貴司²⁾, 佐藤博信³⁾ (¹⁾ 福岡医療短期大学歯科衛生学科, ²⁾ 福岡歯科大学咬合修復学講座有床義歯学分野, ³⁾ 福岡歯科大学咬合修復学講座冠橋義歯学分野)

- P-55 マウスうま味（アミノ酸）受容体 T1R1 遺伝子の転写調節機構の解析
○平田祐基^{1,2)}，豊野 孝²⁾，正木千尋¹⁾，細川隆司¹⁾，瀬田祐司²⁾（¹⁾九州歯科大学口腔再建リハビリテーション学分野，²⁾九州歯科大学解剖学分野）
- P-56 施設入所高齢者における軟食摂取時の自律神経変動
○太田 緑，上田貴之，櫻井 薫（東京歯科大学老年歯科補綴学講座）
- P-57 口蓋床装着による口腔内環境の変化が健常者の口腔機能と咀嚼時の脳活動に及ぼす影響
○稲用友佳¹⁾，笛木賢治¹⁾，臼井信男²⁾，若林則幸¹⁾（¹⁾東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科部分床義歯補綴学分野，²⁾東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科認知神経生物学分野）
- P-58 歯の喪失および飼料形態の違いがマウスの学習・記憶能に及ぼす影響
○竹田洋輔，大上博史，是竹克紀，岡田信輔，佐々木美和，赤川安正，津賀一弘（広島大学大学院医歯薬保健学研究院応用生命科学部門先端歯科補綴学研究室）
- P-59 ブラキシズムが脳の形態変化へ及ぼす影響
○関端哲士¹⁾，飯田 崇¹⁾，村岡宏隆²⁾，本田実加¹⁾，増田 学¹⁾，川良美佐雄¹⁾，金田 隆²⁾，小見山 道¹⁾（¹⁾日本大学松戸歯学部顎口腔機能治療学講座，²⁾日本大学松戸歯学部放射線学講座）

■ポスター発表 バイオマテリアル

- P-60 重症低ホスファターゼ症モデルマウスの顎骨及び歯に対する酵素補充遺伝子治療の効果
○池上 良，佐藤 亨（東京歯科大学クラウンブリッジ補綴学講座）
- P-61 チタンの表面形状と表面特性の経時的変化が細胞反応に与える影響
○西村朋子，荻野洋一郎，鮎川保則，古谷野 潔（九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座インプラント・義歯補綴学分野）
- P-62 繊維強化型コンポジットレジンに対する前装材料の接着特性に及ぼす繊維配置の影響
○安江 透¹⁾，岩崎直彦¹⁾，鈴木哲也²⁾，高橋英和¹⁾（¹⁾東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔機材開発工学分野，²⁾東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔機能再建工学分野）
- P-63 顎骨再生を目的とした顎骨骨髄間質細胞培養法の開発
○末廣史雄，藤島 慶，益崎与泰，原田佳枝，柳澤嵩大，西村正宏（鹿児島大学大学院医歯学総合研究科口腔顎顔面補綴学分野）
- P-64 拔牙部軟組織の血管新生抑制は薬剤関連顎骨壊死の主原因とはならない
○黒嶋伸一郎^{1,2)}，中島和慶¹⁾，佐々木宗輝¹⁾，玉城沙貴¹⁾，早野博紀¹⁾，澤瀬 隆¹⁾（¹⁾長崎大学大学院医歯薬学総合研究科口腔インプラント学分野，²⁾長崎大学病院口腔・顎・顔面インプラントセンター）
- P-65 微細軟組織の骨再生に対する効果の予備的研究
○川上紗和子，塩田 真，今 一裕，中村慎太郎，藤森達也（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科インプラント・口腔再生医学分野）
- P-66 添加物配合飼料が大腿骨骨幹中央部骨構造に与える影響 RAMAN 分光法による基礎研究
○佐藤佳奈美¹⁾，佐藤博紀²⁾，砂治大介²⁾，渡辺丈紘¹⁾，高橋卓裕¹⁾，齋藤由貴¹⁾，郡司敦子¹⁾，中田浩史¹⁾，谷本安浩³⁾，河相安彦¹⁾（¹⁾日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座，²⁾日本大学大学院松戸歯学研究科有床義歯補綴学講座，³⁾日本大学松戸歯学部歯科生体材料学講座）
- P-67 ヒト骨髄由来間葉系幹細胞および軟骨細胞の核内の染色体配置の解析の試み
○大野充昭^{1,2)}，小盛大志²⁾，土佐郁恵²⁾，秋山謙太郎²⁾，大野 彩^{2,3)}，窪木拓男²⁾，大橋俊孝¹⁾（¹⁾岡山大学大学院医歯薬学総合研究科分子医化学分野，²⁾岡山大学大学院医歯薬学総合研究科インプラント再生補綴学分野，³⁾岡山大学新医療研究開発センター）
- P-68 加熱重合型義歯床用レジンに対する各種常温重合レジン接着の比較
○五十嵐一彰，岡田隆寛，盛植泰輔，雨宮幹樹，大友悠資，伊藤 歩，寺田善博（奥羽大学歯学部歯科補綴学講座冠橋義歯補綴学分野）

- P-69 新規オペレーティングの金属色遮断能力について
○高濱 豊, 山口大輔, 鈴木崇由, 小野 積, 長塚 明, 宇佐美博志, 水野辰哉, 村上 弘, 服部正巳 (愛知学院大学歯学部高齢者歯科学講座)
- P-70 リン酸亜鉛被膜水熱処理を用いたジルコニアインプラントへのリン酸カルシウム被膜
○児玉浩太^{1,2)}, 渡邊郁哉²⁾, 村田比呂司¹⁾ (¹⁾長崎大学大学院医歯薬学総合研究科歯科補綴学分野, ²⁾長崎大学大学院医歯薬学総合研究科生体材料学分野)
- P-71 KZR-CAD HR 2 への Streptococcus mutans の付着性
○河合良亮 (朝日大学歯学部口腔機能修復学講座歯科補綴学分野)
- P-72 アミロライドがオクタアルギニン / リン酸カルシウムを用いた遺伝子導入に及ぼす影響
○バネガスサネズフアンラモン¹⁾, 天雲太一²⁾, 鎌野優弥³⁾, 江草 宏³⁾, 小川 徹¹⁾, 佐々木啓一¹⁾ (¹⁾東北大学大学院歯学研究科口腔システム補綴学分野, ²⁾東北大学大学院歯学研究科歯科イノベーションリエンゾンセンター, ³⁾東北大学大学院歯学研究科分子・再生歯科補綴学分野)

■ポスター発表 教育

- P-73 半調節性咬合器の使用方法に関する新規シミュレーター実習
○原 哲也¹⁾, 荒木大介¹⁾, 山田知枝¹⁾, 宋本儒享¹⁾, 徳善貴大¹⁾, 杉本 皓¹⁾, 児玉直紀²⁾, 皆木省吾¹⁾ (¹⁾岡山大学大学院医歯薬学総合研究科咬合・有床義歯補綴学分野, ²⁾岡山大学病院咬合・義歯補綴科)
- P-74 3D プリンターによって製作したオールセラミッククラウン形成模型歯のアンケート調査
○大野公稔¹⁾, 竹市卓郎¹⁾, 原田 亮¹⁾, 加藤彰子²⁾, 本庄泰大¹⁾, 服部正巳³⁾ (¹⁾愛知学院大学歯学部冠・橋義歯学講座, ²⁾愛知学院大学歯学部口腔解剖学講座, ³⁾愛知学院大学歯学部高齢者歯科学講座)
- P-75 汎用 CAD ソフトを用いた歯冠補綴装置作製のためのデジタルワックスアップ実習の導入
○三野卓哉¹⁾, 中野田紳一²⁾, 黒崎陽子¹⁾, 上田明広³⁾, 仲野友人³⁾, 逢坂 卓¹⁾, 前川賢治¹⁾, 窪木拓男¹⁾ (¹⁾岡山大学大学院医歯薬学総合研究科インプラント再生補綴学分野, ²⁾株式会社インサイドフィールド, ³⁾岡山大学病院医療技術部歯科部門技工室)

■ポスター発表 口腔機能

- P-76 認知症の要介護高齢者における口腔機能と栄養状態の関連性について
○西口寛一朗¹⁾, 小島規永¹⁾, 秦 正樹¹⁾, 永井雅代²⁾, 丸山和佳子²⁾, 武部 純¹⁾ (¹⁾愛知学院大学歯学部有床義歯学講座, ²⁾愛知学院大学心身科学部健康栄養学科)
- P-77 咀嚼時および舌押しつぶし時の咬筋・舌骨上筋群筋活動様相の違い
○上原文子¹⁾, 堀 一浩¹⁾, 藤原茂弘¹⁾, 大川純平¹⁾, 村上和裕²⁾, 皆木祥伴²⁾, 小野高裕¹⁾ (¹⁾新潟大学大学院医歯学総合研究科包括歯科補綴学分野, ²⁾大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野)
- P-78 ガム咀嚼トレーニングが口腔機能へ与える効果 舌圧と口腔周囲筋による検討
○高橋 睦, 佐藤義英 (日本歯科大学新潟生命歯学部生理学講座)
- P-79 咬合挙上が嚙下音に及ぼす音響学的影響
○亀川義己, 山村 理, 堤 由希子, 岩尾 慧, 松原一生, 阿座上遼子, 藤原 周 (朝日大学歯学部口腔機能修復学講座歯科補綴学分野)
- P-80 高齢全部床義歯装着者における食物搬送動態の検討
○原 淳¹⁾, 古屋純一^{1,2)}, 玉田泰嗣¹⁾, 山本尚徳¹⁾, 小野寺彰平¹⁾, 松木康一¹⁾, 佐藤友秀¹⁾, 近藤尚知¹⁾ (¹⁾岩手医科大学歯学部補綴・インプラント学講座, ²⁾東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科地域・福祉口腔機能管理学分野)
- P-81 マウスガード装着が垂直跳びに及ぼす影響
○西野仁泰, 松田祐明, 鈴木義弘, 河野克明, 川上良明, 佐藤武司, 高山和比古, 紺野倫代, 小澤卓充, 中島一憲, 武田友孝 (東京歯科大学口腔健康科学講座スポーツ歯学研究室)

- P-82 ブラキシズムのフォース・コントロールを行った open bite の 1 症例からの考察
○糠澤真亮, 玉置勝司 (神奈川県歯科大学大学院歯学研究科全身管理医歯学講座顎咬合機能回復補綴医学分野)
- P-83 飼料性状の違いによる咀嚼動態の相違が腭β細胞に与える影響
○菅 悠希¹⁾, 豊下祥史¹⁾, 佐々木みづほ¹⁾, 川西克弥¹⁾, 會田英紀²⁾, 安斎 隆³⁾, 寺澤秀朗⁴⁾, 玉城 均⁵⁾, 越野 寿¹⁾ (1) 北海道医療大学歯学部口腔機能修復・再建学系咬合再建補綴学分野, 2) 北海道医療大学歯学部生体機能・病態学系高齢者・有病者歯科学分野, 3) 東京支部, 4) 東関東支部, 5) 九州支部)
- P-84 閉塞性睡眠時無呼吸症候群用口腔内装置の治療効果に関連する要因の検討
○三上紗季¹⁾, 山口泰彦²⁾, 齋藤未来²⁾, 後藤田章人¹⁾, 岡田和樹³⁾, 櫻井泰輔⁴⁾, 上北広樹¹⁾, 谷内田 涉⁴⁾, 町田友梨⁴⁾, 前田正名²⁾, 齋藤大嗣²⁾ (1) 北海道大学病院高次口腔医療センター顎関節治療部門, 2) 北海道大学大学院歯学研究科口腔機能学講座冠橋義歯補綴学教室, 3) 東北・北海道支部, 4) 北海道大学病院冠橋義歯補綴科)
- P-85 デキサメタゾンが唾液分泌に及ぼす影響
○楠田優一郎, 近藤祐介, 宗政 翔, 宮城勇大, 駒井英基, 丸山俊正, 友枝 圭, 柄 慎太郎, 向坊太郎, 正木千尋, 細川隆司 (九州歯科大学口腔再建リハビリテーション学分野)
- P-86 咀嚼回数計測装置「リズムカム」の測定精度について (その2)
○中島一憲, 松田祐明, 西野仁泰, 鈴木義弘, 河野克明, 川上良明, 紺野倫代, 小澤卓充, 澁澤真美, 島田 淳, 武田友孝 (東京歯科大学口腔健康科学講座スポーツ歯学研究室)
- P-87 Ca拮抗薬による口腔乾燥症 一健常高齢者とシェーグレン症候群患者の唾液との比較一
○水橋 史¹⁾, 小出 馨¹⁾, 梨田智子²⁾, 戸谷収二³⁾, 近藤敦子⁴⁾, 浅沼直樹¹⁾, 佐藤利英¹⁾, 渡會侑子⁵⁾, 栗田 武⁵⁾ (1) 日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴学第1講座, 2) 日本歯科大学新潟生命歯学部生化学講座, 3) 日本歯科大学新潟病院口腔外科・口のかわき治療外来, 4) 日本歯科大学新潟病院総合診療科, 5) 日本歯科大学大学院新潟生命歯学研究科機能性咬合治療学)
- P-88 超小型カメラを用いた咀嚼機能の動的実態精察
○高橋和也, 鈴木銀河, 清水 賢, 栗原大介, 阿部 實, 大久保力廣 (鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座)
- P-89 弾性アプライアンスを使用した咀嚼様運動が脳波に与える影響
○山本 悠, 佐々木良紀, 竜 正大, 上田貴之, 櫻井 薫 (東京歯科大学老年歯科補綴学講座)
- P-90 三次元有限要素法を用いた応力解析 一犬臼歯支台歯形状がクラウン維持力に与える影響一
○前田直紀, 山添正稔 (山本貴金属地金株式会社)
- P-91 三次元有限要素法を用いた応力解析 一中切歯支台歯形状がクラウン維持力に与える影響一
○山添正稔, 前田直紀 (山本貴金属地金株式会社)
- P-92 機能時におけるブリッジ支台歯の応力分布に関する研究
○岡田大蔵, 進 千春, 駒田 亘, 小椋麗子, 三浦宏之 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科摂食機能保存学分野)
- P-93 睡眠中の律動性咀嚼筋活動に関連した酸素および二酸化炭素濃度の変動
○鈴木善貴^{1,2,3)}, ラヴィーンジル^{2,3,4)}, 大倉一夫¹⁾, 安陪 晋⁵⁾, 松香芳三¹⁾ (1) 徳島大学大学院医歯薬学研究部顎機能咬合再建学分野, 2) モントリオール大学歯学部, 3) モントリオールサクリカ病院睡眠医療先進リサーチセンター, 4) モントリオール大学病院医学部呼吸器科睡眠クリニック, 5) 徳島大学大学院医歯薬学研究部総合歯科学分野)

■ポスター発表 症例

- P-94 前後すれ違い咬合から短期間で下顎オーバーデンチャーに移行した症例
○和田淳一郎¹⁾, 青 藍一郎²⁾, 奈良日出男²⁾, 若林則幸¹⁾ (1) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科部分床義歯補綴学分野, 2) 東京支部)

- P-95 Oral dyskinesia を有する摂食嚥下障害患者の一症例
○吉見佳那子¹⁾, 古屋純一²⁾, 戸原 玄¹⁾, 水口俊介¹⁾ (¹⁾ 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科高齢者歯科学分野, ²⁾ 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科地域・福祉口腔機能管理学分野)
- P-96 上顎右側中切歯欠損による審美障害を低侵襲補綴歯科治療により改善した一症例
○高岡亮太, 石垣尚一, 矢谷博文 (大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座クラウンブリッジ補綴学分野)
- P-97 磁性アタッチメントを使用し術後 20 年経過をした部分床義歯の 1 症例
○藤波和華子, 星合和基, 青山莉子, 別所香菜, 増田達彦, 尾澤昌悟, 武部 純 (愛知学院大学歯学部有床義歯学講座)
- P-98 セルフケアと運動療法で改善した咬合違和感症例からの一考察
○島田 淳, 島田百子 (東京支部)
- P-99 セントラルベアリングデバイスを応用して早期接触の診断を行った一症例
○佐藤正彰¹⁾, 松前 団²⁾, 中村健太郎³⁾, 山本司将³⁾ (¹⁾ 中国・四国支部, ²⁾ 関西支部, ³⁾ 東海支部)
- P-100 治療用義歯の咀嚼運動終末位を顎間記録として機能回復を行った無歯顎症例
○西原 裕¹⁾, 西田昌平²⁾, 中村祐輔¹⁾, 中村健太郎³⁾, 山本司将³⁾ (¹⁾ 中国・四国支部, ²⁾ 関西支部, ³⁾ 東海支部)
- P-101 セントラルベアリングデバイス機構を付与した治療用義歯を応用した全部床義歯症例
○外城英史¹⁾, 西田昌平²⁾, 中村健太郎³⁾, 山本司将³⁾ (¹⁾ 中国・四国支部, ²⁾ 関西支部, ³⁾ 東海支部)
- P-102 咀嚼運動終末位を確定し咬合採得を行った全部床義歯症例
○久野彰司, 中村健太郎, 山本司将 (東海支部)
- P-103 咀嚼機能の回復と維持に咀嚼運動終末位を指標とする全部床義歯を用いた症例
○山村昌弘¹⁾, 西田昌平²⁾, 中村健太郎¹⁾, 山本司将¹⁾ (¹⁾ 東海支部, ²⁾ 関西支部)
- P-104 Twin-Stage Procedure によりアンテリアガイダンスを構築した症例
○小林弘清¹⁾, 小林賢一²⁾ (¹⁾ 東京支部, ²⁾ 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科高齢者歯科学分野)
- P-105 審美障害を主訴とする重篤な Class II 症例における補綴治療
○小林賢一¹⁾, 高橋路奈²⁾, 安部明子²⁾, 竹内周平¹⁾, 星野 崇²⁾, 小林弘清²⁾, 関田俊明¹⁾ (¹⁾ 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科高齢者歯科学分野, ²⁾ 東京支部)
- P-106 口蓋欠損を有する有歯顎患者における分割式栓塞子の適用
○村上 格¹⁾, 西 恭宏²⁾, 竹之内往久³⁾, 西村正宏²⁾ (¹⁾ 鹿児島大学病院義歯補綴科, ²⁾ 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科口腔顎顔面補綴学分野, ³⁾ 九州支部)
- P-107 全部床義歯における片側性咬合平衡を得るための臼歯部人工歯排列位置に関する症例検討
○岡本 信, 守屋佳典, 崎谷公子, 鶴川由紀子, 洲脇道弘, 森 慎吾, 中島啓一朗, 角谷真一 (中国・四国支部)
- P-108 前歯部審美障害をノンメタルクラスプデンチャーで改善した鎖骨頭蓋異形成症の 1 症例
○小松智美, 都築 尊, 長原隆紀, 佐藤俊介, 宮口 巖, 高橋智子, 小柳進祐, 高橋 裕 (福岡歯科大学咬合修復学講座有床義歯学分野)
- P-109 咀嚼運動終末位を指標とした咬合採得を行い咀嚼機能が回復できたブリッジ症例
○今井雅一¹⁾, 永井秀明²⁾, 中村健太郎³⁾, 山本司将³⁾ (¹⁾ 東関東支部, ²⁾ 関西支部, ³⁾ 東海支部)
- P-110 臼歯部の補綴装置の再治療に下顎運動分析記録装置の支援を応用した症例
○全並 匠, 中村健太郎, 山本司将 (東海支部)
- P-111 下顎運動分析記録装置を応用して咬頭嵌合位と咀嚼運動終末位の位置関係を保持した症例
○竹島健太郎¹⁾, 松前 団²⁾, 中村健太郎¹⁾, 山本司将¹⁾ (¹⁾ 東海支部, ²⁾ 関西支部)
- P-112 Tooth wear により審美障害および咬合高径の低下を認めた症例
○東中川杏里, 関田俊明, 高橋亜希子, 入江聖子, 矢口志保 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科高齢者歯科学分野)

- P-113 デンチャースペースに合致させた CAD/CAM コンプリートデンチャーの製作
○徳江 藍¹⁾, 新保秀仁¹⁾, 井本弘子¹⁾, 川嶋一誠¹⁾, 團 智子¹⁾, 大貫昌理¹⁾, 大久保力廣¹⁾, 寺内知哉²⁾ (1) 鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座, (2) 三井化学)
- P-114 新規義歯製作法により上下顎全部床義歯製作を行った一例
○武田智香子, 小正 聡, 松田謙一, 西崎 宏, 岡崎定司 (大阪歯科大学)

■ポスター発表 有床義歯

- P-115 金属床上顎顎義歯を装着した上顎歯列のモード解析 支台装置の検討
○星合泰治¹⁾, 乙丸貴史²⁾, 大木明子³⁾, 篠塚 修⁴⁾, 谷口 尚²⁾ (1) 東京医科歯科大学歯学部附属病院総合診療科スペシャルケア外来, (2) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科顎顔面補綴学分野, (3) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔基礎工学分野, (4) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科障害者歯科学分野)
- P-116 ウレタンオリゴマーを基材とした試作軟性裏装材の耐久性に関する評価
○門川明彦¹⁾, 嶺崎良人¹⁾, 峰元里子¹⁾, 村原貞昭¹⁾, 村口浩一¹⁾, 松村光祐¹⁾, 梶原雄太郎¹⁾, 有川裕之²⁾, 河野博史²⁾, 菊地聖史²⁾, 南 弘之¹⁾ (1) 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科咬合機能補綴学分野, (2) 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科歯科生体材料学分野)
- P-117 慣性測量装置を用いた義歯変位計の開発
○関田俊明, 竹内周平, 小林賢一, 東中川杏里, 高橋亜希子, 入江聖子 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科高齢者歯科学分野)
- P-118 上下無歯顎シミュレーションモデルによる印象圧の比較
○岩崎正敏, 川良美佐雄, 井上紗由美, 岩田好弘, 本木久絵, 浅川龍人, 西森秀太, 神山裕名, 竹内広樹, 安田明弘, 飯田 崇, 小見山 道 (日本大学松戸歯学部顎口腔機能治療学講座)
- P-119 抜歯後の顎骨骨代謝機構の解明を目的としたマウス抜歯モデルの作製
○久本芽璃¹⁾, 木村俊介²⁾, 岩田 航¹⁾, 後藤まりえ³⁾, 横山敦朗¹⁾ (1) 北海道大学大学院歯学研究院口腔機能学分野口腔機能補綴学教室, (2) 北海道大学大学院医学研究院解剖学分野組織細胞学教室, (3) 北海道大学病院義歯補綴科)
- P-120 歯科補綴治療が成人の自律神経活動に及ぼす影響 —アルジネート概形印象採得—
○後藤まりえ¹⁾, 竹生寛恵²⁾, 下地伸司²⁾, 横山敦朗³⁾ (1) 北海道大学病院義歯補綴科, (2) 北海道大学大学院歯学研究院口腔健康科学分野歯周・歯内療法学教室, (3) 北海道大学大学院歯学研究院口腔機能学分野口腔機能補綴学教室)
- P-121 有床義歯装着者における [n] 持続発音位の経時的変化 —Eichner 分類 C 症例—
○遠藤 舞, 松川高明, 豊田有美子, 大川 穰, 染川正多, 上田脩司, 磯貝佳史, 岡本和彦, 大川周治 (明海大学歯学部機能保存回復学講座歯科補綴学分野)
- P-122 高機能セルフクリーニングデンチャーの開発 第一報 表面改質による義歯表面強度の変化
○満田茂樹¹⁾, 清宮一秀²⁾, 二瓶智太郎³⁾, 井野 智¹⁾ (1) 神奈川歯科大学大学院歯学研究科高度先進口腔医学講座歯科補綴学分野, (2) 神奈川歯科大学附属病院歯科技工科, (3) 神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔科学講座クリニカルバイオマテリアル学分野)
- P-123 常温重合型シリコーン軟性裏装材とアクリルレジンとの接着に関する研究
○南 弘之¹⁾, 村原貞昭¹⁾, 松村光祐²⁾, 上之段麻美²⁾, 柳田廣明¹⁾, 嶺崎良人²⁾ (1) 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科咬合機能補綴学分野, (2) 鹿児島大学病院成人系歯科センター冠・ブリッジ科)
- P-124 急性期病院脳神経外科病棟における歯科補綴治療 (有床義歯) の需要
○門田千晶 (聖隷浜松病院歯科)
- P-125 オーラルスキャナーと CAD/CAM を用いて作製した部分床義歯
○濱中一平¹⁾, 一志恒太²⁾, 高橋 裕¹⁾ (1) 福岡歯科大学咬合修復学講座有床義歯学分野, (2) 福岡歯科大学医科歯科総合病院中央技工室)

- P-126 部分床義歯装着患者における恒常的な機能維持のための客観的メンテナンス法
○秋山仁志¹⁾, 坂元麻衣子¹⁾, 白子未佳¹⁾, 赤間亮一²⁾, 竹井 潤²⁾ (¹⁾ 日本歯科大学附属病院総合診療科, ²⁾ 日本歯科大学附属病院歯科技工室)
- P-127 プラークモデルを使った歯科用金属に付着する口腔バイオフィルムの菌叢解析
○鳥居麻菜¹⁾, 漆原 優¹⁾, 大島朋子²⁾, 前田伸子²⁾, 大久保力廣¹⁾ (¹⁾ 鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座, ²⁾ 鶴見大学歯学部口腔微生物学講座)
- P-128 当院栄養サポートチームでの歯科補綴治療の必要性
○寺中 智^{1,2)}, 尾崎研一郎^{1,2)}, 水口俊介²⁾ (¹⁾ 足利赤十字病院リハビリテーション科, ²⁾ 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科高齢者歯科学分野)
- P-129 軟質裏装材を応用したオーバーデンチャーの維持力に影響を及ぼす機械的特性
○久保慶太郎, 古池崇志, 上田貴之, 尾松素樹, 櫻井 薫 (東京歯科大学老年歯科補綴学講座)
- P-130 高齢化社会に向けた短期間高精度義歯製作システムの開発 第2報 総義歯歯列弓の調査
○一色ゆかり¹⁾, 渡辺宣孝²⁾, 生田龍平²⁾, 片岡加奈子²⁾, 藤原 基²⁾, 玉置勝司²⁾ (¹⁾ 神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔機能修復学講座咀嚼機能制御補綴学分野, ²⁾ 神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔機能修復学講座顎咬合機能回復補綴医学分野)
- P-131 Aramany 分類の顎欠損が支持歯槽骨と顎義歯の挙動に与える影響
○長谷英明¹⁾, 新谷明一²⁾, 吉田兼義¹⁾, 池浦政裕¹⁾, 勝俣辰也¹⁾, 高橋 裕¹⁾ (¹⁾ 福岡歯科大学咬合修復学講座有床義歯学分野, ²⁾ 日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第2講座)
- P-132 義歯製作時の歯肉ラインの指標に関する検討
○杉本和代, 松田謙一, 三原佑介, 八田昂大, 榎木香織, 福武元良, 池邊一典, 前田芳信 (大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野)
- P-133 PMMA 成膜 QCM センサを利用した純粋過ギ酸がタンパク質の脱着に与える影響の検討
○中澤修一, 小正 聡, 田代悠一郎, 三宅晃子, 高橋一也, 西崎 宏, 小正 裕, 岡崎定司 (大阪歯科大学)
- P-134 繰り返し荷重に対するグルータイプ義歯安定剤の接着性の変化
○島 義人¹⁾, 井上勝一郎²⁾, 河野稔広¹⁾, 渡辺崇文¹⁾, 帆鷺郷一¹⁾, 金藤哲明¹⁾, 鱒見進一¹⁾ (¹⁾ 九州歯科大学顎口腔欠損再構築学分野, ²⁾ バイオマテリアルリサーチラボラトリー)
- P-135 軟性裏装材硬化物の粘弾性的性質に及ぼす温度の影響
○渡辺崇文¹⁾, 井上勝一郎²⁾, 榎原絵理¹⁾, 島 義人¹⁾, 帆鷺郷一¹⁾, 金藤哲明¹⁾, 鱒見進一¹⁾ (¹⁾ 九州歯科大学顎口腔欠損再構築学分野, ²⁾ バイオマテリアルリサーチラボラトリー)
- P-136 グラスファイバーで強化したノンメタルクラスプデンチャー用材料の摩擦摩耗特性
○谷本安浩¹⁾, 永倉愛夢¹⁾, 西山典宏¹⁾, 伊藤誠康²⁾, 河相安彦²⁾ (¹⁾ 日本大学松戸歯学部歯科生体材料学講座, ²⁾ 日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座)
- P-137 義歯用ブラシによる清掃が軟質裏装材の表面形態に及ぼす影響
○小畑朋邦¹⁾, 上田貴之¹⁾, 久保慶太郎¹⁾, 和田 健¹⁾, 武本真治²⁾, 櫻井 薫¹⁾ (¹⁾ 東京歯科大学老年歯科補綴学講座, ²⁾ 東京歯科大学歯科理工学講座)
- P-138 閉口時口唇接触位における上下顎前歯部の空隙量と口唇赤唇部の面積との関係—第2報—
○渡會侑子¹⁾, 小出 馨^{1,2)}, 水橋 史²⁾, 近藤敦子³⁾, 浅沼直樹²⁾, 佐藤利英²⁾, 栗田 武¹⁾, 小林 博²⁾ (¹⁾ 日本歯科大学大学院新潟生命歯学研究科機能性咬合治療学, ²⁾ 日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴学第1講座, ³⁾ 日本歯科大学新潟病院総合診療科)
- P-139 レジン床義歯と金属床義歯との違いについての患者理解度を各種問診法から評価する
○岡島裕梨, 小正 聡, 藤尾美穂, 西崎 宏, 岡崎定司 (大阪歯科大学)
- P-140 無口蓋型 CAD/CAM コンプリートデンチャーの維持力と患者満足度
○飯沼陽平¹⁾, 高橋和也¹⁾, 冬頭知明¹⁾, 徳江 藍¹⁾, 新保秀仁¹⁾, 大久保力廣¹⁾, 寺内知哉²⁾, 宇杉真一²⁾ (¹⁾ 鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座, ²⁾ 三井化学)
- P-141 固定化抗菌剤 Etak のバイオフィルム形成抑制効果および遺伝子発現への影響
○實利一輝¹⁾, 橋田竜関²⁾, 三村純代²⁾, 木原琢也²⁾, 首藤崇裕²⁾, 河原和子²⁾, 田地 豪²⁾, 二川浩樹²⁾ (¹⁾ 広島大学歯学部口腔健康科学科口腔工学専攻, ²⁾ 広島大学大学院医歯薬保健学研究科口腔生物工学分野)

- P-142 即時荷重 2 インプラントオーバーデンチャーの前向き臨床研究：5 年経過報告
○岩城麻衣子¹⁾，金澤 学²⁾，宮安杏奈²⁾，佐藤大輔³⁾，春日井昇平³⁾，水口俊介²⁾ (¹⁾東京医
科歯科大学大学院医歯学総合研究科総合診療歯科学分野，²⁾東京医科歯科大学大学院医歯学
総合研究科高齢者歯科学分野，³⁾東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科インプラント・口
腔再生医学分野)
- P-143 部分床義歯の支台歯周囲骨への経時的影響 デジタルサブトラクション法による評価
○渡邊知恵¹⁾，和田淳一郎¹⁾，水谷幸嗣²⁾，渡邊 裕³⁾，勝木 梓¹⁾，若林則幸¹⁾ (¹⁾東京医科歯
科大学大学院医歯学総合研究科部分床義歯補綴学分野，²⁾東京医科歯科大学大学院医歯学総
合研究科歯周病学分野，³⁾東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔放射線医学分野)

7月2日(日) [第6会場]

■専門医ケースプレゼンテーション審査 10:00～12:00

- 専門医 1 上顎無歯顎，下顎両側遊離端欠損に対して総義歯とテレスコープ義歯で対応した症例
○織田聖子（東京歯科大学老年歯科補綴学講座）
- 専門医 2 インプラント支持暫間補綴装置の形態を最終上部構造に再現させた多数歯欠損患者の症例
○三野卓哉（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科インプラント再生補綴学分野）
- 専門医 3 すれ違い咬合に対してオーバーデンチャーを用いて対応した症例
○三輪俊太（大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野）
- 専門医 4 上顎歯肉癌摘出によりデンチャースペースに異常を来した患者に顎補綴治療を行った症例
○豊下祥史（北海道医療大学歯学部咬合再建補綴学分野）
- 専門医 5 顎堤吸収の著しい上下顎無歯顎患者に閉口機能印象を用いて全部床義歯を製作した症例
○菊井美希（大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野）
- 専門医 6 舌垂全摘術ならびに舌再建術を施行した患者に対する舌接触補助装置（PAP）の効果
○尾崎研一郎（足利赤十字病院リハビリテーション科）
- 専門医 7 重度歯周疾患を伴い，咬合平面，咬合様式の修正を要した症例
○高島浩二（奥羽大学歯学部歯科補綴学講座）

公益社団法人日本補綴歯科学会 第 126 回学術大会
プログラム・抄録集

目 次

1. 大会長挨拶・理事長挨拶	2
2. 会場アクセス	5
3. 学術大会参加の皆様へ	13
4. 学術大会日程表	19
5. 学術大会プログラム	27
6. 講演, シンポジウム, セミナー, リレーセッション, 歯科衛生士セッション, 市民フォーラム, イブニングセッション, ハンズオンセミナー, ランチョンセミナー	
理事長講演	75
特別講演	76
海外特別講演	77
メインシンポジウム	78
国際シンポジウム	80
シンポジウム 1	82
シンポジウム 2	84
シンポジウム 3	86
シンポジウム 4	88
臨床スキルアップセミナー	90
臨床リレーセッション 1	92
臨床リレーセッション 2	94
臨床リレーセッション 3	96
臨床リレーセッション 4	98
専門医研修会	100
委員会セミナー 1	102
委員会セミナー 2	104
歯科衛生士セッション	106
市民フォーラム	108
イブニングセッション 1	110
イブニングセッション 2	111
イブニングセッション 3	112
イブニングセッション 4	113
イブニングセッション 5	114
イブニングセッション 6	115
ハンズオンセミナー 1・2	116
ハンズオンセミナー 3・4	117
ランチョンセミナー 1・2	118
ランチョンセミナー 3・4	119
7. 一般演題抄録	
第 1 日目第 1・2・3 会場 課題口演発表	} 7. 一般演題抄録および 8. 専門医研修会については ホームページに掲載しています。
第 1 日目第 3 会場 一般口演発表	
第 2 日目第 3 会場 一般口演発表	
第 1, 2 日目第 5 会場 ポスター発表	
8. 専門医研修会	
専門医ケースプレゼンテーション	

公益社団法人日本補綴歯科学会第 126 回学術大会



大会長挨拶

大会長 大久保 力廣

松村理事長はじめ理事の先生方そして本学会の諸先生方のご高配を賜り、公益社団法人日本補綴歯科学会第 126 回学術大会・総会を鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座で担当させていただくことになりました。このような貴重な機会を与えていただきましたことに深く感謝の意を表しますとともに、大会長として謹んでご挨拶を申し上げます。

今期、私は大会長を仰せつかるとともに学術委員長を拝命しており、本学術大会では、①参加者増加のための魅力ある企画とプロモーションの実施、②保険収載された医療新技術の解説、③補綴臨床をグレードアップするための歯科技工士との連携、④海外学術交流協定会との国際セッションの開催といった学術委員会の活動方針を実現するよう努めました。企画立案に対して絶えず念頭におきましたことは、「補綴治療において最も大切なものは何か、最新のものは何か、そしてその独自性とは何か」を会員の皆様と再認識したいということでした。学術委員の先生方の献身的なご協力のおかげで今回の企画が勢揃いしましたが、最終的に可撤性義歯による難症例への対応や咬合異常、支台歯形成、セラミック修復といった補綴全般を網羅するだけでなく、インプラント、再生医療、デジタルテクノロジー等の補綴の最前線に加え、若手からレジェンドまで幅広い年齢層の講師陣、海外からの講師はすべて女性といったユニークな構成になりました。また、歯科技工士主体の臨床リレーセッションと歯科衛生士セッションを実施することにより、コデンタルスタッフとともに歩む補綴治療のあるべき姿をご確認いただけるかと思います。さらには光学印象、顎運動咀嚼機能検査、ファイバーポスト、軟質リライン間接法の 4 つのハンズオンセミナーを開催いたします。受講者数に制限がありますが、補綴の最新医療技術を修得していただければ幸いです。

私ども鶴見大学にとりましては細井紀雄先生が大会長を務められた第 93 回大会（1995 年 6 月 9 日、10 日）以来の学術大会担当となります。22 年前と同じく、パシフィコ横浜を学会会場とさせていただきますが、メインホールが例年に比較してやや小さいことが難点です。どうか、席を詰めてお座りいただくことをお願いしますとともに、メインホールで開催する企画はすべてサテライト会場を用意いたしましたので、ご利用いただければ幸いです。

ご存知のように横浜は、1868（明治元年）年にアメリカ人のイーストレーキが日本人を門徒として、当時の最新歯科医療を伝授した、まさに日本の近代歯科医学発祥の地であります。その横浜で、当時の歯科医学の発展に貢献された人々の努力と功績を讃えながら、補綴の真髄と最新情報を共有することは大きな意義があるものと考えます。

本学術大会が盛会裏に終わりますよう、大会校一同、精一杯準備していく所存です。たくさんの方々のご参加をお待ち申し上げます。

公益社団法人日本補綴歯科学会第 126 回学術大会



理事長挨拶

公益社団法人日本補綴歯科学会理事長 松村 英雄

今年の学会学術大会は全国各地からのアクセスに優れる横浜での開催となりました。期間は平成 29 年 6 月 30 日（金）から 7 月 2 日（日）の 3 日間、会場はブルー・ライト・ヨコハマ、伊勢佐木町ブルース、本牧ブルース、よこはま・たそがれ等々のご当地、パシフィコ横浜を確保していただきました。準備を進められました大久保力廣大会長（鶴見大学歯学部教授）ならびに大学と学会の関係諸氏に心より感謝いたします。

当法人では事業内容を学会 HP に掲載し、逐次更新する体制を取っておりますが、このたびの学術大会におきましては、締切延長とメールマガジンによる周知のおかげもあり、200 題を超える演題申込をいただきました。会期中に活発な討論が行われ、歯科補綴学の研究が益々発展することを願っております。

日本の補綴歯科医療は保険制度の変遷に大きく影響されて現在に至っております。保険収載の観点からは、臨床歯科医が「補綴のどの部分までの保険適用を要望しているのか」が常に問われております。一方では、新技術の普及によって、保険適用から外れる技術（スクラップ）も散見されます。一例として、歯冠継続歯の新規製作は保険適用外となって久しく、現状においては継続歯修理のみが保険適用となっております。このことは、かつての継続架工学という科目が冠橋義歯補綴学となり、現在では英単語でいう fixed prosthodontics and restorative dentistry へと変遷して来たことと密接に関係しているはずで

そこで、第 126 回学術大会においては、若手会員が歯科補綴学の変遷と発展を体感できることを企図し、1) 先人に学ぶ温故知新のセッションを設け、2) 就任直後の新理事長からは補綴の矜持を伺い、3) 歯科補綴関連他学会の指導者からは、ご自身が当法人の役員でもあるという立場を含めた補綴歯科のアイデンティティーについてお話を聞く、という斬新なプログラムを編成していただきました。

このたびの大会開催にあたり、関係各位からのご支援、ご協力に対しまして心よりお礼申し上げます。第 126 回学術大会が皆様にとって実りの多い大会となることを祈念いたします。

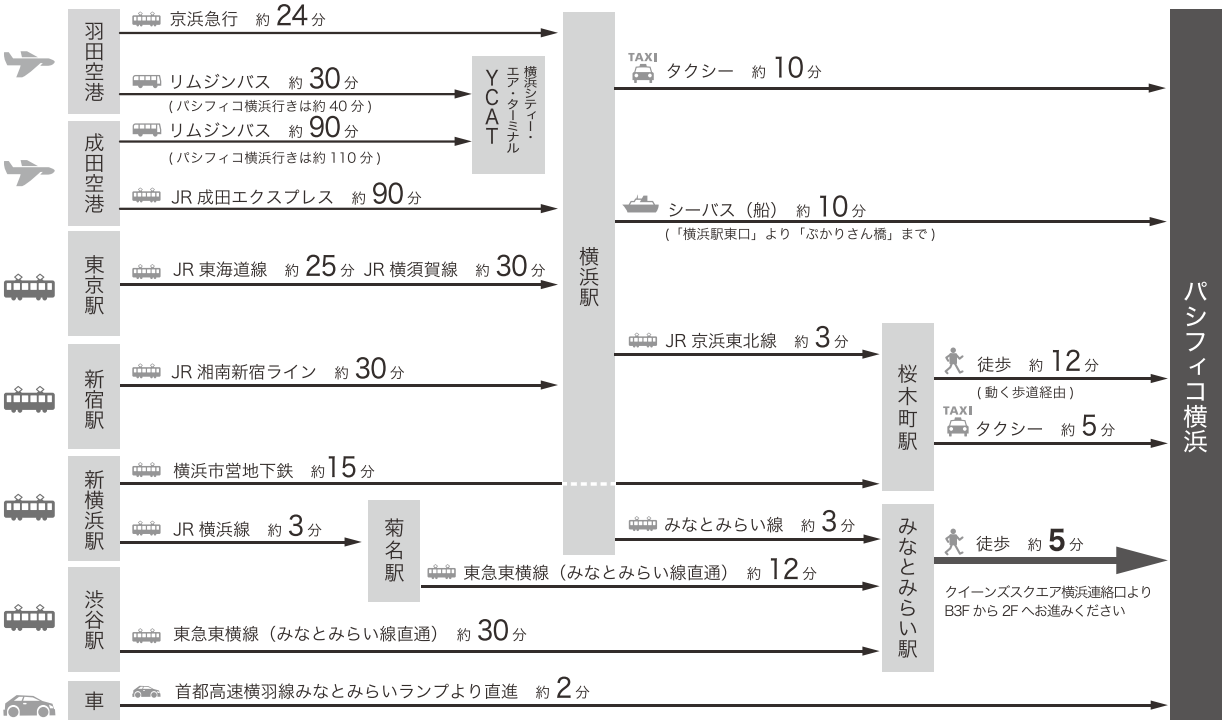
パシフィコ横浜 交通のご案内

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい 1-1-1 TEL: 045-221-2155

世界中から、国内各地から良好なアクセス！

都心から **30分**
 みなとみらい駅から
 徒歩 **5分**
クイーンズスクエア横浜連絡口より、
 B3Fから2Fへお進みください

東京国際空港（羽田）から約 **30分**
 成田国際空港から約 **100分**
 新横浜から約 **20分**
 首都高速横羽線みなとみらいランプより約 **2分**



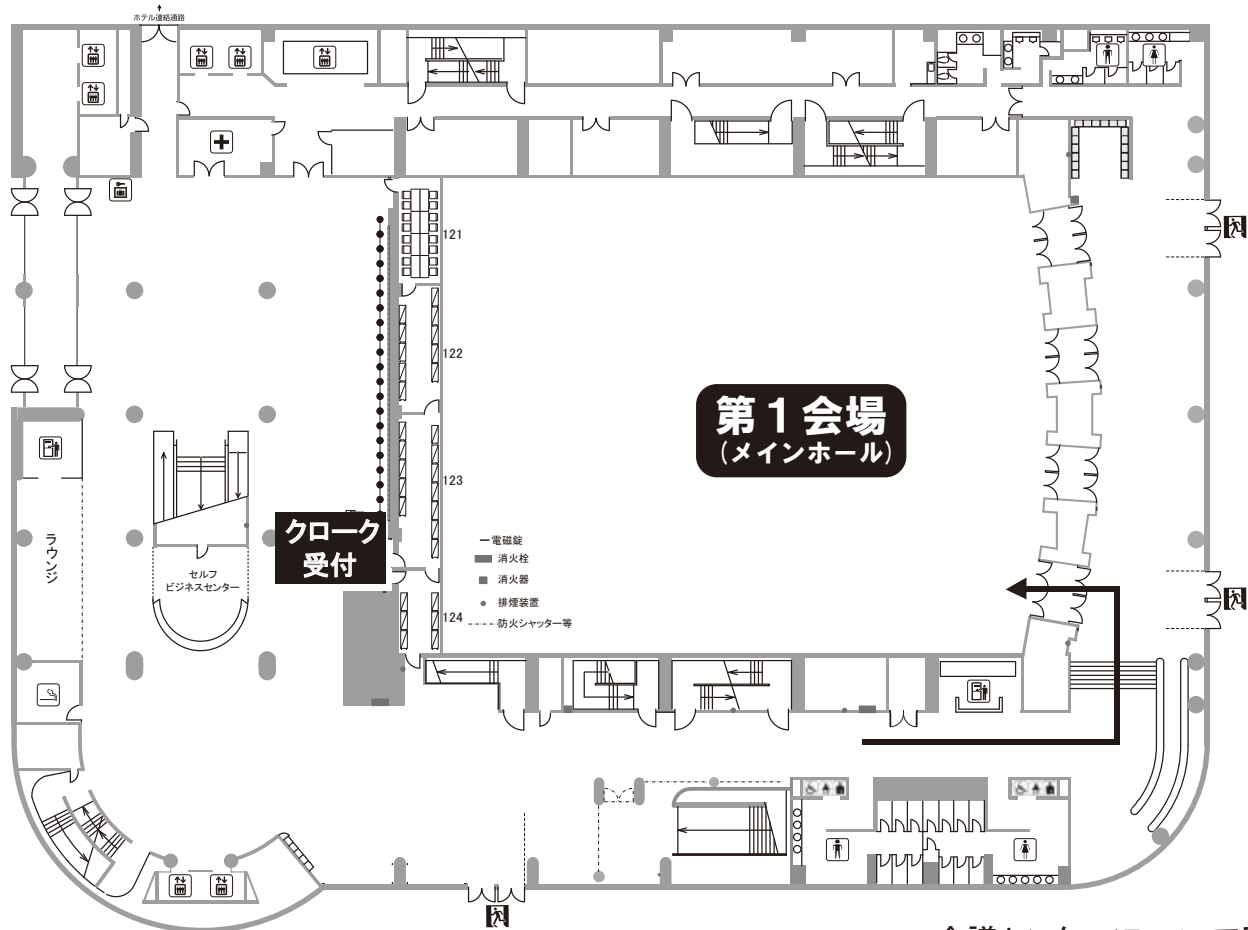
- ① みなとみらい公共駐車場 ¥270 / 30分 7:00 ~ 24:00 (出庫は 24 時間可)
- ② 臨港パーク駐車場 ¥250 / 30分 8:00 ~ 21:00
- ③ バス・大型駐車場 ¥500 / 30分 0:00 ~ 24:00 (入出庫は 7:00 ~ 22:00 予約制)

※ご利用施設により、実際の所要時間は異なります。ご来場の際は余裕を持ってお越しください。
 ※乗換時間は含まれておりません。 ※乗車ターミナル及び道路状況によって所要時間は異なります。

2017.1.1 版

パシフィコ
横浜

第1～10会場



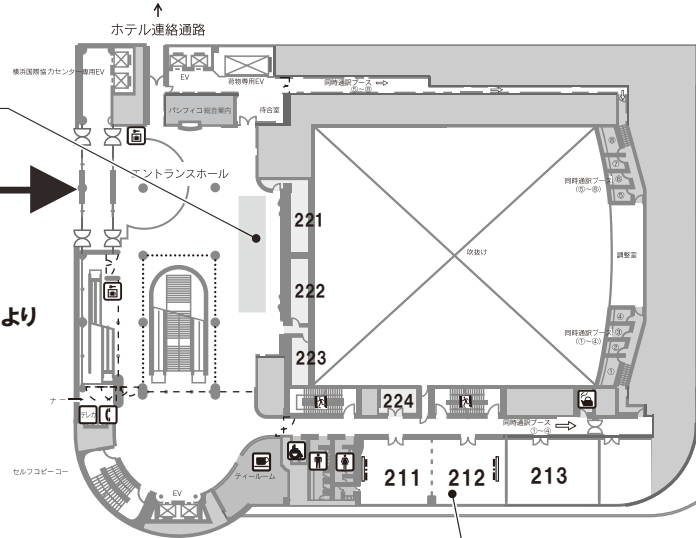
第1会場 (メインホール)

2F

当日登録受付
PC受付

*クローカーは1Fに
ございます。

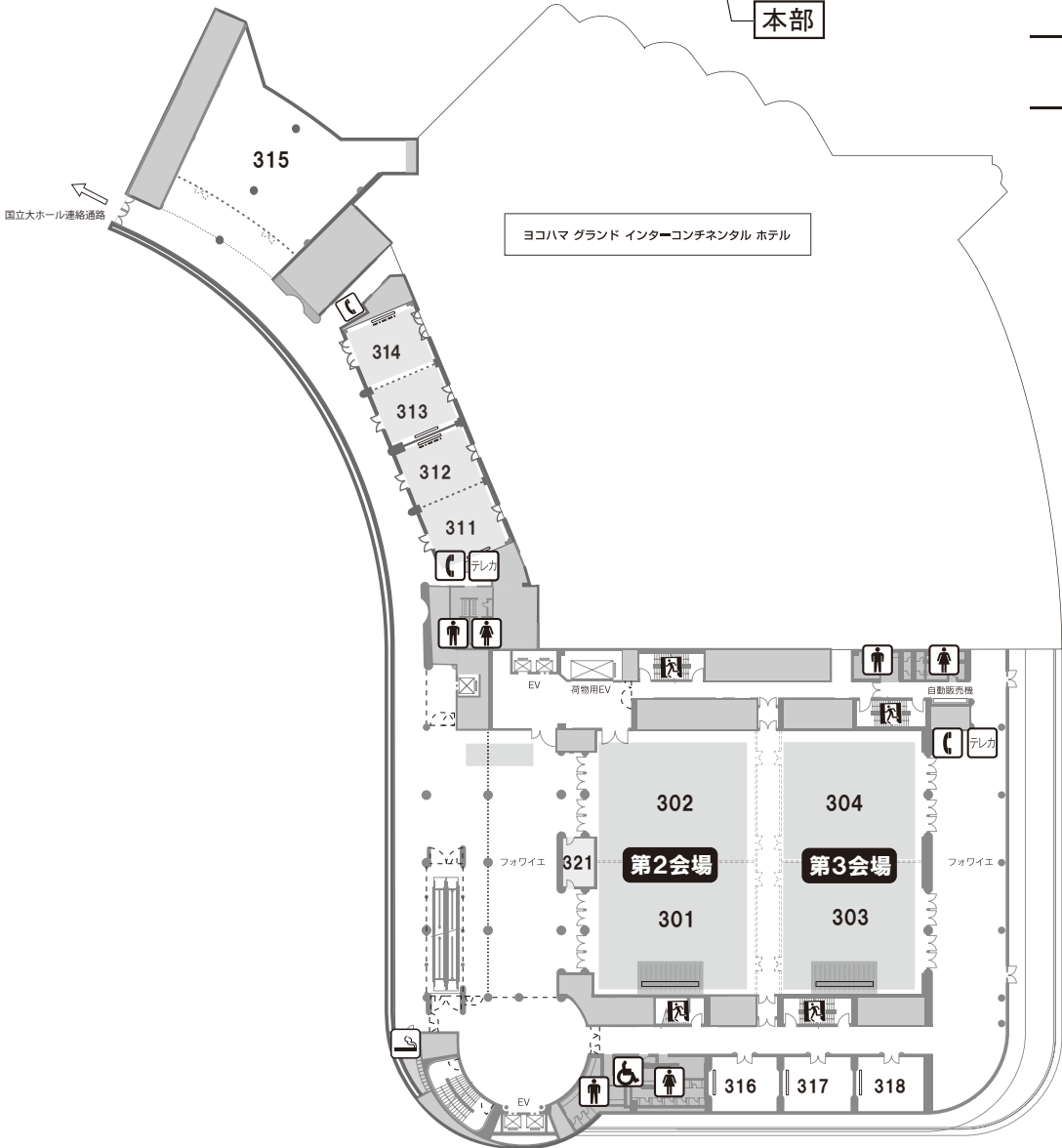
桜木町方面より



10m

本部

3F



ヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテル

第2会場 (301・302)

第3会場 (303・304)

10m

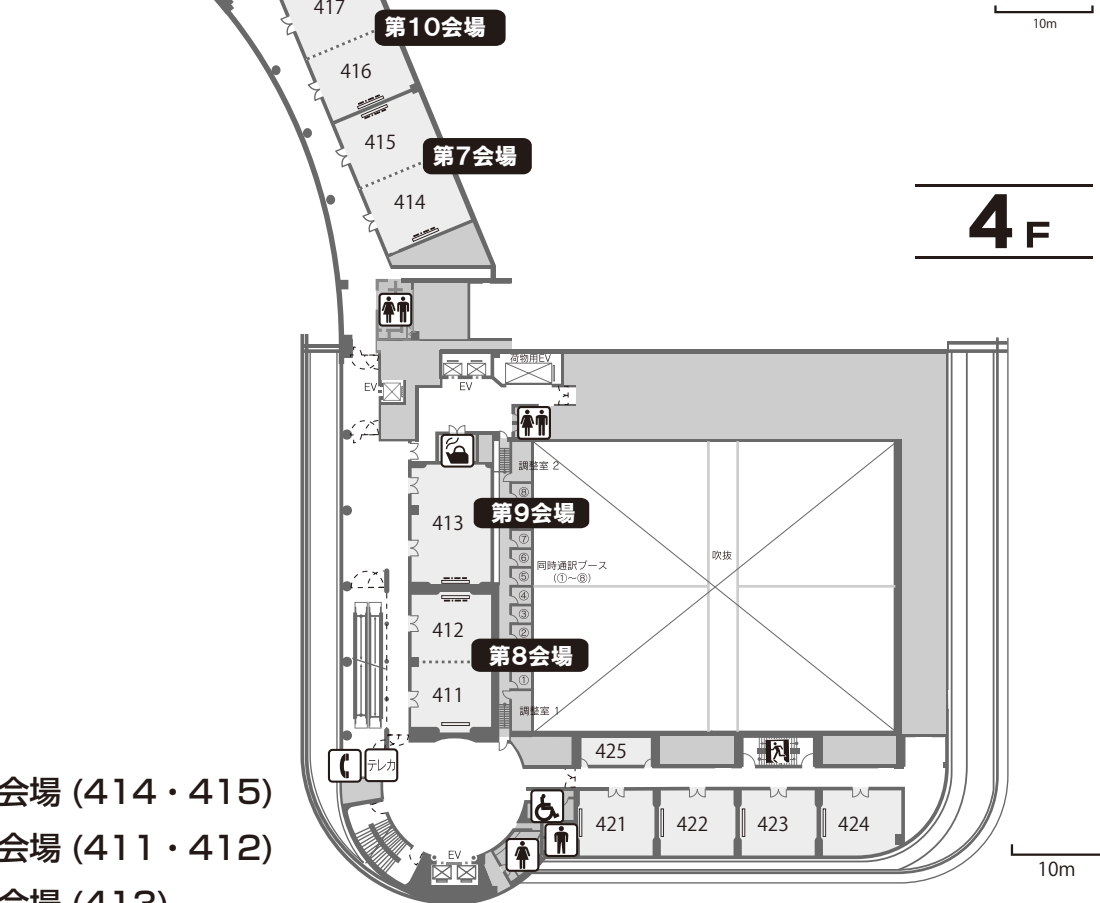
第4会場 (503)
 第5会場 (501・502)
 第6会場 (511・512)

5F



第7会場 (414・415)
 第8会場 (411・412)
 第9会場 (413)
 第10会場 (416・417)

4F



PACIFICO Yokohama Access & Area Map

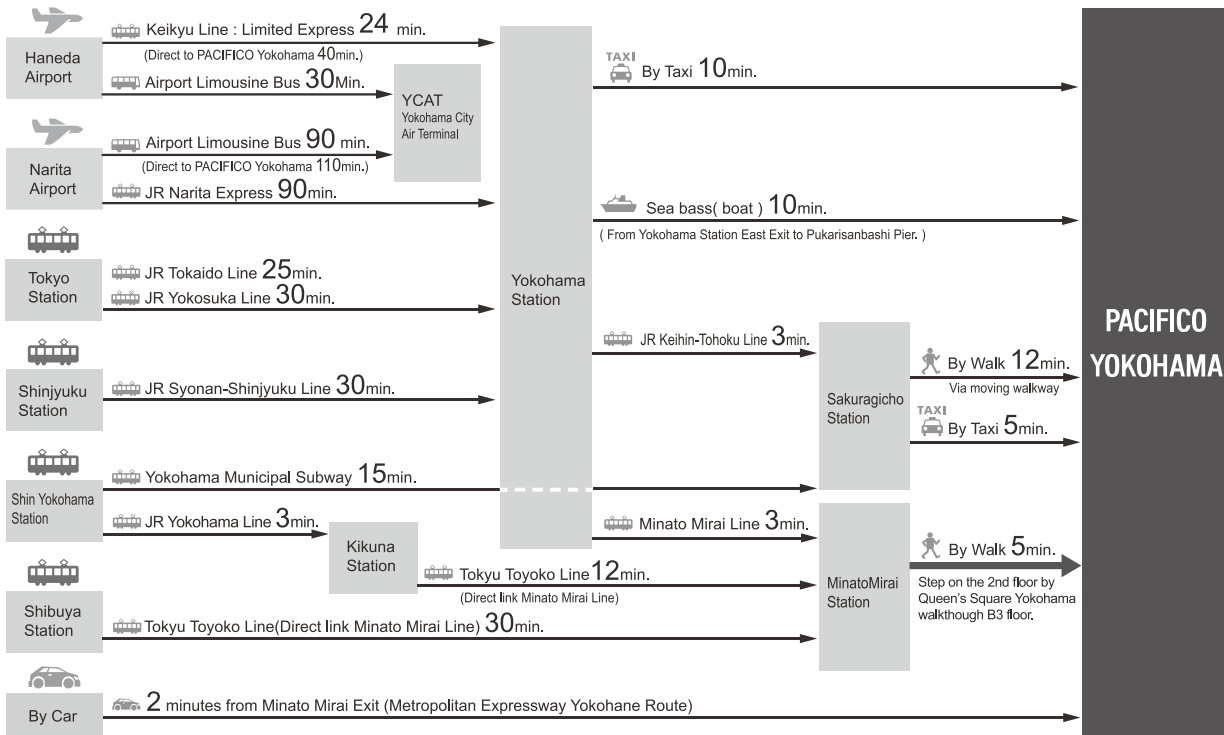
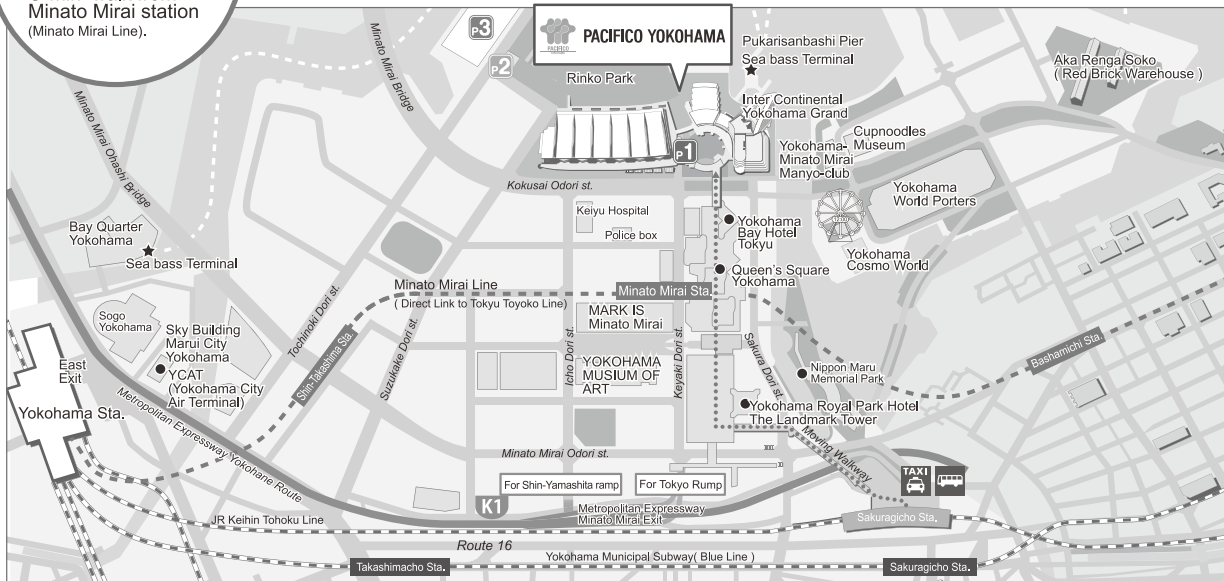
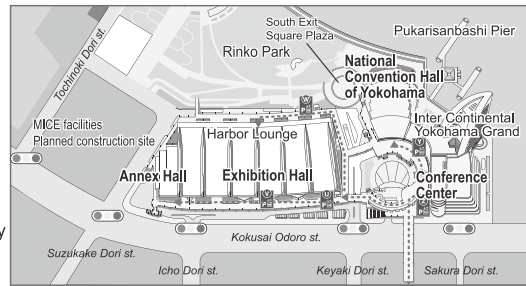
1-1-1 Minato Mirai, Nishi-ku, Yokohama 220-0012, Japan Information: TEL +81-45-221-2155

Easy access from all over the world.

30 min. from Tokyo by train.

5 min. walk from Minato Mirai station (Minato Mirai Line).

30 min. from Tokyo International Airport (Haneda).
 100 min. from Narita International Airport.
 20 min. from JR Shin Yokohama Station.
 2 min. from Minato Mirai Exit (Metropolitan Expressway Yokohane Route).



- P1** Minato Mirai Public Parking Lot ¥270/30min. 7:00 to 24:00 *You can take your car out anytime 24hr.
- P2** Rinko Park Parking Lot ¥250/30min. 8:00 to 21:00
- P3** Bus / Large Vehicle Parking Lot ¥500/30min. 24 hours open *Enter and exit between 7:00 and 22:00. Advanced reservations required

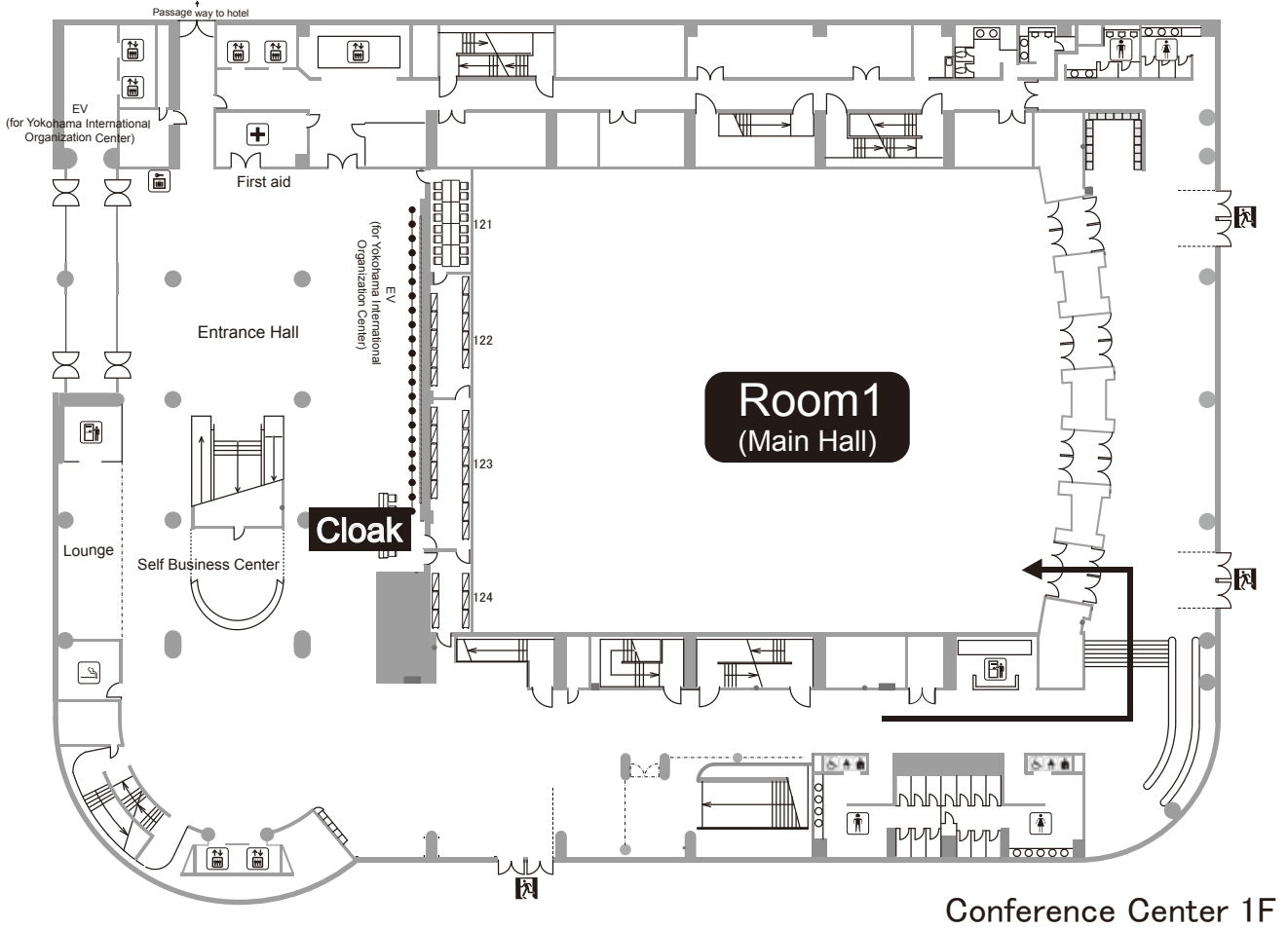
Notes:

- Actual travel times required depend on the facilities you are going to visit. An early arrival is recommended.
- Transfer times are not included.
- Actual travel times required also depend on the road conditions and which terminal you will use.

Jan.1, 2017

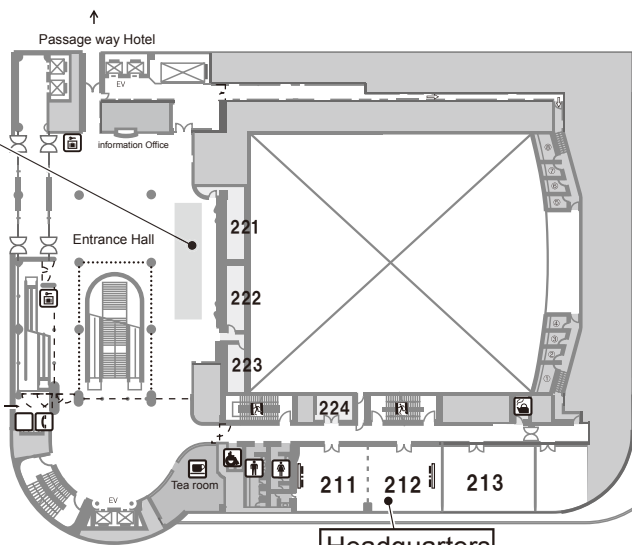
PACIFICO YOKOHAMA

Room 1 ~ 10

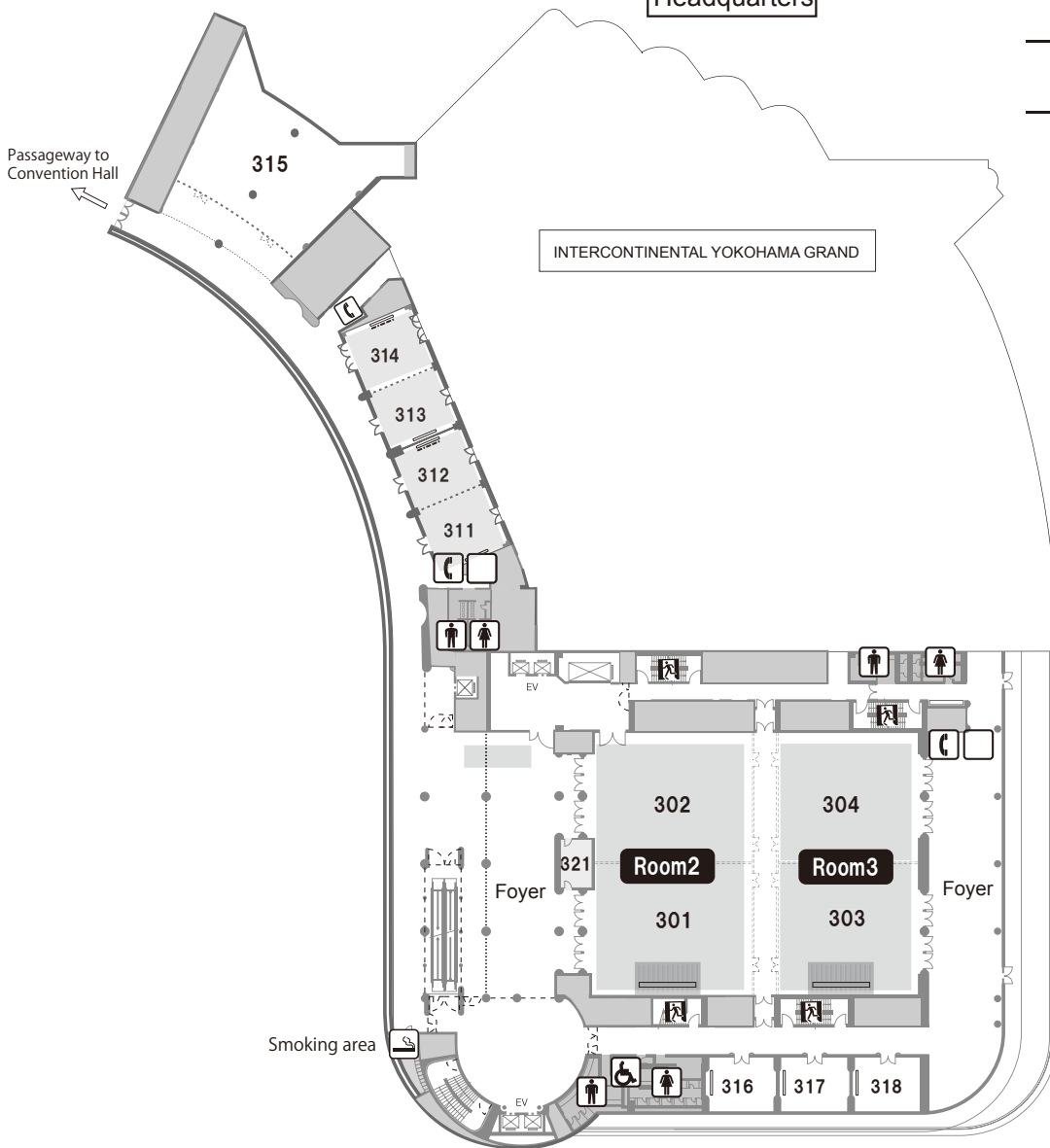


Room 1 (Main Hall)

Reception,
Registration on the day



2_F



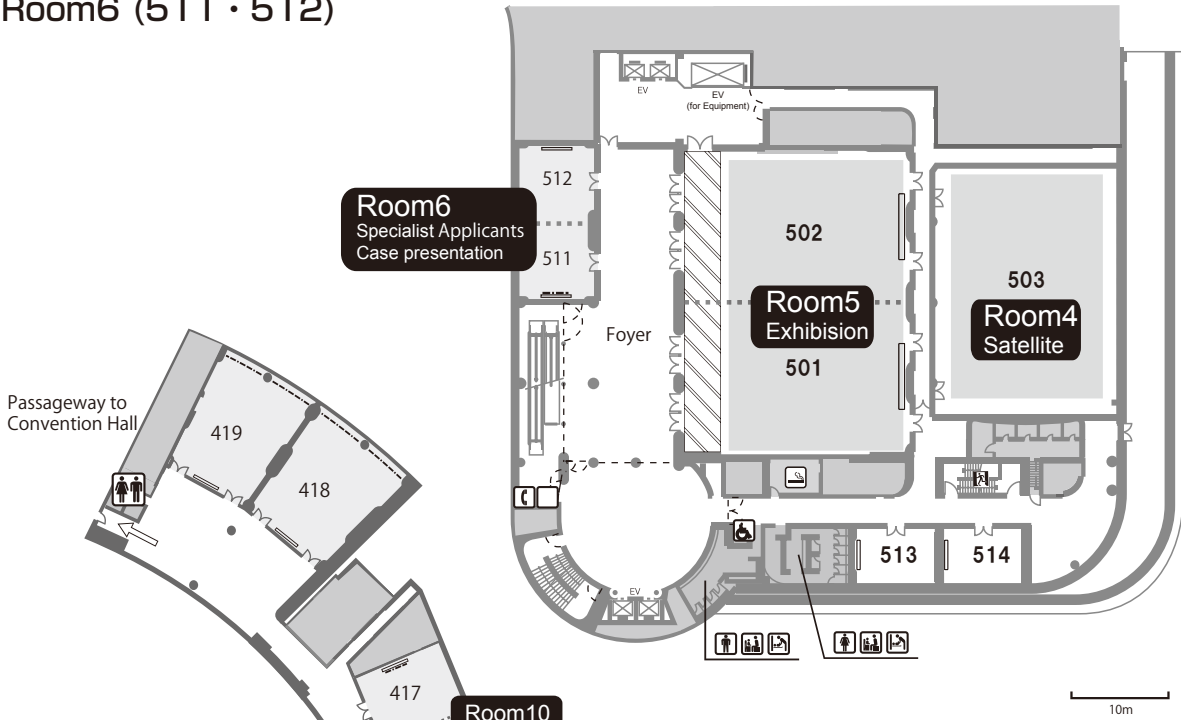
3_F

Room2 (301 · 302)

Room3 (303 · 304)

Room4 (503)
 Room5 (501 · 502)
 Room6 (511 · 512)

5_F



Passageway to
 Convention Hall

Room6
 Specialist Applicants
 Case presentation

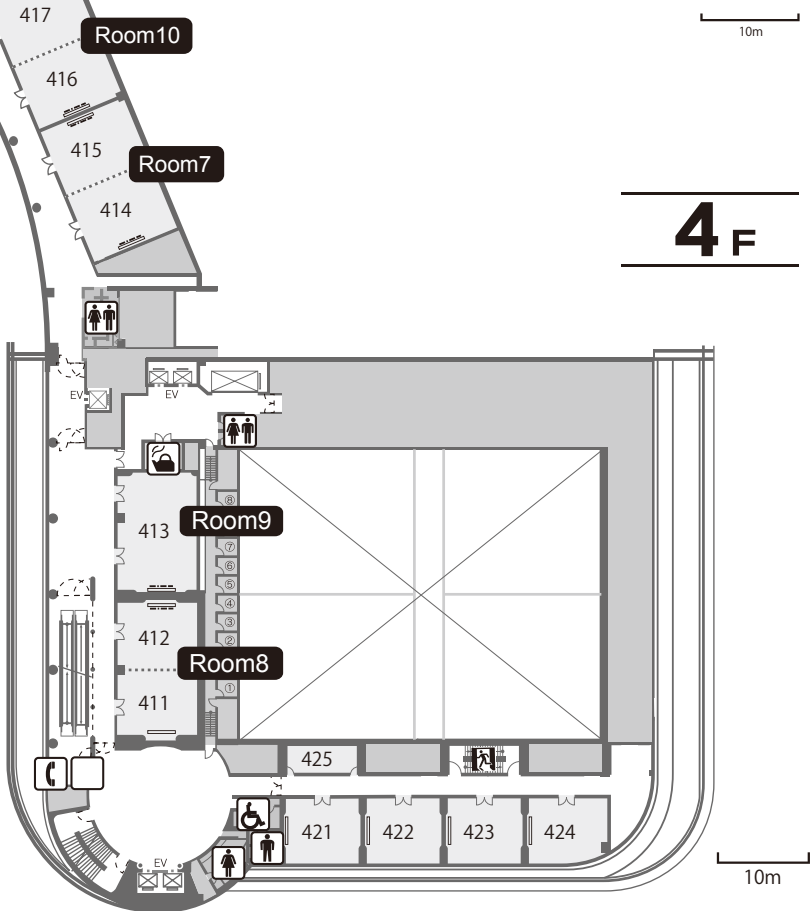
Room5
 Exhibition
 501

Room4
 Satellite
 503

Room10

Room7

4_F



Room7 (414 · 415)
 Room8 (411 · 412)
 Room9 (413)
 Room10 (416 · 417)

第 126 回学術大会参加の皆様へ

1. 受付は 6 月 30 日（金）17:00～19:00, 7 月 1 日（土）8:10～19:00, 7 月 2 日（日）8:00～15:00 に行います。
2. 事前参加登録がお済みの方は、学術大会参加章（ネームカード）とプログラム・抄録集を事前に送付致しますので、当日はお忘れなくご持参下さい。
3. 大会期間中に参加登録される方は、総合受付にて当日会費をお支払いの上、学術大会参加章とプログラム抄録集をお受け取り下さい。参加章にはご氏名・ご所属をご記入下さい。

第 126 回学術大会参加費（当日会費）

正会員，賛助会員	15,000 円
準会員（一般）	7,500 円
準会員（学部学生）	2,000 円
非会員（一般）	20,000 円
非会員（学部学生）	3,000 円

4. 学術大会参加章（ネームカード）にはご氏名・ご所属を記入の上、身に付けてご入場ください。参加章下部は領収書になっています。
5. 本学会専門医の申請あるいは更新を希望する場合は、会員証のバーコードを読取機に通してください。

第 126 回学術大会専門医研修単位登録（学術大会参加単位）

受付時間

7 月 1 日（土）8:30～17:30

7 月 2 日（日）8:30～17:00

6. 専門医研修会参加単位登録
7 月 1 日（土）に開催される臨床リレーセッション 1（専門医研修単位認定セミナー）、または 7 月 2 日（日）に開催される専門医研修会終了後に会場出口にて、会員証のバーコードを読取機に通してください。尚、いずれかに参加すれば単位認定されます。
7. 学会会場におけるビデオ・写真撮影等は、発表者の著作権保護のため禁止させていただきます。尚、特別な事由がある場合は大会長に申し込んでください。
8. 同時通訳レシーバー
国際シンポジウムと海外特別講演では同時通訳を行います。同時通訳レシーバーは 7 月 1 日（土）10:00 より 2F 受付にて貸し出しを行います。貸し出しには会員カードが必要となります。該当プログラム終了後は、すみやかにご返却ください。尚、紛失・破損の場合は実費を申し受けます。
9. 懇親会
本学術大会では 6 月 30 日（金）19:00 からヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル 3 階ボールルームにて懇親会を開催いたします。是非ご参加いただきますようお願いいたします。当日受付も行いますので、会場受付にてお申し込みください。（当日会費 15,000 円）懇親会はどなたでも参加可能です。会員以外の方も是非ご参加ください。

10. 託児施設

7月1日(土) 8:00～18:00, 7月2日(日) 8:00～19:00に, 会場に託児施設をご用意いたします。下記の内容をご確認いただき事前予約をお願いいたします。定員になり次第締め切らせていただきますので, お早目にお申込みください。

申込先名: 株式会社アルファコーポレーション

連絡方法: (E-mail: yoyaku@alpha-co.com TEL: 03-5797-7121)

以下の項目をメール又はお電話にてお伝え下さい。

1. 保護者氏名(よみがな), 連絡先(携帯電話番号含む)
2. 託児希望日及び時間
3. お子様の名前(よみがな), 年齢, 性別
4. 託児上の注意点(アレルギーなど)

申込期限: 2017年6月23日(金) 17:30

11. 日歯生涯研修について

本学術大会に参加した場合は, 特別研修として10単位が取得できます。尚, 特別研修の単位登録には受講研修登録用ICカードが必要ですので, ご自身の日歯ICカードを必ずご持参ください。また, 当分の間, 特別研修の取得単位は一般の研修単位(教材研修・受講研修・能動的研修)には加算されず, 修了基準の対象からは除外されます。

12. 日本補綴歯科学会会員の皆様へ

バーコード付き会員証で学会参加登録, 専門医研修会出席登録が可能ですので, 会員証を必ずご持参ください。

(会員証は同時通訳レシーバー貸し出しの際にも必要となります)

発表される先生方へ

課題口演・一般口演発表

1. 発表時間

- (1) 課題口演 発表 10 分, 質疑応答 10 分
- (2) 一般口演 発表 8 分, 質疑応答 2 分

2. 発表方法

(1) 口演発表について

- ① 発表時間は上記を参照してください。質疑に関しては座長の指示に従ってください。
- ② 口演中は演台上の講演タイマーの緑色ランプが点灯します。
1 分前に黄色ランプ, 終了時に赤色ランプが点灯しますので, 時間を厳守してください。
- ③ 次演者は, 所定の場所 (次演者席) にてお待ちください。

(2) プレゼンテーションについて

- ① PC を使用する発表は全て PC による発表 (単写) とします。

発表時は, 演台上のマウスとキーボードにてスライドを操作してください。

- ② スクリーン投影にあたっては, PC の解像度を XGA (1,024 × 768) に統一します。
ページ設定は「画面にあわせる (4 : 3)」または「標準 (4 : 3)」としてください。

「16 : 9」のワイドサイズでスライドを作成されますと, スライドの上下に黒い縁が表示されます。

特に, PowerPoint 2013 以降をお使いの場合, 下記にご留意ください。

初期設定では, 「スライドサイズが 16 : 9」, 「発表者ツールが有効」になっています。

▶スライドのサイズを「標準 (4 : 3)」に変更してからデータを作成して下さい。

▶“スライドショー”の項目で“発表者ツールを使用する”のチェックを外して下さい。

- (3) ノート, 次のスライド, 発表経過時間などを確認できる“発表者ツール”は, セッション進行の遅滞を招く恐れがあるため, 使用できません。

会場にプリンターはございません。あらかじめ原稿をご用意ください。

- (4) Windows にて発表データを作成された場合は, USB フラッシュメモリにてご提出ください。

- (5) 今回ご用意しておりますコンピュータの OS と PowerPoint は以下のとおりです。

OS : Windows 7 Professional

アプリケーション : PowerPoint 2016/2013/2010/2007

- (6) Macintosh をご使用の場合は, ご自身の PC をご持参ください。

- (7) 発表予定時刻の 1 時間前までに, PC 受付にて発表データの試写を行ってください。

- (8) スライドの 1 枚目は, 発表タイトルと発表者氏名を明記した表紙ページとしてください。

3. データでお持込の方へ

- (1) Microsoft PowerPoint 2016/2013/2010/2007 で作成し、次の標準フォントをご使用ください。
[日本語] メイリオ, MS ゴシック, MS P ゴシック, MS 明朝, MS P 明朝
[英語] Arial, Arial Black, Century, Century Gothic, Times New Roman
- (2) アニメーションおよびビデオファイルは使用可能ですが、Windows の初期設定で動作可能なことが条件です。
- (3) 音声の出力には対応しておりません。
- (4) 発表後のデータは、事務局で責任を持って消去いたします。

4. PC をご持参いただく方へ

- (1) 使用機種、OS、アプリケーションに制限はありませんが、Surface, iPad その他タブレット端末については、動作の保証はできかねます。
- (2) ミニ D-Sub15 ピンによるモニター出力が必要です。
Macintosh や一部の薄型ノートパソコンでは、別途外部出力コネクタが必要な場合がございますので、必ず各自でご用意ください。
- (3) ビデオファイルの使用も可能ですが、PC 受付にて必ず動作確認を行ってください。
- (4) スクリーンセーバーならびに省電力設定、パスワードはあらかじめ解除しておいてください。
- (5) 電源アダプターを忘れずにお持ちください。
- (6) 故障などのトラブルに備え、バックアップデータをお持ちください。
- (7) PC 受付での試写後、発表時間の 20 分前までに、会場左前方の PC オペレーター席に PC をお持ちください。発表終了後は、この席にて PC をお返しいたします。

5. 利益相反 (COI) について

利益相反の状態について補綴歯科学会のホームページを参照いただき発表スライドに開示してください。

6. 質疑応答について

- (1) 質問者は座長の指示に従い、所定のマイクで所属、氏名を明らかにして要領よく簡潔に質疑を行ってください。
- (2) 質問される方は、予め質問用マイクの付近にお越し下さい。
円滑な進行にご協力をお願いします。

ポスター発表

1. 発表日時

平成 29 年 7 月 1 日（土） 9：00～18：00

平成 29 年 7 月 2 日（日） 9：00～17：40

2. 会場

第 5 会場（5F 501・502）

3. 発表方法

（1）展示について

1 日、2 日の 2 日連続して展示していただきます。

貼り替えはありません。

① 展示用に、横 90cm × 縦 210cm の展示板を用意します。

② 右図の網掛けの範囲内に展示してください。

③ 大会事務局で展示板に演題番号を用意します。

表題、氏名、所属は発表者自身が用意してください。

また、ポスターの右上隅に発表者の写真（L 版）を掲示してください。

④ ポスターの展示板への貼り付けはプッシュピンを使用し、両面テープなどの粘着テープは使用しないでください。プッシュピンは会場に用意します。

（2）ポスター中に COI 該当の有無を開示してください。

（3）ポスター討論（質疑応答）について

① 質疑応答は、以下の時間に行います。

平成 29 年 7 月 1 日（土） 12：20～13：10（演題番号末尾が奇数の演題）

平成 29 年 7 月 2 日（日） 12：20～13：10（演題番号末尾が偶数の演題）

② 発表者は、上記の時間中ポスターの横に待機し、質疑応答を行ってください。

また、この時間内は会場内に用意しておりますリボンを胸に付けてください。不在時はリボンをポスターに留めておいてください。

4. ポスターの掲示・撤去

以下の期間中に行ってください。

（1）掲示 平成 29 年 7 月 1 日（土） 8：00～9：00

（2）撤去 平成 29 年 7 月 2 日（日） 17：40～18：10

（18：10 以降は事務局で処分いたします）



専門医ケースプレゼンテーション

1. 発表日時

平成 29 年 7 月 1 日 (土)
9:00 ~ 18:00 (展示)
平成 29 年 7 月 2 日 (日)
9:00 ~ 10:00 (展示)
10:00 ~ 12:00 (審査)
12:00 ~ 17:40 (展示)

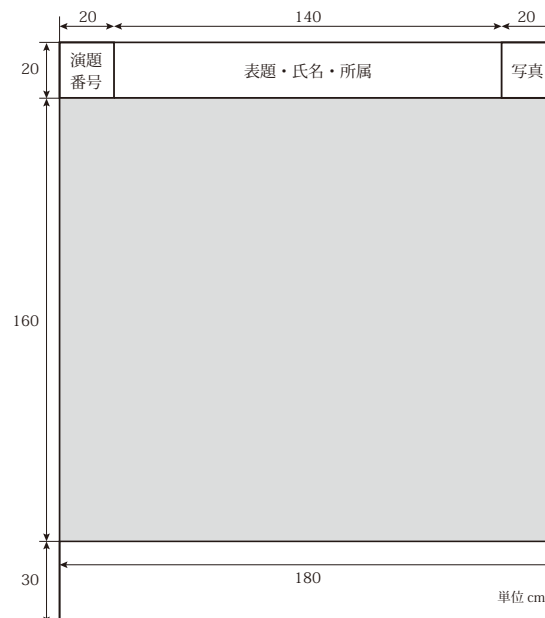
2. 会場

第 6 会場
5F 511・512

3. 発表方法

(1) 展示について

- ① 専門医ケースプレゼンテーションの受付を、平成 29 年 7 月 1 日 (土) 9:00 ~ 9:30 に行います。
 - ② 展示用に、横 180cm × 縦 210cm の展示板を用意します。
 - ③ 右図の網掛けの範囲内に展示してください。
 - ④ 大会事務局で展示板に演題番号を用意します。
表題、氏名、所属は発表者自身が用意してください。
また、ポスターの右上隅に発表者の写真 (L 版) を掲示してください。
 - ⑤ ポスターの展示板への貼り付けはプッシュピンを使用し、両面テープなどの粘着テープは使用しないでください。プッシュピンは会場に用意します。
- (2) ポスター中に COI 該当の有無を開示してください。
- (3) 審査について
- ① 審査委員の指示に従い、10 分程度で説明を行ってください。
 - ② 説明終了後、申請者は審査委員の質疑を受けてください。



4. ポスターの掲示・撤去

以下の期間中に行ってください。

- (1) 掲示 平成 29 年 7 月 1 日 (土) 8:00 ~ 9:00
- (2) 撤去 平成 29 年 7 月 2 日 (日) 17:40 ~ 18:10
(18:10 以降は事務局で処分いたします)

公益社団法人日本補綴歯科学会 第126回学術大会 日程表

6月30日(金)

	会場：日石横浜ビル	会場：ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル		
	専門医筆記試験 日石横浜ホール	会務連絡会 理事会 1F パール	総会 日本歯科医学会会長懇談会 委員会セミナー (JPR編集委員会) 1F シルク	懇親会 3F ボールルーム
8:00				
9:00				
10:00		会務連絡会		
11:00		臨時理事会		
12:00		委員長会		
13:00			総会受付	
14:00			定時総会	
15:00	専門医筆記試験受付			
15:00	専門医筆記試験 15:00~15:50			
16:00		臨時理事会		
17:00		支部長会		
18:00			日本歯科医学会 会長懇談会 委員会セミナー 1 (JPR 編集委員会) JPR の果たす役割ー現状と今後の展開ー 座長：馬場一美 (昭和大) 講師：馬場一美 (昭和大) 細川隆司 (九歯大) 江草 宏 (東北大)	
19:00				懇親会受付
20:00				懇親会
21:00				

公益社団法人日本補綴歯科学会 第126回学術大会 日程表

7月1日(土)

会場：パシフィコ横浜

会場：パシフィコ横浜										会場：クイーンズスクエア
第1会場	第2会場	第3会場	第4会場 サテライト会場	第5会場 ポスター会場	第6会場	第7会場 ハンズオン1	第8会場	第9会場	企業展示	市民フォーラム
1Fメインホール	3F 301+302	3F 303+304	5F 503	5F 501+502	5F 511+512	4F 414+415	4F 411+412	4F 413	5F 501+502	クイーンズサークル
8:00				ポスター 提示	専門医ケースプレ ゼンテーション ポスター 提示				企業展示 準備	
9:00	開会式									
	課題口演 臨床効果の評価 演題：課題1~3 座長：南 弘之(鳥取大)	課題口演 口腔機能と全身疾 患との関連 演題：課題4~6 座長：木本克彦(神大)	課題口演 バイオロジー 演題：課題7~9 座長：横山教郎(北海道大)							
10:00				ポスター 展示						
	理事長講演 歯科の価値を支え、 創る補綴の矜持 座長：松村英雄(日本大) 講師：市川哲雄(徳大)	第1会場 サテライト	第1会場 サテライト							
11:00	メインシンポジウム 未来に向けた補 綴歯科のアイデン ティティ 座長：松村英雄(日本大) 市川哲雄(徳大) シンポジスト： 池邊一典(大阪大) 櫻井 薫(東大) 古谷野澤(九州大)	国際シンポジウム 補綴治療のトレン ドを知る。ニョロ ロッパを以てイン ドネシアからの報 告(同時通訳 あり) 座長： 矢谷博文(大阪大) 岡田由香(医大)	一般口演 バイオマテリアル1 演題：01-1~3 座長：藤原 周(朝日大) 一般口演 バイオマテリアル2 演題：01-4~6 座長：黒岩昭弘(松大)			ハンズオンセミ ナー1-1 軟質材料を用いた 義歯のリライ 講師： 上田典之(東大) 和田 健(東大)				
12:00										
				ポスター 討論 奇数演題						
13:00										
14:00	特別講演 横浜名物 シウマイ 物語 座長：大久保力廣(鶴見大) 講師：野並直文 (横浜商工会議所、崎陽軒)	臨床スキルアップ セミナー 補綴歯科治療を進める方 で知っておくべき咬合異常 座長：松香芳三(徳大) 武部 純(慶院大) 講師：山口泰彦(北海道大) 松香芳三(徳大)	一般口演 有床義歯1 演題：01-10~12 座長：岡崎定司(大東大) 一般口演 有床義歯2 演題：01-13~15 座長：若林明彦(医大)		専門医ケースプレ ゼンテーション ポスター 展示				企業展示	
15:00	海外特別講演 高齢患者のイン プラント治療(同時 通訳あり) 座長：小野高裕(新潟大) 講師：Frauke Müller (University of Geneva)	シンポジウム1 CAD/CAM デンチャーは どこまで進んだのか 座長：足田一洋(北産大) 永尾 寛(徳大)	一般口演 クラウンブリッジ1 演題：01-16~18 座長：三浦宏之(医大) 一般口演 クラウンブリッジ2 演題：01-19~21 座長：田中昌博(大東大)							
16:00	臨床リレー セッション1 (専門医研修単位 認定セミナー) 咬合支持に起因す る難症例への補綴 学的アプローチ： Eichnerの分類に 応じた補綴介入 座長：大川周治(明海大) 泉山龍大(九州大) 講師：兒玉直紀(岡山大) 荻野洋一郎(九州大) 松田謙一(大阪大)	臨床リレー セッション1 第1会場 サテライト	一般口演 インプラント1 演題：01-22~24 座長：越智守生(北産大) 一般口演 インプラント2 演題：01-25~27 座長：山内六男(朝日大) 一般口演 口腔機能1 演題：01-28~30 座長：山下秀一郎(東大) 一般口演 口腔機能2 演題：01-31~33 座長：菊池雅彦(東北大)							市民フォーラム 健康長寿の秘訣！ 一噛み合わせ・咀嚼・ 栄養の大切さ 座長：武部 純(慶院大) 松山美和(徳大) 講師：津賀一弘(広島大) 菊谷 武(日大)
17:00										
18:00	イブニング セッション1 接着歯学を活用した支台装 着法の現状と未来へ ガイドライン作成とイノ ベーション創出をめざして コーディネーター： 柴 篤史(大阪大)	イブニング セッション2 iPS細胞研究は歯科 補綴学にどのように 生かされるのか？ コーディネーター： 黄地健仁(慶應義塾大)	イブニング セッション3 ここにインプラントが欲 しい！ 有床義歯への インプラントの活用 コーディネーター： 金澤 亨(医大)			イブニング セッション4 Back to the basic -ゴシックアーチは本 当に必要なのか？- コーディネーター： 兒玉直紀(岡山大)	イブニング セッション5 インプラント治療にお ける光学印象の活用 -現状と今後の可能性- コーディネーター： 田中晋平(昭和)	イブニング セッション6 インプラント治療 と無歯顎患者の補 綴治療 コーディネーター： 永田浩司(医大)		
19:00										

公益社団法人日本補綴歯科学会 第126回学術大会 日程表

7月2日(日)

会場：パシフィコ横浜

	第1会場	第2会場	第3会場	第4会場 サテライト会場	第5会場 ポスター会場	第6会場	第7会場 ハンズオン2	第8会場 ハンズオン3	第9会場 ハンズオン4	第10会場 セッション室	企業展示
	1Fメインホール	3F 301+302	3F 303+304	5F 503	5F 501+502	5F 511+512	4F 414+415	4F 411+412	4F 413	4F 416+417	5F 501+502
8:00					ポスター 提示	ポスター 提示					
9:00	臨床リレーセッション2 温故知新 先人達に学ぶ 一補綴で最も大切なものは何か 座長：大久保力廣 (鶴見大) 講師：山本 祐男 (岡山大)	シンポジウム2 軟質材料を用いた義歯のリラインによる臨床効果 座長：河相安彦 (日大松戸) 上田真之 (東歯大)	一般口演 症例 演題：02-1~3 座長：佐藤裕二 (昭和大)		第1会場 サテライト	一般口演 クラウンブリッジ3 演題：02-4~6 座長：山崎敬雄 (奥羽大)	専門医ケースプレゼンテーション ポスター 展示				
10:00	臨床リレーセッション3 CAD/CAM 冠 術者目線の支台歯形成 座長：五味治徳 (日歯大) 中村隆志 (大阪大) 講師：西川 義昌 (鹿児島大) 六人部慶彦 (関西支大)	シンポジウム3 歯科補綴領域の再生医療実現における課題と未来 座長：西村正宏 (鹿児島大) 秋葉博 (新潟大)	一般口演 クラウンブリッジ4 演題：02-7~9 座長：佐藤 亨 (東歯大)			ポスター 展示	専門医ケースプレゼンテーション ポスター 審査	ハンズオンセミナー2-1 口腔内スキャナーの実践 講師：足田一洋 (北医療大)	ハンズオンセミナー3-1 ファイバーポストコアをマスターする 講師：坪田有史 (東京支大)	ハンズオンセミナー4-1 有床義歯咀嚼機能検査 講師：志賀 博 (日歯大)	歯科衛生士セッション 補綴のプロフェッショナルケアをアップデートする 座長：古屋純一 (歯科大) 永尾 寛 (徳島大) 講師：小林明子 (東京都) 二川浩樹 (広島大) 寺本浩平 (東京都)
11:00		委員会セミナー2 (研究企画推進委員会) 高齢者の歯科口腔・嚥下機能がQOL及び健康寿命に及ぼす影響 座長：矢倉博文 (大阪大) 玉置明司 (神歯大) 講師：小山純理 (岡山大) 前川寛治 (岡山大)	一般口演 有床義歯3 演題：02-10~12 座長：飯木省吾 (岡山大)			ポスター 討論 偶数演題					
12:00		ランチョンセミナー3 GC's CAD/CAM solution 最新版 最新CAD/CAMソフト、Phonics Fit/CAD/CAM 最新版、ハイブリッド ブロック「セカスマート270」 講師：清田隆太郎 (前澤シーシー) 上野貴之 (前澤シーシー)	ランチョンセミナー4 紅斑性カンジダ症への口腔乾燥と義歯のかかわり 講師：中川洋一 (鶴見大)								
13:00	臨床リレーセッション4 歯科技工士から補綴臨床医への提言 臨床と技工の匠に学ぶ 座長：末満一彦 (大歯大) 佐藤洋平 (鶴見大) 講師：樋口鏡央 (徳島支大) 伊原啓祐 (鶴見大) 木林博之 (関西支大) 森田 誠 (京都府)	シンポジウム4 「米型型 vs. スカンジナビア型」- 日本の補綴歯科専門医はどちらを向いているのか？ 座長：江草 宏 (東北大) 中居伸行 (関西支大)	一般口演 トランスレショナルリサーチ 臨床イメージ 演題：02-19~21 座長：朝野元雄 (朝日大)								
14:00		シンポジウム4 「米型型 vs. スカンジナビア型」- 日本の補綴歯科専門医はどちらを向いているのか？ 座長：江草 宏 (東北大) 中居伸行 (関西支大)	一般口演 ニューロサイエンス1 演題：02-22~24 座長：伊藤 裕 (東大)				専門医ケースプレゼンテーション ポスター 展示	ハンズオンセミナー2-2 口腔内スキャナーの実践 講師：足田一洋 (北医療大)	ハンズオンセミナー3-2 ファイバーポストコアをマスターする 講師：坪田有史 (東京支大)	ハンズオンセミナー4-2 有床義歯咀嚼機能検査 講師：志賀 博 (日歯大)	
15:00	専門医研修会 デジタル技術を用いた歯冠修復の現状と未来 座長：梶見進一 (九歯大) 小川 匠 (鶴見大) 講師：佐藤博徳 (福歯大) 近藤尚知 (若手歯大) 小川 匠 (鶴見大)	専門医研修会 第1会場 サテライト	一般口演 バイオロジー1 演題：02-28~30 座長：関根秀志 (奥羽大)								
16:00			一般口演 バイオロジー2 演題：02-31~33 座長：澤瀨 隆 (長崎大)								
17:00			一般口演 口腔機能3 演題：02-34~36 座長：越野 寿 (北醫大)								
			一般口演 口腔機能4 演題：02-37~39 座長：服部佳功 (東北大)								
			一般口演 口腔機能と全身疾患 演題：02-40~42 座長：藤澤政紀 (明治大)								
18:00	閉会式 表彰式				ポスター 撤去						

メインテーマ「補綴歯科がめざすもの、求められるもの」

- 日石横浜ビル
6月30日（金）
 - ・ 専門医筆記試験：日石横浜ホール

- ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル
6月30日（金）
 - ・ 会務連絡会：1F パール
 - ・ 臨時理事会：1F パール
 - ・ 委員長会：1F パール
 - ・ 臨時理事会：1F パール
 - ・ 支部長会：1F パール
 - ・ 定時総会：1F シルク
 - ・ 日本歯科医学会会長懇談会：1F シルク
 - ・ 委員会セミナー1：1F シルク
 - ・ 懇親会：3F ボールルーム

- パシフィコ横浜
7月1日（土）、7月2日（日）
 - ・ 第1会場：1F メインホール
 - ・ 第2会場：3F 301+302
 - ・ 第3会場：3F 303+304
 - ・ 第4会場：5F 503
 - ・ 第5会場：5F 501+502
 - ・ 第6会場：5F 511+512
 - ・ 第7会場：4F 414+415
 - ・ 第8会場：4F 411+412
 - ・ 第9会場：4F 413
 - ・ 第10会場：4F 416+417

- クイーンズスクエア
7月1日（土）
 - ・ 市民フォーラム：クイーンズサークル

The 126 Annual Meeting of Japan Prosthodontic Society

June 30 (Fri)

	NISSEKI Yokohama Bldg.	InterContinental Yokohama Grand		
	Written Exam for Specialists	Executive Board Meeting Board Meeting	General Meeting Meeting of Japanese Association for Dental Science Committee Seminar 1 (Journal of Prosthodontic Research)	Banquet
	NISSEKI Yokohama Hall	1F Pearl	1F Silk	3F Ballroom
8:00				
9:00				
10:00		Executive Board Meeting		
11:00		Board Meeting		
12:00		Committee		
13:00			General Meeting Registration	
14:00			General Meeting	
15:00	Administration of Written Exam for Specialists			
15:00	Written Exam for Specialists 15:00 ~ 15:50			
16:00		Board Meeting		
17:00		Branch Manager Meeting		
18:00			Meeting of Japanese Association for Dental Science	
18:00			Committee Seminar 1 (Journal of Prosthodontic Research) Current status and future prospective of JPR	
19:00				Banquet Registration
20:00				Banquet
21:00				

The 126 Annual Meeting of Japan Prosthodontic Society

July 1 (Sat)

PACIFICO YOKOHAMA											Queen's Square
Room 1	Room2	Room3	Room4 Satellite	Room5 Poster	Room6	Room7 Hands-on 1	Room8	Room9	Exhibition	Open Lecture for Citizen	
1F Main Hall	3F 301+302	3F 303+304	5F 503	5F 501+502	5F 511+512	4F 414+415	4F 411+412	4F 413	5F 501+502	Queen's Circle	
8:00											
	Opening Ceremony				Poster Presentation Exhibition	Specialist Applicants Case Presentation Exhibition				set up	
9:00	Oral Presentation Competition 1 ~ 3	Oral Presentation Competition 4 ~ 6	Oral Presentation Competition 7 ~ 9								
10:00	President's Lecture Prosthodontics drives dentistry with pride and responsibility	Room 1 satellite	Room 1 satellite		Poster Presentation Exhibition						
11:00	Main Symposium Identity of prosthodontic practice toward the future	International Symposium Trends on current prosthetic treatment. — Reports from Europe and Indonesia —	Oral Presentation 01-1 ~ 3 Oral Presentation 01-4 ~ 6 Oral Presentation 01-7 ~ 9			Hands-on Seminar 1-1 Table clinic of lining of removable dentures with soft lining materials					
12:00		Luncheon Seminar 1	Luncheon Seminar 2		Poster Discussion (odd number)						
13:00				Room 1 satellite		Specialist Applicants Case Presentation Exhibition					
14:00	Special Lecture Story of SHIUMAI — Locality famous food in Yokohama —	Clinical Skill-up Seminar Occlusal abnormality for prosthodontic treatment — Diagnosis and concept not only with teeth —	Oral Presentation 01-10 ~ 12 Oral Presentation 01-13 ~ 15			Hands-on Seminar 1-2 Table clinic of lining of removable dentures with soft lining materials			Exhibition		
15:00	International Special Lecture Implant therapy in the geriatric patients	Symposium 1 Development and clinical application of CAD/CAM denture system	Oral Presentation 01-16 ~ 18 Oral Presentation 01-19 ~ 21		Poster Presentation Exhibition						
16:00	Clinical Lecture Series 1 Prosthodontic management for intractable cases related to the loss of appropriate occlusal support: Prosthodontic interventions according to the Eichner classification	Clinical Lecture Series 1 Room 1 satellite	Oral Presentation 01-22 ~ 24 Oral Presentation 01-25 ~ 27 Oral Presentation 01-28 ~ 30 Oral Presentation 01-31 ~ 33							Open Lecture for Citizen The keys of good health and longevity! — The importance of occlusion - mastication - nutrition —	
17:00											
18:00		Evening Session 1 The core build-up utilizing the adhesive dentistry	Evening Session 2 How can IPS cell technologies change prosthodontics for next stage?	Evening Session 3 We need implant here! — Application of implants for removable dentures —		Evening Session 4 Back to the basic — Is Gothic Arch really necessary? —	Evening Session 5 Optical impression in implant treatment: Current status and future possibilities	Evening Session 6 Contemporary prosthetic strategy for edentulous patients using dental implants			
19:00											

The 126 Annual Meeting of Japan Prosthodontic Society

July 2 (Sun)

PACIFICO YOKOHAMA														
	Room 1	Room 2	Room 3	Room 4 Satellite	Room 5 Poster	Room 6	Room 7 Hands-on 2	Room 8 Hands-on 3	Room 9 Hands-on 4	Room 10 Session	Exhibition			
	1F Main Hall	3F 301+302	3F 303+304	5F 503	5F 501+502	5F 511+512	4F 414+415	4F 411+412	4F 413	4F 416+417	5F 501+502			
8:00					Poster Presentation Exhibition	Specialist Applicants Case Presentation Exhibition								
9:00	Clinical Lecture Series 2 Learning from the experiences of our predecessors — What is the most importance in the prosthodontic treatment? —	Symposium 2 Clinical effect of resilient lining denture prostheses	Oral Presentation 02-1 ~ 3	Room 1 satellite	Poster Presentation Exhibition	Specialist Applicants Case Presentation Exhibition								
10:00			Oral Presentation 02-4 ~ 6				Symposium 3 Challenges and future for tissue engineering in prosthodontics	Oral Presentation 02-7 ~ 9	Specialist Applicants Case Examination	Hands-on Seminar 2-1 Practice of intraoral scanner	Hands-on Seminar 3-1 To acquire knowledge and master on endodontically treated teeth restored with composite core materials and fiber posts	Hands-on Seminar 4-1 Examining masticatory function of removable denture	Dental Hygienist Session Updating professional care of prostheses for dental hygienists	
11:00	Clinical Lecture Series 3 Tooth preparation for the CAD/CAM crown from a clinician's viewpoint	Oral Presentation 02-10 ~ 12	Oral Presentation 02-13 ~ 15			Committee Seminar 2 (Research planning and promotion committee)								
12:00		Oral Presentation 02-16 ~ 18												
13:00		Luncheon Seminar 3	Luncheon Seminar 4				Poster Discussion (even number)							
14:00	Clinical Lecture Series 4 Proposal to prosthodontist from a dental technician — Learn from clinical and technical skills 'TAKUMI' —	Symposium 4 The US approach vs. the Scandinavian approach in prosthodontic treatments	Oral Presentation 02-19 ~ 21				Poster Presentation Exhibition	Specialist Applicants Case Presentation Exhibition	Hands-on Seminar 2-2 Practice of intraoral scanner	Hands-on Seminar 3-2 To acquire knowledge and master on endodontically treated teeth restored with composite core materials and fiber posts	Hands-on Seminar 4-2 Examining masticatory function of removable denture		Exhibition	
15:00			Oral Presentation 02-22 ~ 24						Oral Presentation 02-25 ~ 27					
16:00			Oral Presentation 02-28 ~ 30						Oral Presentation 02-31 ~ 33					
17:00	Prosthodontic Specialist Seminar The present situation and future of crown restoration with digital technology	Prosthodontic Specialist Seminar Room 1 satellite	Oral Presentation 02-34 ~ 36											
18:00			Oral Presentation 02-37 ~ 39				Oral Presentation 02-40 ~ 42							
18:00	Closing Ceremony Award Ceremony				Remove poster									

- **NISSEKI Yokohama Bldg.**
 June 30 (Fri.)
 - Written Exam for Specialists : NISSEKI Yokohama Hall

- **InterContinental Yokohama Grand**
 June 30 (Fri.)
 - Executive Board Meeting : Pearl (1F)
 - Board Meeting : Pearl (1F)
 - Committee : Pearl (1F)
 - Branch Manager Meeting : Pearl (1F)
 - General Meeting : Silk (1F)
 - Meeting of Japanese Association for Dental Science : Silk (1F)
 - Committee Seminar 1 : Silk (1F)
 - Banquet : Ballroom (3F)

- **PACIFICO YOKOHAMA**
 July 1 (Sat.), 2 (Sun.)
 - Room1 : 1F Main Hall
 - Room2 : 3F 301+302
 - Room3 : 3F 303+304
 - Room4 : 5F 503
 - Room5 : 5F 501+502
 - Room6 : 5F 511+512
 - Room7 : 4F 414+415
 - Room8 : 4F 411+412
 - Room9 : 4F 413
 - Room10 : 4F 416+417

- **Queen's Square**
 July 1 (Sat.)
 - Open Lecture for Citizen : Queen's Circle

■公益社団法人日本補綴歯科学会 第 126 回学術大会

■メインテーマ

補綴歯科がめざすもの，求められるもの

■理事長講演

7月1日（土）第1会場 パシフィコ横浜 1F メインホール 10：10～10：40

歯科の基盤を支え，創る補綴の矜持

座長：松村 英雄（日本大）

講師：市川 哲雄（徳島大）

日歯生涯研修事業用研修コード 2199

平成 29 年 6 月，徳島大学の市川哲雄教授が当法人の理事長に就任する。このたびの理事長講演においては，市川新理事長が目指す，歯科の基盤を支える補綴の自負，歯科の基盤を創る補綴のプライド，にあたる内容を「補綴の矜持」という演題で講演いただく。会員にとって，理事長から歯科補綴学と補綴歯科臨床に対する会務運営方針を直接伺うことができる最初の機会となる。

（座長 松村英雄）

■特別講演

7月1日(土) 第1会場 パシフィコ横浜 1F メインホール 13:20～14:20

横浜名物 シウマイ物語

座長：大久保力廣（鶴見大）

講師：野並 直文（横浜商工会議所，崎陽軒）

日歯生涯研修事業用研修コード 2199

「横浜名物シウマイ」は、地元のソウルフードとして多くの横浜市民から愛されている。本特別講演では、横浜商工会議所副会頭の野並直文氏をお招きし、かつて横浜駅に名物と呼ばれる食品がなかった時代に、普通の駅の売店からスタートし、点心のひとつである焼売に着眼し改良を重ねて販売を始め、幾多の苦難を乗り越えながら、いまや全国に知られる駅弁や横浜土産に成長させた会社の経営方針や理念とともに、横浜の歴史や食文化についてもご紹介いただく。

（座長 大久保力廣）

■海外特別講演

7月1日(土) 第1会場 パシフィコ横浜 1F メインホール 14:30～15:30

高齢患者のインプラント治療

座長：小野 高裕（新潟大）

講師：Frauke Müller（University of Geneva）

日歯生涯研修事業用研修コード 2609

超高齢社会を迎えたわが国においては無歯顎補綴を必要とする高齢患者の数も増え続けており、侵襲が少なく効果の高いインプラント・オーバーデンチャー（IOD）の普及が期待されている。本講演では、欧州の有床義歯補綴・高齢者歯科学の第一人者である Frauke Müller 先生をお招きし、いかにして IOD システムを成功させるか、その要点を明確に整理してお示しいただく。

（座長 小野高裕）

■メインシンポジウム

7月1日(土) 第1会場 パシフィコ横浜 1F メインホール 10:50～12:20

未来に向けた補綴歯科のアイデンティティー

座長：松村 英雄 (日本大)

市川 哲雄 (徳島大)

シンポジスト：池邊 一典 (大阪大)

櫻井 薫 (東歯大)

古谷野 潔 (九州大)

日歯生涯研修事業用研修コード 2199

補綴歯科は歯科臨床の中心であると信じられてきたが、最近では受診者、医科、行政などから歯科診療各科の独自性と歯科の専門性が問われている。そこで、このたび歯科補綴学のみならず、口腔インプラント学、老年歯科医学において指導的立場におられる先生方から、敢えて「補綴のアイデンティティー」についてお話を伺うシンポジウムを企画した。この企画には、心身の健康からみた補綴の意義についての講演も含まれる。

(座長 松村英雄, 市川哲雄)

■国際シンポジウム

7月1日(土) 第2会場 パシフィコ横浜 3F 301+302 10:50～12:20

補綴治療のトレンドを知る。ーヨーロッパそしてインドネシアからの報告ー

座長：矢谷 博文 (大阪大)

隅田 由香 (医歯大)

シンポジスト：Hana Hubáková (Charles University)

Laura Susanti Himawan (University of Indonesia)

日歯生涯研修事業用研修コード 2699

本学会と学術交流協定を締結しているインドネシア補綴歯科学会とヨーロッパ補綴歯科学会からそれぞれ Dr. Hana Hubáková と Dr. Laura Susanti Himawan という協定締結の立役者を招き、ヨーロッパとインドネシアにおける補綴歯科治療のトレンドを講演いただくとともに、本学会に期待すること、また共に遂行していけることについても提案いただき、我が国の補綴歯科治療の今後の方向性と国際パートナーとして本学会が取るべき施策を議論し、明確にする機会とする。

(座長 矢谷博文, 隅田由香)

■シンポジウム 1

7月1日(土) 第2会場 パシフィコ横浜 3F 301+302 14:30～15:30

CAD/CAM デンチャーはどこまで進んだのか

座長：疋田 一洋 (北医療大)

永尾 寛 (徳島大)

シンポジスト：水口 俊介 (医歯大)

新保 秀仁 (鶴見大)

日歯生涯研修事業用研修コード 3102

デジタルデンティストリーの進歩によって、クラウン・ブリッジをCAD/CAM技術で製作することは、今や当然の時代となっている。しかし、有床義歯の製作においては、広範囲の印象、咬合採得、人工歯排列位置の決定、異種材料の混在など、多くの問題が山積している。

そこで本シンポジウムでは、これらの問題を解決するための技術と工夫を解説し、最新のCAD/CAMデンチャーの研究・開発と臨床応用について紹介する。

(座長 疋田一洋, 永尾 寛)

■シンポジウム 2

7月2日(日) 第2会場 パシフィコ横浜 3F 301+302 9:00～10:00

軟質材料を用いた義歯のリラインによる臨床効果

座長：河相 安彦 (日大松戸)

上田 貴之 (東歯大)

シンポジスト：村田比呂司 (長崎大)

上田 貴之 (東歯大)

日歯生涯研修事業用研修コード 2608

現在、流通している軟質リライン材はシリコーン系とアクリル系の製品であり、軟質リライン義歯は硬質義歯床用レジンを用いた義歯のオルターナティブトリートメントとして、頻度は多くないものの様々な場面で適応されてきた。本シンポジウムでは「いま、なぜ軟質リラインなのか？」を問い、その基礎とエビデンスならびに臨床に関するUP TO DATEと問題点を供覧し議論したいと思っている。

(座長 河相安彦, 上田貴之)

■シンポジウム 3

7月2日(日) 第2会場 パシフィコ横浜 3F 301+302 10:10～11:10

歯科補綴領域の再生医療実現における課題と未来

座長：西村 正宏(鹿児島大)

秋葉 陽介(新潟大)

シンポジスト：村上 伸也(大阪大)

原井 基博(富士ソフト株)

日歯生涯研修事業用研修コード 3199

歯科補綴領域が対応している顎欠損や歯の欠損等の根本的再生は再生医療技術により飛躍的に治療効果の発展が期待される領域である。近年の新法制定により、細胞培養加工施設へ培養外注や、再生医療等製品の新たな承認制度が導入され、再生医療の臨床応用が加速している。そこで本シンポジウムでは他の領域で先行している脂肪組織由来幹細胞と軟骨細胞を用いたトランスレーショナルリサーチの実例を解説いただく。

(座長 西村正宏, 秋葉陽介)

■シンポジウム 4

7月2日(日) 第2会場 パシフィコ横浜 3F 301+302 13:20～14:50

「米国型 vs. スカンジナビア型」

ー日本の補綴歯科専門医はどちらを向いているのか？ー

座長：江草 宏(東北大)

中居 伸行(関西支部)

シンポジスト：弘岡 秀明(東京都)

松井 徳雄(東京都)

菅野 太郎(東北大)

日歯生涯研修事業用研修コード 2199

前処置から補綴処置へと体系的な治療を行うためには、各専門分野の間に一口腔一単位での治療コンセプトの共有が必要となる。近年、高い専門性を要する症例の治療コンセプトに、「再生療法や審美補綴を駆使した米国型」あるいは「臨床エビデンスに基づき費用対効果を追求したスカンジナビア型」が見受けられる。今回、歯周病患者に対する固定性補綴の臨床例からそれぞれの型の治療コンセプトを整理し、文献的考察を加えることで、双方に共通して求められる補綴的専門性を導きたい。

(座長 江草 宏, 中居伸行)

■臨床スキルアップセミナー

7月1日(土) 第2会場 パシフィコ横浜 3F 301+302 13:20～14:20

補綴歯科治療を進めるうえで知っておくべき咬合異常

—歯だけにとらわれない診かた考え方—

座長：松香 芳三(徳島大)

武部 純(愛院大)

講師：山口 泰彦(北海道大)

松香 芳三(徳島大)

日歯生涯研修事業用研修コード 2801

補綴歯科治療を進めていくうえで知っておくべき咬合異常が存在しており、治療方針を誤らないようにするためには、目の前の咬合異常の原因を明らかにすることが重要である。日常臨床において、原因の特定に苦慮する咬合異常に遭遇することは少なくなく、顎関節や筋の障害による二次的な咬合異常、咬合違和感などがあげられる。本セミナーでは、顎関節、神経・筋、心理社会的因子など、幅広い観点からの咬合異常の診かたと対応法について解説する。

(座長 松香芳三, 武部 純)

■臨床リレーセッション1(専門医研修単位認定セミナー)

7月1日(土) 第1会場 パシフィコ横浜 1F メインホール 15:40～17:40

咬合支持に起因する難症例への補綴学的アプローチ：

Eichner の分類に応じた補綴介入

座長：大川 周治(明海大)

築山 能大(九州大)

講師：兒玉 直紀(岡山大)

荻野洋一郎(九州大)

松田 謙一(大阪大)

日歯生涯研修事業用研修コード 2801

咬合は補綴臨床医が補綴歯科治療を行う上で常に考慮すべき因子であり、その重要性は十分に認識されている。また、日常臨床において『咬合支持』に起因する難症例に遭遇し、その対応に苦慮している臨床医も少なくないと推察される。本セッションでは、上下顎の咬合支持に起因する難症例をEichnerの分類に基づいて整理し、補綴歯科治療のポイントおよび具体的なアプローチの方法を提示し、さらに、難症例への移行を防ぐための方策について理解を深めたい。

(座長 大川周治, 築山能大)

■臨床リレーセッション2

7月2日(日) 第1会場 パシフィコ横浜 1F メインホール 9:00～10:40

温故知新 先人達に学ぶ ー補綴で最も大切なものは何かー

座長：大久保力廣（鶴見大）

窪木 拓男（岡山大）

講師：山下 敦（中国・四国支部）

田中 久敏（東関東支部）

日歯生涯研修事業用研修コード 2699

補綴治療は時代の流れとともに大きく変遷しているが、いつの時代にあっても補綴の基本は不変のほうである。そこで本セッションでは、講師に有床義歯と冠橋義歯の先人（レジェンド）をお迎えし、補綴の真髄を学ばせていただく予定である。新しい機器や材料に流され、「補綴の基本」を忘れがちな今こそ、本セッションで「何が補綴で最も大切なのか」を再考してみたい。特に、補綴の迷路で悩む若い先生方の参加を希望する。

（座長 大久保力廣，窪木拓男）

■臨床リレーセッション3

7月2日(日) 第1会場 パシフィコ横浜 1F メインホール 10:50～12:20

CAD/CAM 冠 ー術者目線の支台歯形成ー

座長：五味 治徳（日歯大）

中村 隆志（大阪大）

講師：西川 義昌（鹿児島県）

六人部慶彦（関西支部）

日歯生涯研修事業用研修コード 2601

CAD/CAM テクノロジーによる補綴装置の製作は、現在の補綴治療には欠かせないものとなっている。CAD/CAM 冠の支台歯形成では、スキャニングや機械加工のための望ましい支台歯形態は紹介されているが、一般的なクラウン形成との相違点やCAD/CAM 冠特有のポイントは明確にされていない。そこで本セッションでは、臨床経験豊かな2名の先生からCAD/CAM 冠支台歯形成のポイントについて、動画を交えた術者目線からの解説をいただく。

（座長 五味治徳，中村隆志）

■臨床リレーセッション 4

7月2日(日) 第1会場 パシフィコ横浜 1F メインホール 13:20～14:50

歯科技工士から補綴臨床医への提言 —臨床と技工の匠に学ぶ—

座長：末瀬 一彦 (大歯大)
佐藤 洋平 (鶴見大)
講師：樋口 鎮央 (関西支部)
伊原 啓祐 (鶴見大)
木林 博之 (関西支部)
森田 誠 (京都府)

日歯生涯研修事業用研修コード 2699

高品質、高精度な補綴装置を患者に提供するためには、補綴臨床医と歯科技工士とが患者情報を共有し、同じ方向・目的をもって業務を遂行しなければならない。本セッションでは、歯科医師が見失いがちな点を歯科技工士の観点から提言すると共に、歯科医師—歯科技工士の良好なコミュニケーション例として、歯科医師と歯科技工士の匠が紡ぎ出す精緻で華麗な補綴臨床を供覧し、補綴歯科のめざすべき関係性についてディスカッションしたい。

(座長 末瀬一彦, 佐藤洋平)

■専門医研修会

7月2日(日) 第1会場 パシフィコ横浜 1F メインホール 15:00～17:40

デジタル技術を用いた歯冠修復の現状と未来

座長：鱒見 進一 (九歯大)
小川 匠 (鶴見大)
講師：佐藤 博信 (福歯大)
近藤 尚知 (岩手医大)
小川 匠 (鶴見大)

日歯生涯研修事業用研修コード 2607

CAD/CAM技術の導入により、審美性に優れたセラミックやジルコニアを用いた歯冠修復装置が、広く臨床に用いられている。また、それに伴い治療から補綴装置製作の工程が変化しており、様々な問題点も挙げられている。本企画では、デジタル技術を応用した歯冠修復の現状と未来像を総論としてCAD/CAMにおける形成や印象からインプラント治療まで、また補綴装置を製作するバーチャル咬合器について紹介し、その問題点、注意点などを解説する。

(座長 鱒見進一, 小川 匠)

■委員会セミナー 1 (JPR 編集委員会)

6月30日(金) ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル 1Fシルク
18:00～19:00

JPR の果たす役割 —現状と今後の展開—

座長：馬場 一美 (昭和大)

講師：馬場 一美 (昭和大)

細川 隆司 (九歯大)

江草 宏 (東北大)

日歯生涯研修事業用研修コード 2199

2014年秋にJPRのWeb of Science掲載の吉報がもたらされ2年を経過した。

JPSの全面的な支援を基盤として、JPR編集委員会では査読を中心とした編集作業に加えて、システムの改善、企画論文の策定、国際交流、広報活動など多岐にわたる活動を展開し、補綴関連国際誌のトップジャーナルを目指している。一方ではReject rateの高さや編集委員・査読者の負担過多など、早急に対応すべき問題も抱えている。

本セミナーでは最新のJPR編集状況について情報を学会員と共有し、JPRの果たすべき役割、今後の展開について考察したい。

(座長 馬場一美)

■委員会セミナー 2 (研究企画推進委員会)

7月2日(日) 第2会場 パシフィコ横浜 3F 301+302 11:20～12:20

公益社団法人日本補綴歯科学会 & 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター共同研究 —高齢者の歯科口腔・嚥下機能がQOL及び健康寿命に及ぼす影響— 研究成果公開シンポジウム

座長：矢谷 博文 (大阪大)

玉置 勝司 (神歯大)

講師：小山 絵理 (岡山大)

前川 賢治 (岡山大)

日歯生涯研修事業用研修コード 2999

(公社)日本補綴歯科学会では、補綴歯科治療が国民の健康長寿にいかにかに寄与するかに関するエビデンスを創出するため、前期の疫学調査委員会と今期の研究企画委員会が中心となって平成27年度から(地独)東京都健康長寿医療センターとの共同研究をスタートさせた。その一環として群馬県草津町における疫学調査(「にっこり検診」)により蓄積されたデータを提供していただき、公募によって採択された研究企画と研究企画推進委員会から提案した研究企画の解析結果を報告すべく、研究成果公開シンポジウムを企画した。

(座長 矢谷博文, 玉置勝司)

■歯科衛生士セッション

7月2日(日) 第10会場 パシフィコ横浜 4F 416+417 10:50～12:20

補綴のプロフェッショナルケアをアップデートする

座長：古屋 純一(医歯大)

永尾 寛(徳島大)

講師：小林 明子(東京都)

二川 浩樹(広島大)

寺本 浩平(東京都)

日歯生涯研修事業用研修コード 3002

補綴治療後のケアを担い、トラブルやニーズの窓口となるのは歯科衛生士であり、歯科材料や摂食嚥下機能も含め、補綴装置と口腔の機能を正しく理解することが重要である。この十年間で、新しい歯科材料の開発、治療方法の進化、訪問診療の増加など、補綴歯科を取り巻く環境の変化とともに、歯科衛生士に必要な知識と技術も変化している。本セッションでは、歯科衛生士に必要な補綴のケアに関するアップデートを提供する。

(座長 古屋純一、永尾 寛)

■市民フォーラム

7月1日(土) クイーンズスクエア クイーンズサークル 15:00～17:00

健康長寿の秘訣！－噛み合わせ・咀嚼・栄養の大切さ－

座長：武部 純(愛院大)

松山 美和(徳島大)

講師：津賀 一弘(広島大)

菊谷 武(日歯大)

日歯生涯研修事業用研修コード 2908

津賀先生には適切な咬合・歯列の重要性、口腔機能管理の重要性、歯を喪失した際に起こる顎口腔系の症状と喪失の予防から、早期に改善・回復させることの意義と咬合・咀嚼・補綴歯科治療の重要性を、菊谷先生からはそれらの重要性を踏まえて、生理的老化にともなう口腔機能低下(運動障害性咀嚼障害)により起こる咀嚼障害と栄養状態の維持、健康長寿の実現に向けたお話しと健康長寿の秘訣をご参加いただく市民の方にわかりやすく話していただく予定である。

(座長 武部 純、松山美和)

■イブニングセッション1

7月1日(土) 第2会場 パシフィコ横浜 3F 301+302 18:00～18:50

接着歯学を活用した支台築造法の現状と未来 ～ガイドライン作成とイノベーション創出をめざして～

コーディネーター：峯 篤史(大阪大)

発表者：新谷 明一(日歯大)

佐々木圭太(鶴見大)

日歯生涯研修事業用研修コード 2607

■イブニングセッション2

7月1日(土) 第3会場 パシフィコ横浜 3F 303+304 18:00～18:50

iPS細胞研究は歯科補綴学にどのように生かされるのか？

コーディネーター：黄地 健仁(慶應義塾大)

発表者：新部 邦透(東北大)

大川 博子(東北大)

帆足有理恵(昭和大)

日歯生涯研修事業用研修コード 3199

■イブニングセッション3

7月1日(土) 第4会場 パシフィコ横浜 5F 503 18:00～18:50

ここにインプラントが欲しい！ー有床義歯へのインプラントの活用ー

コーディネーター：金澤 学(医歯大)

発表者：佐藤 洋平(鶴見大)

横山紗和子(昭和大)

日歯生涯研修事業用研修コード 2609

■イブニングセッション 4

7月1日(土) 第7会場 パシフィコ横浜 4F 414+415 18:00～18:50

Back to the basic –ゴシックアーチは本当に必要なのか?–

コーディネーター：兒玉 直紀(岡山大)

発表者：松丸 悠一(日大松戸)

熱田 生(九州大)

日歯生涯研修事業用研修コード 2699

■イブニングセッション 5

7月1日(土) 第8会場 パシフィコ横浜 4F 411+412 18:00～18:50

インプラント治療における光学印象の活用 –現状と今後の可能性–

コーディネーター：田中 晋平(昭和大)

発表者：深澤 翔太(岩手医大)

渡邊 理平(東北・北海道支部)

高場 雅之(昭和大)

日歯生涯研修事業用研修コード 2609

■イブニングセッション 6

7月1日(土) 第9会場 パシフィコ横浜 4F 413 18:00～18:50

インプラント治療と無歯顎患者の補綴治療

コーディネーター：永田 浩司(医歯大)

発表者：佐藤 大輔(昭和大)

丸尾勝一郎(神歯大)

蛭田 賢(東京支部)

日歯生涯研修事業用研修コード 2606

■ハンズオンセミナー 1

7月1日(土) 第7会場 パシフィコ横浜 4F 414+415 10:50～11:50
13:20～14:20

軟質材料を用いた義歯のリライン

講師：上田 貴之(東歯大)
和田 健(東歯大)

日歯生涯研修事業用研修コード 2698

■ハンズオンセミナー 2

7月2日(日) 第7会場 パシフィコ横浜 4F 414+415 10:30～11:30
13:30～14:30

口腔内スキャナーの実践

講師：疋田 一洋(北医療大)

日歯生涯研修事業用研修コード 2698

■ハンズオンセミナー 3

7月2日(日) 第8会場 パシフィコ横浜 4F 411+412 10:30～11:30
13:30～14:30

ファイバーポストコアをマスターする

講師：坪田 有史(東京支部)

日歯生涯研修事業用研修コード 2698

■ハンズオンセミナー 4

7月2日(日) 第9会場 パシフィコ横浜 4F 413 10:30～11:30
13:30～14:30

有床義歯咀嚼機能検査

講師：志賀 博(日歯大)

日歯生涯研修事業用研修コード 2698

■ランチョンセミナー 1

7月1日(土) 第2会場 パシフィコ横浜 3F 301+302 12:30～13:10

チェアサイド型歯科用 CAD/CAM システム CEREC の臨床応用

講師：中村 昇司 (日歯大)

協賛：デンツプライシロナ株式会社

日歯生涯研修事業用研修コード 3101

■ランチョンセミナー 2

7月1日(土) 第3会場 パシフィコ横浜 3F 303+304 12:30～13:10

色調情報共有に特化した口腔内カメラ「アイスペシャルCⅢ」の活用方法

講師：瓜坂 達也 (大阪府)

協賛：株式会社松風

日歯生涯研修事業用研修コード 3101

■ランチョンセミナー 3

7月2日(日) 第2会場 パシフィコ横浜 3F 301+302 12:30～13:10

GC's CAD/CAM solution

院内完結型 CAD/CAM システム「Planmeca FIT」

CAD/CAM 用高靱性ハイブリッドブロック「セラスマート 270」

講師：浦田俊太郎 (株ジーシー)

上野 貴之 (株ジーシー)

協賛：株式会社ジーシー

日歯生涯研修事業用研修コード 3102

■ランチョンセミナー 4

7月2日(日) 第3会場 パシフィコ横浜 3F 303+304 12:30～13:10

紅斑性カンジダ症への口腔乾燥と義歯のかかわり

講師：中川 洋一 (鶴見大)

協賛：グラクソ・スミスクライン株式会社

日歯生涯研修事業用研修コード 2404

7月1日(土) [第1会場]

■ 9:00 ~ 10:00 課題口演 臨床効果の評価

座長 南 弘之 (鹿児島大)

- 課題1 全部床義歯新製と簡便な栄養指導が無歯顎高齢者の栄養素摂取と咀嚼能力に与える影響
○鈴木啓之¹⁾, 金澤 学¹⁾, 天海徳子¹⁾, 駒ヶ嶺友梨子¹⁾, 岩城麻衣子²⁾, 城 彩実¹⁾, 水口俊介¹⁾
(¹⁾東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科高齢者歯科学分野, ²⁾東京医科歯科大学歯学部
附属病院歯科総合診療部)
- 課題2 患者立脚型指標を用いたインプラント治療効果の予測
○武川佳世, 樋口大輔, 松本貴志, 原 真央子, 横山紗和子, 馬場一美 (昭和大学歯学部歯
科補綴学講座)
- 課題3 小臼歯 CAD/CAM 冠の適応症に関する後ろ向きコホート研究
○三浦賞子, 笠原 紳, 山内しのぶ, 勝田悠介, 原田章生, 江草 宏 (東北大学大学院歯学研
究科分子・再生歯科補綴学分野)

日歯生涯研修事業用研修コード: 3199

7月1日(土) [第2会場]

■ 9:00 ~ 10:00 課題口演 口腔機能と全身疾患との関連

座長 木本克彦 (神歯大)

- 課題4 地域一般住民における咬合支持, 義歯装着と認知機能低下との関連: 大迫研究
○齋藤 翔¹⁾, 村上任尚^{1,2)}, 大井 孝^{1,3)}, 遠藤耕生¹⁾, 平塚貴子¹⁾, 服部佳功¹⁾, 大久保孝義⁴⁾
(¹⁾東北大学大学院歯学研究科加齢歯科学分野, ²⁾東北医科薬科大学医学部衛生学・公衆衛生
学教室, ³⁾石巻赤十字病院, ⁴⁾帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座)
- 課題5 義歯装着者における口腔機能の改善が脳活動ならびに認知機能に及ぼす影響
○中里文香, 小林琢也, 久保田将史, 折祖研太, 安藝紗織, 近藤尚知 (岩手医科大学歯学部補綴・
インプラント学講座)
- 課題6 上顎欠損患者におけるスクリーニングのための嚥下音を用いた嚥下機能評価
○上柳安友子, 隅田由香, 谷口 尚 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科顎顔面補綴
学分野)

日歯生涯研修事業用研修コード: 2499

7月1日(土) [第3会場]

■ 9:00 ~ 10:00 課題口演 バイオロジー

座長 横山敦郎 (北海道大)

- 課題7 咬合荷重下におけるインプラント周囲骨代謝への骨細胞の関与
○富田陽子, 森山泰子, 鮎川保則, 張 浩森, 今井実喜生, 古谷野 潔 (九州大学大学院歯学
研究院口腔機能修復学講座インプラント・義歯補綴学分野)
- 課題8 宿主年齢と骨髄由来間葉系幹細胞の機能
○國友雅義¹⁾, 秋山謙太郎¹⁾, 古味佳子¹⁾, 大野充昭²⁾, 前川賢治¹⁾, 窪木拓男¹⁾ (¹⁾岡山大学
大学院医歯薬学総合研究科インプラント再生補綴学分野, ²⁾岡山大学大学院医歯薬学総合研究
科分子医化学分野)
- 課題9 $\alpha 7$ ニコチン性アセチルコリン受容体を標的とした骨再生技術の開発
○盛林昭仁¹⁾, 萱島浩輝¹⁾, 江草 宏^{1,2)}, 矢谷博文¹⁾ (¹⁾大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機
能再建学講座クラウンブリッジ補綴学分野, ²⁾東北大学大学院歯学研究科分子・再生歯科補綴学
分野)

日歯生涯研修事業用研修コード: 3199

■ 10:50 ~ 11:20 一般口演 バイオマテリアル1

座長 藤原 周 (朝日大)

- O1-1 磁性ナノ粒子を用いた歯胚細胞シートの作製およびエナメル質再生への応用
○古藤 航, 篠原義憲, 北村和幸, 和智貴紀, 牧平清超, 古谷野 潔 (九州大学大学院歯学研
究院口腔機能修復学講座クラウンブリッジ補綴学分野)
- O1-2 粉末タイプ義歯安定剤の組成, 粉液比および接合間距離が接合力に及ぼす影響
○岡崎ひとみ, 吉田和弘, 村田比呂司 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科歯科補綴学分野)
- O1-3 歯根膜組織の線維結合型コラーゲン発現の減少がメカニカルストレス感受性に及ぼす影響
○都築 尊¹⁾, 後藤加寿子²⁾, 堤 貴司¹⁾, 新郷由紀子¹⁾, 中 四良¹⁾, 高橋 裕¹⁾ (¹⁾福岡歯科
大学咬合修復学講座有床義歯学分野, ²⁾福岡医療短期大学歯科衛生学科)

日歯生涯研修事業用研修コード: 3103

■ 11:20 ~ 11:50 一般口演 バイオマテリアル2

座長 黒岩昭弘 (松歯大)

- O1-4 超分子ポリロタキサンを用いた短鎖脂肪酸の多点提示による慢性炎症治療薬の開発
○松井秀人^{1,2)}, 柴口 塊^{1,2)}, 田村篤志²⁾, 松村光明¹⁾, 三浦宏之¹⁾, 由井伸彦²⁾ (¹⁾東京医科
歯科大学大学院医歯学総合研究科摂食機能保存学分野, ²⁾東京医科歯科大学学生体材料工学研
究所有機生体材料学分野)
- O1-5 ジルコニア上のアパタイト薄膜形成に及ぼす分子プレカーサー法の加熱処理条件の影響
○廣田正嗣, 早川 徹 (鶴見大学歯学部歯科理工学講座)
- O1-6 埋入部位が吸収性骨補填材の骨形成および吸収性に及ぼす影響
○野崎浩佑¹⁾, 藤田和久²⁾, 三浦宏之²⁾, 永井亜希子¹⁾ (¹⁾東京医科歯科大学学生体材料工学研
究所生体材料機能医学分野, ²⁾東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科摂食機能保存学
分野)

日歯生涯研修事業用研修コード: 3103

■ 11 : 50 ~ 12 : 20 一般口演 バイオマテリアル 3

座長 山下潤朗 (福歯大)

- O1-7 ブタコラーゲンマトリックスを用いた軟組織増大処置後の組織学的分析
○笹川敦大¹⁾, 勝田康弘²⁾, 篠原隆介¹⁾, 小澤 誠³⁾, 上田一彦⁴⁾, 廣安一彦⁴⁾, 佐藤 聡⁵⁾, 辻村麻衣子⁶⁾, 渡邊文彦^{1,2)} (1) 日本歯科大学大学院新潟生命歯学研究科機能性咬合治療学, 2) 日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴学第2講座, 3) 東海支部, 4) 日本歯科大学新潟病院口腔インプラント科, 5) 日本歯科大学新潟生命歯学部歯周病学講座, 6) 日本歯科大学新潟生命歯学部解剖学第2講座)
- O1-8 III型コラーゲンコートハイドロキシアパタイトによる歯根膜幹細胞挙動の制御
○藤田和久^{1,2)}, 野崎浩佑¹⁾, 三浦宏之²⁾, 永井亜希子¹⁾ (1) 東京医科歯科大学学生体材料工学研究所生体材料機能医学分野, 2) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科摂食機能保存学分野)
- O1-9 酸化タングステンコーティングを施した義歯床用レジンの光触媒効果
○家持 剛¹⁾, 秋葉徳寿¹⁾, 吉寄太郎¹⁾, 守澤正幸¹⁾, 内田達郎¹⁾, 水口俊介¹⁾, 島田誠之²⁾ (1) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科高齢者歯科学分野, 2) ジャパンナノコート)

日歯生涯研修事業用研修コード : 3103

■ 13 : 20 ~ 13 : 50 一般口演 有床義歯 1

座長 岡崎定司 (大歯大)

- O1-10 口腔内スキャナを用いた下顎部分歯列欠損模型における光学印象の繰り返し精度比較
○葉山博工, 笛木賢治, 和達重郎, 若林則幸 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科部分床義歯補綴学分野)
- O1-11 植物精油による義歯床用レジンに付着したバイオフィルム除去効果と表面性状への影響
○小関優作¹⁾, 田中利佳²⁾, 前田伸子³⁾, 村田比呂司¹⁾ (1) 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科歯科補綴学分野, 2) 長崎大学病院, 3) 鶴見大学歯学部口腔微生物学講座)
- O1-12 義歯安定剤使用時の口腔微生物による生体為害性の評価
○村上智彦, 野村太郎, 米澤 悠, 原 総一郎, 近藤尚知 (岩手医科大学歯学部補綴・インプラント学講座)

日歯生涯研修事業用研修コード : 2608

■ 13 : 50 ~ 14 : 20 一般口演 有床義歯 2

座長 若林則幸 (医歯大)

- O1-13 可撤性部分床義歯装着患者における神経症傾向と口腔関連 QOL の関連
○石田桂大¹⁾, 野川敏史²⁾, 高山芳幸¹⁾, 中北芳伸³⁾, 齋藤正恭¹⁾, 横山敦郎¹⁾ (1) 北海道大学大学院歯学研究科口腔機能学講座口腔機能補綴学教室, 2) 北海道大学病院臨床研究開発センター, 3) 東北・北海道支部)
- O1-14 マシニングセンターによるチタン製可撤性義歯フレーム加工短縮化の試み
○三溝恒幸¹⁾, 北澤富美¹⁾, 倉澤郁文^{2,3)}, 羽鳥弘毅^{2,4)}, 黒岩昭弘^{2,3)}, 中本哲自^{2,4)} (1) 松本歯科大学病院歯科技工士室, 2) 松本歯科大学歯学部歯科補綴学講座, 3) 松本歯科大学大学院歯学独立研究科顎口腔機能制御学講座, 4) 松本歯科大学大学院歯学独立研究科健康増進口腔科学講座)
- O1-15 積層造形による有床義歯製作法の臨床応用に関する開発研究 第1報 一体型義歯の試作
○前畑 香¹⁾, 玉置勝司¹⁾, 生田龍平¹⁾, 片岡加奈子¹⁾, 藤原 基¹⁾, 糠澤真壱¹⁾, 平野綾夏²⁾, 杉山久幸²⁾, 井上絵理香³⁾, 清宮一秀³⁾, 金井大志⁴⁾ (1) 神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔機能修復学講座顎咬合機能回復補綴医学分野, 2) 丸紅情報システムズ株式会社, 3) 神奈川歯科大学附属病院技工科, 4) 原製作所)

日歯生涯研修事業用研修コード : 2608

■ 14 : 20 ~ 14 : 50 一般口演 クラウンブリッジ 1

座長 三浦宏之 (医歯大)

- O1-16 VICONシステムを用いた歯牙切削動作解析
○佐藤拓実¹⁾, 中村 太¹⁾, 林 豊彦²⁾, 佐藤直子³⁾, 昆 はるか³⁾, 小野高裕³⁾, 奥村暢旦⁴⁾, 藤井規孝^{1,4)} (1)新潟大学大学院医歯学総合研究科歯学教育研究開発学分野, (2)新潟大学大学院自然科学研究科電気情報工学専攻, (3)新潟大学大学院医歯学総合研究科包括歯科補綴学分野, (4)新潟大学医歯学総合病院歯科総合診療部)
- O1-17 試作したトレーによる全顎咬合印象法での歯列模型の咬合接触の再現性
○杉立尚城, 神田龍平, 安井由香, 山本真由, 田中順子, 田中昌博 (大阪歯科大学有歯補綴咬合学講座)
- O1-18 クラウン内部をセメントが流動する動態の観察
○中村健太郎¹⁾, 今井雅一²⁾, 永井秀明³⁾, 山本司将¹⁾, 佐伯光規³⁾, 竹島健太郎¹⁾, 富田真一³⁾, 方森和樹³⁾, 松前 団³⁾ (1)東海支部, (2)東関東支部, (3)関西支部)

日歯生涯研修事業用研修コード : 2607

■ 15 : 00 ~ 15 : 30 一般口演 クラウンブリッジ 2

座長 田中昌博 (大歯大)

- O1-19 新規加圧成形用二ケイ酸リチウムガラスセラミックスの機械的性質の検討
○松村茉由子, 駒田 亘, 菅野桐子, 林 建一郎, 進 千春, 大竹志保, 三浦宏之 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科摂食機能保存学分野)
- O1-20 ニッケルで刺激した角化細胞と樹状細胞におけるプレキシシン-セマフォリンの動態解析
○南 憲一, 渡邊 恵, 市川哲雄 (徳島大学大学院医歯薬学研究部口腔顎顔面補綴学分野)
- O1-21 歯科金属アレルギーに対する治療関連データを用いたアレルギー症状発症原因因子の検討
○高岡由梨那, 宮 福子, 長澤麻沙子, 秋葉奈美, 秋葉陽介, 魚島勝美 (新潟大学大学院医歯学総合研究科生体歯科補綴学分野)

日歯生涯研修事業用研修コード : 2607

■ 15 : 30 ~ 16 : 00 一般口演 インプラント 1

座長 越智守生 (北医療大)

- O1-22 化学合成法と加熱処理を施したナノ構造析出純チタン金属表面の生体適合性
○藤尾美穂, 小正 聡, 西崎 宏, 関野 徹, 岡崎定司 (大阪歯科大学)
- O1-23 ロケーターを用いた下顎インプラントオーバーデンチャーにおける顎堤の負担圧の検証
○佐藤宏明, 小林琢也, 高藤恭子, 三浦真悟, 横田 潤, 小山田勇太郎, 齊藤裕美子, 近藤尚知 (岩手医科大学歯学部補綴・インプラント学講座)
- O1-24 口腔関連 QoL を指標とした可撤性インプラント補綴治療の介入効果の検証
○楠本友里子, 横山紗和子, 安部友佳, 武川佳世, 原 真央子, 松本貴志, 樋口大輔, 馬場一美 (昭和大学歯学部歯科補綴学講座)

日歯生涯研修事業用研修コード : 2609

■ 16 : 00 ~ 16 : 30 一般口演 インプラント 2

座長 山内六男 (朝日大)

- O1-25 インプラント作業用模型の三次元データ取得における口腔内スキャナーの再現性の検証
○三好敬太, 横山紗和子, 田中晋平, 高場雅之, 西山弘崇, 上村江美, 馬場一美 (昭和大学歯学部歯科補綴学講座)
- O1-26 印象材の硬度が作業用模型におけるインプラントアナログの再現性に及ぼす影響
○作間健彦¹⁾, 山森徹雄^{1,2)}, 佐藤光一²⁾, 野中康平²⁾, 池田敏和^{1,2)}, 金子良平^{1,2)}, 高島浩二²⁾, 佐藤克彦³⁾, 本間 濟³⁾ (¹⁾ 奥羽大学大学院歯学研究科口腔機能回復学専攻, ²⁾ 奥羽大学歯学部歯科補綴学講座, ³⁾ 東北・北海道支部)
- O1-27 コラーゲン架橋構造がラットのオッセオインテグレーションに与える影響について
○スリマンムバラク, 長澤麻沙子, 水寫一尊, アルオマリーファラ, 魚島勝美 (新潟大学大学院医学総合研究科生体歯科補綴学分野)

日歯生涯研修事業用研修コード : 2609

■ 16 : 40 ~ 17 : 10 一般口演 口腔機能 1

座長 山下秀一郎 (東歯大)

- O1-28 成人健常有歯顎者における咬合面および頬側面方向からの臼歯部歯根膜触・圧覚閾値
○神田龍平, 向井憲夫, 吉川佑輔, 藤木 傑, 佐藤正樹, 田中順子, 田中昌博 (大阪歯科大学有歯補綴咬合学講座)
- O1-29 高齢者の最大咬合力と日常の食生活における咀嚼筋活動推定量との関連
○福武元良, 池邊一典, 松田謙一, 小川泰治, 榎木香織, 猪俣千里, 武下 肇, 三原佑介, 八田昂大, 前田芳信 (大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野)
- O1-30 咀嚼能力検査における咀嚼回数と咀嚼時間の影響
○富田真一¹⁾, 中村健太郎²⁾, 山本司将²⁾, 有井貫氏¹⁾, 太田志麻³⁾, 高田 剛¹⁾, 油谷征彦¹⁾, 溝井優生¹⁾, 田端和高¹⁾, 前原美保¹⁾, 光本宏司¹⁾, 三原一澄¹⁾, 渡部克宣¹⁾ (¹⁾ 関西支部, ²⁾ 東海支部, ³⁾ 中国・四国支部)

日歯生涯研修事業用研修コード : 2899

■ 17 : 10 ~ 17 : 40 一般口演 口腔機能 2

座長 菊池雅彦 (東北大)

- O1-31 座位姿勢の変化が咀嚼機能に及ぼす影響
○知野圭佑¹⁾, 坂口 究¹⁾, 丸山智章²⁾, 横山敦郎¹⁾ (¹⁾ 北海道大学大学院歯学研究科口腔機能学講座口腔機能補綴学教室, ²⁾ 茨城工業高等専門学校電気電子システム工学科)
- O1-32 主機能部位と咀嚼機能の関係 第一大臼歯と第二大臼歯との比較
○中村健太郎¹⁾, 山本司将¹⁾, 坂井義春²⁾, 西岡 徹³⁾, 高浜真一⁴⁾, 富澤 倫⁴⁾, 船木 弘⁴⁾, 倉田 豊⁵⁾, 成田裕紀⁵⁾, 大坂栄樹⁶⁾, 岡本直樹⁶⁾, 木下 滋⁶⁾ (¹⁾ 東海支部, ²⁾ 中国・四国支部, ³⁾ 関西支部, ⁴⁾ 東京支部, ⁵⁾ 東関東支部, ⁶⁾ 九州支部)
- O1-33 主機能部位が存在する位置と咬合接触面積と咬合力の関係
○山本司将¹⁾, 中村健太郎¹⁾, 浅井宏行²⁾, 梅田洋一郎³⁾, 大前雄亮¹⁾, 鈴木章彦¹⁾, 高嶋俊裕¹⁾, 寺尾陽一¹⁾, 富山和憲¹⁾, 林 裕久¹⁾, 松尾健生¹⁾, 森 圭右¹⁾ (¹⁾ 東海支部, ²⁾ 関西支部, ³⁾ 中国・四国支部)

日歯生涯研修事業用研修コード : 2899

7月2日(日) [第3会場]

■ 9:10 ~ 9:40 一般口演 症例

座長 佐藤裕二 (昭和大)

- O2-1 上顎インプラントオーバーデンチャー 磁性アタッチメントの一症例と文献学的考察
○岸本満雄 (九州支部)
- O2-2 機能負荷によるチタン製アバットメントの変形
○奈田憲二, 関根秀志, 宗像佑弥, 伊藤 悠 (奥羽大学歯学部歯科補綴学講座口腔インプラント学)
- O2-3 睡眠時ブラキシズムによる症状に対してスプリントおよびボツリヌス療法を行った1症例
○島田 淳, 島田百子 (東京支部)

日歯生涯研修事業用研修コード: 2699

■ 9:40 ~ 10:10 一般口演 クラウンブリッジ 3

座長 山森徹雄 (奥羽大)

- O2-4 高透光性マルチレイヤーモリシッククラウンのマスキング効果
○岡村光信¹⁾, 河野稔広²⁾, 清水博史³⁾, 鱒見進一²⁾, 伴 清治⁴⁾ (¹⁾九州支部, ²⁾九州歯科大学顎口腔欠損再構築学分野, ³⁾九州歯科大学学生体材料学分野, ⁴⁾愛知学院大学歯学部歯科理工学講座)
- O2-5 全顎咬合印象用トレーを用いた印象採得時における咽頭の三次元的様相
○田中順子¹⁾, 杉立尚城¹⁾, 池内慶介¹⁾, 松尾信至¹⁾, 覺道昌樹¹⁾, 秋山広徳²⁾, 蒲生祥子²⁾, 田中昌博¹⁾ (¹⁾大阪歯科大学有歯補綴咬合学講座, ²⁾大阪歯科大学歯科放射線学講座)
- O2-6 咬合印象を用いた咬合関係の再現性について 全顎咬合印象採得用バイトフォークの考案
○梅原一浩^{1,2)}, 四ツ谷 護²⁾, 佐藤 亨²⁾, 野本俊太郎²⁾, 黒田祥太²⁾, 宮田右京^{1,2)}, 高宮紳一郎^{2,3)}, 角倉 紳^{1,2)} (¹⁾東北・北海道支部, ²⁾東京歯科大学クラウンブリッジ補綴学講座, ³⁾東京支部)

日歯生涯研修事業用研修コード: 2607

■ 10:10 ~ 10:40 一般口演 クラウンブリッジ 4

座長 佐藤 亨 (東歯大)

- O2-7 歯冠部象牙質と接着性レジンセメントの接着強さに表面処理方法が与える影響
○山村高也, 大河貴久, 吉江 啓, 伊東優樹, 宮園将也, 藤井孝政, 鳥井克典, 田中昌博 (大阪歯科大学有歯補綴咬合学講座)
- O2-8 新たな咬合印象法と通常印象法により作製した補綴装置の咬合調整比較
○荘村泰治¹⁾, 山下正晃¹⁾, 西山貴浩¹⁾, 若林一道²⁾, 楠本直樹³⁾, 中村隆志²⁾, 樋口鎮央¹⁾ (¹⁾和田精密歯研(株), ²⁾大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座クラウンブリッジ補綴学分野, ³⁾楠本歯科医院)
- O2-9 ブリッジにおけるポンティック底部は口腔粘膜と接着するのか?
○熱田 生¹⁾, 鮎川保則¹⁾, 森本太一郎²⁾, 古橋明大¹⁾, 成松生枝¹⁾, 近藤綾介¹⁾, 古谷野 潔¹⁾ (¹⁾九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座インプラント・義歯補綴学分野, ²⁾森本歯科医院)

日歯生涯研修事業用研修コード: 2607

■ 10 : 50 ~ 11 : 20 一般口演 有床義歯 3

座長 皆木省吾 (岡山大)

- O2-10 加熱重合および積層造形で製作した義歯の人工歯排列位置の比較
○岡野日奈¹⁾, 田坂彰規^{1,4)}, 小泉ちあき²⁾, 竜 正大²⁾, 小高研人^{3,4)}, 松永 智^{3,4)}, 阿部伸一³⁾, 櫻井 薫²⁾, 山下秀一郎¹⁾ (1) 東京歯科大学パーシャルデンチャー補綴学講座, (2) 東京歯科大学老年歯科補綴学講座, (3) 東京歯科大学解剖学講座, (4) 東京歯科大学口腔科学研究センター)
- O2-11 遊離端欠損部顎堤粘膜に対する光学印象の精度検証 第2報 補綴臨床経験の差による比較
○上窪祐基¹⁾, 田坂彰規^{1,4)}, 西根万純¹⁾, 高梨琢也²⁾, 本間慎也²⁾, 松永 智^{3,4)}, 阿部伸一³⁾, 山下秀一郎¹⁾ (1) 東京歯科大学パーシャルデンチャー補綴学講座, (2) 東京歯科大学口腔インプラント学講座, (3) 東京歯科大学解剖学講座, (4) 東京歯科大学口腔科学研究センター)
- O2-12 鋳造および金属粉末レーザー積層造形法で製作したクラスプの形状再現性の精度検証
○加藤芳実, 田坂彰規, 加藤光雄, 山下秀一郎 (東京歯科大学パーシャルデンチャー補綴学講座)

日歯生涯研修事業用研修コード : 2608

■ 11 : 20 ~ 11 : 50 一般口演 有床義歯 4

座長 小正 裕 (大歯大)

- O2-13 陶歯を用いたリングライズドオクルージョンの再現性とその作業効率
○増田夢子¹⁾, 鈴木哲也¹⁾, 大木明子²⁾, 羽田多麻木¹⁾, 土田優美¹⁾, 安江 透³⁾, 上條真吾²⁾, 池田正臣¹⁾, 高橋英和³⁾ (1) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔機能再建工学分野, (2) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔基礎工学分野, (3) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔機材開発工学分野)
- O2-14 心臓ペースメーカーと歯科治療
○石井 拓, 大久保貴久, 大谷賢二, 永井栄一, 大山哲生, 中林晋也, 石上友彦 (日本大学歯学部歯科補綴学第II講座)
- O2-15 積層造形体の疲労強度に与えるサポート構造の影響
○加嶋祐佳¹⁾, 高市敦士¹⁾, 高橋英和²⁾, 若林則幸¹⁾ (1) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科部分床義歯補綴学分野, (2) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔機材開発工学分野)

日歯生涯研修事業用研修コード : 2608

■ 11 : 50 ~ 12 : 20 一般口演 有床義歯 5

座長 小出 馨 (日歯大新潟)

- O2-16 義歯安定剤使用者のための新しい義歯洗浄剤の開発
○原田佳枝¹⁾, 三村純代²⁾, 洪 光³⁾, 安部倉 仁⁴⁾, 二川浩樹²⁾, 西村正宏¹⁾ (1) 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科口腔顎顔面補綴学分野, (2) 広島大学大学院医歯薬保健学研究院口腔生物工学分野, (3) 東北大学大学院歯学研究科歯学イノベーションリエゾンセンター, (4) 広島大学大学院医歯薬保健学研究院先端歯科補綴学分野)
- O2-17 レーザー積層造形法にて製作した大連結子の寸法精度
○若杉俊通¹⁾, 熊野弘一¹⁾, 白石浩一¹⁾, 神原 亮¹⁾, 松川良平¹⁾, 樋口鎮央²⁾, 武部 純¹⁾ (1) 愛知学院大学歯学部有床義歯学講座, (2) 和田精密歯研株式会社)
- O2-18 10種類の食品で義歯装着者の食品摂取状況を評価する咀嚼スコア10の有用性の検討
○川田大助, 佐藤裕二, 北川 昇, 桑澤実希, 中津百江 (昭和大学歯学部高齢者歯科学講座)

日歯生涯研修事業用研修コード : 2608

■ 13 : 20 ~ 13 : 50 一般口演 トランスレーショナルリサーチ, 臨床イノベーション

座長 都尾元宣 (朝日大)

- O2-19 低温劣化を抑制した高透光性ジルコニアの開発
○中野芳郎, 中村隆志, 岡村真弥, 塩見幸子, 天羽康介, 宇佐美博文, 若林一道, 矢谷博文 (大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座クラウンブリッジ補綴学分野)
- O2-20 光学印象の精度と誤差の変化率に関する研究
○深澤翔太, 大平千之, 金村清孝, 田邊憲昌, 小熊ひろみ, 工藤 努, 近藤尚知 (岩手医科大学歯学部補綴・インプラント学講座)
- O2-21 パウダージェットデポジション法を用いた TiO₂ 配合 HA 膜生成に関する基礎的研究
○泉田一賢¹⁾, 赤塚 亮¹⁾, 富江瑛彦²⁾, 久慈千栄子²⁾, 厨川常元^{2,3)}, 佐々木啓一¹⁾ (¹⁾ 東北大学大学院歯学研究科口腔システム補綴学分野, ²⁾ 東北大学大学院工学研究科機能システム学講座ナノ精度加工学分野, ³⁾ 東北大学大学院医工学研究科生体機械システム医工学講座生体機能創成学分野)

日歯生涯研修事業用研修コード : 3199

■ 13 : 50 ~ 14 : 20 一般口演 ニューロサイエンス 1

座長 伊藤 裕 (愛院大)

- O2-22 外側翼突筋のジストニアに対するボツリヌス毒素注射用 CAD/CAM 装置
○吉田和也 (独立行政法人国立病院機構京都医療センター歯科口腔外科)
- O2-23 下顎第一大臼歯の咀嚼運動矢状面機能運動路と咬合平面の傾斜の関与
○池田一洋, 吉田浩一, 山下秀一郎 (東京歯科大学パーシャルデンチャー補綴学講座)
- O2-24 咀嚼運動時の情動変化が脳血流量に及ぼす影響
○櫻本亜弓¹⁾, 長谷川陽子¹⁾, 阪上 稔²⁾, 堀井宣秀¹⁾, 小野高裕³⁾, 岸本裕充¹⁾ (¹⁾ 兵庫医科大学歯科口腔外科学講座, ²⁾ 関西支部, ³⁾ 新潟大学大学院医歯学研究科包括歯科補綴学分野)

日歯生涯研修事業用研修コード : 2899

■ 14 : 20 ~ 14 : 50 一般口演 ニューロサイエンス 2

座長 倉澤郁文 (松歯大)

- O2-25 口腔の形状弁別認知にかかわる前頭皮質ワーキングメモリーの許容
○長谷川淑子, 神谷和伸, 成田紀之 (日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座)
- O2-26 顎ジストニア治療における経頭蓋磁気刺激の効果
○大久保昌和, 神谷和伸, 成田紀之 (日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座)
- O2-27 睡眠時無呼吸症候群男性患者における肥満率に対する食行動と食事内容との関係
○猪子芳美^{1,2)}, 清水公夫²⁾, 近藤さつき³⁾, 岡田一哉⁴⁾, 井田 泉⁵⁾ (¹⁾ 日本歯科大学新潟病院睡眠歯科センター, ²⁾ 日本歯科大学新潟病院総合診療科, ³⁾ 日本歯科大学新潟病院栄養科, ⁴⁾ 東北・北海道支部, ⁵⁾ 関越支部)

日歯生涯研修事業用研修コード : 2899

■ 15 : 00 ~ 15 : 30 一般口演 バイオロジー 1

座長 関根秀志 (奥羽大)

- O2-28 血管新生阻害薬が歯槽骨創傷治癒に与える影響
○高江洲 雄^{1,2)}, 佐藤博信¹⁾, 山下潤朗²⁾ (¹⁾福岡歯科大学咬合修復学講座冠橋義歯学分野,
²⁾福岡歯科大学咬合修復学講座先端包括歯科)
- O2-29 機械的刺激が増生骨の維持に与える影響
○宮崎揚子¹⁾, 柳 束¹⁾, 佐藤絢子¹⁾, 城戸寛史¹⁾, 山下潤朗²⁾ (¹⁾福岡歯科大学咬合修復学講座口腔インプラント学分野,
²⁾福岡歯科大学咬合修復学講座先端包括歯科)
- O2-30 潰瘍性口内炎疼痛にエンドセリン-1 が関与する
○野代知孝^{1,2)}, 人見涼露²⁾, 正木千尋¹⁾, 小野堅太郎²⁾, 細川隆司¹⁾ (¹⁾九州歯科大学口腔再建リハビリテーション学分野,
²⁾九州歯科大学生理学学分野)

日歯生涯研修事業用研修コード : 3199

■ 15 : 30 ~ 16 : 00 一般口演 バイオロジー 2

座長 澤瀬 隆 (長崎大)

- O2-31 MDF 法を用いた新規純チタンの開発とインプラント材料としての応用
○荒井佑輔¹⁾, 星 憲幸¹⁾, 熊坂知就¹⁾, 早川 徹²⁾, 大久保力廣³⁾, 三浦博己⁴⁾, 木本克彦¹⁾
(¹⁾神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔機能修復学講座咀嚼機能制御補綴学分野,
²⁾鶴見大学歯学部歯科理工学講座,
³⁾鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座,
⁴⁾豊橋技術科学大学大学院工学研究科)
- O2-32 強心配糖体による口腔悪性腫瘍再発抑制効果の検討
○齋藤五月, 大林美穂, 館野 敦, 月村直樹, 秋田大輔, 豊間 均, 三橋 裕, 石上友彦 (日本大学歯学部歯科補綴学第II講座)
- O2-33 骨髄細胞, 骨芽細胞様細胞における TNF- α 短期刺激による細胞学的・組織学的検討
○照屋大貴^{1,2)}, 井上美穂¹⁾, 成谷美緒¹⁾, Resmi Raju¹⁾, 宮城 (上枝) 麻友¹⁾, 大島正充¹⁾, 松香芳三¹⁾ (¹⁾徳島大学大学院医歯薬学研究部顎機能咬合再建学分野,
²⁾徳島大学歯学部)

日歯生涯研修事業用研修コード : 3199

■ 16 : 00 ~ 16 : 30 一般口演 口腔機能 3

座長 越野 寿 (北医療大)

- O2-34 メタボロームを用いた唾液の網羅的解析 —咬合咀嚼刺激による変化—
○大熊信行¹⁾, 斉田牧子¹⁾, 杉本昌弘²⁾, 川西範繁¹⁾, 星 憲幸¹⁾, 木本克彦¹⁾ (¹⁾神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔機能修復学講座咀嚼機能制御補綴学分野,
²⁾慶應義塾大学先端生命科学研究所)
- O2-35 補綴治療が唾液性状に与える影響の基礎的研究
○川西範繁¹⁾, 星 憲幸¹⁾, 斉田牧子¹⁾, 一色ゆかり¹⁾, 大熊信行¹⁾, 杉本昌弘²⁾, 木本克彦¹⁾
(¹⁾神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔機能修復学講座咀嚼機能制御補綴学分野,
²⁾慶應義塾大学先端生命科学研究所)
- O2-36 総義歯補綴治療前後における咀嚼運動経路と咀嚼運動リズム
○倉持淳子, 志賀 博, 中島邦久, 稲富健祐, 寺辺やよひ, 武田悦孝, 佐藤晃夫, 岡村健弘, 三輪雅彦, 石原裕之, 小松義典 (日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第1講座)

日歯生涯研修事業用研修コード : 2899

■ 16 : 40 ~ 17 : 10 一般口演 口腔機能 4

座長 服部佳功 (東北大)

- O2-37 筋機能発現における好中球の産生するIL-1 β の糖代謝調節機構
○土谷昌広¹⁾, チャヤニチャウイワシナコン²⁾, 佐々木啓一²⁾, 渡部芳彦³⁾, 渡邊 誠⁴⁾ (¹⁾東北福祉大学保健看護学科, ²⁾東北大学大学院歯学研究科口腔システム補綴学分野, ³⁾東北福祉大学総合マネジメント学部, ⁴⁾東北福祉大学総合福祉学部)
- O2-38 丹波圏域在住高齢者における歯数・咬合と転倒リスクとの関連性
○長谷川陽子¹⁾, 堀井宣秀¹⁾, 櫻本亜弓¹⁾, 永井宏達²⁾, 新村 健³⁾, 岸本裕充¹⁾ (¹⁾兵庫医科大学歯科口腔外科学講座, ²⁾兵庫医療大学リハビリテーション学部理学療法学科, ³⁾兵庫医科大学総合診療科)
- O2-39 オーラルフレイル関連兆候と食行動との関係 噛むことの重要性
○後藤崇晴, 岸本卓大, 檜原 司, 松田 岳, 渡邊 恵, 永尾 寛, 市川哲雄 (徳島大学大学院医歯薬学研究部口腔顎顔面補綴学分野)

日歯生涯研修事業用研修コード : 2899

■ 17 : 10 ~ 17 : 40 一般口演 口腔機能と全身疾患

座長 藤澤政紀 (明海大)

- O2-40 嗅覚刺激が睡眠時ブラキシズムに及ぼす影響
○大川 穰, 鳴海史子, 上田脩司, 曾根峰世, 濱坂弘毅, 松井藍有美, 染川正多, 岡本和彦, 大川周治 (明海大学歯学部機能保存回復学講座歯科補綴分野)
- O2-41 睡眠時ブラキシズムにおけるリズム性および非リズム性咀嚼筋活動の相反性初夜効果
○原木真吾¹⁾, 辻坂亮子¹⁾, 瑞森崇弘¹⁾, 石垣尚一¹⁾, 矢谷博文¹⁾, 加藤隆史²⁾ (¹⁾大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座クラウンブリッジ補綴学教室, ²⁾大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座口腔生理学教室)
- O2-42 神奈川歯科大学附属病院における咬合違和感症候群患者に関する調査
○玉置勝司¹⁾, 島田 淳¹⁾, 一色ゆかり²⁾, 澁谷智明¹⁾, 仲井太心¹⁾, 和気裕之¹⁾, 宮地英雄³⁾ (¹⁾神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔機能修復学講座顎咬合機能回復補綴医学分野, ²⁾神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔機能修復学講座咀嚼機能制御補綴学分野, ³⁾北里大学医学部精神科学)

日歯生涯研修事業用研修コード : 2499

7月1日(土), 7月2日(日)

[第5会場]

■ポスター討論 : 12 : 20 ~ 13 : 10

演題番号末尾が奇数の演題 7月1日(土), 偶数の演題 7月2日(日)

■ポスター発表 インプラント

- P-1 垂直的骨量の不足した症例におけるインプラント体の選択に関する力学的検討
○荒木 悠, 中野 環, 小野真司, 森脇大善, 矢谷博文 (大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座クラウンブリッジ補綴学分野)
- P-2 サプリメント療法および光機能化はインプラント体周囲周囲骨の骨形成を促進させるか?
○佐藤博紀¹⁾, 渡辺丈紘²⁾, 高橋卓裕²⁾, 中田浩史²⁾, 谷本安浩³⁾, 砂治大介¹⁾, 佐藤佳奈美¹⁾, 鈴木亜沙子¹⁾, 齋藤由貴²⁾, 宮内良樹²⁾, 望月 剛²⁾, 北川剛至⁴⁾, 村上 洋⁴⁾, 木本 統²⁾, 河相安彦²⁾ (¹⁾ 日本大学松戸歯学部大学院松戸歯学研究科有床義歯補綴学専攻, ²⁾ 日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座, ³⁾ 日本大学松戸歯学部歯科生体材料学講座, ⁴⁾ 日本大学松戸歯学部口腔インプラント学講座)
- P-3 レドックスインジェクタブルゲルの骨芽様細胞に対する抗酸化作用
○小澤僚太郎¹⁾, 齊田牧子¹⁾, 坂上 奨²⁾, 丸尾勝一郎¹⁾, 長崎幸夫²⁾, 木本克彦¹⁾ (¹⁾ 神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔機能修復学講座咀嚼機能制御補綴学分野, ²⁾ 筑波大学数理物質系)
- P-4 下顎インプラントオーバーデンチャーにおける骨レベルが曲げひずみに与える影響
○ファムグエンクオン, 高橋利士, 権田知也, 富田章子, 西村優一, 前田芳信 (大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野)
- P-5 純チタン金属表面におけるアルカリ処理の濃度変化が遺伝子発現に与える影響
○吉岡紀代子, 小正 聡, 田口洋一郎, 楠本哲次, 吉村計宣, 仲田重樹, 西崎 宏, 岡崎定司 (大阪歯科大学)
- P-6 タンパク質コーティングした TNS 析出純チタン金属が細胞の初期接着能に与える影響
○Luyuan Chen, 小正 聡, 楠本哲次, 寺田知里, 西崎真理子, Honghao Zhang, 西崎 宏, 岡崎定司 (大阪歯科大学)
- P-7 ナノ構造析出純チタン金属へのタンパク質コーティングが硬組織分化誘導能に与える影響
○寺田知里, 小正 聡, 楠本哲次, 西崎真理子, 蘇 英敏, Honghao Zhang, Luyuan Chen, 西崎 宏, 岡崎定司 (大阪歯科大学)
- P-8 ポリエーテルケトン(PEKK)と前装用レジンの接着に対するプライマーの効果
○崎原通乃, 平 曜輔, 尾立哲郎, 澤瀬 隆 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科口腔インプラント学分野)
- P-9 インプラント周囲組織における生物学的幅径および軟組織封鎖性の検討
○成松生枝, 鮎川保則, 熱田 生, 大城和可奈, 安波礼之, 古橋明大, 古谷野 潔 (九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座インプラント・義歯補綴学分野)
- P-10 CAD/CAM 冠用マルチレイヤーブロックの色調再現性の検討 一支台歯色の影響
○末瀬一彦 (大阪歯科大学歯科審美学室)
- P-11 生体ベース非線形骨改造アルゴリズムに基づくインプラント周囲の経年的骨密度変化解析
○依田信裕, 小針啓司, 松舘芳樹, 川田哲男, 佐々木啓一 (東北大学大学院歯学研究科口腔システム補綴学分野)
- P-12 炭酸アパタイト製人工骨の評価 インプラント周囲での有用性について
○増田 聖, 重光勇介, 山中克之, 熊谷知弘 (株式会社ジーシー研究所)

- P-13 口腔由来乳酸菌が歯肉上皮細胞におけるタイトジャンクションに与える影響
○遠藤希実佳¹⁾, 首藤崇裕^{2,3)}, 三村純代²⁾, 田地 豪²⁾, 木原琢也²⁾, 河原和子²⁾, 二川浩樹²⁾
(¹⁾ 広島大学歯学部口腔健康科学科口腔工学専攻, (²⁾ 広島大学大学院医歯薬保健学研究院統合健康科学部門口腔生物工学分野, (³⁾ 大阪歯科大学医療保健学部口腔工学科)

■ポスター発表 クラウンブリッジ

- P-14 唾液汚染除去法が補助的保持形態を内面に付与した冠の接着強さにおよぼす影響
○新妻環紀¹⁾, 新谷明一^{1,2)}, 清水沙久良¹⁾, 黒田聡一¹⁾, 松田哲治³⁾, 五味治徳¹⁾ (¹⁾ 日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第2講座, (²⁾ トゥルク大学, (³⁾ 東京支部)
- P-15 歯科材料から溶出した成分の抗菌性
○松浦理太郎¹⁾, 溝渕真吾¹⁾, 加藤喬大¹⁾, 山添正稔¹⁾, 山本哲也²⁾ (¹⁾ 山本貴金属地金株式会社, (²⁾ 高知大学医学部歯科口腔外科学講座)
- P-16 接着操作法が根管内の気泡混入と接着力に及ぼす影響
○山崎裕太, 荒井良明, 河村篤志, 高嶋真樹子, 永井康介 (新潟大学医歯学総合病院顎関節治療部)
- P-17 前装方法と材料の違いがインプラント支持ジルコニアクラウンの破壊強度に及ぼす影響
○高田宏起¹⁾, 本田順一¹⁾, 神尾伸吾¹⁾, 小峰 太^{1,2)}, 金子行夫¹⁾, 鳥塚周孝¹⁾, 吉成勝海¹⁾, 成島琴世³⁾, 松村英雄^{1,2)} (¹⁾ 日本大学歯学部歯科補綴学第III講座, (²⁾ 日本大学歯学部総合歯学研究高度先端医療研究部門, (³⁾ 関越支部)
- P-18 欠損補綴治療における治療1年後の口腔関連 QOL とレスポンスシフト予備的検討
○逢坂 卓¹⁾, 大野 彩²⁾, 中川晋輔¹⁾, 三野卓哉¹⁾, 黒崎陽子¹⁾, 小山絵理¹⁾, 沼本 賢¹⁾, 天野友貴¹⁾, 徳本佳奈¹⁾, 前川賢治¹⁾, 窪木拓男¹⁾ (¹⁾ 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科インプラント再生補綴学分野, (²⁾ 岡山大学新医療研究開発センター)
- P-19 レジンブロックとレジンセメントとの接着強さにプライミング処理の違いが与える影響
○吉江 啓, 大河貴久, 伊東優樹, 福本貴宏, 山村高也, 池内慶介, 藤井孝政, 田中昌博 (大阪歯科大学有歯補綴咬合学講座)
- P-20 新規デュアルキュアレジンセメントの修復物内部における硬化の経時的変化
○松村光祐¹⁾, 塩向大作¹⁾, 村原貞昭¹⁾, 嶺崎良人²⁾, 鈴木司郎³⁾, 南 弘之¹⁾ (¹⁾ 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科咬合機能補綴学分野, (²⁾ 鹿児島大学病院冠・ブリッジ科, (³⁾ アラバマ大学バーミングハム校歯学部バイオマテリアル学分野)
- P-21 グラデーション構造のハイブリッドレジンブロックの評価
○溝渕真吾, 加藤喬大, 松浦理太郎, 山添正稔 (山本貴金属地金株式会社)
- P-22 CAD/CAM 冠用ハイブリッドレジンブロックの歯ブラシ摩耗後の表面特性
○吉田圭一¹⁾, 澤瀬 隆²⁾ (¹⁾ 長崎大学病院保存・補綴歯科冠補綴治療室, (²⁾ 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科口腔インプラント学分野)
- P-23 多目的プライマーが各種歯科用金属に対するレジンセメントの接着強さにおよぼす効果
○上之段麻美¹⁾, 村原貞昭²⁾, 鈴木司郎³⁾, 嶺崎良人¹⁾, 南 弘之²⁾ (¹⁾ 鹿児島大学病院冠・ブリッジ科, (²⁾ 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科咬合機能補綴学分野, (³⁾ アラバマ大学バーミングハム校歯学部バイオマテリアル学分野)
- P-24 東京医科歯科大学歯学部附属病院歯科アレルギー外来における来院患者の動向
○岡本寛之, 松村光明, 北崎祐之, 能木場公彦, 馬場史郎, 福本いづみ, 柴口 塊, 松村茉由子, 吉田恵一, 三浦宏之 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科摂食機能保存学分野)
- P-25 セラスマート 270 の 2 軸及び 3 点曲げ試験における機械的強度差
○伊藤小町, 上野貴之, 熊谷知弘 (株式会社ジーシー研究所)
- P-26 リチウムシリケートガラスセラミックスの摩耗特性評価
○三宅貴大, 熊谷知弘 (株式会社ジーシー研究所)

- P-27 CAD/CAM システムを用いて製作したハイブリッドレジンクラウンの機械的強度
○岡田良太¹⁾, 朝倉正紀²⁾, 安藤彰浩¹⁾, 熊野弘一¹⁾, 河合達志²⁾, 伴 清治²⁾, 武部 純¹⁾
(¹⁾ 愛知学院大学歯学部有床義歯学講座, ²⁾ 愛知学院大学歯学部歯科理工学講座)
- P-28 CAD/CAM 冠臨床における「ジーセム ONE」の接着性能
○南澤博人, 熊谷知弘 (株式会社ジーシー研究所)
- P-29 アクリルレジンと金合金の接着界面における微量有機硫黄化合物の分析
○平場晴斗¹⁾, 小泉寛恭^{2,3)}, 野川博史^{2,3)}, 中山大介²⁾, 佐伯 修²⁾, 赤澤伸隆¹⁾, 古地美佳⁴⁾, 塩野英昭²⁾, 棧 淑行^{2,3)}, 松村英雄^{2,3)} (¹⁾ 日本大学大学院歯学研究科応用口腔科学分野, ²⁾ 日本大学歯学部歯科補綴学第Ⅲ講座, ³⁾ 日本大学歯学部総合歯学研究科高度先端研究部門, ⁴⁾ 日本大学歯学部総合歯科学分野)
- P-30 機能的咬合印象法により製作したクラウンの咬合接触評価
○清水 賢¹⁾, 佐藤洋平¹⁾, 松本敏光²⁾, 大久保力廣¹⁾ (¹⁾ 鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座, ²⁾ 鶴見大学歯学部歯科技工研修科)
- P-31 光透視による支台歯マージン形状の検出の試み (第3報)
○上田康夫¹⁾, 加藤祐次²⁾, 山口泰彦¹⁾, 清水孝一³⁾ (¹⁾ 北海道大学大学院歯学研究科口腔機能学講座冠橋義歯補綴学教室, ²⁾ 北海道大学大学院情報科学研究科, ³⁾ 早稲田大学大学院情報生産システム研究科)
- P-32 東京医科歯科大学歯学部附属病院における各種補綴装置の製作状況に関する統計的調査
○進 千春, 岡田大蔵, 浅野良奈, 力徳史朗, 白崎彩佳, 瀧田美奈, 柴口 塊, 吉田恵一, 三浦宏之 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科摂食機能保存学分野)
- P-33 セメント厚さを制御した接着装置によるジルコニアとコア用レジンのせん断接着強さ評価
○本村一朗¹⁾, 中村英雄²⁾, 田中繁一³⁾ (¹⁾ 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科高齢者歯科学分野, ²⁾ 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科先端材料評価学分野, ³⁾ 静岡大学大学院工学領域機械工学系列)
- P-34 冠内面に付与した補助的保持形態のマイクロ CT による再現性評価
○清水沙久良¹⁾, 新谷明一^{1,2)}, 新妻瑛紀¹⁾, 黒田聡一¹⁾, 五味治徳¹⁾ (¹⁾ 日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第2講座, ²⁾ トゥルク大学)
- P-35 CAD/CAM 用レジンブロックの接着強さにおけるサンドブラスト後の経過時間の影響
○浅野良奈, 大竹志保, 稲垣祐久, 藤田理雅, 大森 哲, 三浦宏之 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科摂食機能保存学分野)
- P-36 S-PRG 配合前装冠用レジンへの Candida albicans の付着性
○森 昭徳¹⁾, 澤田季子¹⁾, 河合良亮¹⁾, 牛丸忠大¹⁾, 脇 知邦¹⁾, 本多 歩¹⁾, 野々垣龍吾¹⁾, 宇野光乗¹⁾, 岡 俊男¹⁾, 倉知正和²⁾, 石神 元¹⁾ (¹⁾ 朝日大学歯学部口腔機能修復学講座歯科補綴学分野, ²⁾ 朝日大学歯学部歯科医学教育推進センター)
- P-37 本学附属病院におけるセラミック修復の推移
○東 冬一郎¹⁾, 星 憲幸¹⁾, 熊坂知就¹⁾, 荒井佑輔¹⁾, 川西範繁¹⁾, 大橋 桂²⁾, 二瓶智太郎²⁾, 木本克彦¹⁾ (¹⁾ 神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔機能修復学講座咀嚼機能制御補綴学分野, ²⁾ 神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔科学講座臨床・バイオマテリアル分野)
- P-38 新規 CAD/CAM 用レジンブロックの特性について
○二瓶智太郎¹⁾, 大橋 桂¹⁾, 大野晃教²⁾, 小徳瑞紀²⁾, 山口紘章¹⁾, 星 憲幸²⁾, 木本克彦²⁾ (¹⁾ 神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔科学講座臨床・バイオマテリアル分野, ²⁾ 神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔機能修復学講座咀嚼機能制御補綴学分野)
- P-39 環境光が光学印象の真度と精度に与える影響
○荒木田俊夫¹⁾, 金澤 学¹⁾, 岩城麻衣子²⁾, 鈴木哲也³⁾, 安藤一夫¹⁾, 小林章二⁴⁾, 水口俊介¹⁾ (¹⁾ 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科高齢者歯科学分野, ²⁾ 東京医科歯科大学総合診療科, ³⁾ 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔機能再建工学分野, ⁴⁾ 東京支部)
- P-40 新規 PEEK 材に対するレジンセメントの引張接着強さ
○力徳史朗, 大竹志保, 吉田恵一, 三浦宏之 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科摂食機能保存学分野)

- P-41 新規加圧成型用二ケイ酸リチウムガラスセラミックスを用いて製作したクラウンの適合度
○菅野桐子, 松村菜由子, 林 建一郎, 進 千春, 駒田 亘, 稲垣祐久, 植田洋二, 藤田理雅, 岡田大蔵, 三浦宏之 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科摂食機能保存学分野)
- P-42 新規加圧成形用セラミックスに対する接着性レジンセメントの引張接着強さ
○林 建一郎, 大竹志保, 大森 哲, 根本怜奈, 浅野良奈, 力徳史朗, 三浦宏之 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科摂食機能保存学分野)
- P-43 各種市販前処理材の接着強さに関する研究 (第4報)
○大野晃教¹⁾, 小徳瑞紀¹⁾, 小林弘明¹⁾, 山口紘章²⁾, 大橋 桂²⁾, 二瓶智太郎²⁾, 木本克彦¹⁾
(¹⁾ 神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔機能修復学講座咀嚼機能制御補綴学分野, ²⁾ 神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔科学講座クリニカル・バイオマテリアル分野)
- P-44 10-MDP プライマー処理前の洗浄がジルコニアの接着に及ぼす影響
○吉原久美子¹⁾, 長岡紀幸²⁾, 丸尾幸憲³⁾, 吉田靖弘⁴⁾ (¹⁾ 岡山大学病院新医療研究開発センター, ²⁾ 岡山大学歯学部先端領域研究センター, ³⁾ 岡山大学病院咬合・義歯補綴科, ⁴⁾ 北海道大学大学院歯学研究科口腔健康科学講座生体材料工学教室)
- P-45 歯質用プライマー併用可能型セルフアドヒーシブレジンセメントのせん断接着強さ
○黒田聡一¹⁾, 新谷明一^{1,2)}, 新妻瑛紀¹⁾, 清水沙久良¹⁾, 小城研二³⁾, 五味治徳¹⁾ (¹⁾ 日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第2講座, ²⁾ トウルク大学, ³⁾ 東京支部)
- P-46 冠内面に付与した補助的保持形態が接着強さにおよぼす影響 GIと唾液除去の効果
○新谷明一^{1,2)}, 新妻瑛紀¹⁾, 清水沙久良¹⁾, 山田眞理³⁾, 黒田聡一¹⁾, 五味治徳¹⁾ (¹⁾ 日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第2講座, ²⁾ トウルク大学, ³⁾ 西関東支部)
- P-47 CAD/CAM システムを用いて製作したハイブリッドレジン冠の適合精度の評価
○浅野 隆, 阿部圭甫, 川良美佐雄, 鈴木浩司, 吉村万由子, 生田真衣, 佐野素子, 杉原大介, 吉崎 聡, 岡田恵理子, 黒木俊一, 小見山 道 (日本大学松戸歯学部顎口腔機能治療学講座)

■ポスター発表 ニューロサイエンス

- P-48 咀嚼における視覚情報のかかわり—予備的研究
○神谷和伸, 成田紀之 (日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座)
- P-49 日中のバイオフィードバック訓練が夜間睡眠時のグライディングに及ぼす影響
○斉藤小夏¹⁾, 佐藤雅介¹⁾, 大塚英稔¹⁾, 園川隼人²⁾, 野原倫久²⁾, 猪野照夫¹⁾, 岩瀬直樹¹⁾, 勅使河原大輔¹⁾, 吉田有里¹⁾, 藤田崇史¹⁾, 橋戸広大¹⁾, 寺田信幸²⁾, 藤澤政紀¹⁾ (¹⁾ 明海大学歯学部機能保存回復学講座歯科補綴学分野, ²⁾ 東洋大学大学院理工学研究科)
- P-50 唾液中エクソソーム由来 miRNA を用いた受動喫煙者の肺がんリスク調査の試み
○井戸垣 潤¹⁾, 上村優介¹⁾, 渋谷友美¹⁾, 橋本典也²⁾, 高橋一也¹⁾, 今井弘一²⁾, 小正 裕¹⁾
(¹⁾ 大阪歯科大学高齢者歯科学講座, ²⁾ 大阪歯科大学歯科理工学講座)
- P-51 閉口ジストニア患者の咀嚼時顎頸筋活動協調にかかわる感覚トリックの効果
○石井智浩, 神谷和伸, 成田紀之 (日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座)
- P-52 義歯の装着は咀嚼時の顎頸筋活動の同調性を向上する
○小出恭代, 神谷和伸, 成田紀之 (日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座)
- P-53 義歯のリハビリテーション効果に関する研究 第6報 ERP 成分の認知心理学的解釈の試み
○青木伸一郎^{1,2)}, 大沢聖子^{1,2)}, 長野裕行³⁾ (¹⁾ 日本大学松戸歯学部歯科総合診療学講座, ²⁾ 日本大学松戸歯学部口腔科学研究所, ³⁾ 東関東支部)
- P-54 メカニカルストレスにおける幹細胞関連ケモカイン SDF-1 と CXCR4 の発現相関
○後藤加寿子¹⁾, 都築 尊²⁾, 堤 貴司²⁾, 佐藤博信³⁾ (¹⁾ 福岡医療短期大学歯科衛生学科, ²⁾ 福岡歯科大学咬合修復学講座有床義歯学分野, ³⁾ 福岡歯科大学咬合修復学講座冠橋義歯学分野)

- P-55 マウスうま味（アミノ酸）受容体 T1R1 遺伝子の転写調節機構の解析
○平田祐基^{1,2)}，豊野 孝²⁾，正木千尋¹⁾，細川隆司¹⁾，瀬田祐司²⁾（¹⁾九州歯科大学口腔再建リハビリテーション学分野，²⁾九州歯科大学解剖学分野）
- P-56 施設入所高齢者における軟食摂取時の自律神経変動
○太田 緑，上田貴之，櫻井 薫（東京歯科大学老年歯科補綴学講座）
- P-57 口蓋床装着による口腔内環境の変化が健常者の口腔機能と咀嚼時の脳活動に及ぼす影響
○稲用友佳¹⁾，笛木賢治¹⁾，臼井信男²⁾，若林則幸¹⁾（¹⁾東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科部分床義歯補綴学分野，²⁾東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科認知神経生物学分野）
- P-58 歯の喪失および飼料形態の違いがマウスの学習・記憶能に及ぼす影響
○竹田洋輔，大上博史，是竹克紀，岡田信輔，佐々木美和，赤川安正，津賀一弘（広島大学大学院医歯薬保健学研究院応用生命科学部門先端歯科補綴学研究室）
- P-59 ブラキシズムが脳の形態変化へ及ぼす影響
○関端哲士¹⁾，飯田 崇¹⁾，村岡宏隆²⁾，本田実加¹⁾，増田 学¹⁾，川良美佐雄¹⁾，金田 隆²⁾，小見山 道¹⁾（¹⁾日本大学松戸歯学部顎口腔機能治療学講座，²⁾日本大学松戸歯学部放射線学講座）

■ポスター発表 バイオマテリアル

- P-60 重症低ホスファターゼ症モデルマウスの顎骨及び歯に対する酵素補充遺伝子治療の効果
○池上 良，佐藤 亨（東京歯科大学クラウンブリッジ補綴学講座）
- P-61 チタンの表面形状と表面特性の経時的変化が細胞反応に与える影響
○西村朋子，荻野洋一郎，鮎川保則，古谷野 潔（九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座インプラント・義歯補綴学分野）
- P-62 繊維強化型コンポジットレジンに対する前装材料の接着特性に及ぼす繊維配置の影響
○安江 透¹⁾，岩崎直彦¹⁾，鈴木哲也²⁾，高橋英和¹⁾（¹⁾東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔機材開発工学分野，²⁾東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔機能再建工学分野）
- P-63 顎骨再生を目的とした顎骨骨髄間質細胞培養法の開発
○末廣史雄，藤島 慶，益崎与泰，原田佳枝，柳澤嵩大，西村正宏（鹿児島大学大学院医歯学総合研究科口腔顎顔面補綴学分野）
- P-64 拔牙部軟組織の血管新生抑制は薬剤関連顎骨壊死の主原因とはならない
○黒嶋伸一郎^{1,2)}，中島和慶¹⁾，佐々木宗輝¹⁾，玉城沙貴¹⁾，早野博紀¹⁾，澤瀬 隆¹⁾（¹⁾長崎大学大学院医歯薬学総合研究科口腔インプラント学分野，²⁾長崎大学病院口腔・顎・顔面インプラントセンター）
- P-65 微細軟組織の骨再生に対する効果の予備的研究
○川上紗和子，塩田 真，今 一裕，中村慎太郎，藤森達也（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科インプラント・口腔再生医学分野）
- P-66 添加物配合飼料が大腿骨骨幹中央部骨構造に与える影響 RAMAN 分光法による基礎研究
○佐藤佳奈美¹⁾，佐藤博紀²⁾，砂治大介²⁾，渡辺丈紘¹⁾，高橋卓裕¹⁾，齋藤由貴¹⁾，郡司敦子¹⁾，中田浩史¹⁾，谷本安浩³⁾，河相安彦¹⁾（¹⁾日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座，²⁾日本大学大学院松戸歯学研究科有床義歯補綴学講座，³⁾日本大学松戸歯学部歯科生体材料学講座）
- P-67 ヒト骨髄由来間葉系幹細胞および軟骨細胞の核内の染色体配置の解析の試み
○大野充昭^{1,2)}，小盛大志²⁾，土佐郁恵²⁾，秋山謙太郎²⁾，大野 彩^{2,3)}，窪木拓男²⁾，大橋俊孝¹⁾（¹⁾岡山大学大学院医歯薬学総合研究科分子医化学分野，²⁾岡山大学大学院医歯薬学総合研究科インプラント再生補綴学分野，³⁾岡山大学新医療研究開発センター）
- P-68 加熱重合型義歯床用レジンに対する各種常温重合レジン接着の比較
○五十嵐一彰，岡田隆寛，盛植泰輔，雨宮幹樹，大友悠資，伊藤 歩，寺田善博（奥羽大学歯学部歯科補綴学講座冠橋義歯補綴学分野）

- P-69 新規オペレーティングの金属色遮断能力について
○高濱 豊, 山口大輔, 鈴木崇由, 小野 積, 長塚 明, 宇佐美博志, 水野辰哉, 村上 弘, 服部正巳 (愛知学院大学歯学部高齢者歯科学講座)
- P-70 リン酸亜鉛被膜水熱処理を用いたジルコニアインプラントへのリン酸カルシウム被膜
○児玉浩太^{1,2)}, 渡邊郁哉²⁾, 村田比呂司¹⁾ (¹⁾長崎大学大学院医歯薬学総合研究科歯科補綴学分野, ²⁾長崎大学大学院医歯薬学総合研究科生体材料学分野)
- P-71 KZR-CAD HR 2 への Streptococcus mutans の付着性
○河合良亮 (朝日大学歯学部口腔機能修復学講座歯科補綴学分野)
- P-72 アミロライドがオクタアルギニン / リン酸カルシウムを用いた遺伝子導入に及ぼす影響
○バネガスサネズフアンラモン¹⁾, 天雲太一²⁾, 鎌野優弥³⁾, 江草 宏³⁾, 小川 徹¹⁾, 佐々木啓一¹⁾
(¹⁾東北大学大学院歯学研究科口腔システム補綴学分野, ²⁾東北大学大学院歯学研究科歯科イノベーションリエンゾンセンター, ³⁾東北大学大学院歯学研究科分子・再生歯科補綴学分野)

■ポスター発表 教育

- P-73 半調節性咬合器の使用方法に関する新規シミュレーター実習
○原 哲也¹⁾, 荒木大介¹⁾, 山田知枝¹⁾, 宋本儒享¹⁾, 徳善貴大¹⁾, 杉本 皓¹⁾, 児玉直紀²⁾, 皆木省吾¹⁾ (¹⁾岡山大学大学院医歯薬学総合研究科咬合・有床義歯補綴学分野, ²⁾岡山大学病院咬合・義歯補綴科)
- P-74 3D プリンターによって製作したオールセラミッククラウン形成模型歯のアンケート調査
○大野公稔¹⁾, 竹市卓郎¹⁾, 原田 亮¹⁾, 加藤彰子²⁾, 本庄泰大¹⁾, 服部正巳³⁾ (¹⁾愛知学院大学歯学部冠・橋義歯学講座, ²⁾愛知学院大学歯学部口腔解剖学講座, ³⁾愛知学院大学歯学部高齢者歯科学講座)
- P-75 汎用 CAD ソフトを用いた歯冠補綴装置作製のためのデジタルワックスアップ実習の導入
○三野卓哉¹⁾, 中野田紳一²⁾, 黒崎陽子¹⁾, 上田明広³⁾, 仲野友人³⁾, 逢坂 卓¹⁾, 前川賢治¹⁾, 窪木拓男¹⁾ (¹⁾岡山大学大学院医歯薬学総合研究科インプラント再生補綴学分野, ²⁾株式会社インサイドフィールド, ³⁾岡山大学病院医療技術部歯科部門技工室)

■ポスター発表 口腔機能

- P-76 認知症の要介護高齢者における口腔機能と栄養状態の関連性について
○西口寛一朗¹⁾, 小島規永¹⁾, 秦 正樹¹⁾, 永井雅代²⁾, 丸山和佳子²⁾, 武部 純¹⁾ (¹⁾愛知学院大学歯学部有床義歯学講座, ²⁾愛知学院大学心身科学部健康栄養学科)
- P-77 咀嚼時および舌押しつぶし時の咬筋・舌骨上筋群筋活動様相の違い
○上原文子¹⁾, 堀 一浩¹⁾, 藤原茂弘¹⁾, 大川純平¹⁾, 村上和裕²⁾, 皆木祥伴²⁾, 小野高裕¹⁾
(¹⁾新潟大学大学院医歯学総合研究科包括歯科補綴学分野, ²⁾大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野)
- P-78 ガム咀嚼トレーニングが口腔機能へ与える効果 舌圧と口腔周囲筋による検討
○高橋 睦, 佐藤義英 (日本歯科大学新潟生命歯学部生理学講座)
- P-79 咬合挙上が嚙下音に及ぼす音響学的影響
○亀川義己, 山村 理, 堤 由希子, 岩尾 慧, 松原一生, 阿座上遼子, 藤原 周 (朝日大学歯学部口腔機能修復学講座歯科補綴学分野)
- P-80 高齢全部床義歯装着者における食物搬送動態の検討
○原 淳¹⁾, 古屋純一^{1,2)}, 玉田泰嗣¹⁾, 山本尚徳¹⁾, 小野寺彰平¹⁾, 松木康一¹⁾, 佐藤友秀¹⁾, 近藤尚知¹⁾ (¹⁾岩手医科大学歯学部補綴・インプラント学講座, ²⁾東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科地域・福祉口腔機能管理学分野)
- P-81 マウスガード装着が垂直跳びに及ぼす影響
○西野仁泰, 松田祐明, 鈴木義弘, 河野克明, 川上良明, 佐藤武司, 高山和比古, 紺野倫代, 小澤卓充, 中島一憲, 武田友孝 (東京歯科大学口腔健康科学講座スポーツ歯学研究室)

- P-82 ブラキシズムのフォース・コントロールを行った open bite の 1 症例からの考察
○糠澤真竜, 玉置勝司 (神奈川県歯科大学大学院歯学研究科全身管理医歯学講座顎咬合機能回復補綴医学分野)
- P-83 飼料性状の違いによる咀嚼動態の相違が隣β細胞に与える影響
○菅 悠希¹⁾, 豊下祥史¹⁾, 佐々木みづほ¹⁾, 川西克弥¹⁾, 會田英紀²⁾, 安斎 隆³⁾, 寺澤秀朗⁴⁾, 玉城 均⁵⁾, 越野 寿¹⁾ (1) 北海道医療大学歯学部口腔機能修復・再建学系咬合再建補綴学分野, 2) 北海道医療大学歯学部生体機能・病態学系高齢者・有病者歯科学分野, 3) 東京支部, 4) 東関東支部, 5) 九州支部)
- P-84 閉塞性睡眠時無呼吸症候群用口腔内装置の治療効果に関連する要因の検討
○三上紗季¹⁾, 山口泰彦²⁾, 斎藤未来²⁾, 後藤田章人¹⁾, 岡田和樹³⁾, 櫻井泰輔⁴⁾, 上北広樹¹⁾, 谷内田 渉⁴⁾, 町田友梨⁴⁾, 前田正名²⁾, 齋藤大嗣²⁾ (1) 北海道大学病院高次口腔医療センター顎関節治療部門, 2) 北海道大学大学院歯学研究科口腔機能学講座冠橋義歯補綴学教室, 3) 東北・北海道支部, 4) 北海道大学病院冠橋義歯補綴科)
- P-85 デキサメタゾンが唾液分泌に及ぼす影響
○楠田優一郎, 近藤祐介, 宗政 翔, 宮城勇大, 駒井英基, 丸山俊正, 友枝 圭, 柄 慎太郎, 向坊太郎, 正木千尋, 細川隆司 (九州歯科大学口腔再建リハビリテーション学分野)
- P-86 咀嚼回数計測装置「リズムカム」の測定精度について (その2)
○中島一憲, 松田祐明, 西野仁泰, 鈴木義弘, 河野克明, 川上良明, 紺野倫代, 小澤卓充, 澁澤真美, 島田 淳, 武田友孝 (東京歯科大学口腔健康科学講座スポーツ歯学研究室)
- P-87 Ca拮抗薬による口腔乾燥症 一健常高齢者とシェーグレン症候群患者の唾液との比較一
○水橋 史¹⁾, 小出 馨¹⁾, 梨田智子²⁾, 戸谷収二³⁾, 近藤敦子⁴⁾, 浅沼直樹¹⁾, 佐藤利英¹⁾, 渡會侑子⁵⁾, 栗田 武⁵⁾ (1) 日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴学第1講座, 2) 日本歯科大学新潟生命歯学部生化学講座, 3) 日本歯科大学新潟病院口腔外科・口のかわき治療外来, 4) 日本歯科大学新潟病院総合診療科, 5) 日本歯科大学大学院新潟生命歯学研究科機能性咬合治療学)
- P-88 超小型カメラを用いた咀嚼機能の動的実態精察
○高橋和也, 鈴木銀河, 清水 賢, 栗原大介, 阿部 實, 大久保力廣 (鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座)
- P-89 弾性アプライアンスを使用した咀嚼様運動が脳波に与える影響
○山本 悠, 佐々木良紀, 竜 正大, 上田貴之, 櫻井 薫 (東京歯科大学老年歯科補綴学講座)
- P-90 三次元有限要素法を用いた応力解析 一犬臼歯支台歯形状がクラウン維持力に与える影響一
○前田直紀, 山添正稔 (山本貴金属地金株式会社)
- P-91 三次元有限要素法を用いた応力解析 一中切歯支台歯形状がクラウン維持力に与える影響一
○山添正稔, 前田直紀 (山本貴金属地金株式会社)
- P-92 機能時におけるブリッジ支台歯の応力分布に関する研究
○岡田大蔵, 進 千春, 駒田 亘, 小椋麗子, 三浦宏之 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科摂食機能保存学分野)
- P-93 睡眠中の律動性咀嚼筋活動に関連した酸素および二酸化炭素濃度の変動
○鈴木善貴^{1,2,3)}, ラヴィーンジル^{2,3,4)}, 大倉一夫¹⁾, 安陪 晋⁵⁾, 松香芳三¹⁾ (1) 徳島大学大学院医歯薬学研究部顎機能咬合再建学分野, 2) モントリオール大学歯学部, 3) モントリオールサクリカ病院睡眠医療先進リサーチセンター, 4) モントリオール大学病院医学部呼吸器科睡眠クリニック, 5) 徳島大学大学院医歯薬学研究部総合歯科学分野)

■ポスター発表 症例

- P-94 前後すれ違い咬合から短期間で下顎オーバードンチャーに移行した症例
○和田淳一郎¹⁾, 青 藍一郎²⁾, 奈良日出男²⁾, 若林則幸¹⁾ (1) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科部分床義歯補綴学分野, 2) 東京支部)

- P-95 Oral dyskinesia を有する摂食嚥下障害患者の一症例
○吉見佳那子¹⁾, 古屋純一²⁾, 戸原 玄¹⁾, 水口俊介¹⁾ (1) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科高齢者歯科学分野, 2) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科地域・福祉口腔機能管理学分野)
- P-96 上顎右側中切歯欠損による審美障害を低侵襲補綴歯科治療により改善した一症例
○高岡亮太, 石垣尚一, 矢谷博文 (大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座クラウンブリッジ補綴学分野)
- P-97 磁性アタッチメントを使用し術後 20 年経過をした部分床義歯の 1 症例
○藤波和華子, 星合和基, 青山莉子, 別所香菜, 増田達彦, 尾澤昌悟, 武部 純 (愛知学院大学歯学部有床義歯学講座)
- P-98 セルフケアと運動療法で改善した咬合違和感症例からの一考察
○島田 淳, 島田百子 (東京支部)
- P-99 セントラルベアリングデバイスを応用して早期接触の診断を行った一症例
○佐藤正彰¹⁾, 松前 団²⁾, 中村健太郎³⁾, 山本司将³⁾ (1) 中国・四国支部, 2) 関西支部, 3) 東海支部)
- P-100 治療用義歯の咀嚼運動終末位を顎間記録として機能回復を行った無歯顎症例
○西原 裕¹⁾, 西田昌平²⁾, 中村祐輔¹⁾, 中村健太郎³⁾, 山本司将³⁾ (1) 中国・四国支部, 2) 関西支部, 3) 東海支部)
- P-101 セントラルベアリングデバイス機構を付与した治療用義歯を応用した全部床義歯症例
○外城英史¹⁾, 西田昌平²⁾, 中村健太郎³⁾, 山本司将³⁾ (1) 中国・四国支部, 2) 関西支部, 3) 東海支部)
- P-102 咀嚼運動終末位を確定し咬合採得を行った全部床義歯症例
○久野彰司, 中村健太郎, 山本司将 (東海支部)
- P-103 咀嚼機能の回復と維持に咀嚼運動終末位を指標とする全部床義歯を用いた症例
○山村昌弘¹⁾, 西田昌平²⁾, 中村健太郎¹⁾, 山本司将¹⁾ (1) 東海支部, 2) 関西支部)
- P-104 Twin-Stage Procedure によりアンテリアガイダンスを構築した症例
○小林弘清¹⁾, 小林賢一²⁾ (1) 東京支部, 2) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科高齢者歯科学分野)
- P-105 審美障害を主訴とする重篤な Class II 症例における補綴治療
○小林賢一¹⁾, 高橋路奈²⁾, 安部明子²⁾, 竹内周平¹⁾, 星野 崇²⁾, 小林弘清²⁾, 関田俊明¹⁾ (1) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科高齢者歯科学分野, 2) 東京支部)
- P-106 口蓋欠損を有する有歯顎患者における分割式栓塞子の適用
○村上 格¹⁾, 西 恭宏²⁾, 竹之内往久³⁾, 西村正宏²⁾ (1) 鹿児島大学病院義歯補綴科, 2) 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科口腔顎顔面補綴学分野, 3) 九州支部)
- P-107 全部床義歯における片側性咬合平衡を得るための臼歯部人工歯排列位置に関する症例検討
○岡本 信, 守屋佳典, 崎谷公子, 鶴川由紀子, 洲脇道弘, 森 慎吾, 中島啓一朗, 角谷真一 (中国・四国支部)
- P-108 前歯部審美障害をノンメタルクラスプデンチャーで改善した鎖骨頭蓋異形成症の 1 症例
○小松智美, 都築 尊, 長原隆紀, 佐藤俊介, 宮口 巖, 高橋智子, 小柳進祐, 高橋 裕 (福岡歯科大学咬合修復学講座有床義歯学分野)
- P-109 咀嚼運動終末位を指標とした咬合採得を行い咀嚼機能が回復できたブリッジ症例
○今井雅一¹⁾, 永井秀明²⁾, 中村健太郎³⁾, 山本司将³⁾ (1) 東関東支部, 2) 関西支部, 3) 東海支部)
- P-110 臼歯部の補綴装置の再治療に下顎運動分析記録装置の支援を応用した症例
○全並 匠, 中村健太郎, 山本司将 (東海支部)
- P-111 下顎運動分析記録装置を応用して咬頭嵌合位と咀嚼運動終末位の位置関係を保持した症例
○竹島健太郎¹⁾, 松前 団²⁾, 中村健太郎¹⁾, 山本司将¹⁾ (1) 東海支部, 2) 関西支部)
- P-112 Tooth wear により審美障害および咬合高径の低下を認めた症例
○東中川杏里, 関田俊明, 高橋亜希子, 入江聖子, 矢口志保 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科高齢者歯科学分野)

- P-113 デンチャースペースに合致させた CAD/CAM コンプリートデンチャーの製作
○徳江 藍¹⁾, 新保秀仁¹⁾, 井本弘子¹⁾, 川嶋一誠¹⁾, 團 智子¹⁾, 大貫昌理¹⁾, 大久保力廣¹⁾, 寺内知哉²⁾ (1) 鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座, (2) 三井化学)
- P-114 新規義歯製作法により上下顎全部床義歯製作を行った一例
○武田智香子, 小正 聡, 松田謙一, 西崎 宏, 岡崎定司 (大阪歯科大学)

■ポスター発表 有床義歯

- P-115 金属床上顎顎義歯を装着した上顎歯列のモード解析 支台装置の検討
○星合泰治¹⁾, 乙丸貴史²⁾, 大木明子³⁾, 篠塚 修⁴⁾, 谷口 尚²⁾ (1) 東京医科歯科大学歯学部附属病院総合診療科スペシャルケア外来, (2) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科顎顔面補綴学分野, (3) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔基礎工学分野, (4) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科障害者歯科学分野)
- P-116 ウレタンオリゴマーを基材とした試作軟性裏装材の耐久性に関する評価
○門川明彦¹⁾, 嶺崎良人¹⁾, 峰元里子¹⁾, 村原貞昭¹⁾, 村口浩一¹⁾, 松村光祐¹⁾, 梶原雄太郎¹⁾, 有川裕之²⁾, 河野博史²⁾, 菊地聖史²⁾, 南 弘之¹⁾ (1) 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科咬合機能補綴学分野, (2) 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科歯科生体材料学分野)
- P-117 慣性測量装置を用いた義歯変位計の開発
○関田俊明, 竹内周平, 小林賢一, 東中川杏里, 高橋亜希子, 入江聖子 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科高齢者歯科学分野)
- P-118 上下無歯顎シミュレーションモデルによる印象圧の比較
○岩崎正敏, 川良美佐雄, 井上紗由美, 岩田好弘, 本木久絵, 浅川龍人, 西森秀太, 神山裕名, 竹内広樹, 安田明弘, 飯田 崇, 小見山 道 (日本大学松戸歯学部顎口腔機能治療学講座)
- P-119 抜歯後の顎骨骨代謝機構の解明を目的としたマウス抜歯モデルの作製
○久本芽璃¹⁾, 木村俊介²⁾, 岩田 航¹⁾, 後藤まりえ³⁾, 横山敦朗¹⁾ (1) 北海道大学大学院歯学研究院口腔機能学分野口腔機能補綴学教室, (2) 北海道大学大学院医学研究院解剖学分野組織細胞学教室, (3) 北海道大学病院義歯補綴科)
- P-120 歯科補綴治療が成人の自律神経活動に及ぼす影響 —アルジネート概形印象採得—
○後藤まりえ¹⁾, 竹生寛恵²⁾, 下地伸司²⁾, 横山敦朗³⁾ (1) 北海道大学病院義歯補綴科, (2) 北海道大学大学院歯学研究院口腔健康科学分野歯周・歯内療法学教室, (3) 北海道大学大学院歯学研究院口腔機能学分野口腔機能補綴学教室)
- P-121 有床義歯装着者における [n] 持続発音位の経時的変化 —Eichner 分類 C 症例—
○遠藤 舞, 松川高明, 豊田有美子, 大川 穰, 染川正多, 上田脩司, 磯貝佳史, 岡本和彦, 大川周治 (明海大学歯学部機能保存回復学講座歯科補綴学分野)
- P-122 高機能セルフクリーニングデンチャーの開発 第一報 表面改質による義歯表面強度の変化
○満田茂樹¹⁾, 清宮一秀²⁾, 二瓶智太郎³⁾, 井野 智¹⁾ (1) 神奈川歯科大学大学院歯学研究科高度先進口腔医学講座歯科補綴学分野, (2) 神奈川歯科大学附属病院歯科技工科, (3) 神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔科学講座クリニカルバイオマテリアル学分野)
- P-123 常温重合型シリコーン軟性裏装材とアクリルレジンとの接着に関する研究
○南 弘之¹⁾, 村原貞昭¹⁾, 松村光祐²⁾, 上之段麻美²⁾, 柳田廣明¹⁾, 嶺崎良人²⁾ (1) 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科咬合機能補綴学分野, (2) 鹿児島大学病院成人系歯科センター冠・ブリッジ科)
- P-124 急性期病院脳神経外科病棟における歯科補綴治療 (有床義歯) の需要
○門田千晶 (聖隷浜松病院歯科)
- P-125 オーラルスキャナーと CAD/CAM を用いて作製した部分床義歯
○濱中一平¹⁾, 一志恒太²⁾, 高橋 裕¹⁾ (1) 福岡歯科大学咬合修復学講座有床義歯学分野, (2) 福岡歯科大学医科歯科総合病院中央技工室)

- P-126 部分床義歯装着患者における恒常的な機能維持のための客観的メンテナンス法
○秋山仁志¹⁾, 坂元麻衣子¹⁾, 白子未佳¹⁾, 赤間亮一²⁾, 竹井 潤²⁾ (¹⁾ 日本歯科大学附属病院総合診療科, ²⁾ 日本歯科大学附属病院歯科技工室)
- P-127 プラークモデルを使った歯科用金属に付着する口腔バイオフィルムの菌叢解析
○鳥居麻菜¹⁾, 漆原 優¹⁾, 大島朋子²⁾, 前田伸子²⁾, 大久保力廣¹⁾ (¹⁾ 鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座, ²⁾ 鶴見大学歯学部口腔微生物学講座)
- P-128 当院栄養サポートチームでの歯科補綴治療の必要性
○寺中 智^{1,2)}, 尾崎研一郎^{1,2)}, 水口俊介²⁾ (¹⁾ 足利赤十字病院リハビリテーション科, ²⁾ 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科高齢者歯科学分野)
- P-129 軟質裏装材を応用したオーバーデンチャーの維持力に影響を及ぼす機械的特性
○久保慶太郎, 古池崇志, 上田貴之, 尾松素樹, 櫻井 薫 (東京歯科大学老年歯科補綴学講座)
- P-130 高齢化社会に向けた短期間高精度義歯製作システムの開発 第2報 総義歯歯列弓の調査
○一色ゆかり¹⁾, 渡辺宣孝²⁾, 生田龍平²⁾, 片岡加奈子²⁾, 藤原 基²⁾, 玉置勝司²⁾ (¹⁾ 神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔機能修復学講座咀嚼機能制御補綴学分野, ²⁾ 神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔機能修復学講座顎咬合機能回復補綴医学分野)
- P-131 Aramany 分類の顎欠損が支持歯槽骨と顎義歯の挙動に与える影響
○長谷英明¹⁾, 新谷明一²⁾, 吉田兼義¹⁾, 池浦政裕¹⁾, 勝俣辰也¹⁾, 高橋 裕¹⁾ (¹⁾ 福岡歯科大学咬合修復学講座有床義歯学分野, ²⁾ 日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第2講座)
- P-132 義歯製作時の歯肉ラインの指標に関する検討
○杉本和代, 松田謙一, 三原佑介, 八田昂大, 榎木香織, 福武元良, 池邊一典, 前田芳信 (大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野)
- P-133 PMMA 成膜 QCM センサを利用した純粋過ギ酸がタンパク質の脱着に与える影響の検討
○中澤修一, 小正 聡, 田代悠一郎, 三宅晃子, 高橋一也, 西崎 宏, 小正 裕, 岡崎定司 (大阪歯科大学)
- P-134 繰り返し荷重に対するグルータイプ義歯安定剤の接着性の変化
○島 義人¹⁾, 井上勝一郎²⁾, 河野稔広¹⁾, 渡辺崇文¹⁾, 帆鷲郷一¹⁾, 金藤哲明¹⁾, 鱒見進一¹⁾ (¹⁾ 九州歯科大学顎口腔欠損再構築学分野, ²⁾ バイオマテリアルリサーチラボラトリー)
- P-135 軟性裏装材硬化物の粘弾性的性質に及ぼす温度の影響
○渡辺崇文¹⁾, 井上勝一郎²⁾, 榎原絵理¹⁾, 島 義人¹⁾, 帆鷲郷一¹⁾, 金藤哲明¹⁾, 鱒見進一¹⁾ (¹⁾ 九州歯科大学顎口腔欠損再構築学分野, ²⁾ バイオマテリアルリサーチラボラトリー)
- P-136 グラスファイバーで強化したノンメタルクラスプデンチャー用材料の摩擦摩耗特性
○谷本安浩¹⁾, 永倉愛夢¹⁾, 西山典宏¹⁾, 伊藤誠康²⁾, 河相安彦²⁾ (¹⁾ 日本大学松戸歯学部歯科生体材料学講座, ²⁾ 日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座)
- P-137 義歯用ブラシによる清掃が軟質裏装材の表面形態に及ぼす影響
○小畑朋邦¹⁾, 上田貴之¹⁾, 久保慶太郎¹⁾, 和田 健¹⁾, 武本真治²⁾, 櫻井 薫¹⁾ (¹⁾ 東京歯科大学老年歯科補綴学講座, ²⁾ 東京歯科大学歯科理工学講座)
- P-138 閉口時口唇接触位における上下顎前歯部の空隙量と口唇赤唇部の面積との関係—第2報—
○渡會侑子¹⁾, 小出 馨^{1,2)}, 水橋 史²⁾, 近藤敦子³⁾, 浅沼直樹²⁾, 佐藤利英²⁾, 栗田 武¹⁾, 小林 博²⁾ (¹⁾ 日本歯科大学大学院新潟生命歯学研究科機能性咬合治療学, ²⁾ 日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴学第1講座, ³⁾ 日本歯科大学新潟病院総合診療科)
- P-139 レジン床義歯と金属床義歯との違いについての患者理解度を各種問診法から評価する
○岡島裕梨, 小正 聡, 藤尾美穂, 西崎 宏, 岡崎定司 (大阪歯科大学)
- P-140 無口蓋型 CAD/CAM コンプリートデンチャーの維持力と患者満足度
○飯沼陽平¹⁾, 高橋和也¹⁾, 冬頭知明¹⁾, 徳江 藍¹⁾, 新保秀仁¹⁾, 大久保力廣¹⁾, 寺内知哉²⁾, 宇杉真一²⁾ (¹⁾ 鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座, ²⁾ 三井化学)
- P-141 固定化抗菌剤 Etak のバイオフィルム形成抑制効果および遺伝子発現への影響
○實利一輝¹⁾, 橋田竜関²⁾, 三村純代²⁾, 木原琢也²⁾, 首藤崇裕²⁾, 河原和子²⁾, 田地 豪²⁾, 二川浩樹²⁾ (¹⁾ 広島大学歯学部口腔健康科学科口腔工学専攻, ²⁾ 広島大学大学院医歯薬保健学研究科口腔生物工学分野)

- P-142 即時荷重 2 インプラントオーバーデンチャーの前向き臨床研究：5 年経過報告
○岩城麻衣子¹⁾，金澤 学²⁾，宮安杏奈²⁾，佐藤大輔³⁾，春日井昇平³⁾，水口俊介²⁾ (¹⁾東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科総合診療歯科学分野，²⁾東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科高齢者歯科学分野，³⁾東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科インプラント・口腔再生医学分野)
- P-143 部分床義歯の支台歯周囲骨への経時的影響 デジタルサブトラクション法による評価
○渡邊知恵¹⁾，和田淳一郎¹⁾，水谷幸嗣²⁾，渡邊 裕³⁾，勝木 梓¹⁾，若林則幸¹⁾ (¹⁾東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科部分床義歯補綴学分野，²⁾東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科歯周病学分野，³⁾東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔放射線医学分野)

7月2日(日) [第6会場]

■専門医ケースプレゼンテーション審査 10:00～12:00

- 専門医 1 上顎無歯顎，下顎両側遊離端欠損に対して総義歯とテレスコープ義歯で対応した症例
○織田聖子（東京歯科大学老年歯科補綴学講座）
- 専門医 2 インプラント支持暫間補綴装置の形態を最終上部構造に再現させた多数歯欠損患者の症例
○三野卓哉（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科インプラント再生補綴学分野）
- 専門医 3 すれ違い咬合に対してオーバーデンチャーを用いて対応した症例
○三輪俊太（大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野）
- 専門医 4 上顎歯肉癌摘出によりデンチャースペースに異常を来した患者に顎補綴治療を行った症例
○豊下祥史（北海道医療大学歯学部咬合再建補綴学分野）
- 専門医 5 顎堤吸収の著しい上下顎無歯顎患者に閉口機能印象を用いて全部床義歯を製作した症例
○菊井美希（大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野）
- 専門医 6 舌垂全摘術ならびに舌再建術を施行した患者に対する舌接触補助装置（PAP）の効果
○尾崎研一郎（足利赤十字病院リハビリテーション科）
- 専門医 7 重度歯周疾患を伴い，咬合平面，咬合様式の修正を要した症例
○高島浩二（奥羽大学歯学部歯科補綴学講座）

The 126th Scientific Meeting of Japan Prosthodontic Society

■ President's Lecture

July 1 (Sat.) Room1 PACIFICO YOKOHAMA 10 : 10 ~ 10 : 40

Prosthodontics drives dentistry with pride and responsibility

Chairperson : Hideo Matsumura (Nihon University)
Speaker : Tetsuo Ichikawa (Tokushima University)

■ Special Lecture

July 1 (Sat.) Room1 PACIFICO YOKOHAMA 13 : 20 ~ 14 : 20

Story of SHIUMAI — Locality famous food in Yokohama —

Chairperson : Chikahiro Ohkubo (Tsurumi University)
Speaker : Naobumi Nonami (The Yokohama Chamber of Commerce and Industry,
KIYOKEN Co., Ltd.)

■ International Special Lecture

July 1 (Sat.) Room1 PACIFICO YOKOHAMA 14 : 30 ~ 15 : 30

Implant therapy in the geriatric patients

Chairperson : Takahiro Ono (Niigata University)
Speaker : Frauke Müller (University of Geneva)

■ Main Symposium

July 1 (Sat.) Room1 PACIFICO YOKOHAMA 10 : 50 ~ 12 : 20

Identity of prosthodontic practice toward the future

Chairpersons :	Hideo Matsumura	(Nihon University)
	Tetsuo Ichikawa	(Tokushima University)
Speakers :	Kazunori Ikebe	(Osaka University)
	Kaoru Sakurai	(Tokyo Dental College)
	Kiyoshi Koyano	(Kyushu University)

■ International Symposium

July 1 (Sat.) Room2 PACIFICO YOKOHAMA 10 : 50 ~ 12 : 20

Trends on current prosthetic treatment. — Reports from Europe and Indonesia —

Chairpersons :	Hirofumi Yatani	(Osaka University)
	Yuka Sumita	(Tokyo Medical and Dental University)
Speakers :	Hana Hubálková	(Charles University)
	Laura Susanti Himawan	(University of Indonesia)

■ Symposium 1

July 1 (Sat.) Room2 PACIFICO YOKOHAMA 14 : 30 ~ 15 : 30

Development and clinical application of CAD/CAM denture system

Chairpersons :	Kazuhiro Hikita	(Health Sciences University of Hokkaido)
	Kan Nagao	(Tokushima University)
Speakers :	Shunsuke Minakuchi	(Tokyo Medical and Dental University)
	Hidemasa Shimpo	(Tsurumi University)

■ Symposium 2

July 2 (Sun.) Room2 PACIFICO YOKOHAMA 9 : 00 ~ 10 : 00

Clinical effect of resilient lining denture prostheses

Chairpersons : Yasuhiko Kawai (Nihon University at Matsudo)
Takayuki Ueda (Tokyo Dental College)
Speakers : Hiroshi Murata (Nagasaki University)
Takayuki Ueda (Tokyo Dental College)

■ Symposium 3

July 2 (Sun.) Room2 PACIFICO YOKOHAMA 10 : 10 ~ 11 : 10

Challenges and future for tissue engineering in prosthodontics

Chairpersons : Masahiro Nishimura (Kagoshima University)
Yosuke Akiba (Niigata University)
Speakers : Shinya Murakami (Osaka University)
Motohiro Harai (FUJI SOFT INCORPORATED)

■ Symposium 4

July 2 (Sun.) Room2 PACIFICO YOKOHAMA 13 : 20 ~ 14 : 50

The US approach vs. the Scandinavian approach in prosthodontic treatments

Chairpersons : Hiroshi Egusa (Tohoku University)
Nobuyuki Nakai (Kansai Branch)
Speakers : Hideaki Hirooka (Tokyo)
Tokuo Matsui (Tokyo)
Taro Kanno (Tohoku University)

■ Clinical Skill-up Seminar

July 1 (Sat.) Room2 PACIFICO YOKOHAMA 13 : 20 ~ 14 : 20

Occlusal abnormality for prosthodontic treatment

— Diagnosis and concept not only with teeth —

Chairpersons : Yoshizo Matsuka (Tokushima University)
Jun Takebe (Aichi Gakuin University)
Speakers : Taihiko Yamaguchi (Hokkaido University)
Yoshizo Matsuka (Tokushima University)

■ Clinical Lecture Series 1

July 1 (Sat.) Room1 PACIFICO YOKOHAMA 15 : 40 ~ 17 : 40

Prosthodontic management for intractable cases related to the loss of appropriate occlusal support: Prosthodontic interventions according to the Eichner classification

Chairpersons : Shuji Ohkawa (Meikai University)
Yoshihiro Tsukiyama (Kyushu University)
Speakers : Naoki Kodama (Okayama University Hospital)
Yoichiro Ogino (Kyushu University)
Ken-ichi Matsuda (Osaka University)

■ Clinical Lecture Series 2

July 2 (Sun.) Room1 PACIFICO YOKOHAMA 9 : 00 ~ 10 : 40

Learning from the experiences of our predecessors

— What is the most importance in the prosthodontic treatment? —

Chairpersons : Chikahiro Ohkubo (Tsurumi University)
Takuo Kuboki (Okayama University)
Speakers : Atsushi Yamashita (Chugoku Shikoku Branch)
Hisatoshi Tanaka (Higashi-kanto Branch)

■ Clinical Lecture Series 3

July 2 (Sun.) Room1 PACIFICO YOKOHAMA 10 : 50 ~ 12 : 20

Tooth preparation for the CAD/CAM crown from a clinician's viewpoint

Chairpersons : Harunori Gomi (Nippon Dental University)
Takashi Nakamura (Osaka University)
Speakers : Yoshiaki Nishikawa (Kagoshima)
Yoshihiko Mutobe (Kansai Branch)

■ Clinical Lecture Series 4

July 2 (Sun.) Room1 PACIFICO YOKOHAMA 13 : 20 ~ 14 : 50

Proposal to prosthodontist from a dental technician

— Learn from clinical and technical skills 'TAKUMI' —

Chairpersons : Kazuhiko Suese (Osaka Dental University)
Yohei Sato (Tsurumi University)
Speakers : Shizuo Higuchi (Kansai Branch)
Keisuke Ihara (Tsurumi University)
Hiroyuki Kibayashi (Kansai Branch)
Makoto Morita (Kyoto)

■ Prosthodontic Specialist Seminar

July 2 (Sun.) Room1 PACIFICO YOKOHAMA 15 : 00 ~ 17 : 40

The present situation and future of crown restoration with digital technology

Chairpersons : Shin-ichi Masumi (Kyushu Dental College)
Takumi Ogawa (Tsurumi University)
Speakers : Hironobu Sato (Fukuoka Dental College)
Hisatomo Kondo (Iwate Medical University)
Takumi Ogawa (Tsurumi University)

■ Committee Seminar 1 (Journal of Prosthodontic Research)

June 30 (Fri.) InterContinental Yokohama Grand 18 : 00 ~ 19 : 00

Current status and future prospective of JPR

Chairperson :	Kazuyoshi Baba	(Showa University)
Speakers :	Kazuyoshi Baba	(Showa University)
	Ryuji Hosokawa	(Kyushu Dental University)
	Hiroshi Egusa	(Tohoku University)

■ Committee Seminar 2 (Research planning and promotion committee)

July 2 (Sun.) Room2 PACIFICO YOKOHAMA 11 : 20 ~ 12 : 20

Joint research between the Japan Prosthodontic Society and the Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital and Institute of Gerontology — The influence of oral and swallowing functions of aged persons on the QOL and healthy life expectancy —

Chairpersons :	Hirofumi Yatani	(Osaka University)
	Katsushi Tamaki	(Kanagawa Dental University)
Speakers :	Eri Koyama	(Okayama University)
	Kenji Maekawa	(Okayama University)

■ Dental Hygienist Session

July 2 (Sun.) Room10 PACIFICO YOKOHAMA 10 : 50 ~ 12 : 20

Updating professional care of prostheses for dental hygienists

Chairpersons :	Junichi Furuya	(Tokyo Medical and Dental University)
	Kan Nagao	(Tokushima University)
Speakers :	Akiko Kobayashi	(Tokyo)
	Hiroki Nikawa	(Hiroshima University)
	Kohei Teramoto	(Tokyo)

■ Open Lecture for Citizen

July 1 (Sat.) Queen's Circle Queen's Square 15 : 00 ~ 17 : 00

The keys of good health and longevity !

— The importance of occlusion • mastication • nutrition —

Chairpersons :	Jun Takebe	(Aichi Gakuin University)
	Miwa Matsuyama	(Tokushima University)
Speakers :	Kazuhiro Tsuga	(Hiroshima University)
	Takeshi Kikutani	(Nippon Dental University)

■ Evening Session 1

July 1 (Sat.) Room2 PACIFICO YOKOHAMA 18 : 00 ~ 18 : 50

The core build-up utilizing the adhesive dentistry

Coordinator :	Atsushi Mine	(Osaka University)
Presenters :	Akikazu Sinya	(Nippon Dental University)
	Keita Sasaki	(Tsurumi University)

■ Evening Session 2

July 1 (Sat.) Room3 PACIFICO YOKOHAMA 18 : 00 ~ 18 : 50

How can iPS cell technologies change prosthodontics for next stage?

Coordinator :	Takehito Ouchi	(Keio University)
Presenters :	Kunimichi Niibe	(Tohoku University)
	Hiroko Okawa	(Tohoku University)
	Yurie Hoashi	(Showa University)

■ Evening Session 3

July 1 (Sat.) Room4 PACIFICO YOKOHAMA 18 : 00 ~ 18 : 50

We need implant here! — Application of implants for removable dentures —

Coordinator : Manabu Kanazawa (Tokyo Medical and Dental University)
Presenters : Yohei Sato (Tsurumi University)
Sawako Yokoyama (Showa University)

■ Evening Session 4

July 1 (Sat.) Room7 PACIFICO YOKOHAMA 18 : 00 ~ 18 : 50

Back to the basic — Is Gothic Arch really necessary? —

Coordinator : Naoki Kodama (Okayama University Hospital)
Presenters : Yuichi Matsumaru (Nihon University at Matsudo)
Ikiru Atsuta (Kyushu University)

■ Evening Session 5

July 1 (Sat.) Room8 PACIFICO YOKOHAMA 18 : 00 ~ 18 : 50

Optical impression in implant treatment: Current status and future possibilities

Coordinator : Shinpei Tanaka (Showa University)
Presenters : Shota Fukazawa (Iwate Medical University)
Rihei Watanabe (Tohoku Hokkaido Branch)
Masayuki Takaba (Showa University)

■ Evening Session 6

July 1 (Sat.) Room9 PACIFICO YOKOHAMA 18 : 00 ~ 18 : 50

Contemporary prosthetic strategy for edentulous patients using dental implants

Coordinator : Kohji Nagata (Tokyo Medical and Dental University)
Presenters : Daisuke Sato (Showa University)
Katsuichiro Maruo (Kanagawa Dental University)
Masaru Hiruta (Tokyo Branch)

■ Hands-on Seminar 1

July 1 (Sat.) Room7 PACIFICO YOKOHAMA 10 : 50 ~ 11 : 50
13 : 20 ~ 14 : 20

Table clinic of lining of removable dentures with soft lining materials

Instructors : Takayuki Ueda (Tokyo Dental College)
Takeshi Wada (Tokyo Dental College)

■ Hands-on Seminar 2

July 2 (Sun.) Room7 PACIFICO YOKOHAMA 10 : 30 ~ 11 : 30
13 : 30 ~ 14 : 30

Practice of intraoral scanner

Instructor : Kazuhiro Hikita (Health Sciences University of Hokkaido)

■ Hands-on Seminar 3

July 2 (Sun.) Room8 PACIFICO YOKOHAMA 10 : 30 ~ 11 : 30
13 : 30 ~ 14 : 30

To acquire knowledge and master on endodontically treated teeth restored with composite core materials and fiber posts

Instructor : Yuji Tsubota (Tokyo Branch)

■ Hands-on Seminar 4

July 2 (Sun.) Room9 PACIFICO YOKOHAMA 10 : 30 ~ 11 : 30
13 : 30 ~ 14 : 30

Examining masticatory function of removable denture

Instructor : Hiroshi Shiga (Nippon Dental University)

■ Luncheon Seminar 1

July 1 (Sat.) Room2 PACIFICO YOKOHAMA 12 : 30 ~ 13 : 10

Clinical application of chair side dental CAD/CAM system CEREC

Speaker : Shoji Nakamura (Nippon Dental University)

Support Company : Dentsply Sirona

■ Luncheon Seminar 2

July 1 (Sat.) Room3 PACIFICO YOKOHAMA 12 : 30 ~ 13 : 10

Utilizing EyeSpecial C-III : Digital camera specialized in sharing shade information

Speaker : Tatsuya Urisaka (Osaka)

Support Company : SHOFU INC.

■ Luncheon Seminar 3

July 2 (Sun.) Room2 PACIFICO YOKOHAMA 12 : 30 ~ 13 : 10

GC's CAD/CAM solution

Speaker : Shuntaro Urata, Takayuki Ueno (GC CORPORATION)

Support Company : GC CORPORATION

■ Luncheon Seminar 4

July 2 (Sun.) Room3 PACIFICO YOKOHAMA 12 : 30 ~ 13 : 10

Relevance of salivation and denture to the development of atrophic glossitis

Speaker : Yoichi Nakagawa (Tsurumi University)

Support Company : GSK Consumer Healthcare Japan K.K.

講演, シンポジウム, セミナー, リレーセッション,
 歯科衛生士セッション, 市民フォーラム,
 イブニングセッション, ハンズオンセミナー, ランチョンセミナー

■理事長講演	7月1日(土)	第1会場	10:10~10:40
■特別講演	7月1日(土)	第1会場	13:20~14:20
■海外特別講演	7月1日(土)	第1会場	14:30~15:30
■メインシンポジウム	7月1日(土)	第1会場	10:50~12:20
■国際シンポジウム	7月1日(土)	第2会場	10:50~12:20
■シンポジウム1	7月1日(土)	第2会場	14:30~15:30
■シンポジウム2	7月2日(日)	第2会場	9:00~10:00
■シンポジウム3	7月2日(日)	第2会場	10:10~11:10
■シンポジウム4	7月2日(日)	第2会場	13:20~14:50
■臨床スキルアップセミナー	7月1日(土)	第2会場	13:20~14:20
■臨床リレーセッション1	7月1日(土)	第1会場	15:40~17:40
■臨床リレーセッション2	7月2日(日)	第1会場	9:00~10:40
■臨床リレーセッション3	7月2日(日)	第1会場	10:50~12:20
■臨床リレーセッション4	7月2日(日)	第1会場	13:20~14:50
■専門医研修会	7月2日(日)	第1会場	15:00~17:40
■委員会セミナー1	6月30日(金)		
	ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル		18:00~19:00
■委員会セミナー2	7月2日(日)	第2会場	11:20~12:20
■歯科衛生士セッション	7月2日(日)	第10会場	10:50~12:20
■市民フォーラム	7月1日(土)		
	クイーンズスクエア		15:00~17:00
■イブニングセッション1	7月1日(土)	第2会場	18:00~18:50
■イブニングセッション2	7月1日(土)	第3会場	18:00~18:50
■イブニングセッション3	7月1日(土)	第4会場	18:00~18:50
■イブニングセッション4	7月1日(土)	第7会場	18:00~18:50
■イブニングセッション5	7月1日(土)	第8会場	18:00~18:50
■イブニングセッション6	7月1日(土)	第9会場	18:00~18:50
■ハンズオンセミナー1	7月1日(土)	第7会場	10:50~11:50
			13:20~14:20
■ハンズオンセミナー2	7月2日(日)	第7会場	10:30~11:30
			13:30~14:30
■ハンズオンセミナー3	7月2日(日)	第8会場	10:30~11:30
			13:30~14:30
■ハンズオンセミナー4	7月2日(日)	第9会場	10:30~11:30
			13:30~14:30
■ランチョンセミナー1	7月1日(土)	第2会場	12:30~13:10
■ランチョンセミナー2	7月1日(土)	第3会場	12:30~13:10
■ランチョンセミナー3	7月2日(日)	第2会場	12:30~13:10
■ランチョンセミナー4	7月2日(日)	第3会場	12:30~13:10

理事長講演 President's Lecture

歯科の基盤を支え、創る補綴の矜持

Prosthodontics drives dentistry with pride and responsibility

座長

松村英雄

日本大学歯学部歯科補綴学第Ⅲ講座

Chairperson

Hideo Matsumura

Department of Fixed Prosthodontics, Nihon University School of Dentistry

市川哲雄

徳島大学大学院医歯薬学研究部口腔顎顔面補綴学分野

Tetsuo Ichikawa

Department of Removable Prosthodontics, Tokushima University Graduate School of Biomedical Sciences

日本補綴歯科学会は平成 25 年 4 月に社団法人から公益社団法人へと移行し、現在に至っている。公益法人の運営においては、4 月から 3 月までの会計年度終了後 3 ヶ月以内に定時総会を開催し、そこで、決算書と事業報告の承認を受け、遅滞なく主務官庁へ書類を提出することが義務づけられている。こうした法人運営の原則に対応すべく、当法人の役員任期は定時総会から約 2 年後の定時総会までと定められており、平成 29 年は公益法人第 2 期目の役員が改選となる。

そこで、第 126 回学術大会においては、6 月 30 日に理事長に就任される市川哲雄教授に、この 2 年間の学会に対する運営方針を伺うべく、理事長講演を企画した。

市川新理事長は、徳島大学歯学部を第 1 期生として卒業され、歯科補綴学専攻の大学院を修了後、可撤性補綴の講座に教官として奉職された。以後、大学の独法化、病院の統合、四年制学科の設置など、さまざまな試練を体験されつつ、最近まで部局長を務められてきた。また、当学会においては、十有余年の長きに亘り理事、委員長職を歴任されている。そしてこのたび、学会における生き字引的存在として、満を持しての理事長就任となる。

この大会では、市川理事長が目指す歯科補綴学と補綴歯科臨床に対する「哲学」を、「補綴の矜持」というキーワードをもって拝聴できる機会を得た。多くの会員に参加いただけることを期待する。

日本補綴歯科学会は 1933 年に発足し、歯学、歯科医療の中核をなす学術団体として今日に至っている。この度、この伝統ある学会の 2017 - 2018 年の理事長を拝命することはこの上ない荣誉である。

歯科補綴学、そしてそれに基づく補綴歯科治療は、これまでも口腔の形態と機能の維持・回復を通じて国民の健康増進に貢献してきた。その中で、分子生物学的研究手法、EBM、国際化などの波が押し寄せ、補綴の価値が揺らぐ状況もあった。しかし、我々は、これらをうまくこの領域に取り込み、昇華し、乗り切っていると考える。その証しの最たるものが、JPR のインパクトファクターではないだろうか。

そして今、CAD/CAM、高齢化、専門性という新たな波が押し寄せてきている。急速な高齢化と増加する要介護高齢者の状況で、そして専門性が進む中で、まさしく歯科が、補綴が真価を発揮できる、しなければならないと考える。

今までの日本補綴歯科学会が歩んできたように、真理や新たな医療技術開発を探究する質の高い学術情報の発信 Science for Science はもちろんであるが、社会構造や疾病構造の変化に起因する諸問題の解決 Science for Society として人々の健康的な暮らしや豊かな人生形成にこれまで以上に貢献しなければならない。

そのためには、補綴だから考えられる、補綴だからしなければいけない Traditional (残すべき技術) & Innovation (治療革新), Global (世界レベル) & Regional (より多くの階層の会員確保), Art & Science (学・匠融合, 文理融合), Macro & Micro (多彩な学術領域) が求められる。

私の期に学会がめざす方向やなすべき活動の考え方を会員の方々に示し、それを共有していただき、一緒に矜持をもって活気ある歯科補綴学と補綴歯科医療を推進していきたいと考えている。

特別講演 Special Lecture

横浜名物 シウマイ物語

Story of SHIUMAI — Locality famous food in Yokohama —

座長

大久保力廣

鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座

Chairperson

Chikahiro Ohkubo

Department of Removable Prosthodontics,
Tsurumi University School of Dental Medicine

野並直文

横浜商工会議所副会頭, 崎陽軒取締役社長

Naobumi Nonami

Vice Chairman, The Yokohama Chamber of
Commerce and Industry
President, KIYOKEN Co., Ltd.

座長自身、横浜市民となって約30年、横浜の名物は何かと聞かれれば「シウマイ」と答える。新横浜駅から新幹線に乗り込む時にも「シウマイ弁当」を購入する。時折、大学での昼食用に鶴見駅構内にある店舗でも購入する。横浜市民にとって、「シウマイ」は紛れもなく愛すべきソウルフードとなっている。

駅弁はコンビニ、スーパーのお弁当と比較して廃棄率が高く、電車の高速化や販売エリアの制限等から、駅弁事業も難しくなっていると聞く。そうした中で、崎陽軒の「シウマイ弁当」は実に1日2万食も売られているらしい。その販売の陰には、臭みの少ない食材の選択、お弁当容器に木材を使用、新方式のご飯の炊飯法等、冷めても美味しくするための徹底した隠された秘密があるという。また販売エリアを全国展開せずに、あえてローカルにこだわっている。こうした商品クオリティーを追求する努力や地域重視性が販売実績の維持増進の源になっているのかもしれない。

某テレビ番組の中で講師の野並社長の金言「変えてはダメなもの」ほど、簡単に変えられる」を耳にし、どうしても地元開催される本学術大会にお招きし、ご講演を拝聴したいと冀望した。駅弁事業と歯科医療は食を介しての繋がりはあるものの、直接的関わりはないかもしれない。しかし、医療現場や教育で変化を求められている私たちにとって、どのような発想の転換が難局を乗り越えるための最善策になるのか、地域から愛され社会から必要とされ続けるには何をすべきなのか、新しいものを産み出す努力をどのように培うのか、なんらかのヒントが得られることに大きな期待を寄せている。

10数年前の新聞に「横浜市民はシューマイ好き 年間購入費全国1位」のタイトルで次のような記事が出ていた。総務省統計局の家計調査で横浜市民の年間シューマイ購入費は2,870円で2位川崎市の1,649円を大きく離している。シューマイ弁当で有名な老舗メーカー崎陽軒の広報担当者は「市民は歴史の中で横浜がシューマイの発祥の地であることに誇りに思っているのではないか。このことが市民がシューマイを愛することにつながっていると思う」と話した。という記事である。ギョーザの場合、宇都宮と浜松が日本一を争っているとの事だが、ことシューマイに関しては断トツの状態が今日まで長年続いている。この理由を崎陽軒の108年の歴史の中から解き明かしてみたい。伊勢の赤福、福岡の辛子めんたいこ、北海道の白い恋人、これら名物と言われているものにはいくつかの共通点がある。食品の場合、第1に安くてうまいという普遍性、第2に地域の個性や文化を表現したものであったり、地域限定等の地域性、第3に工夫やこだわり等の独創性や話題性である。これらの共通点に関して、崎陽軒の歴史や経営方針がどこまで当てはまるか考えてみたい。

崎陽軒の経営理念の第1はナショナルブランドをめざさない。真に優れたローカルブランドをめざすというものだ。ここまで割り切るのは簡単ではなかった。また、それを理念として掲げた後、実行に移すのも苦労した。私は経営理念として、真心とか誠実とか絶対誰も反対しないものを掲げて意味が無いと考えている。特に中小企業は資金も人材も乏しい。これらの経営資源を1つの方向にまとめるのが経営理念であり、何でもありでは中小企業はもたない。

トピックス

- 当社の歴史から得られる教訓6カ条
- カンブリア宮殿
- ニーバーの祈り

海外特別講演 International Special Lecture

高齢患者のインプラント治療

Implant therapy in the geriatric patients



座長

小野高裕

新潟大学大学院医歯学総合研究科包括歯科補綴学分野

Chairperson

Takahiro Ono

Division of Comprehensive Prosthodontics,
Niigata University Graduate School of Medical
and Dental Sciences

高齢患者の高度に吸収した顎堤上にいかにして義歯を安定させるかは有床義歯補綴学の永遠の課題として幾多の技法が試みられてきたが、1990年代に行われた研究によりインプラント・オーバーデンチャー (IOD) が一つの確実なソリューションとなることが今世紀の初めに示された。しかし、その適用にあたっては、局所的・全身的にも、社会的・心理的にも、さまざまなファクターを考慮する必要があることから、いまだ広く普及した治療法とはなり得ていない。

超高齢社会を迎えたわが国において、高齢者の現在歯数は増加しているものの、一方では無歯顎補綴を必要とする患者の数も増え続けており、IODへの期待はますます高まると思われる。高齢者が安心して受け入れることができ、咀嚼機能回復において高い効果が得られ、虚弱や認知症などの問題が生じた場合にもメンテナンス可能なIODシステムが望まれる。

そこで、今回の学術大会に欧州の有床義歯補綴・高齢者歯科学の第一人者であるFrauke Müller先生をお招きし、「高齢患者のインプラント治療」と題する特別講演をお願いした。Müller先生はドイツとスイスの大学病院において顎欠損症例を含む多くの難症例にインプラント義歯を応用するかたわら、高齢者の口腔機能についてきわめて活発な研究を展開して来られた。本特別講演では、いかにしてIODシステムを成功させるか、その要点を明確に整理してお示しいただけるものと期待している。

Frauke Müller

Division of Gerodontology and Removable Prosthodontics, University of Geneva

When tooth loss occurs later in life, ageing and multimorbidity impact dental treatment decisions. There is sufficient evidence to state that the mandibular implant overdenture is a well-established treatment modality, certainly in non-dependent edentulous individuals, but little is known on the very old and geriatric edentulous patients. They often present unfavourable anatomical conditions, xerostomia and a lack muscle control. Although the benefits of dental implants are well documented, elderly adults are often reluctant to agree to an implant insertion, even if cost is removed as limiting factor. The main reasons for implant refusal are the fear of surgery and pain. The present talk therefore describes the use of minimal-invasive and simple treatment concepts for elderly, edentulous patients. It further highlights possible complications which may arise with the onset of dependency and/or frailty and advises further simplification of the implant-restorations when needed. Recall and maintenance in this group of patients is crucial to assure the patients' benefit from the intervention until late in life.

略歴: Frauke Müller is professor and chair for gerodontology and removable prosthodontics at the University of Geneva.

She was born in Kiel, Germany and studied dentistry in Bonn, where she received her Dental and Doctorate Degree. Until 2003, she worked at the Department of Prosthetic Dentistry of the University of Mainz, Germany where she received her habilitation (PD) in 1996. Thanks to fellowships, she had the opportunity to spend several years at the London Hospital Medical College, England (1988 and 1993/94). Professor Müller served on the board of the SSRD (Swiss Society for Reconstructive Dentistry) and is Past-President of the ECG (European College of Gerodontology) and GORG of IADR (Geriatric Oral Research Group). From 2010-2016 she was President of the Swiss Society for Gerodontology and Special Care Dentistry (SSGS). She is member of the ITI Board of Directors (International Team for Implantology) and author of the ITI Treatment Guide no 9 on "Implant therapy in the Geriatric Patient". Frauke Müller is Associate Editor of Gerodontology and edited the textbook "Oral Healthcare and The Frail Elder" and author of the ITI Treatment Guide "Implant therapy for the Geriatric Patient". In 2013 she was awarded the IADR Distinguished Scientist Award in Geriatric Oral Research. Her research activity is mainly related to gerodontology, oral function as well as complete and implant prosthodontics.

トピックス

- 高齢者
- インプラント
- オーバーデンチャー

メインシンポジウム Main Symposium

未来に向けた補綴歯科のアイデンティティー

Identity of prosthodontic practice toward the future

座長

松村英雄

日本大学歯学部歯科補綴学第三講座

市川哲雄

徳島大学大学院医歯薬学研究部口腔顎顔面補綴学分野

Chairpersons

Hideo Matsumura

Department of Fixed Prosthodontics, Nihon University School of Dentistry

Tetsuo Ichikawa

Department of Removable Prosthodontics, Tokushima University Graduate School of Biomedical Sciences

補綴歯科は保存、口腔外科とともに歯科臨床の基本領域であり、教育においても複数の講座で担当している経緯がある。近年、臨床歯科の基本領域を基盤として、境界領域と専門領域の研究と臨床が展開されている。一方、受診者および医科診療科の視点からは、歯科は単独で「歯科」という専門領域ではないか、との意見も根強い。

そこで、第126回学術大会においては、1) 補綴歯科との境界領域であり、2) 補綴の範疇から見た専門領域でもあり、3) 日本歯科医学会の専門分科会として活動している、老年歯科と口腔インプラントに焦点を当て、補綴歯科のアイデンティティーについて語り合うシンポジウムを企画した。

一般社団法人日本老年歯科医学会の櫻井 薫理事長(当法人副理事長)には、老年歯科から見た補綴歯科の重要性と独自性についての講演をお願いした。公益社団法人日本口腔インプラント学会の古谷野 潔常務理事(当法人元理事長)には、口腔インプラントから見た補綴の重要性と独自性についての講演をお願いした。ご両名から境界領域および専門領域から見た補綴歯科のアイデンティティーについて示唆をいただけることを期待している。当法人からは、池邊学術委員会委員が心身の健康と補綴歯科についての講演を行う予定である。

心身の健康からみた咬合・咀嚼の価値

池邊一典

大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座

Value of occlusion and mastication on mental and physical health

Kazunori Ikebe

Department of Prosthodontics, Gerodontology and Oral Rehabilitation, Osaka University Graduate School of Dentistry

健康長寿をテーマに、医学、心理学の研究者と共同研究をしていると、どの様にすれば理解してもらえるかと、歯科の意義や価値を深く考える機会が多くなりました。そしてその結果、咀嚼機能の維持や回復を目指す補綴歯科は、実はもっと誇りを持っていいのだと確信を深めています。

超高齢社会では、長寿そのものより自立を維持し、要介護期間を短くすることがどの分野にも共通の課題です。要介護の原因は、主に脳血管障害、認知症、転倒骨折、関節系疾患であり、これらの予防、あるいは機能低下の軽減ができれば、本人や家族、さらに社会への貢献は大きいと言えます。

我々は2010年度より、健康長寿の要因の探索を目的に、ゲノムから死生観にわたる学際的研究を進めています。この研究は大阪大学を中心とし、老年心理学・社会学、老年内科学、栄養疫学と、我々歯科補綴学・歯周病学とによる共同研究です。その結果から、咀嚼機能は、栄養摂取のみならず運動・認知機能に対して、従来のリスクファクターと同等かそれ以上に大きな役割を果たしていることが分かってきました。心身の健康からすれば、補綴歯科の役割は栄養摂取を介した疾患や機能低下の予防であり、肉類や野菜類など必要な食品摂取に制限をなくすことと理解しています。

まず、一人ひとりの補綴歯科学会員が、咬合や咀嚼の重要性を根拠に基づいて理解することが必要です。そして今一度広い視野に立ち、栄養、運動・精神機能などの共通言語を用いて、補綴歯科の意義や価値を患者、他の医療・福祉職や一般市民に発信するべきだと考えています。

トピックス

- 補綴歯科
- 独自性
- 専門性

トピックス

- 咬合・咀嚼
- 栄養
- 運動・認知機能

老年歯科からみた補綴歯科の重要性と独自性 櫻井 薫

東京歯科大学老年歯科補綴学講座

Importance and originality of prosthetic dentistry
as seen from geriatric dentistry
Kaoru Sakurai
Department of Removable Prosthodontics and
Gerodontology, Tokyo Dental College

本学会編の用語集に、歯科補綴学とは、歯冠の広範囲に及ぶ実質欠損または歯の欠如によって生じた形態的・機能的な変化を人工的に回復し、あるいは欠損も欠如もしていないが形態的・機能的な不良を改善し、病変の進行を阻止し、歯ならびに口腔関連諸組織を保全し、患者の健康の維持・増進をはかることについて考究する学問とある。これが正に補綴歯科のアイデンティティーであり、それは様々な領域から見てもゆるぎのないものである。例えば老年歯科医療を行うに際して、補綴歯科の考え方無くしては成り立たない重要なものの一つである。一般的な診療の観点からみると補綴処置は、歯科治療における最終的な処置である。最終的な姿が描けるか描けないかでは、その歯科診療の価値は変わってくる。その点、本学会の専門医であれば、様々な治療のオプションの中から、患者に最適な処置を選択することが可能である。

学会としてのアイデンティティーはどうであろうか。本学会の定款にうたわれている「歯科補綴学に関する学理およびその応用についての研究発表、知識の交換、会員相互および内外の関連学会との連携協力等を行うことにより、歯科補綴学の進歩普及を図ると共にわが国の学術の発展に寄与し、もって国民の健康福祉の向上に貢献する」という目的が達成できていれば、そのアイデンティティーはなくなる。本学会の各委員会が、どれだけ上記のことを認識して活動しているかに、本学会の存在価値はかかってくる。

特に本学会は公益社団法人であるので、一般社団法人と異なり、公益事業を主たる目的としていることを我々は常に念頭に置いて行動しなければならない。近年、一般社団法人であっても公益性のある活動を積極的にやっている学会もあるので、それと同等の活動をしては存在意義が薄れてくるであろう。

トピックス

- 歯科補綴学
- 専門性
- 公益社団法人

口腔インプラントからみた補綴の重要性と独自性

古谷野 潔

九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座

Significance and originality of prosthodontics
from a viewpoint of oral implantology
Kiyoshi Koyano
Division of Oral Rehabilitation, Faculty of Dental
Science, Kyushu University

口腔インプラント学は、歯科補綴学のみならず、歯周病学、口腔外科学などの多くの分野がかかわる学際的分野であることは言うまでもない。しかし、インプラント治療の目的はというと欠損補綴治療の目的そのものである。一方、伝統的な欠損補綴治療はブリッジや床義歯によって行われる。では、インプラント治療のためのインプラント埋入手術は補綴治療だろうか？手技的には外科治療に属するので、伝統的な観点からすると「否」である。しかし、治療の目的からするとインプラント埋入手術は補綴治療に含まれるとは考えられないだろうか？ちなみに、アメリカ合衆国で補綴歯科専門医の試験や認定を行う American Board of Prosthodontics は、補綴歯科専門医の要件の中に、専門医の申請者自身がインプラント埋入を行ったインプラント補綴治療ケース 2 例が必要としている。口腔インプラントからみると、「補綴歯科の独自性」については、さらなる議論が必要であろう。

インプラント治療における埋入手術を補綴医が行うかどうかの議論を離れてみよう。インプラント治療の外科的な術式や歯周治療の術式はそれぞれの専門家が行うにしろ、最終的にその患者が咀嚼を始めとする顎口腔機能を回復するという目的について検討し、治療の goal を設定し、treatment plan を立案するのは補綴医にしかできない。すなわち、どのような下顎位で、どのような歯列・咬合が確立されるべきであるのかを見渡すことができるのは、補綴医である。そう考えると口腔インプラントからみた「補綴の重要性」、そして「補綴の独自性」が浮き上がってくるようにも思われる。

講演では、上記のトピックを始めとしていくつかの事例をあげて、「補綴の重要性との独自性」について考察する。

トピックス

- 補綴の重要性
- 補綴の独自性
- 口腔インプラント

国際シンポジウム International Symposium

補綴治療のトレンドを知る。
—ヨーロッパそしてインドネシアからの報告—

Trends on current prosthetic treatment.

— Reports from Europe and Indonesia —

座長

矢谷博文

大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座

隅田由香

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科顎顔面補綴学分野

Chairpersons

Hirofumi Yatani

Department of Fixed Prosthodontics, Osaka University Graduate School of Dentistry

Yuka Sumita

Department of maxillofacial Prosthetics, Graduate School, Tokyo Medical and Dental University

Modern prosthetic dentistry and its impact
on current european clinical practice

Hana Hubálková

Charles University, First Faculty of Medicine,
Department of Stomatology, Prague, Czech
Republic

(公社)日本補綴歯科学会は、人々の健康な暮らしや豊かな人生に貢献するべく、質の高い学術情報の発信と健康増進に直結する活動を任務とし、その事業の一つとして国際渉外活動を行っている。2014年10月にインドネシア共和国・バリ島にてインドネシア補綴歯科学会との学術交流協定が締結され、その翌年2015年9月にはチェコ共和国・プラハにおいてヨーロッパ補綴歯科学会と学術交流協定が締結されたことをご存じの通りである。

このような経緯から、ヨーロッパ補綴歯科学会からDr. Hana Hubálková、インドネシア補綴歯科学会からDr. Laura S Himawanをお招きして国際シンポジウムを開催することが企画された。本国際シンポジウムにおいては、学術交流協定締結の立役者でもあるお二人にヨーロッパとインドネシアにおける補綴歯科治療のトレンドをお話しいただくとともに、学術交流協定を結んだ本学会に今後期待すること、また共に遂行していけることについてもご提案をいただく予定である。本国際シンポジウムは、我が国の補綴歯科治療の今後の方向性を考える良い機会となるだけでなく、両補綴歯科学会の国際パートナーとして本学会が取るべき施策を明確にする絶好の機会にもなるものと確信している。

シンポジウムの最後には、現役の要職に就いておられる講師お二人から、女性という立場でいままで心に留めてきたこと、さらには今後成し遂げようとしている夢を語っていただく予定である。その箴言は特に女性会員への力強いエールとなり、これから女性歯科医師として人生を歩んでいく方々の良き指針となるものと期待している。多くの会員の方々にご参加いただくことを座長として切に願うところである。

トピックス

- 補綴歯科治療
- 海外
- トレンド

Current prosthetic dentistry offers sophisticated treatment methods for all types of dental defects including a wide range of conventional and implant-born dentures. European dentists are confronted today with two main streams in patients' requirements. Individual prosthetic treatment plan for younger patients should reflect demanded "absolute aesthetics". On the other side aging of the population brings specific demands on prosthetic treatment planning in the comparison to younger patients. In accordance to the lower adaptability and more conservative attitude of most of senior patients, dentists should be more careful in their synthesis of patients' requirements on functional and aesthetic characteristics of future prosthetic rehabilitation. Limits of successful treatment take their origin in refusing radical methods, in general health status and socio-economic conditions. Dentists must solve sometimes contradictions between their own visions of top treatment and expectations of patients. European prosthetic rehabilitation is driven today by CAI/CAD/CAM methods, reliable dental implants and new ceramic systems.

トピックス

- European prosthodontics
- dental implants
- CAD/CAM in dentistry

Trends in the treatment of prosthodontics in indonesia

Laura Susanti Himawan

Temporomandibular Disorders at the Dental
School, University of Indonesia, Jakarta, Indonesia

Indonesia is a large and unique country, consisting of more than 13,000 islands, 258 million people, and 5,150 kilometer wide. There are 32 dental schools, and interestingly most of the dental students are female. Some schools even have 80% female students. In the Department of Prosthodontics, in Jakarta the ratio of the lecturers between women and men is about 2:1. So women could play a very important role in dentistry especially in Prosthodontics. In the rural area, we still have “underground dentist” which are informal dentists who provide dental services by learning their craft through family traditions. Fortunately nowadays, these practices are becoming less common. Given these distinctive conditions, there are many variations in the treatment of prosthodontics in Indonesia, from a simple treatment like an acrylic removable denture to a high tech one such as implants, CAD/CAM, using zirconia etc. Since JPS is also a partner of IPS, we hope that the academic agreement between us signed in October 2014 could be fulfilled at least to hold joint meetings and to promote cooperative research projects.

トピックス

- Prosthodontic
- women
- Indonesia

シンポジウム 1 Symposium 1

CAD/CAM デンチャーはどこまで進んだのか

Development and clinical application of CAD/CAM denture system

座長

疋田一洋

北海道医療大学歯学部口腔機能修復・再建学系
デジタル歯科医学分野

永尾 寛

徳島大学大学院医歯薬学研究部口腔顎顔面補綴学
分野

Chairpersons

Kazuhiro Hikita

Division of Digital Dentistry, Department of Oral
Rehabilitation, Health Sciences University of
Hokkaido School of Dentistry

Kan Nagao

Department of Oral & Maxillofacial Prosthodontics,
Institute of Biomedical Sciences, Tokushima
University Graduate School

CAD/CAM 冠やジルコニアブリッジをはじめとして、クラウン・ブリッジを CAD/CAM 技術で製作することは、今や当然の時代となっている。そして次のターゲットとして、有床義歯を CAD/CAM 技術で製作することが掲げられている。CAD/CAM デンチャーの製作においては、広範囲の粘膜を印象する必要があり、硬組織を計測するクラウン・ブリッジとは異なり、まずは口腔内スキャナーによって変形する軟組織のデジタル印象を行い、義歯床辺縁を設定する難しさがある。しかし一方で、CT データと連動し、これまで以上に三次元的な形態情報を駆使して、咬合採得や人工歯の排列位置の決定などを CAD ソフト上でを行い、より科学的な設計を行うことが可能となる。また、義歯床や人工歯など混在する異種材料をどのように組み合わせるべきか検討されており、これまでのレジン系材料にこだわらない新しい材料を選択する可能性もある。現在は、CAD/CAM 技術を最大限生かす CAD/CAM デンチャー製法とはどのようなものか、様々な試みが行われている段階である。

そこで本シンポジウムでは、まずは本領域において研究を牽引されてきた水口俊介教授（東京医科歯科大学）に、これまで行われてきた独自の義歯製作システムの研究開発および今後の CAD/CAM デンチャーの可能性について解説していただく。続いて、新保秀仁先生（鶴見大学）には、現在留学中の南カリフォルニア大学で開発された DENTCA システムを使用した全部床義歯の製作方法および臨床応用など、アメリカにおける最新情報について解説していただく。

トピックス

- デジタルデンティストリー
- CAD/CAM デンチャー
- 臨床応用

CAD/CAM コンプリートデンチャーがめざすもの

水口俊介

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科高齢者
歯科学分野

What CAD/CAM complete denture aims for
Shunsuke Minakuchi

Gerodontology and Oral Rehabilitation, Graduate
School of Medical and Dental Sciences, Tokyo
Medical and Dental University

IT 技術の飛躍的な進歩の恩恵を受け、補綴装置の製作に CAD/CAM が適用されるようになって久しい。固定性補綴装置では口腔内での光学印象や CAD/CAM 技術による補綴装置のデザインと製作が実用化されており、有床義歯の分野でも CAD/CAM 技術によるフレームの製作が実用化され、その品質も改善され、鋳造より欠陥の少ないレーザーシタリングによるフレーム製作も実用化されている。全部床義歯領域でも海外では商業ベースのシステムがいくつも稼働している。義歯製作の CAD/CAM 化によって、従来法では解決できなかった多くの問題が解決される可能性がある。製作工程における情報伝達は数値データとなり、義歯形態の数値解析の可能性や製作過程での情報伝達エラーの減少、工程自体の簡素化、使用材料の進歩等が期待できる。さらにはこれらを臨床指導に適用すれば、パッチャル患者や遠隔医療における貢献が期待でき、義歯の品質のボトムアップにもつながる。しかしながら CAD/CAM 化にはいまだ乗り越えられない問題や CAD/CAM 化によって生じる新たな問題も存在する。

全部床義歯は人工歯と義歯床のみで構成されているため、CAD/CAM 化には適した対象といえる。しかしながら構成要素が人工歯と義歯床のみのため、その形態自体に義歯が必要とされる維持、安定といった機能的要素と審美性を盛り込まなければならず、それを実現する過程を CAD/CAM 化することが重要となる。今回のシンポジウムでは、全部床義歯に的を絞って、これまでの全部床義歯製作の CAD/CAM 化の道のりと、進展する超高齢社会における全部床義歯治療に対する CAD/CAM 技術の貢献の可能性について述べる。

トピックス

- CAD/CAM 化の道程
- CAD/CAM 化の壁
- 歯科医師の責務

CAD/CAM 技術応用した可撤性補綴装置

新保秀仁

鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座

Construction of removable prosthesis using CAD/
CAM

Hidemasa Shimpō

Department of Removable Prosthodontics,
Tsurumi University School of Dental Medicine

デジタルテクノロジーの飛躍により、補綴装置製作は大きな変革期を迎えている。これまで遅れていた可撤性義歯分野においても、ここ数年で CAD/CAM 技術の応用は急速に前進し、臨床応用可能なレベルにまで達してきていると考えられる。

当講座ではデジタルテクノロジーを用いた全部床義歯の製作方法として、DENTCA システム (Nexteeth™, Whole you, Inc. USA) を採用している。2007 年に Prof. Tae Kim (南カリフォルニア大学) により考案され、少ない来院回数で精密な CAD/CAM デンチャーを製作するシステムであり、既にアメリカでは一般臨床に応用されている。臨床術式は以下の通りである。①専用の DENTCA トレーを用いたシリコン印象材による精密印象採得、咬合採得、ゴシックアーチ描記、②印象体のスキャンと CAD による分析およびデザイン、③ 3D プリンターを用いた Try-in デンチャーの製作と口腔内での試適、④高強度アクリルレジンブロックを使用した CAM (ミリング) による義歯床の製作と既成人工歯の接着、により全部床義歯が完成する。今回はアメリカにおける DENTCA システムの現状とその臨床例や通法に従って製作された全部床義歯との比較を行った臨床評価について報告するとともに、DENTCA システムに用いられているデザインソフトを利用して口腔内情報と CT データとのスーパーインポーズによる解剖学的構造の抽出やデンチャースペース情報 (ピエゾグラフィ) を義歯形態に反映させた最新テクニックを紹介する。また、フルデジタル化に向けて、現在、南カリフォルニア大学にて行われているデジタルインプレッションによる即時義歯の製作やコンブーム CT を利用したインプラント補綴の症例から、その問題点と今後の課題を検討し、現状と近未来の CAD/CAM 技術を応用した補綴装置の製作に関して考察する。

トピックス

- CAD/CAM
- Removable prosthesis
- DENTCA system

シンポジウム 2 Symposium 2

軟質材料を用いた義歯のリラインによる臨床効果

Clinical effect of resilient lining denture prostheses

座長

河相安彦

日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座

上田貴之

東京歯科大学老年歯科補綴学講座

Chairpersons

Yasuhiko Kawai

Nihon University School of Dentistry at Matsudo

Takayuki Ueda

Department of Removable Prosthodontics & Gerodontology, Tokyo Dental College

軟質リラインの基礎とエビデンス

村田比呂司

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科歯科補綴学分野

Fundamental knowledge and evidence of soft lining to denture

Hiroshi Murata

Department of Prosthetic Dentistry, Graduate School of Biomedical Sciences, Nagasaki University

平成 28 年 4 月の診療報酬改定で、間接法による下顎総義歯床内面適合法にシリコン系軟質リライン材が適用された。しかし以前より、軟質リライン義歯に用いるシリコン系およびアクリル系製品は臨床現場で使用されてきたことはよく知られている。

軟質リライン義歯の位置づけは、あくまで硬質床用レジン義歯のオルターナティブトリートメントであり、ときに補綴臨床では好ましくないものとも捉えられてきた節もある。では今なぜ、「軟質リライン義歯なのか？」

8020 運動により、中年層の無歯顎者が減少している。一方、超高齢化社会を迎えた我が国における、無歯顎者は年々高齢化している。そして、粘膜の菲薄化に代表される口腔領域の諸問題を抱え、身体的にも社会的にも様々な背景を有する無歯顎者の増加が見込まれており、臨床の現場では、すでにその波が押し寄せている。すなわち健康高齢者のみならず、要介護高齢者や終末期高齢者までの対処が、我々に求められるだろう。そのような中、軟質リライン義歯という「引き出し」は有効なのだろうか？

軟質リライン義歯を装着した患者と硬質義歯を装着した患者を比較した臨床研究を重ねてきた結果、軟質リライン義歯の高い臨床効果は強いエビデンスとして評価して良いと考えられる。その材料が有する特性から、硬質床用レジン義歯とは全く異質の反応が患者から得られているようである。一方、その材料学的な課題は少なくなく、費用対効果の観点から改善が強く望まれる。本講演では「いま、なぜ軟質リラインなのか？」を問い、その基礎とエビデンスならびに臨床に関する UP TO DATE を供覧し、また臨床的な問題点を整理し議論したいと思っている。

日々の臨床で、義歯床粘膜面の適合性、咬合関係および床縁の設定等が良好な義歯を装着しても、咀嚼時疼痛を引き起こし、リリーフ等の調整を行っても解決できない義歯難症例を経験されている先生方は多いものと思う。多くの場合、顎堤の吸収が著しく、床下粘膜が菲薄で顎堤頂まで可動粘膜に覆われている下顎の全部床義歯症例である。とくに最近、義歯の装着にとって条件のよくない顎堤を有する患者が増えているように感じる。このような症例には咀嚼圧に対して緩圧効果を有する軟質リライン材の応用が有効である。

現在国内では軟質リライン材として、シリコン系とアクリル系の製品があり、それぞれ常温重合型と加熱重合型の材料に分類される。本材は前述したような難症例に、そのクッション効果を期待し応用されるが、材質により柔軟性や耐久性が異なっている。シリコン系は粘性が少なく、弾性的な性質を有しており、アクリル系は粘弾性的性質を有している。しかしながら、耐久性に関してはアクリル系よりもシリコン系のほうが有利である。そのため臨床応用に際しては、症例に応じて使い分ける必要がある。

軟質リライン義歯の臨床的有用性についても、これまで種々の研究成果が報告されてきた。このような背景のもと、先生方もご存じのように、平成 28 年度の診療報酬改定により軟質材料の適用が有床義歯内面適合法に新たに導入された。適用されるのは下顎の全部床義歯で、使用材料はシリコン系軟質リライン材、術式は適切なリライン層の厚さが確保できる間接法に限るとされている。

本講演では軟質リライン材の種類、材料学的特性、軟質リライン義歯の機能的効果および軟質材料を用いる有床義歯内面適合法について解説する。

トピックス

- 軟質リライン義歯
- 無歯顎患者の高齢化
- 臨床エビデンス

トピックス

- 軟質リライン材
- 機能的効果
- 有床義歯内面適合法

軟質リラインのポイントとコツ

上田貴之

東京歯科大学老年歯科補綴学講座

Know-how of lining of removable dentures with soft lining materials

Takayuki Ueda

Department of Removable Prosthodontics & Gerodontology, Tokyo Dental College

日本補綴歯科学会の「リラインとリベースのガイドライン (2007)」によると、リラインの方法には直接法と間接法があり、間接法にはジグによる方法とフラスク埋没による方法がある。直接法による軟質リラインでは、唾液の混入により床用レジンとの接着が不確実になる恐れが高く、軟質材料の厚みを均一にすることが難しいなどの問題点がある。そのため、軟質材料を用いたリラインでは、間接法を用いるのが望ましいと考えられる。使用する軟質材質による分類では、シリコーン系とアクリル系などがある。演者は、長期経過が比較的良好で、弾性的性質を持つシリコーン系軟質リライン材を用いることが多い。

本講演では、シリコーン系軟質リライン材を用いた間接法の一般的な臨床術式とその際の注意点やコツを紹介する。この方法は、2016年4月より保険収載された軟質材料による有床義歯内面適合法として臨床応用していただくことが可能である。また、リライン後の適合試験の方法や調整方法について、症例を供覧しながらポイントを解説したい。

また、軟質リライン後の義歯の取り扱い、従来の硬質床用材料や硬質リライン材とは異なる点が多い。術後管理についての患者指導の方法や義歯清掃方法にも注意が必要である。義歯用ブラシでの機械的清掃による軟質材料の表面性状へ与える影響に関する演者らの研究結果や文献を交えて紹介するとともに、適切な管理方法について議論したいと思っている。

トピックス

- 軟質リライン
- 可撤性義歯
- 臨床術式

シンポジウム 3 Symposium 3

歯科補綴領域の再生医療実現における課題と未来

Challenges and future for tissue engineering in prosthodontics

座長

西村正宏

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科

秋葉陽介

新潟大学大学院医歯学総合研究科

Chairpersons

Masahiro Nishimura

Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences

Yosuke Akiba

Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences

平成 26 年のいわゆる再生医療等安全性確保法の施行と薬事法の改正（薬機法）により、本邦では再生医療の実用化が加速している。本学会でも以前から再生医療関連の基礎研究は活発に行われているが、残念ながら補綴領域での再生系の研究成果が臨床に直接的に貢献しているものは見当たらない。

小範囲の再生であれば、生体材料単独あるいは成長因子との組み合わせで組織は再生可能であるが、広範囲の組織再生には細胞治療が有力な手法となる。細胞を使った再生医療には大きく二つのパターンが存在する。いわゆる再生医療等安全性確保法に則り臨床研究として再生医療を進め、いずれは先進医療、保険治療へと実用化を進めていこうとする道筋と、薬機法に則り細胞や生体材料を培養して加工し、新たな材料として治験を進め、いずれは医療材料として販売を進めていこうとする道筋である。前者は主に医師・歯科医師主導で進められ、後者は主に企業主導で進められるが、どちらのシーンも大学での研究からもたらされており、今後もその状況は変わることはないと思われる。そこで我々の学会でも再生医療の研究を実施する際に、こういった実用化の導出を視野に入れて研究することが、臨床応用への近道になるとと思われる。

本シンポジウムでは歯周組織の再生を目的に、自己脂肪組織由来幹細胞による細胞治療の臨床研究を大学で進められている村上先生と、鼻軟骨の再生を目的に、自己耳介軟骨細胞による細胞治療の新たな再生医療等製品の承認に向けて細胞培養加工業者として治験を進めておられる原井先生にお話をいただき、補綴領域で再生医療の研究を臨床へ展開するためにはどういった視点が必要なのかを皆様と共に議論したい。

トピックス

- 再生医療
- 組織再生
- 細胞治療

脂肪組織由来幹細胞移植による歯周組織再生誘導—臨床研究から我々が学んだこと—
村上伸也

大阪大学大学院歯学研究科口腔治療学教室

Periodontal regeneration by transplantation of adipose tissue-derived stem cells

Shinya Murakami

Department of Periodontology, Osaka University Graduate School of Dentistry

歯周病の進行により破壊された歯周組織は、原因を除去するだけでは再生はしない。我々の研究室では、採取に際して患者への負担が比較的少ないと考えられる脂肪組織に着目し、同組織に内在する未分化間葉系幹細胞（脂肪組織由来多系統前駆細胞 Adipose tissue-derived multi-lineage progenitor cell: ADMPC）の自己移植による歯周組織再生誘導効果について検討を重ねてきた。まず、ビーグル犬の実験的歯周病モデルを用いて、自己由来 ADMPC を足場材（フィブリンゲル）とともに歯周組織欠損部に移植することにより歯周組織の再生が誘導されることを明らかにした。その成果に基づき、現在、大阪大学歯学部附属病院にて臨床研究を実施している。被験者である歯周病患者の腹部皮下脂肪組織を採取し、ADMPC を単離・培養した後、同細胞をフィブリン製剤と混和し、歯周外科時に歯周組織欠損部に移植するものである。プライマリーエンドポイントは当該治療の安全性とし、様々な観点から有害事象の有無、種類、重症度、発現頻度等を評価している。セカンダリーエンドポイントは当該治療の有効性とし、移植後 36 週における新生歯槽骨の増加率や臨床のアタッチメントレベルの獲得量から有効性を評価している。これまで ADMPC 移植を行った症例の観察結果から、同細胞移植療法が重度な歯槽骨欠損に対しても歯周組織再生誘導効果を示すことが明らかとなりつつある。一方で、ADMPC 移植に関連すると考えられる有害事象は観察されていない。本講演では、ADMPC 移植による新規歯周組織再生療法開発の現状について報告するとともに、一連の研究過程で我々が学んだことを、先生方と情報共有したいと考えている。

トピックス

- 歯周病
- 歯周組織再生
- 脂肪組織由来幹細胞

再生医療等製品の開発から企業治験の現状

原井基博

富士ソフト株式会社 再生医療研究部

The development of regenerative medicine and current status of clinical trial

Motohiro Harai

FUJI SOFT INCORPORATED Executive Operating Officer Regenerative Medicine Research & Business Division

富士ソフト株式会社では、東京大学から技術移転を受け、自己の耳介軟骨から鼻の「インプラント型自己細胞再生軟骨」の実用化に向けて企業治験を実施している（2015年2月10日報道発表）。

当社は、産官学連携活動の一環として、2005年11月に、東京大学医学部附属病院で「軟骨・骨再生医療寄付講座」を開講した。その後、2007年8月に軟骨と同じ位の硬さを持つ再生軟骨（インプラント型再生軟骨）の作成の成功と研究開発の成果が認められ、2007年10月に独立行政法人科学技術振興機構（JST）の企業向け公募プログラム「独創的シーズ展開事業 委託開発」の公募に採択された。以後、東京大学から技術移転を受けて、東京大学医学部附属病院で実証された研究成果を元に、インプラント型再生軟骨の製造の標準化・保存技術の開発・輸送技術の開発を行い実用化及び製品化への研究に取り組んできた。

2011年6月には、東京大学の臨床研究で、再生軟骨埋植後長期間において有効性を維持することに世界で初めて成功し、その後の経過も順調であることが発表された。

2013年7月からは、医薬品医療機器総合機構（PMDA）の薬事戦略相談対面助言を受け、企業治験への準備を進めてきた。

こうした10年にわたる再生医療への取り組みを経て、今回「インプラント型自己細胞再生軟骨」の企業治験に至ることとなった。

再生医療等製品の共通の問題点である製造時の製造工程でのトレーサビリティに関しては、当社の主要事業であるソフト開発の技術を有効に活用しGCTPに対応出来る製造管理トレーサビリティシステムを企業治験にて実際に使用している。

本講演では、再生医療等製品開発から企業治験までの道筋を述べる。

トピックス

- 再生軟骨
- 治験
- 再生医療等製品

シンポジウム4 Symposium 4

「米国型 vs. スカンジナビア型」

—日本の補綴歯科専門医はどちらを向いているのか?—

The US approach vs. the Scandinavian approach in prosthodontic treatments

座長

江草 宏

東北大学大学院歯学研究科分子・再生歯科補綴学
分野

中居伸行

関西支部

Chairpersons

Hiroshi Egusa

Division of Molecular and Regenerative
Prosthodontics, Tohoku University Graduate
School of Dentistry

Nobuyuki Nakai

Kansai Branch

超高齢社会の日本では、中等度以上の歯周炎を有する高齢者の割合は増加しており、今後も歯周病患者に対する補綴歯科治療の重要性は変わらない。また、各年代で一人あたりの現在歯数は増加傾向にあり、少数歯欠損に対する固定性補綴臨床の専門性はより重要性を帯びるであろう。

歯周病患者に対する補綴歯科医の専門性を考えた場合、一つの潮流として、各治療分野の専門家が連携し、歯周組織再生療法やインプラント審美補綴治療等の包括的な専門治療によって高いレベルの審美性および機能回復を提供する米国型の治療コンセプトがある。一方、日本の国民皆保険制度を考慮すると、費用対効果を追求し、必要以上の治療はしないスカンジナビア型の治療コンセプトは参考になる。ただし、スカンジナビア型のアプローチで着目すべきは、臨床エビデンスに基づき、“感染の除去”と補綴歯科医が専門とする“力の制御”を徹底的に意識している点である。また、歯周組織の改善と安定を得た後に装着されるクロスアーチブリッジや、短縮歯列に用いるカンチレバブリッジは日本では自費治療であり、補綴歯科医にはこのアプローチに対する深い理解と専門的な技術が求められる。

本シンポジウムでは、松井先生が Boston で学ばれ実践されている歯周治療を「米国型」と定義させていただき、弘岡先生が実践されている「スカンジナビアンアプローチ」と対比しながら、両治療コンセプトを歯周病患者に対する固定性補綴の臨床例から整理したい。また、菅野先生には歯周病患者における補綴歯科治療について文献的考察を加えていただき、双方のアプローチに共通して補綴歯科医に求められる専門性を考察したい。これにより、本学術大会のテーマである「補綴歯科がめざすもの、求められるもの」を考える一助となれば幸いである。

トピックス

- 米国型歯周治療
- スカンジナビアン アプローチ
- 補綴歯科専門医

補綴歯科治療におけるスカンジナビアン
アプローチ

弘岡秀明

東京都

Scandinavian approach in prosthodontic
treatments

Hideaki Hirooka

Tokyo

歯周治療においてはイェテボリ大学の Lindhe をはじめとするスカンジナビアのグループにより、プラークコントロールを主体とした非外科処置、適切な外科処置、時に抗菌剤の付加的な応用に加え、その後のサポートセラピーで歯周治療の目標である“歯周組織の改善と安定を図る”いわゆる「スカンジナビアンアプローチ」が1990年代までに確立された。重度歯周炎に罹患した患者では感染除去後、歯周組織の喪失のため、動揺を伴う少数歯残存歯列に至る場合がある。このような患者の失われた咀嚼機能と審美性の回復、さらには過度の動揺を安定させ、残存する歯周組織を保護する治療概念として、彼らは“歯周補綴”を提唱した。

近年、欠損歯列に対する補綴歯科治療スタイルの一つとして、「北欧型補綴治療」または歯周治療と同様に「スカンジナビアンアプローチ」が提唱されている。欠損歯列への対応方法には Partial Removable Dental Prosthesis (PRDPs) あるいは Fixed Dental Prosthesis (FDPs) の選択があり、FDPs においては2000年代に入ると天然歯支台のみならずインプラント支台も用いられ、その有効性が報告されている。時に術者は短縮歯列も含めて補綴処置を何もしないという選択肢も存在する事も考慮すべきであろう。

今回 FDPs に絞ってスカンジナビアン アプローチの背景について考察すると共に、歯周補綴に加え、我々が提唱する“Perio-Implant Prosthesis” (PIP: 歯周補綴の手段として天然歯に加えインプラントを支台に減少した歯周支持組織ならびに過度の動揺を呈する残存歯の歯周組織の保護を目的とした補綴処置) について症例を閲覧しながら文献的な考察をしたい。

トピックス

- スカンジナビアン アプローチ
- 歯周補綴
- Perio-Implant Prosthesis

補綴歯科治療における歯周病的配慮

—米国型歯周治療の立場から—

松井徳雄

東京都

Periodontal considerations in prosthodontic treatments

—The use of the US approach in a periodontal therapy—

Tokuo Matsui

Tokyo

歯科疾患にはカリエス、歯周病、歯牙破折、根尖病変、外傷など多岐にわたる病変があり、その結果、歯および歯周囲組織はさまざまな状態に変化する。これらの疾患に対し、歯科治療すべての目標は、良好な口腔状態を長期的に維持し、機能させることと考える。しかし成人患者の多くは、歯周病に罹患し、咬合状態も不安定なことも多く、その対応に苦慮することも少なくない。このような状況で補綴歯科治療を余儀なくされる場合、治療結果の長期的予後を望むことは簡単ではなく、深い歯周ポケットや骨の形態異常などの歯周病変の改善や歯牙の位置を是正する矯正治療など一口腔一単位視点の総合治療が求められる。

口腔内の長期的安定には、患者自身による清掃性の高い口腔内環境と安定した咬合の確立が大切で、歯周病患者に対しては「歯周ポケットの除去、生理的な骨形態の獲得、付着肉の獲得」によりプラークコントロールしやすい環境の確立が望ましいと考える。また歯周病により歯の位置が変化した結果、清掃性が悪くなり咬合力が不適切に加わることもあり、これらの状態を改善するため、適切なポジションへの矯正治療が必要なこともある。歯、歯周組織、歯のポジションが適切であり、加えて患者自身が有する安定した咬合状態を臨床的に確立すること、この両輪が合わさることにより、良好な治療結果の長期的安定が得られると考える。

今回は、中等度および重度歯周炎を有する患者に対する補綴歯科治療を例に、私が考える米国型の歯周病的配慮について考察し、先生方のご意見を承りたい。

トピックス

- 清掃性 / 審美性の向上
- 生理的骨形態
- 米国型歯周治療

歯周病患者に対してどのような補綴歯科治療方法の選択が有効か？

菅野太郎

東北大学大学院歯学研究科分子・再生歯科補綴学分野

How should we select prosthodontic therapy for periodontally compromised patients

Taro Kanno

Division of Molecular and Regenerative Prosthodontics, Tohoku University Graduate School of Dentistry

日本の人口減少によって歯科のマーケット自体は縮小するといわれている。しかし、この10年の日本人の現在歯数は高齢者を中心に増加するとともに、歯周病罹患率も増加傾向にある。このことはこれからの歯科ニーズを考えるにあたり、“歯を失ったことによる問題”から“歯が残ることによる問題”へとパラダイムシフトが起きていることを示唆している。実際の臨床現場においても、予防やメンテナンスの大切さを謳う歯科医院は多くなり、患者側からも“歯を残したい”というこだわりを提示されることが多くなってきたことを実感する。従って、今後わが国では、歯周炎罹患歯を可能な限り抜歯から救い、それをリソースにした専門的な補綴歯科治療のニーズが高まる可能性が考えられる。

また、歯科補綴学を「歯が欠損した時から始まる学問」と考えるのであれば、歯を失う最大の原因である齶蝕と歯周病という感染症が“重度”の症例こそ、専門医が積極的にアプローチすべきと理解できる。従って、補綴歯科専門医には、重度歯周炎や重度齶蝕に罹患した患者の補綴的なマネジメントについて理解し、補綴処置後の再感染の予防まで含んだ補綴歯科治療方法を提案できる知識と技術が求められるであろう。

今回の講演では、“歯周病患者の補綴歯科治療”にフォーカスして文献的考察を行い、特に“重度歯周炎を有する患者に対する補綴歯科治療方法”をどのような基準で選択すべきなのかを考察したい。また、従来の“歯周補綴”を基に発展させた“歯周インプラント補綴”および“再感染を予防する歯科補綴学”の概念を提示し、これら一連の治療分野が補綴歯科医の専門性の一つとして国民の健康を向上する一助となることを期待したい。

トピックス

- 重度歯周炎
- 歯周インプラント補綴
- 再感染を予防する歯科補綴学

臨床スキルアップセミナー Clinical Skill-up Seminar

補綴歯科治療を進めるうえで知っておくべき咬合異常

— 歯だけにとらわれない診かた考え方 —

Occlusal abnormality for prosthodontic treatment

— Diagnosis and concept not only with teeth —

座長

松香芳三

徳島大学大学院医歯薬学研究部顎機能咬合再建学
分野

武部 純

愛知学院大学歯学部有床義歯学講座

Chairpersons

Yoshizo Matsuka

Department of Stomatognathic Function and
Occlusal Reconstruction, Graduate School of
Biomedical Sciences, Tokushima University

Jun Takebe

Department of Removable Prosthodontics, School
of Dentistry, Aichi Gakuin University

補綴歯科治療の目的の一つは異常な咬合を正常なものに修復することである。多くの場合、規定した咬合位において補綴装置を使用して修復することにより、正常な機能回復を図ることが可能である。ただし、補綴歯科治療を進めていくうえで知っておくべき咬合異常が存在しており、普段通りに補綴歯科治療を行っても、正常な機能が獲得されないこともある。治療方針を見誤らないようにするためには、目前の患者における咬合異常の原因を明らかにすることが重要である。しかしながら、日常臨床において、原因の特定に苦慮する咬合異常に遭遇することは少なくない。例えば、後天性の開咬などの顎関節の変化に起因する二次的な咬合異常、筋の過緊張やジストニアなど、筋の障害による咬合異常、心身医学的な要因などによる咬合違和感などである。これらの患者に対しては、歯や歯列のことだけを視野に入れているとその対応において支障が生じる場合もある。

本スキルアップセミナーでは、顎関節、神経・筋、心理社会的因子など、幅広い観点からの咬合異常の診かたと対応法について理解を深め、臨床に役立てていただけるよう解説する。山口先生には顎関節や筋の障害による二次的な咬合異常に対する診断、対処法に関して解説していただく。その後、松香が咬合違和感に関して概説する。本スキルアップセミナーは臨床経験が浅い先生方を主な対象とした企画ではあるが、日常臨床で遭遇しない先生方も多いため、ベテランの先生方にとっても有意義な機会になると期待している。

トピックス

- 咬合異常
- 二次的咬合異常
- 咬合違和感

顎関節の形態変化や咀嚼筋障害に起因する

二次的咬合異常

山口泰彦

北海道大学大学院歯学研究科口腔機能学講座冠橋
義歯補綴学教室

Secondary malocclusions due to morphological
changes in temporomandibular joint and
disorders of masticatory muscles

Taihiko Yamaguchi

Department of Crown and Bridge Prosthodontics,
Division of Oral Functional Science, Graduate
School of Dental Medicine, Hokkaido University

下顎位や咬合接触は、歯や歯列、顎関節、咀嚼筋群、神経系の各要素により決定されるため、咬合異常の中には歯や歯列以外の要素の異常に起因したものが含まれる。

顎関節の形態変化に継発する咬合異常は、骨の変形などで下顎頭が上方へ偏位し、前方歯列の開咬を呈する群と、滑液の貯留や浮腫、稀ではあるが腫瘍性病変など何らかの原因で顎関節隙が拡大し、上下臼歯部が離開した状態を呈する群に大別される。

筋の異常緊張に伴う二次的な咬合異常では、緊張した筋の部位により様々なパターンの顎位変化とそれに伴う早期接触や非接触、咬合位の不安定化が起こり得る。筋緊張により下顎が偏位した状態で咬頭嵌合し、元々存在していた低位咬合部分が潜在化する場合もある。不随意運動性の疾患である顎口腔ジストニアの中には閉口障害を呈し十分に咬合接触できない例があり、その状態が不良補綴装置由来の低位咬合と誤診されることもある。

これら二次的な咬合異常には、一時的変化で後戻り可能なものも含まれ、性急に不可逆的な咬合調整や補綴歯科治療を行うと新たな咬合異常に繋がることもある。また、補綴歯科治療だけでは対応しきれないものも含まれる。そこで、咬合異常の原因となっている顎関節や筋の病態の的確な把握が望まれるが、顎関節や筋の臨床所見に乏しい場合も少なくない。咬合異常の発症経過や歯科治療の経過などの病歴を活用してスクリーニングした後、画像検査や筋電図検査などを併用することで原因の特定が可能となる。それでも、原因を特定できない場合は、基本的に可逆的な対応が優先される。

講演では、顎関節の形態変化や筋障害に起因する二次的な咬合異常のいくつかの主要パターンの特徴を提示しながら、顎関節、神経・筋を含めた幅広い観点からの咬合異常の診かたと対応法について解説したい。

トピックス

- 二次的咬合異常
- 顎関節の形態変化
- 咀嚼筋障害

咬合違和感の診断と対処法

松香芳三

徳島大学大学院医歯薬学研究部顎機能咬合再建学
分野

Diagnosis and management for occlusal
discomfort

Yoshizo Matsuka

Department of Stomatognathic Function and
Occlusal Reconstruction, Graduate School of
Biomedical Sciences, Tokushima University

咬合違和感を訴える患者の検査をしても問題が見つからず、対応に苦慮した経験を持つ先生は多いと感じている。咬合違和感は精神的な問題として理解されることもあり、歯科臨床では敬遠されることが多い。患者の咬合違和感の訴えが激烈であれば、歯科医師は患者を救いたい一心で、咬合状態には問題がなくても、咬合調整や咬合再構成などの不可逆的な治療を施してしまうこともある。そのため、咬合違和感を歯科医師が理解することは大きな課題である。日本補綴歯科学会診療ガイドライン委員会の咬合違和感症候群に関するポジションペーパーでは、咬合違和感症候群を広義のものと狭義のものに分類し、狭義のものは occlusal dysesthesia（歯髄疾患、歯周疾患、咀嚼筋ならびに顎関節疾患のいずれもが認められず、臨床的に咬合異常が認められないにもかかわらず6カ月以上持続する咬頭嵌合位での不快感）に該当するものとしている。また、狭義の咬合違和感症候群患者の特徴として以下のことなどがあげられる。発症後の経過は長期である、歯科治療後の咬合の微妙な変化による顎の動きの変化を受け入れられない、全ての身体症状が咬合に起因していると信じて疑わない、ドクターショッピングを繰り返す、心理的、社会的、職業的損失を受けている、頻りに自分の咬合や顎位のチェックを行う、新たな歯科医院を受診する際、過去の治療に関する長い手紙や自分で描いた絵などを持参する、などである。

また、咬合違和感の原因は精神疾患に起因、あるいは末梢から中枢神経系における情報伝達・情報処理機構に起因するとされている。今回は咬合違和感に関して概説し、先生方のご批判を仰ぎたいと希望している。

トピックス

- 咬合違和感
- 精神心理学
- 歯根膜感覚

臨床リレーセッション 1 Clinical Lecture Series 1

咬合支持に起因する難症例への補綴学的アプローチ：
Eichner の分類に応じた補綴介入

Prosthetic management for intractable cases related to the loss of appropriate occlusal support: Prosthetic interventions according to the Eichner classification

座長

大川周治

明海大学歯学部機能保存回復学講座歯科補綴学分野

築山能大

九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座
インプラント・義歯補綴学分野

Chairpersons

Shuji Ohkawa

Division of Removable Prosthodontics Department
of Restorative and Biomaterials Sciences, Meikai
University School of Dentistry

Yoshihiro Tsukiyama

Section of Implant and Rehabilitative Dentistry
Division of Oral Rehabilitation Faculty of Dental
Science, Kyushu University

低位咬合症例に対する考察とその対応

兒玉直紀

岡山大学病院咬合・義歯補綴科

Clinical consideration and management for
infraocclusion

Naoki Kodama

Occlusion & Removable Prosthodontics, Okayama
University Hospital

咬合は、われわれ補綴臨床医が補綴歯科治療を行う上で常に考慮すべき因子であり、その重要性は十分に認識されている。咬合支持の喪失、特に、適切な咬合位が失われた症例では、中心咬合位の設定・回復に苦慮することも少なくない。さらに、咬合支持の喪失に至った要因に対する適切な対応がされない場合には、苦勞して回復した咬合状態が再び崩壊してしまう可能性もあろう。このような点で、日常臨床で咬合支持に起因する難症例に遭遇し、その対応に苦慮している臨床医は少なくないと推察される。

そこで今回の臨床リレーセッション1では、「咬合支持に起因する難症例への補綴学的アプローチ：Eichner の分類に応じた補綴介入」をテーマに、咬合支持に起因する難症例に関して Eichner の分類に基づいて整理し、各症例に対する補綴歯科治療のポイントおよび具体的なアプローチの方法を提示していただくこととした。最初に、兒玉直紀先生に著明な低位咬合により十分な臼歯部の咬合支持が得られない症例（Eichner A.B 群）について供覧していただき、歯式上の咬合支持は概ね確保されているが適切な咬合位が失われた症例への補綴歯科治療について解説していただく。次に、荻野洋一郎先生に臼歯部咬合支持喪失後の下顎前歯によるアンテリアハイパーファンクション症例（Eichner B4.C1 群）について供覧していただき、咬合支持が失われた症例に対する補綴装置の機能時の動態を考慮した補綴歯科治療について解説していただく。最後に、松田謙一先生にシングルデンチャーおよび高度顎堤吸収症例（Eichner C2.C3 群）について供覧していただき、機能的な印象採得によって残存顎堤の支持領域を適切に捉えるための術式と考え方について解説していただく。さらに、このような難症例への移行を防ぐための方策についても理解を深めたい。

低位咬合は、「一部の歯あるいは人工歯の咬合面が正常な咬合平面まで達していないような咬合」または「咬頭嵌合位が適正な咬合高径よりも低い位置にある咬合状態」と定義されており、補綴歯科治療を困難にさせる場合がある。

一般に残存歯による咬合接触を認める場合には、咬合高径が維持されているため、現在の咬合高径を基準にして補綴歯科治療を行うことが多い。しかし、咬耗など外傷力により歯冠長が小さくなった、または重度歯周病により残存歯の歯軸傾斜が生じた、ために著しく咬合高径が低下している場合には、咬合支持を獲得するために咬合挙上を行うことがある。一方で、咬合挙上を行うことで咀嚼筋群の筋活動の亢進、咬合力の増大、さらには顎関節症の発症を招く可能性も示唆されており、現状では咬合挙上の妥当性を裏付けるだけの十分な科学的根拠が存在しないと言える。

そこで本講演では、はじめに低位咬合を発症させる要因ならびに咬合高径を決定する因子について過去の研究報告を踏まえて考察したい。次に、Eichner A.B 群のうち著明な低位咬合により十分な臼歯部の咬合支持が得られない症例について、どのように対応するかを実際の症例を交えて解説し、低位咬合症例に対する具体的な対応策を示したい。さらに、低位咬合症例に対して咬合挙上を伴う補綴歯科治療を行った臨床経過を供覧し、その予後と経過観察における注意点を示したい。

トピックス

- 低位咬合
- 咬合挙上
- 咬合支持

アンテリアハイパーファンクション： その特徴と対応および予防について考える 荻野洋一郎

九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座
インプラント・義歯補綴学分野

Anterior hyperfunction: characteristics,
managements and preventions
Yoichiro Ogino
Section of Implant and Rehabilitative Dentistry,
Division of Oral Rehabilitation, Faculty of Dental
Science, Kyushu University

「欠損歯列」は同じ現存歯数であってもその分布や咬合支持数をはじめとする口腔内の状況でその病態は大きく異なる。欠損歯列を分類するにあたり Kennedy の分類や Eichner の分類に加えて「宮地の咬合三角」や「Cummer の分類」などを第 121 回大会で宮地建夫先生が提示されている。同セッションでは「上減歯列」がテーマとされており、我々も日常の臨床でこのような難症例に遭遇することがある。また、欠損歯列の終末像と言われる「上顎無歯顎、下顎両側性遊離端欠損」の患者の歯列で認められる「コンビネーションシンドローム」やこれに準じる症例もこの上減歯列から生じてくることがある。「コンビネーションシンドローム」は、「アンテリアハイパーファンクションシンドローム」とも呼ばれることから「臼歯部咬合支持の喪失に伴った下顎前歯による外傷性咬合から生じる現象」と特徴づけられており、下顎前歯が現存する Eichner C1, C2 の患者で認められる難症例として多くの臨床医に認識されている。しかし、「アンテリアハイパーファンクション」は用語として厳密に定義されていない。そこで、今回、この「アンテリアハイパーファンクション」に焦点を当て、以下の項目について、考察する。

- ①「上減歯列」も含めた「アンテリアハイパーファンクション」の特徴
- ②「Eichner の分類」、「Cummer の分類」からみた「アンテリアハイパーファンクション」
- ③「インプラント治療」と「アンテリアハイパーファンクション」
- ④「アンテリアハイパーファンクション」に対する可撤性義歯での対応

本講演を通して「アンテリアハイパーファンクション」に対する臨床的示唆をディスカッションできれば幸いである。

トピックス

- アンテリアハイパーファンクション
- 上減歯列
- Cummer の分類

全部床義歯における難症例（シングルデンチャー、高度顎堤吸収症例）についての考察と対応

松田謙一

大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座
有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野

Management of difficult cases in complete dentures: maxillary single denture, severely resorbed residual ridge
Ken-ichi Matsuda
Department of Prosthodontics, Gerodontology and Oral Rehabilitation, Osaka University Graduate School of Dentistry

Eichner C2,C3 における難症例、つまり、全部床義歯による補綴歯科治療が困難となる症例とは、①支持・把持の担い手となる粘膜・骨の状態が不良、②辺縁封鎖の獲得が困難な周囲組織、③人工歯の排列位置が力学的あるいは生理的に不利になりやすい、④顎間関係を決定するのが困難、といった条件が存在する症例であると考えられる。代表的なものに、上顎あるいは下顎のいずれかに全部床義歯を装着している症例（シングルデンチャー）、フラビーガムを有する症例、顎間関係が著しいⅡ級あるいはⅢ級の症例、高度顎堤吸収を伴う症例などが挙げられる。

これらの難症例と呼ばれる状態の患者の多くは、義歯に対して不満を持ち、十分な咀嚼が行えず、QOL が低下している可能性も考えられ、補綴歯科専門医による専門的な補綴歯科治療が必要になる場合も少なくない。

本講演ではその中でも、経験する頻度が比較的高いと考えられる、上顎のシングルデンチャーと高度顎堤吸収症例について、“なぜ、難しくなるのか？”を考え、その問題点を整理したい。そして、それぞれの問題点についてどのように対応するかを、例示しながら解説することで、難症例に適切に対処できる臨床能力の向上に貢献したい。さらに、上顎シングルデンチャー、高度顎堤吸収症例について各症例の臨床経過を供覧し、問題点の具体的な解決方法について解説したい。

トピックス

- 全部床義歯
- シングルデンチャー
- 高度顎堤吸収

臨床リレーセッション2 Clinical Lecture Series 2

温故知新 先人達に学ぶ
— 補綴で最も大切なものは何か —

Learning from the experiences of our predecessors
— What is the most importance in the prosthodontic treatment? —

座長

大久保力廣

鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座

窪木拓男

岡山大学医歯薬学総合研究科インプラント再生補綴学分野

Chairpersons

Chikahiro Ohkubo

Department of Removable Prosthodontics,
Tsurumi University School of Dental Medicine

Takuo Kuboki

Okayama University Graduate School of Medicine,
Dentistry and Pharmaceutical Sciences

私たちは日常の補綴臨床でたくさんの疑問を抱きながら、いくつもの壁に突き当たる。しかし、私たちが遭遇するほとんどの難症例は実は先人たちが随分昔に似たような経験をされていて、多くの場合で有効な解決策を見出してくれている。そうしたヒントやその結果を事前に知ることにより、私たちは同じ過ちを回避でき、より発展した方法を採用することで、上手に対処できるのではないだろうか。すなわち、私たちが現在行っている補綴治療とは先人たちの経験の上に成り立っているわけであり、まさに補綴学を含む学問とは先人の発明や発見を網羅的かつ体系的に学ぶということであろう。私たちは学生時代に歯科医学一般を学び、卒業後に研究論文や症例報告、講演をとおして、先人の発見、成功や失敗を知識として吸収し、目の前の症例に対して補綴治療を施すことができているのである。

一方で、補綴治療はこの10年間でもインプラントや再生医療、デジタルテクノロジーの発展により、選択肢や術式に画期的な変化が認められている。しかしながら、いつの時代にあっても補綴の基本は変わらないはずである。先人たちが幾多の苦勞を重ね、積み上げてこられた「補綴治療の基盤と原則」を改めて見直し、再認識することは、さらに補綴を進化させるためにも大きな意義があると考えられる。そこで、本セッションでは有床義歯分野から田中久敏先生とクラウンブリッジ分野から山下 敦先生にご講演をお願いし、補綴治療の真髓をお話しいただく予定である。先生方が歩まれた道筋から、長年の臨床で最も困ったこと、補綴治療の本当の面白さ等を講義いただき、新しい機器や材料に流され、補綴の基本を忘れがちな今こそ原点に立ち返り、「補綴で最も大切なものは何か」を皆で再考してみたい。

トピックス

- 補綴の真髓
- 補綴治療の原則
- 基本術式

補綴と歯の延命

山下 敦

中国・四国支部

My prosthodontic treatment philosophy to boost
tooth life for patients

Atsushi Yamashita

Chugoku Shikoku Branch

近年ようやく、歯科補綴は失われた審美を含む顎口腔機能を回復し、QOLの向上はもとより、全身健康に大きく寄与していることが国民に認知されてきました。このように補綴の果たす役割は他の科の何よりも大きく誇りにさえ思います。完成した補綴歯はもとより残存歯も共に長期にわたり機能することが望まれる所以です。

私が学生の頃教わったバンドクラウンに替わって、最先端の補綴技法としてフルキャストクラウンが高速切削器具と共に輸入され教科に加わりました。しかし、歯質を大幅に切削するため、便宜抜髄によると思われる根尖病巣や歯根破折などのトラブルに悩まされました。「バンド冠より短命」、「加療歯の80%が再治療」などの論文が散見されるにおよび、「これでは患者に申し訳ない」、「教えるものの使命感」から「削らない・神経取らない・治療より予防」を基本にした臨床理念が、クラウンブリッジ用接着剤と接着ブリッジを生むことに繋がりました。

一方、臨床で多く遭遇する既に歯冠の一部や全部を失った歯を補綴し、より永く機能させるにはどのステップをどのようにすれば延命に繋がるのでしょうか。補綴物作製以上に難しい問題ですが避ける訳にはいきません。

治療計画を立てる上で「歯を失った原因」と「補綴歯の延命に繋がる項目」をどのステップに入れますか？ プラークが付きにくく、取れ易いクラウンマージンの位置は何処に設定されていますか？ 適合精度をどんな方法であげておられますか？、ポンテックは細菌の温床になっていませんか？これを機に是非ハイジェニックな形態を技工士さんと共有しましょう。

本日は、私が半世紀近く歩んできた「素晴らしい補綴の路」から、新進気鋭の若き補綴家の先生方のお役に少しでも立ちそうな項目を取り上げてお話しさせていただきますと思っています。

トピックス

- 補綴歯の延命
- 口腔衛生の確立
- 除菌

Dr Carl O Boucher 教授 (Swenson Complete denture's 著書) の思い出話と彼の学説に即した全部床義歯学

田中久敏

東関東支部

Complete denture based upon the anatomy of the mouth

Hisatoshi Tanaka

Higashi-kanto Branch

無歯顎あるいは少数歯残存の症例で、歯槽骨が極度に吸収し義歯の維持、安定、支持に不利な状態の顎堤にしばしば遭遇する。歯槽骨の吸収が著しい場合でも生体への解剖、生理学的配慮を怠る事なく、正確な治療手順を踏む事により、不利な状態を克服することは可能とされている。しかし、下顎の難症例では、床の面積、機能時における義歯の動揺、さらに活動性に富む舌の存在といった不利な条件が認められるため、その補綴治療にあたっての難解さは誰しもが認めることであろう。

無歯顎の補綴治療について、これまでに数多くの臨床的、技工的テクニックと材料とを用いて補綴治療が行われたが、それらの方法を用いれば著しい成功を修められるとは限らない。臨床経験という曖昧な言葉に翻弄されている傾向も無視できない。

さらに、無歯顎患者の補綴治療に関する多くの問題点や、有歯顎から無歯顎への移行がもたらす影響を正しく理解しようとしても、その生物学的特性に関する情報が不足していると、その概念が総義歯補綴治療に適応されて問題を解決するための指針とはならない場合もある。

そこで、本講演では「なぜ無歯顎症例が難しいと感じるのか」という疑問を念頭に置いて、誤りをおかしやすいと考えられるポイントに焦点を当てて、無歯顎補綴治療を根底から問い直してみることにしました。

トピックス

- 印象と解剖
- 舌側辺縁形態
- 印象法

臨床リレーセッション3 Clinical Lecture Series 3

CAD/CAM 冠
— 術者目線の支台歯形成 —

Tooth preparation for the CAD/CAM crown from a clinician's viewpoint

座長

五味治徳

日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第2講座

中村隆志

大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座
クラウンブリッジ補綴学分野

Chairpersons

Harunori Gomi

Department of Crown and Bridge, School of Life
Dentistry at Tokyo, The Nippon Dental University
Takashi NakamuraDepartment of Fixed Prosthodontics, Osaka
University Graduate School of Dentistry

近年のデジタル技術の発展は歯科医療を大きく変えつつある。特に補綴分野でのCAD/CAMテクノロジーの導入は、コンピューター支援による補綴装置の設計・加工を可能とし、その精度向上による適合良好な補綴装置の製作を容易にしている。さらに従来の方法では成形できなかった高密度焼結型のジルコニア応用によるオールセラミッククラウン・ブリッジや保険搭載されたハイブリッドレジンによるCAD/CAM冠の普及にも貢献している。また、印象採得・咬合採得においても口腔内スキャナーによるデジタル化が応用されつつある。一方で、CAD/CAM冠臨床の重要な役割を担っている支台歯形成や口腔内試適・装着については、従来と同様に歯科医師の手作業が行われているのが現状である。CAD/CAM冠の支台歯形成では、スキャニングや機械加工のため望ましい支台歯形態（辺縁形態、軸面クリアランス、咬合面展開角など）は紹介されているが、一般的なクラウン形成との相違点やCAD/CAM冠特有のポイントは明確にされていない。

そこで、本セッションではCAD/CAM冠の支台歯形成にフォーカスをあて、臨床経験豊富な2名の先生に講演をお願いした。術者目線からの動画を交え、従来のクラウン形成での注意点の再確認とともにCAD/CAM冠形成時に忘れてはならないポイントについて解説をしていただく。西川義昌先生には、解剖学的な歯の特徴をふまえたCAD/CAM冠支台歯における面基準の重要性についてご講演をいただき、六人部慶彦先生には、臨床例を中心に最終外形を意識した支台歯形成についてご講演をいただく予定である。本セッションが先生方のCAD/CAM冠支台歯形成の参考となり、明日からの診療にお役立ていただければ幸いである。

トピックス

- CAD/CAM 冠
- 支台歯形成
- 術者目線

CAD/CAM 冠における支台歯形成の注意点

西川義昌

鹿児島県

Points of concern in tooth preparation for CAD/
CAM crowns
Yoshiaki Nishikawa
Kagoshima

支台歯形成は使用する材料の最小厚みを確保することが必要であるため、選択された冠の材料厚みの差はあっても、支台歯形成の面基準はどれも同じであると考える。

その上で、CAD/CAM冠特有の支台歯形成の注意点について考えてみたい。

正確なスキャニングのためには①アンダーカットがないこと、②面は滑らかにし、面角は丸めておくこと、③マージン部はやや外開きにし、マージンラインは単純で滑らかにつながるなどがあるが、これらは一般的な支台歯形成の注意点とほとんど変わるところはない。削除量もCAD/CAM冠とセラモメタル冠、アルミナスポーセレン冠はほぼ同一である。

したがってCAD/CAM冠形成に特有の注意点としては、加工過程で使用するミリングバーの径への配慮ということになる。使用するミリングバーの径よりも細かい形成ではミリングバーがその部に到達せず、精密な適合は期待できないため、冠の脱離、破折などのリスクが高まる。そのため、ミリングバーの径の太さに合わせた面角部のラウンドエンド形態が必要となる。バーを0.8mm径と仮定すると、切縁部、咬合面部においては半径が0.3～0.4mmのラウンドエンド形態を付与することが必要となってくる（使用材料等によって変わる）。面基準の基本である軸面形成とマージン部での削除量について述べ、CAD/CAM冠形成における臨床的な注意点を、スライドと動画を使ってお伝えしたい。

トピックス

- CAD/CAM 冠
- 支台歯形成
- ミリングバー

CAD/CAM デジタルデンティストリーにおける支台歯形成の注意点

—Not How, but Why—

六人部慶彦

関西支部

Cautions of preparation in CAD/CAM digital dentistry

—Not How, but Why—

Yoshihiko Mutobe

Kansai Branch

患者の顎口腔の審美性に対する要求が高まり、前歯部のみならず臼歯部においても天然歯に近似した形態と色調を持つ審美修復処置が求められるようになってきた。最近のオールセラミックシステムとして、CAD/CAM を用いたジルコニアが主流となりつつあり、世界でも 100 を超えるシステムが登場し審美修復治療発展の一助となっている。ジルコニアは、高い曲げ強度と破壊靱性値を有しており、強度的な信頼性が高まることにより、適応範囲も格段に広がりを見せている。また、我が国においても小臼歯部に対して、高強度レジンプロックを用いる CAD/CAM 冠が保険導入され、デジタルデンティストリーがより身近なものとなってきた。人為的に製作される従来のロストワックス法による修復物とは違い、CAD/CAM クラウンの適合精度は支台歯形態に大きく左右されることに加え、色調再現、形態再現に自由度を与えるマテリアルのスペースを十分確保する支台歯形成が我々歯科医師には求められる。患者は、最終的に装着される修復物により評価されるため、歯科技工士は研鑽を積み技術向上に日々努力を重ねているが、補綴治療の出発点である支台歯形成面は最終的には隠れるため、努力しようとする歯科医師が少なくないのも現状である。歯科医師が最終的に装着される修復物の外形を理解しなければ、適切な支台歯形成をすることはできない。最終外形から逆算した均一なマテリアルスペースを確保しなければならないからである。リダクションガイドを製作するうえでも、プロビジョナルレストレーションの治療ステージが最も重要であることを理解したい。そこで今回は、術者目線から CAD/CAM クラウンのための支台歯形成手順を従来の支台歯形態との違いを含め、動画を交えて解説したい。

トピックス

- 支台歯形成
- マテリアルスペース
- リダクションガイド

臨床リレーセッション 4 Clinical Lecture Series 4

歯科技工士から補綴臨床医への提言
— 臨床と技工の匠に学ぶ —Proposal to prosthodontist from a dental technician
— Learn from clinical and technical skills 'TAKUMI' —

座長

未瀬一彦

大阪歯科大学歯科審美学室

佐藤洋平

鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座

Chairpersons

Kazuhiko Suese

Department of Esthetic Dentistry, Osaka Dental University

Yohei Sato

Department of Removable Prosthodontics, Tsurumi University School of Dental Medicine

高品質、高精度な補綴装置を患者に提供するためには、補綴臨床医と歯科技工士とが患者情報を共有し、同じ方向・目的をもって業務を遂行しなければならない。日本の歯科技工術は世界に類を見ないほど優秀であるが、これは教育制度や法的整備が確立され、歯科技工士の経験に基づく「匠の技」が認知されているからである。補綴装置の製作においては、安定的供給や製作効率などのCAD/CAMテクノロジーの優位性を活かしながらも、歯科技工士の高度な「匠の技」とコラボレーションすることによって高品質、高精度な補綴装置が提供され、世界に発信できる産業に発展する可能性を秘めている。本セッションでは、歯科医師が見失いがちな点を歯科技工の観点から提言する。樋口鎮央先生には大規模ラボの観点から再製率に関するデータをもとに解説いただく。再製は患者と歯科技工士、歯科医師すべてにとって負の産物である。再製のない補綴を目指して原因分析し、再製率を少なくするための取り組みをご教示いただく。また、歯科医師は精密印象採得と咬合採得を行えばその分掌における仕事を成し遂げたと考えることが多い。しかし、審美性の高い前歯部補綴を達成するにはより多くの情報が必要とする。前歯部補綴を成功に導くために歯科医師が採得すべき資料と歯科技工士への伝達方法に関して症例を交えながら伊原啓祐先生に解説していただく。さらに、歯科医師の木林博之先生と歯科技工士の森田 誠先生には歯科医師—歯科技工士の良好なコミュニケーション例を供覧していただく。良好なコミュニケーションは、お互いの知識と技術をより深く醸成させる。歯科医師と歯科技工士の匠が紡ぎだす精緻で華麗な補綴臨床は、会員の先生を魅了することと確信している。歯科医師—歯科技工士の関係を見つめ直すことで補綴歯科のめざすべき関係性についてディスカッションしたい。

トピックス

- 歯科技工士
- コミュニケーション
- 再製率

再製のない補綴と技工を目指して

樋口鎮央

関西支部

Aiming for fabricating dental prostheses without remaking

Shizuo Higuchi

Kansai Branch

現在においては患者の審美的要求度も高まり、我々、技工士は多くの患者に安心・安全で安定した補綴装置を提供させていただけるように日々、努力している。

それらを製作する上において元となるものは石膏模型である。その石膏模型を基準にすべての補綴装置を製作しているのが現状である。これからのデジタルデンティストリーにおいては口腔内スキャナーからのデータから樹脂の積層造形機を用いたAM (Additive Manufacturing) 技術が大きく注目されており、今後、使用材料も変わって来るかと思われるがまだまだ、その多くが石膏模型を基準に製作している補綴装置が殆どである。そのような中、患者満足度の高い補綴装置を得るためには変形が少なく、細部が正確に再現されている印象、もしくは石膏模型を得ることが第一条件である。我々は日々、模型上で補綴装置を製作しているが鮮明にマージンが出ていてもその模型が変形しているかどうかは見た目だけでは判断がつかない場合が多いのが現状である。それが元でチェアタイムが長くなる場合もあり、再製に発展する症例も少なくない。

そこで、本セッションの中においては再製に関しての要因は印象、形成、咬合、色調、形態、適合、材料等、様々であるがそれぞれの要因において統計的手法を用いながら対策を行なっている中、最も多い要因である適合不良を主に取り上げ、チェアサイド、ラボサイドにおける原因分析と対策方法等について現在も継続している再製率を少なくするための取り組みをご紹介したい。

再製は患者、歯科技工士、歯科医師すべてにとって負の産物であり、再製のない患者満足度の高い補綴装置製作を目指したい。

トピックス

- 適合不良
- 印象
- 形成

顔貌に調和した補綴装置を製作するために —正中の傾斜を防ぐために必要な情報とは— 伊原啓祐

鶴見大学歯学部歯科技工研修科

Recording of dental and facial aesthetic information for fabricating prostheses
— Focus on discrepancy of dental and facial midline —

Keisuke Ihara

Dental Technician Training Institute, Tsurumi University School of Medicine

前歯部補綴装置の正中が傾斜し、顔貌と調和せず、大幅な修正を余儀なくされることがある。ラボサイドでは、あえて傾斜するように製作を行うことはない。では、なぜ正中の傾斜が生じてしまうのであろうか。私たち歯科技工士は、模型から患者さんの咬合平面や前方から見た顔貌の水平-垂直軸を読み取り、咬合器装着を行って補綴装置を製作している。しかし、模型から得られる情報には限界があり、模型から顔貌を判断するのは不可能である。そのため、水平-垂直軸を読み間違えると製作された補綴装置は口腔内に装着する際に、正中の傾斜が判明することになる。義歯の製作であれば咬合平面や前方から見た顔貌の水平-垂直軸の情報は、咬合床を介してラボサイドへ伝達され、排列試適で確認後、微調整を行い完成へと移行する。この一連の作業により顔貌に調和した補綴装置の製作が可能となる。一方、クラウンブリッジやインプラントの前歯部補綴をする際には咬合床を使用しないことも多く、水平-垂直軸の伝達が不十分であるため、正中の傾斜が生じる。補綴する歯数が少なればそのリスクも低いですが、正中をまたぎ歯数が多くなる症例では、そのリスクは高まると考えられる。近年、その対策として、ホリゾンタルバーと呼ばれる割りばしや竹串などの棒を用いて水平基準を伝達する方法が広く普及してきた。しかし、ホリゾンタルバーを用いた水平基準の採得は意外に難しく、適切に採得されていなければ、正中の傾斜を防ぐことはできない。

そこで本講演では正中の傾斜を防ぐために、ラボサイドがどのような場面に、どのような情報が必要なのかを明確にし、歯科医師と共有したいと思う。

トピックス

- 審美
- ホリゾンタルバー
- 顔貌情報

前歯部審美修復における歯科医師と歯科技工士間の相互連携

木林博之

関西支部

森田 誠

京都府

The anterior esthetic restoration in cooperation with dentist and dental laboratory technician

Hiroyuki Kibayashi

Kansai Branch

Makoto Morita

Kyoto

天然歯修復におけるクラウンカントウアについては、これまでに様々な考えが提唱されてきたが、いまだ明確な結論が出ていないのが現状である。しかし、カントウアが歯周組織に与える影響は非常に大きく、ときには辺縁歯肉の炎症や形態不良などを引き起こし、それが審美歯科治療の結果を大きく左右する。

辺縁歯肉および歯間乳頭の形態をマネージメントする方法には、矯正的方法、外科的方法、そして補綴的方法が挙げられる。その中でも補綴装置の歯肉縁下カントウアの形態を利用する補綴的方法は、極めて有効な方法である。この方法を成功に導くためには、歯周組織を常に観察し、その歯周組織と調和のとれた最適な歯肉縁下カントウアについて、十分に考察することが必要となる。

歯科技工士は、歯肉縁下カントウアの形態を製作する際、歯肉圧排された状態の模型上で、自身の経験と知識を元に“勘”を頼りにすることが一般的であった。そのため、それぞれの経験と知識の差により補綴装置の歯肉縁下カントウアの形態にばらつきが生じる。そこで我々は、明確な技工作業上の指標をもち、“勘”に頼らず、再現性の高い補綴装置の製作方法について試行錯誤した結果、以下の方法にたどり着いた。

まず、歯周組織を熟知する歯科医師が、プロビジョナルレストレーションの歯肉縁下カントウアの形態を調整する。次に、調整された歯肉縁下カントウアに裏打ちされた遊離歯肉の形態を、作業用模型上に再現する。歯科技工士は、その遊離歯肉に対応した歯肉縁下カントウアを、“勘”や想像に頼らずセラミックスに再現する。その結果、患者の個性に応じた補綴装置の形態や色調の創造に、より集中する事が可能となる。

今回、この手法を用いた前歯部審美修復症例を提示し、歯科医師と歯科技工士間の相互連携について解説したい。

トピックス

- 前歯部審美修復
- 歯肉縁下カントウア
- 歯肉縁形態

専門医研修会 Prosthodontic Specialist Seminar

デジタル技術を用いた歯冠修復の現状と未来

The present situation and future of crown restoration with digital technology

座長

鱒見進一

九州歯科大学顎口腔欠損再構築学分野

小川 匠

鶴見大学歯学部クラウンブリッジ補綴学講座

Chairpersons

Shin-ichi Masumi

Division of Occlusion & Maxillofacial
Reconstruction, Kyushu Dental College

Takumi Ogawa

Department of Fixed Prosthodontics, Tsurumi
University School of Dental Medicine

歯科におけるデジタルデンティストリーは、CAD/CAM 技術を応用した歯冠補綴材料であるジルコニアの臨床応用や、硬質レジンジャケットクラウンの医療保険の導入により大幅に加速した。また、インプラント治療における外科処置において、最適な埋入位置を診査、診断し、治療支援を行うコンピューター・トモグラフィ装置（CT 装置）のデジタルデータを活用したシミュレーション・プランニングソフトの開発もこの流れを後押ししている。日本の優位性は、歯科医師、技工士のみならず、歯科医療産業界を含めてデジタルデンティストリーという名のもとに、工業立国として世界に誇る技術が集結しており、その将来に明るい光が射しているように思える。今回は、大きく進歩を遂げているデジタル技術を用いた歯冠修復の現状と未来、そして、その問題点に触れてみたい。

本研修会においては、「デジタルワークフロー全体像の現状と未来」と題して佐藤博信先生に補綴領域におけるデジタルデンティストリーの現状とこれからのことについて、また近藤尚知先生には「ダイナミックナビゲーション、サージカルガイド、口腔内スキャナーのインプラント治療への臨床応用」として、デジタル治療の最先端であるインプラント治療の実際について、小川 匠先生には「下顎運動情報を活用したバーチャル咬合器」として、下顎運動情報と形態情報の統合によるバーチャル咬合器の臨床応用の現状について講演していただく。補綴の専門医を志す先生方とこれからのデジタル歯科医療のこれからについて語り合う有意義な会としたい。

トピックス

- digital dentistry
- CAD/CAM 技術
- ジルコニア

デジタルワークフロー全体像の現状と未来

佐藤博信

福岡歯科大学咬合修復学講座冠橋義歯学分野

Present status and future digital workflow

Hironobu Sato

Department of Oral Rehabilitation, Section of
Fixed Prosthodontics, Fukuoka Dental College

インプラント治療が引き金となって、補綴装置の作製法が鋳造から CAD/CAM 加工へと大幅に変化してきました。とくに 2006 年から 2007 年にかけて、ジルコニア・セラミックブロックを CAD/CAM 技術で切削、加工で製作する装置ならびに材料が、我が国でも薬事承認されることによって、デジタルデンティストリーの革命はとどまりなく進んで行きました。近年では診断用ワックスアップ、ステント製作、CT 画像を用いた診断ならびに治療のシミュレーションといった一連の診断・治療計画から CAD/CAM インプラント補綴治療もデジタルで行える便利な時代となり、CAD/CAM 機器だけでなく、3D プリンターも盛んに利用されるようになりました。さらに、最近では小型のロボット支援インプラント手術支援装置も臨床の現場で使用されるなど、デジタルなくして補綴・インプラントの臨床を語れない時代となりました。

また、顎運動分野や、フェイシャルスキャンを利用したシミュレーション手術法など、歯科だけでなく、医療全体でのデジタル化はどんどんと進んでいる状況です。そこで、本シンポジウムでは臨床におけるデジタルワークフローの全体像についてまず、私の方から解説を加えたいと思います。次に、各講師の先生方から詳細な使用現状について解説いただきます。最後に、デジタル化の基本を再度復習するとともに、講師の先生方全員で今後の展望についてディスカッションを加えたいと思います。

トピックス

- digital
- CAD/CAM
- Type of data

ダイナミックナビゲーション, サージカルガイド, 口腔内スキャナーのインプラント治療への臨床応用

近藤尚知

岩手医科大学歯学部補綴・インプラント学講座

Clinical application of dynamic navigation system, surgical guides, and oral scanners in implant dentistry

Hisatomo Kondo

Department of Prosthodontics and Oral Implantology, School of Dentistry, Iwate Medical University

インフォメーションテクノロジー (IT) の急速な発展は、歯科臨床のありかたを大きく変革させようとしており、CAD/CAM (Computer Aided Design/Computer Aided Manufacturing) 技術の導入により、デジタル・デンティストリーと称される手法が、各診療ステップで確立されつつある。インプラント治療の領域では、CT の画像データと研究用模型の画像データを PC のソフトウェア上で合成し、埋入手術のシミュレーションを行ってきたのを先駆けとして、常に IT が応用されてきた。近年では、サージカルガイドだけでなく、埋入窩の形成を行う際、ドリルの先端の位置をリアルタイムでモニターすることが可能なダイナミック・ナビゲーションシステム、口腔内スキャナーを用いた光学印象採得法もインプラント治療に適用されつつある。ダイナミックナビゲーションは、サージカルガイドとほぼ同時期に開発されていたが、システム自体のサイズに起因する煩雑性とコストの面から普及が進んでいない状況である。サージカルガイド使用の際に問題となる開口量に起因する臼歯部での使用制限等を気にする必要がないため、ほぼすべての症例において使用できるメリットもあり、現在その有用性が見なおされつつある。口腔内スキャナーによる光学印象採得については、装置の小型化、スキャンの高速化が実用レベルに到達し、今後はその精度についての検証が必要となってくるものと思われる。また、その下流にあたる技工所との連携も図られており、インプラント治療におけるデジタルワークフローが確立されつつある。本講演では、上記の手法のインプラント治療への臨床応用の現状を紹介するとともに、その精度についても検証したので、その結果についても言及したい。

トピックス

- ダイナミックナビゲーション
- サージカルガイド
- 口腔内スキャナー

下顎運動情報を活用したバーチャルリアリティ咬合器

小川 匠

鶴見大学歯学部クラウンブリッジ補綴学講座

The virtual reality articulator using six degree of freedom jaw motion data

Takumi Ogawa

Department of Fixed Prosthodontics, Tsurumi University School of Dental Medicine

咬合器とは周知のように、個々の患者の顎運動を正確に再現することにより、生体の機能にそくした補綴装置の製作を可能とする歯科領域において必須の装置である。一般的に咬合器は簡易型 (平線)、平均値、半調節性、全調節性咬合器に分類され、生体の顎運動の再現性は全調節性咬合器が最も優れているが、操作の煩雑さや費用対効果、欠損様式や咬合状態などを考慮し、症例ごとに咬合器を適切に選択し応用しているのが現状である。

現在、CAD/CAM システムは補綴治療のワークフローをデジタルに置き換えることが基本的な進化の流れであり、咬合器においても同様にデジタル化され、コンピュータ上で扱える VR 咬合器を付属しているものが多い。しかし、従来の咬合器と比較すると、平線もしくは、平均値咬合器と同等であり、顎運動情報を利用できる特殊なシステムでも半調節性咬合器に近似した再現にとどまっている。つまり、現在の歯科技工技術を超えるシステムは存在していないと言ってもいい。その理由は様々あるが、大きくは 2 つの問題点が挙げられる。工学技術的な側面と、咬合学という学問における側面である。工学技術的な問題としては、スキャナーにおける歯や歯列、CT における骨の形態情報の再現誤差、コンピュータトモグラフィー (CT) 画像情報とスキャン情報の統合誤差、簡便で高精度な顎運動測定装置の欠如などが挙げられる。一方、咬合学的な問題としては、治療目標となる個々の患者に対する理想的な咬合や歯冠形態、咬合接触等が定性的となりやすく、数値化が困難であるからと思われる。

今回は、開発段階である VR 咬合器の現状について症例を交えて紹介し、問題点の具体化から今後の CAD/CAM システムのあり方について考察する。

トピックス

- Virtual Reality
- 咬合器
- 6 自由度顎運動情報

委員会セミナー 1 (JPR 編集委員会)

Committee Seminar 1 (Journal of Prosthodontic Research)

JPR の果たす役割 —現状と今後の展開—

Current status and future prospective of JPR

座長

馬場一美

昭和大学歯学部歯科補綴学講座

Chairperson

Kazuyoshi Baba

Department of Prosthodontics, Showa University

School of Dentistry

JPR 編集の舞台裏

細川隆司

九州歯科大学口腔再建リハビリテーション学分野

Backstage tour of JPR editing process

Ryuji Hosokawa

Division of Oral Reconstruction and Rehabilitation

Kyushu Dental University

JPR 編集委員会の委員会活動は、査読を中心とした編集作業に加えて、被引用状況を基盤とした掲載論文の評価、投稿システムや Associate Editor によるハンドリングシステムの改善、国際交流、注目論文のメール配信や JPS メールマガジン・アンバサダー通信を通じた広報活動、Open Access 論文の掲載、JPR Award の制定など、多岐にわたる。これらの活動は（公社）日本補綴歯科学会の全面的な支援を基盤として、各編集委員の献身的な貢献に支えられている。

こうした活動の成果の 1 つとして 2015 年 8 月に JPR にとって初の Impact Factor (IF 1.547) が公式にアナウンスされ、2016 年には 1.693 となり今年さらには上昇することが予測されている。それに伴い、投稿論文数が飛躍的に増加し、2015 年に 350 論文、2016 年には 650 論文を超え、国際誌として高い評価を受けるようになった。本年より掲載論文数も 50% 程度増やし質量ともさらなる充実を目指している。

以上のように、これまで JPR は持続的に変化・進化し続けてきた。一方で、歴代編集委員会から踏襲し、変わらず維持されてきた編集方針は、サイエンスのレベルの担保と多様化しボーダーレス化するサイエンスの枠組みにおける Prosthodontic Research の方向性を見極めることである。編集会議、メール会議を通し、時には会議終了後の時間を費やして、ジャーナルの方向性についての議論を重ね、数年後を見据えながら戦略的に掲載論文の選択、企画論文の策定を行ってきた。こうした活動により JPD とも IJP とも異なる JPR のプレゼンスが形作られてきた。

講演では最新の統計値を用いて JPR の現状を紹介すると共に、上記の視点から補綴国際誌としての JPR の担う役割について、副編集長の細川先生、Senior Scientific Editor の江草先生を交えて皆様と伴に考察したい。

日本補綴歯科学会が単独で編集発行している英文誌 JPR が SCIE に収載され、2015 年に Impact Factor (IF=1.547) を初めて付与されてから、JPR 編集委員会に課せられた課題は明らかに一変した。以前は、投稿されてくる論文数が不規則な定期的な刊行が危ぶまれたこともあり、また、質の高い依頼論文の執筆依頼も断られることが珍しくない状況であった。しかし、現在では、投稿されてくる論文数は年間 600 を超え、リジェクトレートは 90% に近い状況となっている。

実は、リジェクトレートが 80% を超えたあたりから、多くの先生方から JPR の査読は厳しすぎるのではないかという生の声を聞くようになってきた。代表的なジャーナルメトリクス（学術雑誌の定量的評価指標）である Impact Factor を単純に比較してみると、海外の補綴関連雑誌と比べて、JPR は明らかにトップクラスの雑誌に成長している。このことから考えると、JPR で reject と判断された論文を、ほぼそのまま海外の補綴関連の著名な雑誌に再投稿すると revise の後 accept された、という事態が生じたとしても、何ら不思議ではないと言える状況になってきている。

しかし、歴代の JPR 編集委員会は、この雑誌が日本補綴歯科学会に支えられて刊行されている《学会のための》英文誌であることを一時も忘れたことはない。今回、この委員会セミナーでは、あまり語られることのない JPR 編集委員会の舞台裏をご紹介しますとともに、JPR の編集において、学会会員からの投稿に対して、どのような配慮を行っているか、また、どのような査読方針なのかについても可能な限りご紹介し、JPR の学術的価値を維持向上させながら会員への配慮を見失わない JPR 編集プロセスはどうあるべきかという課題に対し、会員から望まれる編集方針や JPR の今後のあり方についても、皆様と一緒に考えて行ければ幸いである。

トピックス

- JPR
- 企画論文
- Impact factor

トピックス

- JPR
- 査読プロセス
- ジャーナルメトリクス

JPR における企画総説論文

江草 宏

東北大学大学院歯学研究科分子・再生歯科補綴学
分野

Targeted topics of review articles in JPR

Hiroshi Egusa

Division of Molecular and Regenerative
Prosthodontics, Tohoku University Graduate
School of Dentistry

Journal of Prosthodontic Research (JPR) 編集委員会では、国際的な注目度の観点からターゲット・トピックスを吟味・選定し、その分野の第一人者の方々に“企画論文”と銘打ち、総説論文の執筆を依頼してきた。この企画論文は、投稿数がまだ少なかった2012年に、本学会員の皆様に少しでも興味をもってJPRを読んでいただく呼び水になればという思いで始まり、当時の重要課題であった掲載論文数の確保にも一役買っていた。その後、2015年にJPRがImpact Factor (IF) を獲得した際に、歯科補綴学の専門誌として高い値(1.547)が付いたが、これは世界中の研究者がこれら企画論文を数多く引用した結果でもあった。

一方、JPRは「アジアで最も権威ある歯学雑誌への発展」を目標に掲げてきた(JPRの巻頭頁より)。この目標は、2016年のIF値の上昇(1.693)に伴い現実的なものとなり、JPRに掲載された論文はおのずと国際的に歯科補綴学をリードする側面を帯びるようになった。このようにJPRが本学会の国際的な発信力の強化、プレゼンス向上に寄与するツールへと育ったことは公益に資するが、その一方で学術界におけるJPRの論文内容および編集に対する責任は増すばかりである。とりわけ、ターゲット・トピックスを扱う企画論文は、補綴歯科界に大きな影響を与える可能性を秘めており、そのあり方はJPRの発展戦略の要の一つであり、ひいては本学会の国際戦略にも活用できるであろう。

今回、本講演が学会員の皆様にJPRの企画論文について知っていただける機会となることを期待し、その策定背景、被引用状況や昨今のターゲット・トピックス等を紹介しながら、企画論文の今後のあり方について皆様と考察したい。

トピックス

- JPR
- 企画論文
- ターゲット・トピックス

委員会セミナー 2 (研究企画推進委員会)

Committee Seminar 2 (Research planning and promotion committee)

公益社団法人日本補綴歯科学会&地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター共同研究

— 高齢者の歯科口腔・嚥下機能が QOL 及び健康寿命に及ぼす影響 —

研究成果公開シンポジウム

— The influence of oral and swallowing functions of aged persons
on the QOL and healthy life expectancy —

座長

矢谷博文

大阪大学大学院歯学研究科

玉置勝司

神奈川県立歯科大学大学院歯学研究科

Chairpersons

Hirofumi Yatani

Osaka University Graduate School of Dentistry

Katsushi Tamaki

Kanagawa Dental University Graduate School

地域在住高齢者における低体重および低栄養発生
のリスク因子の検討

小山絵理

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科インプラント
再生補綴学分野Risk factors for underweight and malnutrition in
community-dwelling elderly people

Eri Koyama

Department of Oral Rehabilitation and Regenerative
Medicine, Okayama University Graduate School of
Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences

(公社)日本補綴歯科学会では、補綴歯科治療がどのように国民の健康長寿に資するかに関するエビデンスを創出するため、前期の疫学調査委員会(委員長 玉置勝司)ならびに今期の研究企画委員会(委員長 矢谷博文)が中心となって大規模コホート研究を積極的に企画、推進している。平成 27 年度からは、(地独)東京都健康長寿医療センターとの共同研究「高齢期の歯科口腔・嚥下機能が QOL 及び健康寿命に及ぼす影響」をスタートさせ、群馬県草津町における疫学調査(にっこり検診)に参加するとともに委員会主催のシンポジウムを開催し、これらを通じて今後の共同研究の方向性について検討を重ねてきた。その結果、歯科口腔・嚥下機能等と健康寿命や寿命との関連を調べるため、センターからにっこり検診を通じて蓄積された膨大な縦断研究データの提供を受け、解析を進めていくとの合意が得られた。そこで昨年、提供を受けたデータを用いた研究企画を公募したところ 3 題の応募があった。これらの応募企画の中から最も優れた企画 1 題を採択するとともに研究企画推進委員会においても研究企画を立案し、これらの 2 題の研究企画に基づいて供与された疫学データの解析を進めてきた。今回は、その共同研究の成果を会員諸氏に公開すべく、シンポジウムを実施するものである。本シンポジウムでは、岡山大学の小山絵理先生より口腔のデータと低体重・低栄養との関連を明らかにすることによって栄養面から高齢者の機能低下や死亡に口腔因子がどう関わっているかが述べられ、続いて岡山大学の前川賢治先生より健診時の口腔の諸因子が死亡や要介護認定とどう関わっているかが述べられる予定である。本シンポジウムが、補綴歯科治療がいかに国民の健康長寿と寿命の延伸に貢献できているかをアピールする場になることを願っている。

トピックス

- 大規模コホート
- 口腔の状況
- 全身状態

近年、低体重・低栄養が高齢者の機能低下や死亡のリスク因子であることが明らかに、予防策の検討が盛んに行われている。そして、ADL や認知機能の低下、抑うつが低体重・低栄養のリスク因子とされている。さらに最近では、歯数や咬合支持の喪失が低栄養に関連する可能性も示唆されつつある。歯数の減少が低栄養を引き起こす機序としては、歯数の減少による咀嚼機能の低下が引き起こす摂取可能食物種の減少、蛋白質やミネラル、食物繊維摂取量の減少が考えられ、高齢者の低栄養の 22% が食事摂取量の減少によるという報告もある。しかし、これらは横断研究により導かれた結果が多く、縦断研究は未だ不足している。

そこで今回、地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所が、群馬県草津町で実施してきた地域在住高齢者を対象としたコホート研究のデータを提供いただき、低体重・低栄養発生のリスク因子を口腔要因を含めて同定することを試みた。対象は、2010 年から 2015 年までの間に、少なくとも 2 回以上健診に参加した高齢者のうち、2 年間の追跡が可能であった 620 名とした。これら 620 名の平均年齢は 77.3 ± 6.6 歳で、男性 266 名、女性 354 名であった。また、ベースライン時の平均 BMI 値は 23.4 で、ベースライン時点で BMI 値が 18.5 未満だった高齢者は 34 名、20 未満だった高齢者は 76 名であった。

講演では、本コホート対象者において、口腔要因が低体重・低栄養発生のリスク因子であるかどうか、また、口腔や栄養摂取状況が経時的にどのように変化するかについて、貴重なデータを元に考察したい。

トピックス

- 低体重
- 超高齢社会
- 老年医学

全身の健康状態と口腔の状況の関係の実態把握

前川賢治

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科インプラント再生補綴学分野

Understanding the actual relationship between oral and general health conditions

Kenji Maekawa

Department of Oral Rehabilitation and Regenerative Medicine, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences

近年、要介護高齢者の増加に伴い、介護費、医療費の増加が危惧されている。要介護高齢者の増加に伴う社会負担をこれ以上増加させないために、本邦における高齢者の健康寿命の延伸は、喫緊の課題である。そのような中、WHOは2003年に「高齢者の口腔疾患は身体的機能低下を起し、Quality of Life (QOL) を低下させる」と警告しており、口腔ケアを21世紀の重要な保健課題の一つに挙げた。これらの背景のもと、口腔の健康と全身健康との関連に関する研究がいくつか展開され、歯の喪失や口腔機能の低下による栄養摂取状態の変化が、全身健康に影響を与えている可能性が示唆されてきた。さらに、海外の研究を中心として、口腔内の残存歯数が少ないことが、死亡リスクを高めることが報告されてきた。しかしながら、本邦における地域在住高齢者を対象とした縦断研究は未だ不足している。さらに、口腔機能と健康寿命の関連を検討した縦断研究はほとんど存在しない。

そこで今回、本学会が共同研究契約を結んでいる地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所が主催して、群馬県草津町の地域在住高齢者を対象に年1回実施している健康診査（にっこり健診）のデータをもとに、口腔の状況と死亡、要介護認定との関係を検討することとした。対象は2009年から2015年の間ににっこり健診に参加した高齢者1,240名である。対象者の平均年齢は76.6 ± 7.1歳で、男性539名、女性701名の集団であった。本コホートを追跡した2016年2月時点での生存は1,077名、死亡は111名、転居等による観察打ち切りは52名である。本発表では、本コホートにおける死亡や要介護認定と、健診時の口腔の状況の関係について考察する予定である。

トピックス

- 口腔の状況
- 死亡
- 要介護認定

歯科衛生士セッション Dental Hygienist session

補綴のプロフェッショナルケアをアップデートする

Updating professional care of prostheses for dental hygienists

座長

古屋純一

東京医科歯科大学大学院地域・福祉口腔機能管理学

永尾 寛

徳島大学大学院医歯薬学研究部口腔顎顔面補綴学
分野

Chairpersons

Junichi Furuya

Department of Oral Health Sciences for
Community Welfare, Graduate School of Tokyo
Medical and Dental University

Kan Nagao

Department of Oral & Maxillofacial
Prosthodontics, Institute of Biomedical Sciences,
Tokushima University Graduate School

補綴歯科治療の予後を担うとも言える補綴治療後のケアを担うのは歯科衛生士である。同様に、歯科医院でも、訪問診療でも、補綴のトラブルやニーズの窓口となるのは歯科衛生士である。そのため、歯科医師に限らず歯科衛生士も、口腔内に装着された補綴装置と口腔の機能を正しく理解することが重要であるが、歯科衛生士が補綴歯科に関する最新の知識と技術を、包括的に学べる機会は少ないのが現状である。特に、この10年間で、新たな歯科材料の開発、治療方法の進化、訪問診療の増加など、補綴歯科とそれを取り巻く環境は急激に変化しており、歯科衛生士に必要な最新の歯科補綴学の知識と技術も変化している。そこで本セッションでは、包括的に患者の食べる楽しみを支える補綴歯科学会だからこそ実現できる、今、歯科衛生士に必要な補綴のケアに関するアップデートを提供する。はじめに、歯科技工士であり歯科衛生士でもある小林先生には、クラウンブリッジ補綴装置のメンテナンスの目的と材料特性に応じたケアの手技について、ジルコニアやCAD/CAMクラウンなど最新の材料を含めて説明していただく。また、二川先生には、「義歯洗浄剤 何を使ったら良いのでしょうか?」と題して、デンチャープラークや義歯の汚れについての一般的な概念を話していただき、市販義歯洗浄剤の特徴、使い分け、効果などについて解説していただく予定である。寺本先生には、「介護現場に広がる歯科衛生士の新たなフィールド」と題して、介護現場で放去された口腔内の惨状と、「機能」を見据えた補綴管理への関わり方について解説していただく予定である。本セッションは、日本補綴歯科学会では初めての歯科衛生士のためのセッションであるが、歯科衛生士のみならず若手の歯科医師にもよいアップデートの機会になるとと思われる。

トピックス

- 歯科衛生士
- プロフェッショナルケア
- 訪問診療

歯科衛生士から見た補綴治療後のメンテナンスの新たな着眼点

小林明子

東京都

New view point of maintenance after
prosthodontic treatment seen from dental
hygienist

Akiko Kobayashi

Tokyo

補綴治療の本来はその失われた欠損部において、人工物を用いて修復補綴することで機能や審美を取戻し、患者の生活の質を維持、向上させることを目的とするものであるが、これらの補綴治療を長期良好に維持させるためには歯科衛生士によるメンテナンスが必須であることはすでに多くの臨床家により容認されてきている。歯科衛生士にとって、う蝕、歯周病の予防は患者の生涯の健康を維持するための重要な役割であり、当然ながら歯科衛生士の介入は補綴治療後からおこなわれるものではなく、歯周基本治療を基盤にして補綴治療後の初期の段階から行われるべきであるといえる。また、口腔内は常に変化と老化があり、補綴装置は装着された直後から劣化していく運命にある。そのため補綴装置の素材、周囲組織形態、咬合まで影響が表れてくることを長期予後管理する歯科衛生士は理解していなくてはならない。特に近年ではCAD/CAMの採用により素材の多様性が大きく変化してきている。チタンやジルコニアは硬く、人の手で加工できるものではない。機械加工で製作された素材が口腔内に装着された時、咬合にどのような影響があるか、また、歯周病原細菌の産生する揮発性硫化物が金属クラウンに影響を与えるのではないかの推測など、予後管理を担当する歯科衛生士には理解してほしい項目が多数ある。歯科衛生士によるメンテナンスは単に“PMTC”(Professional Mechanical Tooth Cleaning)を行うのではなく、補綴治療に至った原因を探りつつ、歯周基本治療をベースに個別対応のプロフェッショナルケアが行われるべきである。本講演では歯科衛生士が比較的苦手とする修復補綴治療の材料の性質を再確認するとともに、それらの口腔内での変化を理解することでさらに質の高いメンテナンスのためのアップデートを期待したい。

トピックス

- CAD/CAM 素材
- *P.Gingivaris*
- 揮発性硫化物

義歯洗浄剤 何を使ったら良いのでしょうか？

二川浩樹

広島大学大学院医歯薬保健学研究院統合健康科学部門口腔生物工学分野

Denture cleansers -What and how do you select?-

Hiroki Nikawa

Department of Oral Biology & Engineering, Integrated Health Sciences Institute of Biomedical and Health Sciences Hiroshima University

1990年代の後半から現在にかけて、介護・寝たきり老人の問題などを背景にデンチャープラークの生体に対する為害性が注目され、義歯洗浄の重要性が大きく取り扱われるようになってきた。また、最近では超高齢化が急速に進み、誤嚥性肺炎が日本人の死因の第3位になり、特に誤嚥性肺炎は高齢者の死因の第1位になっている。このような観点からも、義歯表面の微生物のコントロールも含めて口腔内の微生物コントロールはより重要性を増している。現在、義歯洗浄剤は新しいメカニズムでプラークコントロールを行う製品も市販されるようになり、効果の主体や洗浄剤の特徴もバラエティに富んでいる。製品数も非常に多くなり、製品によっては一般の患者が薬局などで入手可能な市販品、歯科医院専売の洗浄剤、あるいは歯科医院専用の洗浄剤などが販売されている。したがって、我々、歯科医療人は製品の個々の特徴やコンセプトをしっかりと把握し、現場でのプラークコントロールにおいて使い分けていかなければならない。

セミナーでは、デンチャープラークや義歯の汚れについて一般的な概念を話し、市販義歯洗浄剤の特徴、使い分け、効果などについて話す予定である。

トピックス

- デンチャープラーク
- デンチャープラークコントロール
- 義歯洗浄剤

介護現場に広がる歯科衛生士の新たなフィールド

～“機能”を見据えた補綴管理に向けて～

寺本浩平

東京都

The new field of dental hygienist for nursing care

～Denture management from a viewpoint of oral function～

Kohei Teramoto

Tokyo

今、通院されている患者さんが脳梗塞等で倒れてしまった場合を考えた事がありますか？医学の進歩で救命率は高まりましたが、何らかの障害を抱えたまま“寝たきり”を余儀なくされてしまう方は逆に年々増えています。その障害には、「喋れない」「食べられない」などもありますから、舌や頬にも麻痺が生じている事を意味しています。しかし、一度倒れると歩行や排泄へのケアが優先され、意外にも口腔は放置されがち傾向にあります。院内で丁寧に衛生管理をしてきた大切な患者さんの残存歯や義歯も、訪問現場ではわずかな期間で不衛生になり、要介護高齢者の死因のトップである肺炎の原因になっているケースも散見されます。

患者さんのライフステージが変われば、それに合わせて最後まで患者さんの口腔管理をすることが今、歯科衛生士に求められています。口腔ケアはもちろんの事、補綴装置の管理に至っては、専門でない方にお願ひしても限界があります。実は介護現場は、特別な技術や知識を必要としない歯科衛生士としての専門性が発揮できる新たなフィールドと言えるのです。

本日は、介護現場で放去された口腔内の惨状と、“機能”を見据えた補綴管理への関わり方について討議できれば幸いです。

トピックス

- 補綴管理
- 要介護高齢者
- ライフステージ

市民フォーラム Open Lecture for Citizen

健康長寿の秘訣！－噛み合わせ・咀嚼・栄養の大切さ－

The keys of good health and longevity!

— The importance of occlusion・mastication・nutrition —

座長

武部 純

愛知学院大学歯学部有床義歯学講座

松山美和

徳島大学大学院医歯薬学研究部口腔科学部門口腔保健学系口腔機能管理学分野

Chairpersons

Jun Takebe

Department of Removable Prosthodontics, School of Dentistry, Aichi Gakuin University

Miwa Matsuyama

Department of Oral Health Care and Rehabilitation, Institute of Biomedical Sciences, Tokushima University Graduate School

平成 28 年高齢社会白書によると超高齢社会を迎えた本邦では、65 歳以上が総人口に占める割合は 2015 年では 26.7% を占めており、2060 年には国民の約 2.5 人に 1 人が 65 歳以上の高齢者となる社会が到来すると推計されている。このような高齢化の進展により、歯科医療機関を受診する高齢者の割合は増加傾向にあることが予測される。加齢に伴う生理的老化現象では身体的な機能低下が引き起こされるが、顎口腔系においても諸組織の機能低下が認められる。従って、咬合・咀嚼・嚥下機能の低下に伴う低栄養状態が引き起こされないよう、補綴歯科の観点から適切な口腔機能の維持・向上ならびに多職種連携のもとで全身の健康状態に配慮することは、我々歯科医師の責務である。口腔は全身の健康に大きく関与しており、「口から食べること、会話の楽しみと喜び」は、全ての世代において生活の質の大部分を占める生きるために必要不可欠で大切なものである。

この市民フォーラムでは、広島大学の津賀先生から、適切な咬合・歯列の重要性、口腔機能管理の重要性、歯を喪失した際に起こる顎口腔系の症状と喪失の予防から、早期に改善・回復させることの意義と咬合・咀嚼・補綴歯科治療の重要性を解説していただく。日本歯科大学の菊谷先生には、口腔機能の重要性を踏まえて、生理的老化にともなう口腔機能低下（運動障害性咀嚼障害）により起こる咀嚼障害と栄養状態の維持、オーラルフレイルに対する早期の介入と予防、健康長寿の実現に向けた解説をしていただく。これらの講演を通して、栄養摂取に必要な咬合・咀嚼や会話によるコミュニケーションに大切な口腔機能の重要性と健康長寿の秘訣について市民に啓発していきたい。

トピックス

- 健康長寿
- 咬合・咀嚼・栄養
- 補綴歯科治療

ご存知ですよ！？噛んで食べて健康長寿！
津賀一弘

広島大学大学院医歯薬保健学研究院応用生命科学部門先端歯科補綴学

Chewing and eating bring us healthy long life

Kazuhiro Tsuga

Department of Advanced Prosthodontics, Hiroshima University Graduate School of Biomedical Sciences

世界最高の超高齢社会を達成した我が国の危急の課題は、健康寿命の延伸である。そのためには介護予防が重要であるが、補綴歯科は究極の介護予防の一つと言える。それは補綴歯科が噛んで食べる機能を維持・回復させ、全身の健康を保つからである。

高齢者の 8 年間の生存率を調査した疫学的研究では、臼歯部の咬合支持の保たれた高齢者の生存率と比較して、咬合支持を失った群の生存率は低かった。咬合支持を失った群についてさらに義歯を使用して咬合を回復している群と義歯を使用していない群と比較すると、義歯を使用している群の生存率が高かった。この結果は、良好な咬合や義歯による咬合の回復が長寿につながることを示している。しかし、そのメカニズムは明らかではない。

一方、要介護となる主な原因の一つに転倒がある。転倒予防教室での調査研究では、臼歯部の咬合支持が安定している群では安定していない群に比べて閉眼片足立ち時間や脚筋力、垂直飛びや歩行時間など静的・動的運動能力が高いことおよび閉眼時の重心動揺が少ないことが明らかになっており、健全な咬合・歯列の維持が転倒予防を通じて健康寿命延伸に貢献しているようである。そのメカニズムはやはり明らかでない。1 年に 2 回以上の転倒を経験したことのある咬合の崩壊した認知症高齢者に対して義歯治療を行ったところ、転倒回数が減少したという報告もあり、失われた咬合を回復する補綴治療にさらに介護予防の期待が寄せられる。

残存歯数が減少するほど脳の灰白質の容積が減少するとの報告もある一方、栄養摂取との関連も見逃せない。未だに噛んで食べる機能がどのようなメカニズムで健康長寿に至っているのか、完全にわかっているわけではないが、今日までの知見を俯瞰し、噛んで食べる健康長寿をできるだけ説明したい。

トピックス

- 健康長寿
- 咬合・咀嚼・栄養
- 補綴歯科治療

オーラルフレイルって知ってますか？

菊谷 武

日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック

Do you know oral frailty ?

Takeshi Kikutani

The Nippon Dental University, Tama Oral Rehabilitation Clinic

我が国では長く取り組んできた 80 歳になっても 20 歯以上の歯を保つという、8020 運動が功を奏し、高齢者の現在歯数は増加の一途を辿っている。そして、その目標達成者は 5 割を超えるとの報告もある。しかし、依然口腔機能が低下した者の数は増え続けている。その増加は人口の高齢化に無縁ではない。加齢に伴う身体機能障害、認知機能障害を有する者の増加が所以している。口腔機能は、咬合支持の存在だけでなく、口腔の運動機能に大きな影響を受ける。舌の運動機能をはじめとする口腔機能は加齢により低下する。さらに、加齢と伴にその発症率を増加させる脳血管疾患の後遺症や神経変性疾患等によっても口腔機能は障害される。つまり、歯の喪失による咀嚼障害（器質性咀嚼障害）を有する者の数は減じても口腔機能の低下による咀嚼障害（運動障害性咀嚼障害）を有する者は増加していると考えられる。東京大学高齢社会総合研究機構の秋山弘子氏が行った全国高齢者 20 年の追跡調査からわかった高齢者の自立度の変化パターン（男性）によると、約 7 割の高齢者が 75 歳を境に徐々に自立度を低下させ、10 年ほどかけてほぼ全ての介助が必要となることが示されている。いわゆる、フレイルという状態から要介護状態に至る課程を示していると言える。ここでみられる自立度の低下の原因となる身体機能の低下や認知機能の低下は、口腔機能の低下の原因にも結果にもなりうる。この課程の中でも特に比較的早期にみられる口腔機能の低下は、「オーラルフレイル」と呼び、同様に、フレイルの原因にも結果にもなり得る。そこで、オーラルフレイルに対する早期の介入は、フレイル予防の一助になると考える。本講演では、「オーラルフレイルって知ってますか？」と題し市民への口腔への意識啓発を図る。

トピックス

- 高齢者
- 口腔機能
- オーラルフレイル

イブニングセッション 1 Evening session 1

接着歯学を活用した支台築造法の現状と未来
～ガイドライン作成とイノベーション創出をめざして～

The core build-up utilizing the adhesive dentistry

コーディネーター

峯 篤史

大阪大学大学院歯学研究科クラウンブリッジ補綴学分野

発表者

新谷明一

日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第2講座

佐々木圭太

鶴見大学歯学部クラウンブリッジ補綴学講座

Coordinator

Atsushi Mine

Department of Fixed Prosthodontics, Osaka University Graduate School of Dentistry

Presenters

Akikazu Sinya

Department of Crown and Bridge, The Nippon Dental University School of Life Dentistry at Tokyo

Keita Sasaki

Department of Fixed Prosthodontics, Tsurumi University School of Dental Medicine

接着技法の確立により「成形材料による支台築造」、いわゆるレジンコアが可能となった。このレジンコア内部には、既製金属ポストかファイバーポストを設置することが基本となっており、平成28年のファイバーポスト健康保険収載によって、保険診療での支台築造法の選択肢が増えた。ファイバーポストは歯根部歯質に近似した物性をもつことから、金属と比べて歯根破折を起こしにくいことが基礎研究で明らかとなっている。一方、「歯の欠損の補綴歯科診療ガイドライン」（日本補綴歯科学会、2008年）では、「ファイバーポストは新しい材料であり長期にわたる経過観察症例が少ないことを考慮することも必要である。」と記されている。では、その後の臨床研究報告によって何が明らかになったのであろうか？

臨床においては、「铸造金属による支台築造」いわゆるメタルコアも多く用いられている。メタルコアとレジンコアの選択基準は、術者によって考え方が大きく異なり、共通の見解が得られていない。また、ポスト部の接着対象である根管には確実な接着を獲得することが困難であり、その臨床術式のコンセンサスも得られていない。今回、イブニングセッションを開催することにより、支台築造法における臨床ステップの科学的見解をまとめ、それに基づいて支台築造法のガイドライン作成を目指したい。セッション当日は、発表者が列挙したクリニカルクエスションの過不足およびその重要度を吟味した上で、ガイドライン作成のためのワー

キンググループの設立を予定している。

なお、本セッションのもう一つの目標として、次世代の支台築造法にもフォーカスをあてたい。現在、ファイバーポストを根管中央に配置する手法が一般的であるが、さらなる「歯質の保護と補強」を実現できる方法として、異なるファイバーの使用や配置方法が考えられる。また、ポストを付与しない単一レジン築造（ショートファイバー補強レジン）やデジタルテクノロジー（デジタルスキャナー、CAD/CAM）を応用した新規支台築造法も報告されている。さらに、根管治療後から歯冠補綴装置まで一連のステップを見直すことにより、新たな補綴歯科治療が創出される可能性もある。

本セッションにより、支台築造法の臨床手技を整理するとともに、エビデンス欠如部分の補填や次世代支台築造に対する若手研究者の研究機運を高めた。

接着技法を活用した支台築造法の現状と未来

背景	平成28年1月 ファイバーポスト健康保険収載	
現状	支台築造法に用いる材料の選択肢が広がった。	レジンコアの処置数が多くなると予想される。
問題点 疑問点	臨床術式について、共通の見解が乏しい。	本当にファイバーポストレジンコアがベストか？
	ガイドライン作成	イノベーション創出
イブニングセッション		
予想される結果	クリニカルクエスションおよび、その重要度が吟味される。	ファイバーの使用・配置法、さらに「要・不要」に関する議論が深まる。
将来展望	根拠や価値に基づく「より良い処置」の確立。	次世代支台築造法の構築へ向けた研究が促進。

図 本セッションの概念

トピックス

- 支台築造法のエビデンス蓄積
- 根管内接着技法の確認
- 次世代支台築造法

イブニングセッション 2 Evening session 2

iPS 細胞研究は歯科補綴学にどのように生かされるのか？

How can iPS cell technologies change prosthodontics for next stage?

コーディネーター

黄地健仁

慶應義塾大学医学部歯科・口腔外科学教室

発表者

新部邦透

東北大学大学院歯学研究科分子・再生歯科補綴学分野

大川博子

東北大学大学院歯学研究科分子・再生歯科補綴学分野

帆足有理恵

昭和大学歯学部歯科補綴学講座

Coordinator

Takehito Ouchi

Department of Dentistry and Oral Surgery, Keio University School of Medicine

Presenters

Kunimichi Niibe

Division of Molecular and Regenerative Prosthodontics, Tohoku University Graduate School of Dentistry

Hiroko Okawa

Division of Molecular and Regenerative Prosthodontics, Tohoku University Graduate School of Dentistry

Yurie Hoashi

Department of Prosthodontics, Showa University School of Dentistry

ナメル芽細胞, 歯原性間葉細胞へ誘導する技術がこの日本から発表されたことは記憶に新しい。しかしながら, まだ歯の再生は実現していないのが現状である。実現するために何が問題なのか, これから何が必要なのか, 歯の再生を実現するための課題を提示させていただき, iPS 細胞の可能性を議論したい。

大川博子

近年のインプラント治療の進歩によって, 歯科補綴領域でも軟組織や歯槽骨の再生技術が期待されるようになった。さらに, バイオエンジニアリング技術の発展は, iPS 細胞からより生体に近い組織を作製することを可能にすると考えられている。我々はこれまで, iPS 細胞を用いた骨再生技術の開発に取り組んできた。本セッションでは, iPS 細胞移植による腫瘍化および治療の高コストを回避する骨再生アプローチについて概説し, これらの技術を補綴臨床に応用するための課題と展望を述べたい。

帆足有理恵

患者から樹立した疾患特異的 iPS 細胞を用いた難治性疾患の病態解析, 創薬, 治療法の開発によって医療は飛躍的に進歩している。我々の研究チームでは睡眠時ブラキシズムに対して細胞レベルでの発症メカニズム解明と創薬を目指し, 患者由来 iPS 細胞を樹立し, セロトニン受容体発現神経細胞の誘導に成功している。睡眠時ブラキシズムのような多因子疾患においては, 従来の単一遺伝子疾患を対象とした解析技術ではなく, ハイスループットな解析システムを用いることで表現型の違いを検出できる可能性がある。本セッションでは, 睡眠時ブラキシズム疾患モデルの確立とメカニズム解明のための一連の研究を紹介し, 疾患 iPS 細胞技術を基盤とした今後の補綴歯科医療の展望について考察したい。

近年, さまざまな細胞や組織への分化が可能な人工多能性幹細胞 (iPS 細胞) が注目されている。本邦では, 世界で初めて iPS 細胞の臨床研究が網膜の治療で開始し, 今後もこの細胞の様々な疾患への応用が期待されている。一方, 歯科領域では iPS 細胞の基礎研究は進んでいるにも関わらず, 臨床応用に向けた目処が立っていないのが現状である。その一因には, 歯科における iPS 細胞研究の現状の把握と将来の展望が曖昧であることが否めない。そこで本セッションでは, 若手 iPS 細胞研究者の発表を基に会場の皆様と議論を深め, この理想と現実を見つめながら将来の歯科補綴学への応用に向けたロードマップを考える機会にしたい。

新部邦透

歯科界にとって「歯の再生」は究極の夢の治療かもしれない。上皮間葉相互作用をいかに再現するか, そしてセルソースをどこから獲得するのが長年の壁であった。iPS 細胞の登場から 10 年が経過し, すでにエ

トピックス

- iPS 細胞を用いた再生医療
- 疾患特異的 iPS 細胞
- 歯科補綴学への iPS 細胞の応用

イブニングセッション 3 Evening session 3

ここにインプラントが欲しい！
—有床義歯へのインプラントの活用—We need implant here!
— Application of implants for removable dentures —

コーディネーター

金澤 学

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科高齢者
歯科学分野

発表者

佐藤洋平

鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座

横山紗和子

昭和大学歯学部歯科補綴学講座

Coordinator

Manabu Kanazawa

Gerodontology and Oral Rehabilitation Graduate
School of Medical and Dental Sciences Tokyo
Medical and Dental University

Presenters

Yohei Sato

Department of Removable Prosthodontics,
Tsurumi University School of Dental Medicine
Sawako Yokoyama

Department of Prosthodontics, Showa University
School of Dentistry

日本では多数歯の欠損補綴には古くから部分床義歯と全部床義歯が用いられてきた。一方、欧米では2002年のMcGillコンセンサスと2009年のYorkコンセンサスを経て、下顎全部床義歯患者における2-implant overdenture (2-IOD) はエビデンスの確立された治療方法として認識されている。また、部分床義歯にインプラントを利用するImplant Assisted Removable Partial Denture (IARPD) に関する研究・臨床報告も増えており、今後更なるエビデンスの構築が期待されている。日本では超高齢社会を迎え、有床義歯患者が増加し、それとともに難症例も増加している。吸収した顎堤、口腔乾燥、およびディスクネジアなどの難症例に対してはIODが、すれ違い咬合のような従来の部分床義歯では治療が困難な欠損形態にはIARPDが効果的であることが報告されている。また、最近ではインプラント補綴を行った患者の高齢化によって、プラークコントロール不良に起因するインプラント周囲炎や、それに伴うインプラントの喪失が問題となっているが、このような場合に、インプラントによる固定性補綴から可撤性のIODやIARPDへのリカバリーが有効である。このようなことから、今後日本の有床義歯補綴において、インプラントを応用したIODとIARPDが重要な役割を果たすことは間違いないと思われる。

欠損補綴に関しては、本学会員の中でも、専門は細分化され、有床義歯を得意とする会員や、インプラント固定性補綴と得意とする会員と、その専門性は多岐

にわたり、それぞれの立場により欠損補綴への取り組みは異なることがある。このIODとIARPDは日本においては保険制度の違いもあり、この技術を適応できる症例が欧米と比較して少なく、また従来の補綴の枠組み、いわゆる有床義歯補綴とインプラント補綴の間にあることから、その技術と知識が共有されていないのが実情である。

本セッションでは全部床義歯の専門家（金澤）、部分床義歯の専門家（佐藤）、インプラント補綴の専門家（横山）という、本会員の中でも立場の異なる発表者を招く。特に、金澤からはIODの臨床術式（特に診断、設計、アタッチメント）について臨床的ポイントを解説する。それぞれの立場からIODとIARPDを議論することにより、「有床義歯へのインプラントの活用」に関する共通認識を示したい。

佐藤洋平

部分床義歯治療において難症例に遭遇する時、「ここにコーピングがあれば…」と何度思ったことだろう。その願いはインプラントを応用することで叶えることができるようになった。インプラントは強力なアシストとなり得るが、設計や治療の要点は従来の義歯設計の延長にある。部分床義歯本体が担える機能とインプラントに求める機能を整理した設計を考察したい。効果的に義歯を補強する方法や精密さを追求する製作法について解説し“結果にコミットするIARPD”の術式を供覧したい。

横山紗和子

可撤性義歯にインプラントを取り入れようと計画する際に必要と考えられるインプラント周辺の診査事項から実際の術式まで、日常診療の参考となる内容を紹介したい。治療相談に入る前の適応症例の判断方法、全身疾患のチェック事項、CT撮影時のステントの目的と種類・製作方法、インプラントをプランニングする際の埋入位置・方向の選択方法、インプラントシステムによる違い、手術時における粘膜の取り扱い方、術後のデンチャー使用プロトコル、荷重時期の選択と義歯製作のタイミングなど、失敗症例も含めた症例紹介を通して解説する。

トピックス

- Implant overdenture (IOD)
- Implant Assisted Removable Partial Denture (IARPD)
- 有床義歯補綴

イブニングセッション 4 Evening session 4

Back to the basic

— ゴシックアーチは本当に必要なのか? —

Back to the basic

— Is Gothic Arch really necessary? —

コーディネーター

兒玉直紀

岡山大学病院咬合・義歯補綴科

発表者

松丸悠一

日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座

熱田 生

九州大学大学院口腔機能修復学講座咀嚼機能再建学分野

Coordinator

Naoki Kodama

Occlusion & Removable Prosthodontics, Okayama University Hospital

Presenters

Yuichi Matsumaru

Department of removable prosthodontics, Nihon University School of Dentistry at Matsudo
Ikuru AtsutaSection of Implant and Rehabilitative Dentistry,
Division of Oral Rehabilitation, Faculty of Dental
Science Kyushu University

近年のデジタルテクノロジーの急激な進歩により、補綴臨床は大きく変わりつつある。クラウンブリッジやインプラント補綴においてCAD/CAM技術を応用した補綴装置の製作は必要不可欠となっているが、一方でCAD/CAM技術を応用した義歯治療はクラウンブリッジやインプラントのそれと比較すると問題点が山積しており、従来の製作法に頼らざるを得ない現状である。

全部床義歯（以下、CD）治療を成功させる上で、咬合採得の占める割合は非常に高いことは良く知られており、その具体的な手技やチェックポイントに関して多くの議論がなされているが、現在までに統一した見解は得られていない。近年、CDに関して、大学教育の時間数、臨床研究、論文数が減少しており（Carlsson 2010）、さらに臨床実習においてもCD症例の減少が報告されていることなどから、卒前に適切な咬合採得の手技を習得することが困難になっていると考えられる。その結果、日常臨床において明確なゴールがわからないまま試行錯誤で咬合採得を行っている若手臨床医も少なくないと推察される。特に、水平的顎間関係の決定は難しく、タッピング法や手指による誘導が行われているが、それだけでは客観的な指標としては十分でない場合が多い。そこで長い間用いられてきた装置がゴシックアーチ（以下、GoAとする）描記装置である。

GoAは下顎の限界運動を記録し、水平的顎間関係を決定する際には有用であると考えられ、保険算定も可

能な検査である。しかしながら、近年その利用数は減少していると考えられ、さらに米国における教科書ではGoAの記載がなくなるなど、教育も徐々に行われなくなっている（松田 2016）。現在ではGoAの意義は失われ、臨床や教育においてすでに不要になっているのだろうか？

本シンポジウムでは、CD治療において非常に重要なステップである咬合採得について、1)咬合採得のゴールをどこに定めるか、2)GoAの有用性とその意義、3)GoAの問題点と注意点、について講師の先生方に実際の臨床例を呈示していただいた後にディスカッションを行い、CD治療における咬合採得を成功させるための有用な考え方を提供したい。

松丸悠一

CD臨床を成功させる上で、水平的顎間関係の記録は重要であり、その求めるべきゴールは機能時に義歯が不安定にならず、筋や顎関節と調和した、患者自身が再現できる位置とされる。臨床では唾液で濡れた被圧変位のある顎堤粘膜間にその位置を求めなければならないことや、患者が術前に獲得した咬み癖等により、その操作に注意すべき点が多い。本講演では、無歯顎患者を対象とするCD特有の水平的顎間関係設定における注意点を整理し、臨床的に求めるべき咬合採得のゴールを考察したい。

熱田 生

水平的な顎間関係は、無歯顎にまで移行してきた経緯で決まる顎運動の習慣性、筋力の低下や患者の口腔感覚によって大きく影響を受ける。しかし顎関節の解剖学的形態によって動きを決定されるGoA描記法は極めて再現性の高い検査法であり、システム化されたGoAを使用することで咬合採得という難解なステップを容易にするだけでなく、結果として補綴治療のレベルをある程度平均化させるうかも知れない。そこで本講演では、GoAが日常臨床にすぐに使える水平的顎位の決定法となることを期待して、その有効性と使用上の注意点を臨床例や研究報告などを用いて考察していくものである。

トピックス

- 咬合採得
- 水平的顎間関係の記録
- ゴシックアーチ

イブニングセッション 5 Evening session 5

インプラント治療における光学印象の活用
—現状と今後の可能性—

Optical impression in implant treatment: Current status and future possibilities

コーディネーター

田中晋平

昭和大学歯学部歯科補綴学講座

発表者

深澤翔太

岩手医科大学歯学部補綴・インプラント学講座

渡邊理平

東北・北海道支部

高場雅之

昭和大学歯学部歯科補綴学講座

Coordinator

Shinpei Tanaka

Department of Prosthodontics, Showa University

School of Dentistry

Presenters

Shota Fukazawa

Department of Prosthodontics and Oral

Implantology, School of Dentistry Iwate Medical

University

Rihei Watanabe

Tohoku Hokkaido Branch

Masayuki Takaba

Department of Prosthodontics, Showa University

School of Dentistry

インプラント治療は CT (Computed Tomography) の DICOM (Digital Imaging and COmmunication in Medicine) データがデジタルデータであることから、デジタル・デンティストリーと親和性が高く、比較的早期からデジタル技術が導入されてきた。シミュレーションソフトウェアやガイドサージャリーやナビゲーションシステムによる安全な手術などはもとより、インプラント上部構造の製作も、今日では CAD/CAM を用いたインプラント上部構造が広く普及した。

光学印象の普及はデジタルワークフローの枠組みを技工のみでなく、臨床手技にまで拡大するもので、すでに一部のシステムにおいては、光学印象からインプラント上部構造製作までが系統的に整備され、フルデジタルワークフローによるトップダウンリートメントは、完成形に近づいたといえよう。

一方で、光学印象に関連したデジタルワークフローは従来のワークフローと比較して柔軟性に劣る、従来のワークフローで得られる最高レベルの精度が担保されていない、など幾つかの制限があることも事実である。本セッションでは、インプラント治療における光学印象の活用の変遷と現状を提示するとともに、今後の展開について、現在直面している技術的限界に焦点を当てながら考察する。

深澤翔太

インプラント上部構造の製作においては、シリコン印象材を使用した従来法が一般的である。一方、口腔内スキャナーによる光学印象法が普及し始め、口腔インプラント治療に応用されつつある。口腔内スキャナーによる光学印象法は、CAD/CAM システムと併用することで治療期間の短縮、患者の肉体的負担の軽減、材料費の節約、高いデータの再現性などが期待されている。本セッションでは、デジタルコードが付与されたヒールリングアバットメントの光学印象によって得られたデジタルデータからインプラント上部構造を製作した症例を供覧する。また、本症例で問われるシリコン印象材を用いた従来法と光学印象法との精度を比較検証した結果を提示するとともに、印象材も石膏も使用しないデジタルワークフローの有用性について考察する。

渡邊理平

口腔内スキャナーを用いた光学印象は、固定性補綴装置の製作ワークフローにおいて、精度、操作性、スピード等が向上し、歯科医師や技工士のみならず患者にも多大な恩恵をもたらした。シリコン印象材を用いた従来法に取って代わり、今後ますますの普及が期待される。

本セッションでは、演者らの日常臨床における光学印象の活用法を紹介するとともに、スクリュー固定式インプラント上部構造を光学印象で製作した症例を供覧し、光学印象の現状における問題点と今後の課題について考察する。

高場雅之

近年、単独歯および少数歯欠損のインプラント治療では、口腔内スキャナーによる光学印象法を用いて、アバットメントや上部構造の製作が可能となった。これらのワークフローが確立されたことを契機として、光学印象装置は、インプラント補綴において広く普及すると考えられる。

しかしながら、多数歯欠損におけるスクリュー固定式上部構造などについては、臨床的に耐えうる精度や適合性などの観点から臨床応用されていない。本セッションでは、現状での光学印象法のワークフローによる問題点を提起し、基礎的データを踏まえて考察しながら、今後に望まれることを提案する。

トピックス

- インプラント
- デジタル・デンティストリー
- 光学印象

イブニングセッション 6 Evening session 6

インプラント治療と無歯顎患者の補綴治療

Contemporary prosthetic strategy for edentulous patients using dental implants

コーディネーター

永田浩司

東京医科歯科大学医歯学総合研究科部分床義歯補綴学分野

トウルク大学 TCBC (Turku Clinical Biomaterials Center)

発表者

佐藤大輔

昭和大学歯学部インプラント歯科学講座

丸尾勝一郎

神奈川歯科大学口腔統合医療学講座

蛭田 賢

東京支部

Coordinator

Kohji Nagata

Department of Removable Partial Prosthodontics,

Tokyo Medical and Dental University

TCBC Laboratory, University of Turku

Presenters

Daisuke Sato

Department of Implant Dentistry, Showa University

School of Dentistry

Katsuichiro Maruo

Oral Interdisciplinary Medicine, Prosthodontics &

Oral Implantology, Kanagawa Dental University

Masaru Hiruta

Tokyo Branch

近年、インプラント治療の台頭により無歯顎患者への補綴治療は多様化を辿っている。インプラント支持型の補綴装置としては、インプラントオーバーデンチャー (IOD)、ボーンアンカーブリッジ (BAB)、All-on-4 が主たる無歯顎患者へのインプラント治療法として紹介されている。本セッションの目的は BAB, IOD, All-on-4 それぞれの臨床家を一堂に会し、それぞれの方法の特性を整理し理解を深め、無歯顎患者に対するインプラント支持型補綴治療における症例選択のコンセンサスを形成することである。

佐藤大輔

IOD は外科的侵襲や経済的負担も比較的少なく、補綴治療効果の得られやすい方法として報告されている。有床義歯では効果を出しにくいと言われている高度に顎堤の吸収した下顎無歯顎患者に対しては、IOD 治療を行うことが標準的治療法であるという共同声明も出されている。私のパートでは、現在までに得られている IOD の科学的根拠を供覧したい。更に、我々のグルー

プが行っている CAD/CAM サージカルテンプレートを用いた IOD 治療を紹介し、無歯顎患者への安全かつ低侵襲の IOD 治療の今と将来の展望について述べたいと思う。

丸尾勝一郎

無歯顎患者に対する「固定性インプラント修復」は通常 "Fixed implant-supported prostheses" と英訳される。「ボーンアンカーブリッジ」とは本邦ならではの呼び方であり、主にガム付の補綴装置によって修復する際にこれを用いることが多い。また、All-on-4 コンセプトと区別する意味合いもあり、通常は上下顎とも 5 本以上のインプラントで支持される固定性修復の方法とされる。本講演では、BAB の学術的なエビデンスならびに All-on-4 コンセプトとの相違点や臨床上の注意点を簡便にまとめてみたい。

蛭田 賢

大規模な骨増生を伴ったインプラント治療は、外科的侵襲も大きく治療期間も長期化する傾向にあった。近年、quality of life 向上を目的とするインプラント治療は、低侵襲であることや治療期間の短縮化を患者から求められるようになっていく。インプラント治療に際し骨量が不十分な無歯顎患者において、外科的侵襲の大きい骨増生が限定的で、最少 4 本と少ないインプラントを即時荷重で機能させる All-on-4 コンセプトは術者、患者ともに有用な治療方法である。本講演では我々が行なっている無歯顎患者における All-on-4 コンセプトの有用性を解説してみたいと思う。

トピックス

- implant overdenture
- bone anchored bridge
- All-on-4

ハンズオンセミナー1 Hands-on seminar 1

軟質材料を用いた義歯のリライン

講師

上田貴之

東京歯科大学老年歯科補綴学講座

和田 健

東京歯科大学老年歯科補綴学講座

Table clinic of lining of removable dentures with soft lining materials

Instructors

Takayuki Ueda

Department of Removable Prosthodontics & Gerodontology, Tokyo Dental College

Takeshi Wada

Department of Removable Prosthodontics & Gerodontology, Tokyo Dental College

本セッションでは、軟質材料を用いた義歯のリラインの技工操作をテーブルクリニック方式で紹介する。軟質リラインをやってみたいけどやり方がよくわからない、やってみただけどうまくいかない、といった方の疑問にお答えしたいと思っている。

「リラインとリベースのガイドライン」(日本補綴歯科学会, 2007)によれば、リラインの方法は直接法と間接法がある。直接法と比較した間接法の特徴として、咬合関係の変化を避けることができ、軟質材料の厚みを均一にすることが可能であり、唾液の混入による接着不良が発生しにくいことが挙げられる。したがって、原則として間接法によるリラインが推奨される。また、間接法にはプラスチック埋没による方法とジグによる方法がある。それぞれに利点、欠点があるが、プラスチック法が確実であり、推奨される。一方、ジグ法は処置時間を短縮することができるため、長時間の義歯の預かりができない場合に有用である。義歯を預かることが困難な場合などには、ジグ法も活用していただきたい。

そこで今回は、皆さんの馴染みが少ないと思われる、リラインジグを用いるジグ法による軟質リラインの技工操作を紹介したい。本セッションでは、健保適応の常温重合型シリコーン系軟質リライン材を用いて、ジグ法による間接リラインの実際をご覧いただく予定である。この方法は、2016年4月より保険収載された軟質材料による有床義歯内面適合法として、プラスチック法とともに臨床応用していただくことが可能であるので、ぜひご活用いただきたい。

尚、本セッションは、本会の賛助会員である株式会社ジーシー、株式会社トクヤマデンタル、ネオ製薬工業株式会社(五十音順)の協力を受け、本学術大会の主催で実施される。

トピックス

- 軟質リライン
- 可撤性義歯
- 技工操作

ハンズオンセミナー2 Hands-on seminar 2

口腔内スキャナーの実践

講師

疋田一洋

北海道医療大学歯学部口腔機能修復・再建学系デジタル歯科医学分野

Practice of intraoral scanner

Instructor

Kazuhiro Hikita

Division of Digital Dentistry, Department of Oral Rehabilitation, Health Sciences University of Hokkaido School of Dentistry

あらゆる歯科臨床現場でのデジタルデンティストリーに関連する技術や製品が普及拡大を続けており、その中でも口腔内スキャナーは次世代印象法として注目されている。口腔内スキャナーの導入により、今まで作業模型からのデータ取得が患者の口腔内から直接計測データを取得するため、印象材や模型材の寸法変化、気泡、破損などのエラーがなく、材料費の節約になる。また、非接触かつ操作時間が短いので、患者のストレス軽減や感染防止にも有効である。一方、機器への初期投資、保守管理、操作の習熟が必要であり、出血部や歯肉縁下での計測が困難であることや一定の開口量が求められるなど課題も指摘されている。したがって、これまで口腔内スキャナーを広く普及させるために、より高精度に、より高速に、より小さく、より安くといった改良が行われてきた。最近では複数のメーカーによって様々な製品が開発され、スキャナーの大きさ、計測精度、スピード、カラー情報の取得などに改良が行われ、性能が著しく向上し、患者や術者にとってさらに使用しやすく、臨床現場で有益かつ信頼性のある機器となっている。

そこで今回は、4種類の口腔内スキャナー、3MTM トゥルー デフィニション スキャナー (3M Japan)、セレック AC オムニカム (モリタ)、トロフィー 3DI システム (ヨシダ)、PlanScan (ジーシー) を実際にご使用いただき、それぞれの口腔内スキャナーの特徴や使用方法について理解を深めていただく。

尚、本セッションは、本会の賛助会員である株式会社ジーシー、株式会社モリタ、株式会社ヨシダ、スリーエムジャパン株式会社(五十音順)の協力を受け、本学術大会の主催で実施される。

トピックス

- デジタルデンティストリー
- 口腔内スキャナー
- デジタル印象

ハンズオンセミナー 3 Hands-on seminar 3

ファイバーポストコアをマスターする

講師

坪田有史

東京支部

To acquire knowledge and master on endodontically treated teeth restored with composite core materials and fiber posts

Instructor

Yuji Tsubota

Tokyo Branch

支台築造は生活歯、根管処置歯を問わず、歯質欠損を補い、歯冠補綴装置を装着するための適正な支台歯形態へ回復させることが目的であり、その臨床的意義は高い。とくに根管処置歯の支台築造において、歯科接着を活用して可能な限り健全歯質の保存を図ることが、術後のトラブルへの対策として有効である。

根管処置歯の支台築造の術式において、レジン支台築造は、象牙質への接着の信頼性が向上してその選択頻度が高くなった。さらにファイバーポストコアは、主に歯根破折への対策、ならびに審美性の向上やメタルフリーを目的として臨床応用される。

2016年1月から「ジーシー ファイバーポスト」が公的保険に収載され、それ以前には自費治療でのみ使用されていたファイバーポストが特定保険医療材料となり、保険治療として国民に広く使用することが可能となった。その後、2015年12月28日に公示された特定保険医療材料の定義に合った複数の製品が申請、認可され、ファイバーポストの選択肢が増えた。なお、2017年2月時点で9社12製品が保険治療で使用可能である。

本ハンズオンセミナーでは、歯科接着が不可欠なファイバーポストコアの複数ある接着界面を理解し、臨床テクニックを習熟していただくため、直接法、あるいは間接法の各術式での実習を行う。また臨床では、特定保険医療材料として承認されているファイバーポストと、自費治療のみで使用されるファイバーポストがあるため、複数のシステムを経験していただく。その結果、参加いただいた先生方がファイバーポストコアの有効性について修学され、そして臨床での習熟度の向上を図ること、すなわち「ファイバーポストコアをマスターする」ことを目的とする。

尚、本セッションは、本会の賛助会員である株式会社サンメディカル、株式会社ジーシー（五十音順）の協力を受け、本学術大会の主催で実施される。

トピックス

- 支台築造
- レジン支台築造
- ファイバーポスト

ハンズオンセミナー 4 Hands-on seminar 4

有床義歯咀嚼機能検査

講師

志賀 博

日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第1講座

Examining masticatory function of removable denture

Instructor

Hiroshi Shiga

Department of Partial and Complete denture, School of Life Dentistry at Tokyo, The Nippon Dental University

治療効果を客観的に評価し、患者さんに呈示する医療が求められています。また歯科医療の主な目的として、咀嚼機能の回復と維持があります。したがって、咀嚼機能を客観的に評価し、患者さんに呈示する咀嚼機能検査が必要となります。ただし、臨床で用いるためには、操作が容易でかつ短時間で行えなければなりません。

演者らは、誰でも容易に行うことができる咀嚼機能検査法を開発し、臨床応用してきました。その結果、有床義歯装着者に対し、先進医療を経て「有床義歯咀嚼機能検査」として平成28年4月に保険導入されました。

本検査は、下顎運動検査と咀嚼能力検査からなり、下顎運動検査は、歯科用下顎運動測定器を用いて、咀嚼時の下顎運動を記録後、運動経路のパターン、あるいは運動の安定性を調べるものです。咀嚼能力検査は、グミゼリーを主咀嚼側で20秒間咀嚼させた後、水10mlを含み、グミゼリーとともに、ろ過つきコップに吐き出させ、得られたろ液中のグルコースの濃度を測定するものです。特に咀嚼能力検査は、一般の方々の関心が高く、各イベントで実施すると長蛇の列ができます。

これらの検査法は、特別な知識や習得を必要とせず誰でも簡便かつ短時間（下顎運動検査：10分以内、咀嚼能力検査：5分以内）で行うことができます。また、有床義歯装着者のみならず、咬合問題や歯の欠損に伴う咀嚼障害を有するすべての患者に応用でき、治療前の障害の程度、治療後の回復の程度、定期検査時の維持状況をデジタル画像化や数値化することにより、客観的に評価できます。さらに、歯科治療とその効果について、患者の理解を促進し、適切な指導・管理を行うことが可能となります。

本セミナーでは、これらの検査法と臨床応用について解説させていただきます。

尚、本セッションは、本会の賛助会員である株式会社ジーシーの協力を受け、本学術大会の主催で実施される。

トピックス

- 有床義歯
- 下顎運動検査
- 咀嚼能力検査

ランチョンセミナー 1 Luncheon Seminar1

チェアサイド型歯科用 CAD/CAM システム CEREC の臨床応用

中村昇司

日本歯科大学生命歯学部接着歯科学講座

Clinical application of chair side dental CAD/CAM system CEREC

Shoji Nakamura

School of Life Dentistry at Tokyo, The Nippon Dental University Department of Adhesive Dentistry

近年デジタルデンティストリーは、歯科界においてなくてはならないものとなっている。中でも歯科用 CAD/CAM システム（以下 CAD/CAM システム）は、その存在感を増している。CAD/CAM システムは、最新技術のイメージが強く近年に開発されたように思われがちだが、その歴史は古く 1970 年代から開発されており、Duret による Sopha system や Morman らによる CEREC がある。

CAD/CAM システムのなかでも、チェアサイド型 CAD/CAM システムは最も長い歴史を有し、口腔内を CCD カメラにて光学印象採得したデータから修復・補綴装置を製作し治療を即日完了する直接法が主流であった。

現在では、イントラオーラルスキャナーとソフトウェアの向上によりチェアサイドとラボサイドの双方に対応可能となっている。また従来のシリカセラミック材料やレジン系材料に加えジルコニアなどの新材料の開発と進化も、臨床の幅を広げている一因と言えよう。チェアサイド型 CAD/CAM システムは、歴史の長さより CAD/CAM システムのなかでも有数の臨床例やエビデンスの量を有している。さらに技術の革新は、X 線画像診断器と CAD/CAM システムとの融合を果たしインプラントの埋入計画の立案から上部構造の設計と製作までを一連の作業で完了させることを可能としている。

以上より今回は、チェアサイド型 CAD/CAM システム CEREC の当院における臨床例を発表させていただく。内容は、1) シリカセラミックブロックとハイブリットブロックを用いた白歯部インレー、前歯・白歯部クラウン、ラミネートベニアの直接法の症例、2) ジルコニアブロックを用いた白歯部クラウンと同ブリッジの直接法の症例、3) 口腔内を光学印象採得の後、そのデータを技工所に転送し石膏作業用模型を使用することなく補綴装置を製作した症例、4) インプラントの埋入計画立案からサージカルガイド作製し埋入後、上部構造作製までの一連を行った症例などである。

トピックス

- デジタルデンティストリー
- チェアサイド型歯科用 CAD/CAM システム
- 直接法

ランチョンセミナー 2 Luncheon Seminar2

色調情報共有に特化した口腔内カメラ「アイスペシャル C III」の活用法

瓜坂達也

大阪府

Utilizing EyeSpecial C-III: Digital camera specialized in sharing shade information

Tatsuya Urisaka

Osaka

昨今、歯科材料の進化に伴い二ケイ酸リチウムやジルコニアなどの普及が進み、オールセラミックの市場が拡大傾向にあります。そして、従来と比較して色調に対する要求も高まっており、術者側では使用する材料の色調特性の理解はもとより、患者ニーズや求められる色調の具体的情報をいかに精度高く収集できるかがポイントになってきます。

現在の色調の具体的情報源としては、シェードガイドと共に撮影されたシェードテイキング時の写真や画像が主なところですが、チェアサイドから技工サイドに届く写真や画像については「この写真があると色調再現の仕事がしやすい!!!」と術者である歯科技工士が思うものは少なく、実際のところなかなか良い写真に出会うことがありません。また、チェアサイドではシェードテイキング情報としての口腔内撮影やカメラの予備知識の習得について難しいものと認識される傾向があり、どちらかといえばその作業全体が歯科技工士に依存されています。

そんな中、今回はチェアサイドにおいてもシェードテイキング時の口腔内撮影がより身近にできるキーポイントをご提案させていただきます。

口腔内撮影に特化した新規デジタルカメラ『アイスペシャル C-III』を用いることで、シェードテイキング撮影に必要なカメラの知識や技術的な要素の習得が軽減できます。そしてシェードテイキング時の要件やポイントなどにも注力できることで、さらに精度の高い口腔内撮影も可能となります。また『アイスペシャル C-III』の特性の 1 つである“シェード抽出モード”を活かした撮影法や、関連機器によるカラーマネージメントも紹介させていただくことで、シェードテイキング撮影についてのポイントが整理していただけたと思います。

本レクチャーが皆様の臨床についての一助となれば幸いです。

トピックス

- 口腔内撮影
- シェードテイキング
- カラーマネージメント

ランチョンセミナー3 Luncheon Seminar3

GC's CAD/CAM solution

院内完結型 CAD/CAM システム「Planmeca FIT」

CAD/CAM 用高靱性ハイブリッドブロック「セラスマート 270」

浦田俊太郎

株式会社ジーシー

上野貴之

株式会社ジーシー

GC's CAD/CAM solution

Shuntaro Urata

Products Management Department

Takayuki Ueno

Research & Development Department

株式会社ジーシーでは、デジタルデンティストリーの一翼を担うシステムとして、院内完結型 CAD/CAM「Planmeca FIT」の販売を 2016 年 7 月から開始しています。Planmeca FIT のシステムは、管理医療機器として薬事承認を得ている口腔内スキャナ「PlanScan」と、補綴装置を切削加工する「PlanMill40」、CAD ソフトウェア「PlanCAD Easy」で構成しています。この信頼性の高い技術に基づいたシステムは、高精度、高速な計測・切削によって最終補綴装置が短時間で製作できるため、患者さんに高品質なワンビジットトリートメントを提供します。また、補綴装置の製作のみならず、「Planmeca FIT」は CBCT「ProMax3D」と融合して診査診断をサポートする機能も実装しており、安心安全で確実な補綴治療に貢献するシステムです。

平成 26 年の診療報酬改定にて「CAD/CAM 冠」が保険収載され、弊社では当初より「セラスマート」をご提供してまいりました。「セラスマート」は先進医療で評価された「グラディアブロック」のノウハウを継承し、更に強度や艶の維持といった点を改善したもので、発売以来 3 年間の臨床での実績において良好な評価を得ておりますが、弊社ではこの度、新しいガラスファイラーへの表面処理技術「FSC テクノロジー」を導入し、より安心してお使いいただける特性を持った「セラスマート 270」を発売しました。従来の「セラスマート」での艶の維持、セルフシャイニングといった特性はそのままに、より強靱な特性となっております。より安心してお使いいただける特性を持った、新しい世代の CAD/CAM 冠用高靱性ハイブリッドブロック「セラスマート 270」をご案内させていただきます。

トピックス

- 最先端デジタルソリューション
- チェアサイド CAD/CAM システム
- CAD/CAM 冠

ランチョンセミナー4 Luncheon Seminar4

紅斑性カンジダ症への口腔乾燥と義歯のかわり

中川洋一

鶴見大学歯学部附属病院口腔機能診療科

Relevance of salivation and denture to the development of atrophic glossitis

Yoichi Nakagawa

Department of Clinical Pathophysiology, Tsurumi University Dental Hospital

口腔カンジダ症は、偽膜性カンジダ症、紅斑性（萎縮性）カンジダ症、肥厚性カンジダ症の主な 3 つの病型がある。そのほか、義歯性口内炎、口唇炎、口角炎、正中菱形舌炎、これらに加えて、他覚的な徴候を認めない舌痛症のような症状を示すカンジダ関連舌痛もあり、カンジダ関連病変の臨床像は多彩である。そのため病変の診断には、塗抹標本の顕微鏡検査が重要な役割を果たす。検査のおかげで口腔カンジダ症の多彩な病態が明らかになったが、考えられていた以上に紅斑性カンジダ症が数多く存在することも明らかになった。カンジダ症は日和見感染であり、感染の成立には宿主因子の存在が必須である。口腔の局所的な要因として口腔乾燥と義歯装着が知られているが、紅斑性カンジダ症への義歯の関与は必ずしも明らかではない。一方、微生物側の因子として、近年 *C. albicans* 以外の non-*albicans Candida* の重要性が議論されているが、紅斑性カンジダ症への関与は明らかではない。このような背景から、紅斑性カンジダ症に関連する宿主側のリスクファクターと *Candida* の species を明らかにすることとした。

紅斑性カンジダ症の主な症候は、痛み、口腔粘膜の発赤、舌乳頭萎縮である。舌乳頭萎縮に強く関連する因子に刺激唾液量の減少と *Candida* の増加があり、特に *C. albicans* の関与が大きかった。口腔粘膜と義歯装着は、直接的に舌乳頭萎縮を引き起こすわけではなかったが、唾液分泌減退患者で義歯を使用しているケースでは舌背の *Candida* 生菌数が多くなっていた。義歯装着者で口腔乾燥がある場合に発症しやすいことが推察されたため、その予防に義歯ケアが不可欠だと考えられた。

トピックス

- 口腔カンジダ症
- Candida albicans*
- 唾液分泌減退

公益社団法人 日本補綴歯科学会第 126回学術大会 アンケート

第 126回学術大会の企画に関し、会員の方々からのご意見を頂戴し、次回以降のプログラム立案に活用いたしたく存じます。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。なお、本書式は日本補綴歯科学会のホームページ<<http://www.hotetsu.com/member.html>> からダウンロード出来ます。ご記入後は、本紙を大会受付のアンケート回収箱にお入れ頂くか、後日事務局に電子メールにて送付をお願いします。

公益社団法人 日本補綴歯科学会
学術委員会

1. あなたが望む 特別講演・海外招待講演・シンポジウム の内容についてお書きください。ご希望される演者がいらっしゃいましたら、そのお名前もお書きください

2. あなたが望む 研究セミナー・臨床セミナー の内容についてお書きください。ご希望される演者がいらっしゃいましたら、そのお名前もお書きください

3. 今回も 公募型イブニングセッション を企画しました。ご感想がございましたら御願います

4. 今回新しい試みとして ハンズオンセミナー と 衛生士セッション を企画しました。ご感想がございましたら御願います

5. その他、あなたが望む 新しい企画 がございましたらお書きください。ご希望される先生がいらっしゃいましたら、そのお名前もお書きください

6. 本学術大会（第 126 回大会）で良かったと思われたところがありましたらお書きください

7. 本学術大会（第 126 回大会）で悪かったと思われたところがありましたらお書きください

8. その他、本学会の学術活動に関するご意見をご自由にお書きください

公益社団法人 日本補綴歯科学会

第126回学術大会 協賛・後援一覧

協 賛 (50音順)

- ・石福金属興業 株式会社
- ・クラレノリタケデンタル 株式会社
- ・ストローマン・ジャパン 株式会社
- ・ノーベル・バイオケア・ジャパン 株式会社
- ・ペントロン・ジャパン 株式会社

後 援 (順不同)

- ・公益社団法人日本歯科医師会
- ・日本歯科医学会
- ・一般社団法人日本歯学系学会協議会
- ・一般社団法人日本歯科医学会連合
- ・一般社団法人神奈川県歯科医師会
- ・一般社団法人山梨県歯科医師会
- ・一般社団法人横浜市歯科医師会
- ・一般社団法人日本歯科技工学会
- ・公益社団法人日本歯科衛生士会
- ・一般社団法人日本デジタル歯科学会
- ・鶴見大学
- ・神奈川県
- ・横浜市

企業展示 (50音順)

- ・相田化学工業 株式会社
- ・愛知製鋼 株式会社
- ・株式会社 アイディエス
- ・石福金属興業 株式会社
- ・医歯薬出版 株式会社
- ・Ivoclar Vivadent 株式会社
- ・ウエルテック 株式会社
- ・ウルトラデントジャパン 株式会社
- ・長田電機工業 株式会社
- ・カボデンタルシステムズジャパン 株式会社
- ・株式会社 キーラー・アンド・ワイナー
- ・株式会社 キクタニ
- ・京都機械工具 株式会社
- ・クインテッセンス出版 株式会社
- ・グラクソ・スミスクライン・コンシューマー・ヘルスケア・ジャパン 株式会社
- ・クラレノリタケデンタル 株式会社
- ・株式会社 コアデンタルラボ横浜
- ・コアフロント 株式会社
- ・サンメディカル 株式会社
- ・株式会社 ジーシー
- ・株式会社 松風

- ・昭和薬品化工 株式会社
- ・ジンマー・バイオメット・デンタル 株式会社
- ・スリーエムジャパン 株式会社
- ・株式会社 スリーディー
- ・タカラベルモント 株式会社
- ・ティーアンドケー 株式会社
- ・株式会社 デンタルダイヤモンド社
- ・デンツプライシロナ 株式会社
- ・株式会社 東京歯材社
- ・株式会社 トクヤマデンタル
- ・株式会社 ナカニシ
- ・株式会社 ニッシン
- ・ネオ製薬工業 株式会社
- ・ノーベル・バイオケア・ジャパン 株式会社
- ・株式会社 バイテック・グローバル・ジャパン
- ・株式会社 白鵬
- ・株式会社 ビーブランド・メディコーデンタル
- ・株式会社 日向和田精密製作所
- ・株式会社 プラトンジャパン
- ・ヘレウスクルツァージャパン 株式会社
- ・ペントロン・ジャパン 株式会社
- ・株式会社 マイクロテック
- ・マニー 株式会社
- ・メディア 株式会社
- ・株式会社 茂久田商会
- ・株式会社 モリタ
- ・山八歯材工業 株式会社
- ・山本貴金属地金 株式会社
- ・株式会社 UGA & Co.
- ・株式会社 ヨシダ
- ・ロート製薬 株式会社
- ・株式会社 YDM
- ・和田精密歯研 株式会社

広告展示 (50 音順)

- ・医歯薬出版 株式会社
- ・株式会社 学建書院
- ・クラレノリタケデンタル 株式会社
- ・株式会社 コアデンタルラボ横浜
- ・株式会社 ジーシー
- ・株式会社 松風
- ・ジンマー・バイオメット・デンタル 株式会社
- ・ダイセル・エボニック 株式会社
- ・デンツプライシロナ 株式会社
- ・株式会社 トクヤマデンタル
- ・株式会社 ビーブランド・メディコーデンタル
- ・株式会社 モリタ

公益社団法人 日本補綴歯科学会第 126 回学術大会開催に際しまして、上記団体・企業から多大なご支援を頂戴いたしております。ここにお名前を挙げさせていただき、厚くお礼申し上げます。

公益社団法人 日本補綴歯科学会第 126 回学術大会
 大会長 大久保力廣

(公社) 日本補綴歯科学会

平成 29 年度専門医多肢選択式筆記試験実施のお知らせ

公益社団法人日本補綴歯科学会
理事長 松村 英雄
専門医制度委員会委員長 鱒見 進一

平成 29 年度専門医多肢選択式筆記試験を下記の要領で実施します。専門医新規申請を予定し、多肢選択式筆記試験にまだ合格していない会員の皆様は、受験いただきますようお知らせします。なお、専門医制度に関する詳細は、本会ホームページの「専門医制度について」をご覧ください。

記

平成 29 年度専門医多肢選択式筆記試験の実施要項

1. 日程

日時：平成 29 年 6 月 30 日（金） 15：00～15：50

＊詳細な日程は、第 126 回学術大会ホームページ参照。

場所：日石横浜ホール 横浜市中区桜木町一丁目 1 番地 8「日石横浜ビル」

2. 申し込み方法

専門医多肢選択式筆記試験申込書（様式 30）に必要事項を記載し、返信用封筒（定型、長形 3 号封筒に 392 円切手を貼付し宛先を明記したもの）を同封の上、専門医制度委員会委員長宛に郵送してください。様式 30 は本会ホームページからダウンロードで入手可能です。なお、この方法による入手ができない場合は、学会事務局までご連絡ください。受験票は申込書提出期限後に同封の返信用封筒にて簡易書留で郵送します。

【送付先】 105-0004 東京都港区新橋 5-13-5-3F A 室（公社）日本補綴歯科学会事務局内
専門医制度委員会委員長 宛

【連絡先】 TEL 03-5733-4680, FAX 03-5733-4688

3. 申込書提出期限

平成 29 年 4 月 24 日（月）～平成 29 年 5 月 23 日（火）

4. 受験資格

申請締切日の時点で会員歴が 4 年以上であること。

5. 受験料

無料

6. 出題基準

- ・ 歯科補綴学教育基準 改訂 2006

7. 試験問題の根拠となる資料

- ・ 歯科医療領域 3 疾患の診療ガイドライン
- ・ リラインとリベースのガイドライン

- ・ 接着ブリッジのガイドライン
- ・ 有床義歯補綴診療のガイドライン
- ・ 補綴歯科治療過程における感染対策指針
- ・ 歯の欠損の補綴歯科診療ガイドライン 2008
- ・ 歯の欠損の補綴歯科診療ガイドライン 2008 別冊資料
- ・ 補綴歯科治療の病名
- ・ 顎関節症に関するガイドライン

*上記はすべてホームページからダウンロードできます。

- ・ 歯質欠損，部分歯列欠損，無歯顎に対する症型分類の提案. 歯医学誌 2006 ; 25 : 63-78.
- ・ 歯科補綴学専門用語集 第4版. 東京：医歯薬出版；2014.

8. 試験結果の通知

後日郵送にて通知いたします。

以上

下記の*の項目は記載不要です。

*試験受付番号	—
*受付年月日	西暦 年 月 日

(公社) 日本補綴歯科学会
 専門医多肢選択式筆記試験申込書

(公社) 日本補綴歯科学会理事長 殿

平成____年度公益社団法人日本補綴歯科学会専門医多肢選択式筆記試験の受験を希望いたします。

西暦 年 月 日

フリガナ		性別
氏名		男・女
所属・勤務先名称		
連絡先住所	〒	
電話番号		
E-mail		
※会員番号		
入会年月日(西暦)	年	月 日
点数の開示	希望する ・ 希望しない	

※会員番号は学会誌または会費請求書送付の際に宛名の下方に記載されている6桁の数字になります。

※会員番号がご不明の場合は事前に学会事務局までお問い合わせ下さい。(学会事務局 TEL : 03-5733-4680)